

2025年度  
貝塚公民館のあゆみ  
～人と人、地域をつなぐ公民館～

貝塚市立中央公民館  
貝塚市立浜手地区公民館  
貝塚市立山手地区公民館

## 「2025年度貝塚公民館のあゆみ」発刊によせて

このたび、令和7（2025）年度における貝塚市内三館（中央公民館・浜手地区公民館・山手地区公民館）の講座や事業などの取り組みをまとめた『貝塚公民館のあゆみ』を発刊できますことを、大変うれしく思います。本誌には、各公民館が地域の皆さまとともに育んできた一年間の「学び」と「交流」の歩みが収められています。

令和7年度は、大阪・関西万博の開催を契機に、国内外から多くの人々が集い、多様な文化や価値観が交わる中で、「人と人がつながること」の大切さをあらためて実感する一年となりました。一方で、世界に目を向けると、依然として紛争や対立が絶えず、平和の尊さと相互理解の重要性を深く考えさせられる状況も続いています。こうした時代だからこそ、地域における学びと交流の場である公民館の役割は、ますます重要になっていると感じています。

本年度も、公民館の基本理念である「市民の自主的な学びと地域づくりの推進」のもと、働く世代を対象とした健康づくり講座や、高齢者の生きがいを支える「つるかめ大学」をはじめとした高齢者対象講座、子どもたちの豊かな体験を育む「夏の子ども講座」など、多様な世代に応じた事業を展開してまいりました。これらの活動を通して、世代や立場を超えた交流が生まれ、地域の中に新たなつながりと支え合いの輪が広がっていることを実感しています。

公民館活動は、参加される皆さま一人ひとりの主体的な関わりと、多くの関係者のご協力によって支えられています。講師の皆さま、クラブ協議会をはじめとする団体・サークル、地域の福祉施設など、すべての関係者の方々に心より感謝申し上げます。皆さまのご尽力が、地域の学びと絆を着実に育んでいます。

今後も、貝塚公民館は地域の皆さまとともに歩み、互いに学び合い、認め合う場としての役割を果たしてまいります。そして、誰もが安心して集い、つながることができる地域づくりに寄与できるよう、より一層努力してまいります。

結びに、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げ、『貝塚公民館のあゆみ』発刊のごあいさつといたします。

中央公民館長 甲 斐 裕 二

# 令和7年度 貝塚公民館 事業総括

## はじめに

本年度の貝塚公民館は、日本国憲法・教育基本法及び社会教育法の理念はもとより、本市が策定している「第5次貝塚市総合計画」及び「貝塚市教育大綱」、また、教育委員会が定めた「令和7年度教育努力目標」を踏まえ、次の6点を事業展開の基本とした令和7年度貝塚公民館事業方針に基づき、中央・浜手地区・山手地区各公民館（以下、「各館」という）において重点目標を掲げ、多様な講座や事業を展開した。

また、本年度各館で取り組んだ講座事業について事業別に状況・成果・課題をまとめ総括した。

- ・感染症対策を含め、常に安全・安心を考えた事業に取り組む。
- ・市民が主体的に参画する講座・事業を実施し、市民の自主的な学びを支援する。
- ・公民館が実施するあらゆる講座・事業を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の啓発と人権意識の醸成に努める。
- ・公民館が実施する事業でWi-Fi環境を利用したオンラインの活用を拡充し、誰もが気軽に参加できる学習機会を提供し、新たな公民館利用者を開拓する。
- ・関係機関と連携を深め、地域の情報把握に努め、地域の実情に応じた学習課題を発掘する。
- ・SNSなどあらゆるメディアを活用して、公民館からの情報発信をさらに進める。

## 1. 公民館主催事業

### ① 青少年対象事業

<状況・成果>

三館で実施した「夏の子ども講座」は、公民館クラブやボランティアなどの協力により充実した内容となり、子どもたちに多様な体験学習の機会を提供することができた。また、「子ども将棋クラブ」や「百人一首」、「鉄道模型 Nゲージ展示走行会」などの取組みにより、子ども同士の仲間づくりや多世代交流の場が広がった。さらに、料理や防災キャンプなどの講座では、子どもたちが生活に役立つ知識や生きる力を身につけ、主体性を育むことができた。

<課題>

- ・青少年が公民館で多様な活動ができることを周知し、若年層の利用者拡大を図る。
- ・青少年が参加したくなるような魅力ある講座・事業の企画と、SNSを活用した広報。
- ・「夏の子ども講座」などへのクラブ・団体の参加協力を広げ、体験学習の機会を充実させる。
- ・講座運営を支えるボランティアの確保と、安心・安全な事業実施体制の強化。

### ② 子育て支援事業

<状況・成果>

今年度も乳幼児をもつ保護者が安心して交流し学べる場づくりを進めた。「赤ちゃんルーム」や保育つき講座では、子育ての知識を学ぶとともに受講者同士のつながりが生まれ、子育てサークルへの参加や自主的な交流へと広がった。また、「親子で料理」や「パパサロン」、「SALON BeBe」などの事業は、親子の交流や父親同士のつながりの場にもなり、満足度の高い取組みとなった。SNSによる広報により新規利用者も増え、親子の居場所としての公民館の役割を広げた。

<課題>

- ・講座内容の充実を図り、広報を工夫することで参加者の拡大につなげる。
- ・講座受講者を子育てサークルや継続的な子育て講座への参加につなげる。
- ・親子が安心して集い、孤立を防ぐことができる居場所づくりの継続。

### ③ 成人対象事業

<状況・成果>

高齢者に多様な学習と交流の機会を提供する「つるかめ大学」や「シルバーライフ」、「ことぶきクラブ」では、防災や健康づくり、文化活動など幅広い内容の講座を実施し、受講者同士のつながりを深めた。また、デジタルデバイド解消を目的としたスマートフォン講座や終活をテーマとする講座など、地域課題の解決をめざす講座を実施した。さらに、ア・カペラやニュースポーツ体験など興味を引きそうな講座を実施し、公民館利用の裾野を広げる取組みを進めた。

<課題>

- ・若者から高齢者まで多様な世代のニーズや地域課題に沿った講座の企画・充実。
- ・働く世代を含めた新規利用者の拡大と、誰もが学びに参加できる仕組みづくり。
- ・講座をきっかけに公民館クラブや自主グループの形成につなげる工夫。
- ・「まちのすぐれもの」登録者など地域人材の講師活用の促進。

#### ④ 共生社会づくり事業

<状況・成果>

共生社会づくり事業では、外国人や障がい者、高齢者など誰もが安心して学び交流できる場づくりを進めた。「日本語会話よみかき教室」では、外国人受講者の生活をサポートし公民館利用者との交流機会を創出、「ふれあい料理」や「夢にチャレンジ」ではボランティアや公民館クラブとの交流により障がい者の社会参加を支援した。また、視覚障がい者向け講座「ホッとワーク」や「介護について語り合う場」では、互いに声をかけ支え合う地域づくりの大切さが共有された。

<課題>

- ・多様な背景をもつ受講者に寄り添った講座運営と、安心して参加できる環境づくり。
- ・受講者とボランティア、公民館クラブなどとの交流を促進し、地域でのつながりを広げる。
- ・多様性や人権を身近に考えるための講座・事業の継続的な実施。

#### ⑤ 文化振興事業

<状況・成果>

クラシックやジャズ、三味線、ア・カペラなど多彩なコンサートを開催し、市民が身近に文化芸術に触れる機会を提供した。「ピアノリレー」や「気軽にコンサートピアノを弾こう」では幅広い世代が参加し、発表や交流の場として定着している。また、ロビーでの作品展示やコンサートなど、公民館利用者や地域団体、市民が文化活動を発信する機会も増えた。若手演奏者のライブや落語寄席も好評で、市民と文化芸術をつなぐ場として公民館の役割が発揮された。

<課題>

- ・幅広いジャンルの文化・芸術に触れる機会の充実と新たなニーズの把握。
- ・「ピアノリレー」など市民参加型事業の広報を工夫し、気軽に参加できる環境づくり。
- ・ロビーコンサート等における新たなジャンルの開拓と地域で活動する文化団体の発掘と支援。
- ・来場者が多い文化事業における駐車場確保など、円滑な運営体制の整備。

## 2. 人材養成事業

<状況・成果>

今年度も各種ボランティアが活発に活動を取り組み、公民館講座や地域での活動を支えた。ふれあい料理や保育、日本語会話よみかき教室などでは新規ボランティアの参加もあり、活動の広がりが見られた。また、「あそび隊」の地域訪問やコンサート企画委員会の運営、図書整理など、多様な分野でボランティアが活躍し、公民館活動を支えた。

<課題>

- ・ボランティア人材の確保。
- ・ボランティアのスキルアップや情報交換の機会づくりなど、活動を支える支援体制の充実。
- ・「まちのすぐれもの」登録制度の認知向上と登録者活用の促進。
- ・公民館での学びを地域活動へつなげる仕組みづくり。

### 3. 地域連携事業

#### <状況・成果>

公民館まつりや親子イベントなどを通じて地域住民の交流と文化活動の場づくりを進めた。天候や行事の重なりにより参加者が減少した事業もあったが、実行委員や地域団体と協力しながら和やかに実施された。また、移動公民館や地域出前講座、地域行事への参加を通じて地域課題を把握し連携強化を図った。さらに、ロビーを活用した展示やコンサートなど市民の文化発信の機会も広がった。

#### <課題>

- ・地域団体との連携をさらに深め、公民館の学びを地域全体へ広げる取組みの推進。
- ・地域出前講座や移動公民館の周知を進め、町会・老人会など新たな地域団体への活用拡大。
- ・地域の状況やニーズを踏まえた事業内容の充実。

### 4. 団体支援事業

#### <状況・成果>

クラブ協議会に加入する公民館クラブ数は全般的に減少傾向にあるものの、「クラブ体験講座」などの取組みによりクラブ員が増加したクラブもあった。また、講座をきっかけとした新たな自主グループの誕生も見られた。その他、貝塚ファミリー劇場との共催による「こども市」や貝塚子育てネットワークの会との共催による連続講座、文化団体のコンサート・展示など市民の主体的な活動を積極的に支援した。

#### <課題>

- ・新規クラブ員・会員の確保による、公民館クラブや各団体の活性化。
- ・各団体の役員など新たな担い手の育成と、活動の円滑な継承。
- ・団体の主体性を尊重しつつ、運営負担の軽減や継続的な活動を支える支援体制の充実。
- ・市民企画講座の開催など自主学習活動の促進。

### 5. 三館連携事業

#### <状況・成果>

三館連携事業では、市民と職員がともに公民館の役割や学びについて考える機会を創出した。「第14回貝塚公民館大会」(テーマ:笑顔のチカラ～みんなが公民館で元気になるっ!!～)は利用団体や職員による実行委員会形式で企画・運営され、テーマやプログラムを協議しながら準備を進め、基調講演や若者の活動発表、演奏などを通して「居場所」「つながり」をキーワードに公民館の意義を共有した。参加者同士がスマートフォンを通じてリアルタイムで意見を共有する試みもあり、双方向性のある大会となった。また、「しゃべり場★公民館」は利用者と職員が協働し、中央公民館まつりでのクラブ・団体紹介や講座、「日本語会話よみかき教室」との交流などの取組みを通して市民主体の学びと交流の輪を広げ、貝塚公民館の価値を再認識することができた。

#### <課題>

- ・三館連携事業を通じて、より多くの市民に公民館活動を知ってもらおう。

貝塚市立  
中央公民館

# 目 次

◆年間総括	中 1
◆講座・事業	
□ 青少年対象事業	中 8
レッツ TRY 事業（中高生の活動支援）	
貝塚少年少女合唱団	
夏の子ども講座（幼児・小学生・中学生対象の講座）	
まめとみそ（子ども食育講座）	
□ 子育て支援事業	中 14
赤ちゃんルーム（0歳児を持つ親や妊婦の交流の場）	
保育つき講座 おや子教室	
□ 成人対象事業	中 17
つるかめ大学（おおむね65歳以上の方対象の講座）	
傾聴ボランティア養成講座	
スマホの教室	
気軽にできる楽しい運動＜高齢介護課共催講座＞	
シニアあそびたい会＜高齢介護課共催講座＞	
おやじのたまり場	
□ 共生社会づくり事業	中 24
夢にチャレンジ（心身に障がいのある方対象の講座）	
ホッとワーク（視覚に障がいのある方対象の講座）	
ふれあい料理（心身に障がいのある方対象の講座）	
介護について語り合う場	
日本語会話よみかき教室（日本語学習支援講座）	
□ 文化振興事業	中 30
文化事業	
ピアノリレー	
□ 人材養成事業	中 33
あそび隊	
保育ボランティア	
日本語会話よみかき教室ボランティア	
ふれあい料理ボランティア	
□ 地域連携事業	中 37
第69回中央公民館まつり	
ロビー活用	
地域出前講座	
移動公民館「健康サロン」	
親子で楽しむ1DAYイベント	
ほかでもがんばっているよ	
□ 団体支援事業	中 46
中央公民館クラブ協議会	
貝塚学習グループ連絡会	
貝塚ファミリー劇場	
貝塚子育てネットワークの会	
文化団体	

# 令和7年度 中央公民館 総括

## はじめに

公民館活動は令和元年末にはじまるコロナの流行により大きな打撃を受け、令和元年度には6万4千人だった公民館利用者数が、令和2年度には2万7千人に減少した。令和3年度以降は公民館の利用回数、利用者数とも徐々に回復傾向にあるものの、依然としてコロナ以前の水準には戻っておらず、近年では、利用者の高齢化などの課題が顕著になってきている。

他方、公民館クラブに関する問い合わせが増えてきており、学びの場、新たな生きがいづくりの場としての公民館への関心が高まりつつある。

このような状況下での今年度の取組みについて、令和7年度貝塚公民館事業方針に基づき定められた重点目標に沿って、事業別に状況・成果・課題をまとめた。

## 1. 公民館主催事業

- ・市民誰もが親しみやすい文化・学習活動の場を提供するとともに、市民の生活課題を反映させた講座・事業を展開して社会教育への理解を深め、地域づくりに向けた人材の育成を図る。
- ・関係機関との連携により、校区・町会などを拠点にした交流や学びの機会を増やし、異世代間の交流や協働を進め、子どもと大人がともに豊かに成長できる環境を醸成する。
- ・関係機関及び地域団体と公民館で活動するグループ等とのネットワークの構築と地域に根ざした学習活動を支援し、地域コミュニティの活性化を図る。
- ・公民館が実施する各事業・講座の中に、SDGs（持続可能な開発目標）及び人権の視点を取り入れていく。
- ・Wi-Fi環境を積極的に活かし、公民館活動に参加しやすい環境をつくる。

### <状況・成果>

- ・地域の福祉施設や公民館を拠点に活動する団体など25団体の参加により、「第69回中央公民館まつり」を開催した。初日が雨天のため屋内開催となった影響で、参加者が前年の約半数の延べ3千人にとどまった。
- ・今年度も「貝塚子育てネットワークの会」との共催による連続講座や「つるかめ大学」「介護について語り合う場」など、子育て支援をはじめ様々な地域課題に応える講座を展開した。
- ・公民館内にとどまらず、地域出前講座や移動公民館「健康サロン」、また、公民館クラブなどの公民館利用者や「あそび隊」などのボランティアが主体となった「ほかでもがんばっているよ」の活動を地域の学校や福祉施設、町会館、老人会などで実施した。
- ・共生社会づくり事業の講座では、協力したボランティアや公民館利用者が、講座での交流を通じて障がいのある人や市内の在住外国人と文化について理解を深めることができた。
- ・ジャズやクラシックなどのコンサート、ピアノリレーの主催事業開催により文化を発信するとともに、ロビー壁面を広く市民に開放し、絵画や写真、パネルの展示など市民による主体的な文化発信の機会を提供した。

### <課題>

- ・介護者や不登校の児童生徒を持つ保護者など悩みを抱える人たちが学び、交流の場ともなるような講座を実施していく。
- ・主に定年退職後の高齢者や若年層の新規利用者が増えるよう工夫を凝らした講座の実施。
- ・市内の各課、他の社会教育施設、自主活動団体など連携し、地域課題の解決につながる講座の実施。
- ・公民館の講座・事業を展開する上で協力が必要な各種ボランティア人員の確保。
- ・公民館で活動する人たちの新たな活躍の場、生きがいの場、異世代交流の場として、地域学校協働活動への参加を促していく。
- ・事業を通じて、オンラインの活用を一層推進していく。

### ① 青少年対象事業

- ・「夏の子ども講座」など子どもたちが多世代の大人と交流しながら学習・体験できる講座、事業を実施する。
- ・レッツTRYに団体登録している中学生及び高校生のグループ活動を支援するとともに、音楽やダンスなどの活動が公民館で

できることを学校や関係機関と連携して広報していく。

- ・貝塚少年少女合唱団が新規団員獲得に向け、効果的な情報発信に努めるとともに、発表の機会を多く持てるよう活動を支援する。

#### <状況・成果>

- ・「夏の子ども講座」は、人気のある共催講座であった「キッズキッチン」が実施できなくなったものの、職員からの積極的な働きかけにより例年を上回る数の団体の協力が得られ、内容も充実した講座が実施できた。
- ・貝塚少年少女合唱団は小学生の新入団員2人を迎え、OBの支えのもと練習を重ねた。定期演奏会に加え、市の式典やPRソング参加など活動の幅を広げ、地域だけではなく国際交流にも貢献した。
- ・昨年度の講座「こめとみそ」が好評だったことから、今年度も第2弾として講座「まめとみそ」を実施、子どもたちが味噌づくりの体験を通して発酵について学んだ。

#### <課題>

- ・「レッツ TRY」を活用した音楽、ダンスの練習やロビーでの勉強など、青少年が公民館で様々な活動ができることを知ってもらい、若年層の利用者を増やす。
- ・子どもたちが様々な学習・体験ができるよう、より多くのクラブ、サークルに「夏の子ども講座」への参加・協力を呼び掛けていく。
- ・効果的な情報発信による貝塚少年少女合唱団の新規団員獲得。

### ② 子育て支援事業

- ・子育て中の親が安心して講座に参加できるようにするとともに、保護者同士が交流し、子育てに関する情報が共有できる場となるよう、講座の内容を充実させる。また、受講者を子育てサークルの参加へとつなげる。
- ・父親や家族が参加できる「かいづか家族の日」関連事業・講座に取り組む。
- ・地域ぐるみでの子育てを推進するため、子育てに関係する各課とも連携し、子育て支援活動の地域への拡大をめざす。

#### <状況・成果>

- ・0歳児をもつ親や妊婦を対象とする講座「赤ちゃんルーム」は、すでに子育てサークルに入っている受講者とのつながりにより、多くの受講者が新たに子育てサークルに加入した。
- ・「保育つき講座 おや子教室」は、SNSの広報により前年度より多くの親子が受講し、子どもの発達にとって必要な事を学ぶとともに、受講者同士で子どもの成長を確かめ合うことができた。

#### <課題>

- ・講座内容の充実と広報の工夫により受講者を増やす。
- ・受講者を子育てサークルや子育て講座への参加につなげていく。

### ③ 成人対象事業

- ・講座のニーズを把握し、様々な成人の興味・関心に沿ったテーマを取り上げ、講座の参加者を増やしていく。
- ・若い世代などをひきつけ魅力のある講座を「まちのすぐれもの」登録者の講師活用も視野に入れながら開拓していく。
- ・講座終了受講者に対しクラブ化を勧めるなど、自主学习グループの形成につなげる。
- ・高齢介護課をはじめとする関係行政機関と連携し、アクティブシニア層が地域とつながる意欲を高める講座を実施する。
- ・若年層・勤労者・高齢者など、普段、公民館に足を運びにくい市民が参加できるよう、オンラインを活用した講座、開催日時を工夫した講座、地域出前講座などに取り組む。

#### <状況・成果>

- ・高齢者を対象とした講座「つるかめ大学」は、防災をテーマとする座学や講演会から介護予防を目的とした軽体操、戸外でのレクリエーション、落語、アコーディオンの演奏に至るまで多彩な講座を実施し、受講者の学びとつながりの場をつくることができた。
- ・デジタルデバイドの解消を目的として、NPO法人の協力により開催した高齢者向けスマホ講座は、機種に関わらず、普段自分が使っているスマホを使って操作や便利機能を学ぶことができた。
- ・高齢者の健康増進および介護予防の取組みとして、高齢介護課との共催講座「気軽にできる楽しい運動」を4回連続講座として実施した。受講者の運動への関心が高く、毎回多数の参加があった。
- ・シニア男性の居場所づくり、仲間づくりを目的として開催した講座「おやじのたまり場」は、講座を通じて初対面の受講者同士がつながり、講座終了後も自分たちで継続的に活動することとなった。

### <課題>

- ・現役世代や高齢者などのニーズ及び地域課題に沿った講座の企画
- ・「まちのすぐれもの」登録者の講師活用。
- ・講座をきっかけに公民館クラブ等への参加や自主グループの形成につなげていく。

#### ④ 共生社会づくり事業

- ・障がい者対象講座を通じて、障がい者の社会参加を支援し、かつ、障がい者とボランティアとの交流により、互いが成長できる場を創出していく。
- ・外国人技能実習生を含む海外からの移住者増加に伴い、「日本語会話よみかき教室」への需要が高まる中、支援者の増員を図り、かいづか国際交流協会（KAIFA）などの関係機関とのさらなる連携を進める。また、日本語学習にとどまらず、利用者・市民との異文化理解・交流などの取組みを進める。
- ・「介護について語り合う場」については、学びの場から介護者を支援する活動へとつなげていく。

### <状況・成果>

- ・「日本語会話よみかき教室」は読み書きの学習だけではなく、受講者が日本で不自由なく生活できるようサポートもした。また、国際交流の取組みの第1歩として、受講者と他の公民館利用者との交流の機会を設けた。
- ・障がいがある青年たちのチャレンジの場である「夢にチャレンジ」は、担当職員が途中で変わる不安定な運営状況にも関わらず、受講者はダンスや創作活動など意欲的に取り組むことができた。
- ・料理を通じた障がい者の社会参加の場である「ふれあい料理」は、ボランティアとの関わりを通して、受講者が自発的に行動する場面が目立つようになった。
- ・視覚に障がいのある人を対象とする講座「ホッとワーク」では、受講者の声掛けにより新規に受講する人や長期で休んでいた受講者の復帰があり、声を掛け合うことの大切さを確認できた。
- ・「介護について語り合う場」では、地域包括支援センターの講師から参加者の悩みに寄り添うきめ細かな助言を受けることができ、ひとりで抱え込まず公的支援に頼ることの重要性を理解できた。

### <課題>

- ・様々な背景を持つ受講者に寄り添った講座の運営。
- ・受講者とボランティア、公民館クラブなどとの交流促進。

#### ⑤ 文化振興事業

- ・各種コンサートを実施及び芸術作品を展示することで、身近に多様な芸術・文化にふれる機会を創出し、文化を通して生活にうるおいと安らぎを与えられるまちづくりをめざす。

### <状況・成果>

- ・今年度も、クラシックコンサート、ジャズライブ、春一番コンサートなどの主催事業を開催し、多くの人に生の演奏を聴いてもらう機会をつくった。
- ・ピアノリレーは、日ごろの練習成果の発表やコンサートに向けた練習の場、他の楽器とのコラボを楽しむ場などとして、聴衆も含めた参加者が少しずつ増えてきている。また、貝塚少年少女合唱団の発表の場としても定着している。

### <課題>

- ・幅広いジャンルの芸術・文化にふれる機会の創出。
- ・ピアノリレーについては、誰もが気軽に参加できるようPRなど工夫する。

## 2. 人材養成事業

- ・各ボランティア活動でのグループの自主性を育み、他の利用者や多くの市民とつながり互いに支え合う関係を広げる。
- ・各ボランティア団体が新たな担い手を確保できるよう、団体と共に協力して講座などを開催していく。
- ・公民館で学ぶ利用者に対して、地域学校協働活動など地域コミュニティ活動への参加を促していく。
- ・「まちのすぐれもの」登録者がその知識・特技を生かして活躍できる場をつくる。

### <状況・成果>

- ・あそびボランティア「あそび隊」は、今年度も学校や地域の福祉施設に出向く活動を多く取り組んだ。また、新規隊員の獲得に向け、高齢介護課との共催講座「シニアあそびたい会」を実施した。
- ・保育ボランティアは、保育での関わりを通して子どもの成長を実感することができ、やりがいにつながっている。

- ・日本語会話よみかき教室ボランティアは、職員や現ボランティアの声掛けなどにより、新規ボランティアが8人増えた。
- ・ふれあい料理ボランティアは、今年度初めて夏の子ども講座に協力し、普段のふれあい料理とは異なる子どもたちとの交流を楽しんだ。

#### <課題>

- ・各ボランティアのスキルアップ。
- ・ボランティアのやりがいを多くの人に知ってもらい、新規ボランティアを増やす。
- ・公民館の学びをいかに地域の活動につなぐか。

### 3. 地域連携事業

- ・「公民館まつり」を通して、広く地域の人々に公民館活動を知ってもらう。
- ・地域における健康づくり、集まりの場づくりのツールとして、町会、老人クラブ等に「地域出前講座」「移動公民館」の活用を促していく。

#### <状況・成果>

- ・中央公民館まつりは天候に恵まれず、2日間の延べ参加者は前年度の約半数の3千人にとどまった。特に1日目はすべて屋内での開催となったが、会場が屋内にまとまったことでむしろ賑やかさが感じられた。
- ・町会館等に出向いて実施する地域出前講座、移動公民館「健康サロン」を通して、地域の実情や課題を知る事ができた。
- ・昨年に引き続き開催した「親子で楽しむ1DAY イベント」は、音楽コンサートや人形劇、絵本、折り紙など親子で存分に楽しみながら、生の文化にも触れる機会となった。
- ・市民による文化・芸術発信の場として、ロビーの通路壁面やガラスケースが活用され、年間を通じて絵画や写真、陶芸作品など多様な作品が展示された。

#### <課題>

- ・中央公民館まつり実行委員会など、会議の持ち方。
- ・地域出前講座・移動公民館をより多くの町会・老人会などの地域団体に活用してもらう。

### 4. 団体支援事業

- ・新規クラブ員獲得による公民館クラブの担い手の確保と活性化に向け支援する。
- ・持続可能な活動に向けて、各団体がやりがいを見出せるよう働きかけしていく。
- ・公民館活動から培われる市民グループや文化団体の自主的な活動を支援し、各団体の地域交流貢献活動を促進する。
- ・社会的課題を捉えた市民企画講座をきっかけとする新たな学習グループの発足を促し、学習グループ連絡会の活性化を図る。

#### <状況・成果>

- ・中央公民館クラブ協議会は2クラブ減少したが、新たな趣味を見つけようとする人が増えている状況を反映し、クラブ員は約40人増加した。
- ・貝塚学習グループ連絡会は、新会員2人が加入し活動の基盤が強化された。日頃の学習・交流活動や中央公民館まつりへの参加を通じてグループ間の連携が深まった。
- ・新庁舎前芝生広場で「こども市」、山手地区公民館ホールで「クモばんぼとぎんのくつした」を貝塚ファミリー劇場との共催事業として開催し、多くの子どもたちが楽しんだ。
- ・貝塚子育てネットワークの会では、研修会や連続講座などの取組みを通じて、乳幼児部会から中高生部会まで4部会のタテのつながりが強くなった。
- ・今年度もコンサートや展示・発表など各文化団体の活動を積極的に支援した。

#### <課題>

- ・新規クラブ員・会員の獲得による公民館クラブや各支援団体の活性化。
- ・各団体の役員など新たな担い手を育成し、活動を継承していく。
- ・市民企画講座の開催など自主学習活動の促進。
- ・学習グループ連絡会の活性化と新たな学習グループを連絡会につなげていく支援。

《主催講座・事業・共催事業》

事業区分	講座・事業名	受講者数	期間	回数	延べ参加者数	
青少年対象事業	レッツ TRY		通年	—	—	
	貝塚少年少女合唱団・定期演奏会		9/14	1回	150人	
	まめとみそ（子ども食育講座）	9人	11/15～2/14	4回	36人	
	夏の子ども講座	合唱団といっしょに歌いましょう	3人	7/20	1回	3人
		じゃがいもでピザをつくろう	15人	7/24	1回	15人
		夏休みの宿題を早く仕上げよう	9人	7/24	1回	9人
		簡単にできる担担麺とデザート	19人	7/26	1回	19人
		親子でなりきりゲーム屋さん	23人	7/27	1回	23人
		子どものおやつ ポップオーバー フルーツ添えとフルーツ寒天	各20人	7/27 8/9	延2回	延38人
		染め紙で灯ろうを作ろう	19人	7/28	1回	19人
		パンを作ろう	15人	7/28	1回	15人
		つげさん手話教室	12人	7/29	1回	12人
		一人でやってみようお昼ごはん	8人	7/29	1回	8人
		夏休みの宿題しよう！	8人	7/31	1回	8人
		おばちゃんと料理しましょ	16人	8/1	1回	16人
		絵手紙で暑中見舞い	11人	8/2	1回	11人
		帆掛け車を作ろう・親子参加	35人	8/3	1回	35人
		楽しく中国語で遊びましょう	18人	8/5	1回	18人
		となりのたぬき	63人	8/9	1回	63人
和楽器を奏でよう	10人	8/7	1回	10人		
支援事業 子育て	赤ちゃんルーム	86組	4/14～3/23	19回	221人	
	保育つき講座「おや子教室」	11組	10/28～12/9	8回	59人	
事業 成人対象	つるかめ大学	80人	4/14～12/8	22回	1172人	
	傾聴ボランティア養成講座	19人	4/15～22	2回	32人	

	スマホ教室（高齢介護課共催講座）	14人	10/2～10/16	3回	36人
	気軽にできる楽しい運動 （高齢介護課共催講座）	21人	5/15～6/12	4回	71人
	シニアあそびたい会（高齢介護課共催講座）	3人	12/11・1/8	2回	3人
	おやじのたまり場	10人	1/24～2/7	3回	28人
共生社会づくり事業	夢にチャレンジ	11人	4/19～3/21	11回	11人
	ホッとワーク	10人	5/27～3/24	10回	77人
	ふれあい料理	37人	4/25～3/27	11回	37人
	介護について語り合う場		4/28～2/16	6回	62人
	日本語会話よみかき教室		4/1～3/30	124回	527人
文化振興事業	クラシックコンサート		11/16	1回	61人
	ジャズライブ		2/1	1回	62人
	春一番コンサート		3/8	1回	65人
	ピアノリレー （GW・七夕・Xmas・ひなまつり）		5/4・7/6・ 12/21・3/1	4回	520人
人材養成事業	あそび隊	12人	4/5～3/28	50回	1201人
	保育ボランティア	10人	6/15～12/9	15回	73人
	日本語会話よみかき教室ボランティア		4/1～3/30	124回	502人
	ふれあい料理ボランティア	15人	4/25～3/27	11回	146人
地域連携事業	第69回中央公民館まつり		5/24～25	1回	3000人
	第69回中央公民館まつりバザー		5/18	1回	230人
	ロビーの活用				—
	地域出前講座		7/20・8/24 2/15	3回	62人
	移動公民館「健康サロン」		6/14～3/29	11回	210人
	親子で楽しむ1DAYイベント		6/22	1回	50人
援 団 事 体 業 支	ファミリー劇場・例会		5/11～11/24	3回	271人
	ファミリー劇場・こども市		4/20		200人

	ファミリー劇場・共催事業 「クモばんばとぎんのくつした」		1/25	1回	150人
	貝塚市軽音楽連盟・ライトミュージック		2/22	1回	100人
	貝塚市民踊連盟・市民踊まつり		6/1	1回	310人
	貝塚市クラシック音楽家協会・ クラシックコンサート		5/18	1回	253人
	貝塚市美術協会・貝塚市美術協会展		9/20・21	1回	200人
	貝塚市美術協会・小作品展		1/18～2/1	1回	—
	貝塚市民謡連合会・民謡フェスティバル		11/9	1回	60人
	貝塚市合唱連盟・合唱フェスティバル		12/7	1回	380人
	クラブ協議会・バスツアー		11/12	1回	87人
	クラブ協議会・にっこり展 (障害者施設合同作品展示)		10/2～10/30	—	—
	クラブ協議会・研修会		3/15	1回	70人
	貝塚子育てネットワークの会 プレーパーク GW/夏/秋/春		5/10～3/29	14回	635人
	貝塚子育てネットワークの会 乳幼児部会共催講座		6/17～12/2	5回	154人
	園児部会共催講座		5/8～12/1	5回	60人
	小学生部会共催講座		11/20～1/10	3回	49人
	中高生部会共催講座		5/16～12/5	5回	61人
	貝塚子育てネットワークの会・研修会		10/9・2/2	2回	72人
	講師交流会		3/30	1回	16人
三館連携事業	しゃべり場★公民館		4/25～3/17	19回	302人
	保育ボランティア養成講座		1/29・2/5	2回	8人
	第14回貝塚公民館大会		12/14	1回	160人

【表の見方】「受講者数」は、申込を受理した人数。記載のないものは当日参加、または1回限りの事業  
「参加者数」は、「延べ参加人数」欄に記載。ボランティアにおいては「登録人数」

## レッツ TRY 事業

### <ねらい>

青少年の自主的な活動を支援する。(主に活動場所の提供)

### <状況・成果>

新規登録0組

今年度、レッツ TRY 事業の活用はなかった。青少年センター（コスモシアター3階/以下、センター）の事業の充実により中高生を含む青少年は学習室や音楽室を気軽に利用することができる。ここ数年でセンターを利用する者が定着し、公民館にはダンスをしたいという中学生がたまに訪れるくらいであった。かつての公民館は若者で溢れていたが、昔のように多くの青少年が公民館を利用することは難しい時代となった。

一方、学校教育現場では部活動の地域移行が模索されている。今後、公民館が地域クラブ活動の場として利用されることも予想されるためレッツ TRY 事業は今まで通り青少年の居場所として継続をしていく。今後も PR 方法を工夫するなどの努力も併せて行っていく。

### <課題>

青少年のニーズを把握し、PR にも力をいれる。

学校教育課ほか関係機関・施設等との連携。

## 貝塚少年少女合唱団

### <ねらい>

合唱活動を通じて、豊かな感性と表現力を養うとともに、学年の異なる団員同士の交流や集団活動を通じ、社会性や協調性を育む。

地域行事への参加や地域団体との交流を通じて、地域に愛される合唱団を目指す。

### <状況・成果>

4/6～3/29 指導者 4 人、団員 14 人(男子 3 人・女子 11 人) 名誉団員(高校生) 2 人

本年度は小学生 2 名の新入団員を迎え、毎週日曜日の午前中に中央公民館で練習を重ねた。

現在の構成は低学年が中心であるが、高校生の OB2 名が助っ人として練習に加わっており、年下の子どもたちを優しく見守り、指導の補助を担っている。OB が自然な形で活動を支えることで、団内には世代を超えた温かな雰囲気があり、子どもたちにとって安心できる居場所となっている。また、夏合宿やクリスマス会、お楽しみ会などの親睦行事では、一緒にカレーを食べたりレクリエーションを楽しんだりする中で、高学年が下の子をリードする頼もしい姿が見られるなど、集団活動を通じた心の成長も随所にみられた。

主な活動成果として、定期演奏会で昨年度から継続して取り組んでいるオペレッタの上演に今年も挑戦し、低学年の子ども達が舞台上で堂々とセリフを披露する姿からは大きな成長が見られた。また、例年同様に各種コンサートへの出演を果たしたほか、地域との繋がりにおいて大きな進展があった。8 月には、市議を介して紹介のあった貝塚ライオンズクラブとのつながりができ、今後のライオンズクラブの周年事業での演奏など交流や支援を深めていきたいとの前向きな意向が示された。これは、団員減少の課題を抱える合唱団にとって、活動の PR と継続に向けた重要なつながりとなっている。

魅力づくり推進課からの依頼で、9 月に「貝塚市姉妹都市(カルバーシティ市) 連携 60 周年記念式典」では、式の締め括りを飾るクロージングとして出演した。市役所エントランスホールという晴れの舞台上、「スーパーカリフラジリスティックエキスピアドーシャス」と「世界中のまだ見ぬ友へ」の 2 曲を披露した。両市長をはじめとする日米の参列者の前で堂々と歌声を響かせたことは、団員の自信に繋がるとともに、国際交流の一翼を担う貴重な経験となった。式典後は屋外での交流会にも参加して親睦を深め、これをきっかけに指導者とカルバーシティ市関係者との間で日本の歌を教え合うなどの草の根交流も始まっている。

また、新たな挑戦として、貝塚市在住のアーティスト「MUKU」さんからの依頼があり、貝塚市 PR ソング「つげナビ」へのコーラス参加が決定した。協議の結果、「団員全員で出演したい」という合唱団の熱意が受け入れられ、全員でのレコーディングおよび「水間春フェスタ」でのステージ共演が実現することとなった。タイトなスケジュールではあるが、子どもたちの歌声を広く地域に届けるべく、一丸となって取り組んでいる。公民館では、こうした演奏活動の打ち合わせへの同席や講師への助言、さらには SNS 等による活動の積極的な発信を行うなど、団に寄り添った多面的な支援を行った。

運営面では、保護者から行事運営や会議参加への負担を不安視する声が寄せられている。これについては現在も解決に向けた途上にあり、公民館の育成団体として活動を続ける意義について、今後も丁寧な対話と相互理解を深めていくための取組みを継続していく。

－青少年対象事業－

<課題>

合唱団の歴史と公民館との関わりを理解してもらった上で、継続的な対話を通じて育成団体としてのあり方を模索し、相互理解に基づく安定した運営を図る。

入団に伴う家庭の負担感を考慮しつつ、広報を工夫し活動の魅力を広く伝える。



第47回定期演奏会  
下はオペレッタのようす

日程	一年の活動内容
4/13	入団式
5/4	GW ピアノリレー（中央公民館）
5/24・25	中央公民館まつり（野外舞台、模擬店）
7/9	七夕ピアノリレー
7/20	夏の子供講座 「団員とみんなで楽しく歌いましょう！」小学生／中学生
8/2	善兵衛ランドたそがれコンサート
8/19・24	第47回定期演奏会に向けた強化練習
9/14	第47回定期演奏会（コスモシアター中ホール）
9/20	貝塚市姉妹都市連携60周年記念式典
10/26	浜手地区公民館ふれあいまつり
11/24	おとにこミュージカル（コスモシアター小ホール）
11/30	農業祭
12/7	合唱フェスティバル（コスモシアター中ホール）
12/21	Xmas ピアノリレー、クリスマス会
12/21	Xmas ピアノリレー
3/1	ひなまつりピアノリレー



## 夏の子ども講座

<ねらい>

夏休み期間を利用し、子どもたちが公民館で様々な体験や学習ができる場。

子どもたちが公民館クラブやボランティア、地域の大人と交流しふれあえる場。

<状況・成果>

7/20～8/7 受講者 延べ 322 人 17 講座 19 枠 協力 17 団体 申込み総人数 707 人

講座の申込み方法に LoGo フォーム（電子申請システム）を取り入れた。申込みが簡単になったからか、申込み総数は昨年より 200 人ほど増加し、それに伴い中学生の応募も増加した。

講座別の申込み状況も、1 講座を除き、すべてが抽選対象で、人気講座は倍率 10 倍にもなった。料理系、体験系、工作系のいずれも人気があった。

LoGo フォームを取り入れることで、締切日時も自動で設定したり、その後の抽選、受付簿の作成などが簡単にでき、昨年と比べ余裕をもって講座準備ができると想像していた。しかし、簡単に申込める分、当落の確認忘れ、材料費の納入期間を過ぎても未払いの人が例年の 3 倍以上となり、これらの確認作業でたくさんの時間が取られた。また、職員体制も手薄な状況で新しい方法を取り入れたため、職員間の確認作業も万全とはいかず、講座が開催してからも対応に追われる場面が何度も出てきた。一方で、保護者の確認不足から講座当日に来館するも、出席簿に名前がなく「申込みば受講できると思っていた」「どこに受講の確認について書いてあったのか」など逆に詰め寄られる場面もあった。子どもたちは可哀そうだったが、余分の材料もなく、なによりキャンセル待ちの講座であることから帰ってもらった。

共催講座「キッズキッチン」が開催できなくなったが、中央公民館の料理系クラブやボランティア、団体などに声掛けした結果、昨年に劣らぬ種類と数の講座を開催することができた。

今年の新しい講座に貝塚ファミリー劇場（以下、ファミリー）の協力による「親子でなりきりゲーム屋さん」があった。ファミリーが毎年 4 月に行う「子ども市」を工夫して講座にしており、大人の想像をはるかに超えた个性的なお店ができ、参加した子どもも大人も楽しめた。

月曜絵画クラブは毎年、新しい工作で子どもを迎えてくれる。今回の染め作業は子どもたちだけでなく、送迎の保護者も珍しかったようで、親子で作業の話をしながら帰る姿があった。

3 公民館で 44 講座、そこに 1500 人近くの幼稚園児から小・中学生の申し込みがあった。各公民館のクラブの協力なしには成り立たない公民館恒例の夏休み講座である。

子どもたちは、家族や親せき以外の大人から指導や助言をもらい、大人は異世代、時にはひ孫世代に関わり、優しく交流を深めるよい機会となった。

・・・子どもアンケートから・・・

- ・上手においしく作ることができました。一緒の班の子もていねいにがんばってくれたし、楽しそうでした。みんなかわいくて、いやされました。（中学 3 年生）
- ・（制作）する前に念入りに説明があったので良かったです。（小学 5 年生）
- ・みんなで協力して切ったり、いためたりするのが楽しかったです。家で一人のときに、自分で作れていいと思った、（小学 4 年生）

・・・参加した親のアンケートから・・・

- ・普段出会うことのない子どもと楽しく交流できて良かった。材料をたくさん準備してくれていて、想

—青少年対象事業—

像力を働かせて作れました。このような機会を設けてくれて感謝です。

- 異世代の方と交流ができて良かったです。日曜日に開催して頂き、どこかに連れていけると親も助かります。
- 実際に耳の不自由な方と交流する機会もあると思い、学べて良かったです。
- . . . . 講座を担当したクラブ・団体のアンケートから . . . .
- 枠にはめようとせず、子どもに任せることで、大人が思いもしなかった子どもの良さが出てくると、改めて学ばせていただけました。今回、参加して本当に良かったです。
- 一生懸命とりくむ姿がとても印象的で、自分たちも頑張ろうとおもいました。
- 準備が大変だったけれど、子どもたちが楽しそうにやってくれてよかった。子どもたちがよく集中していた。

<課題>

子どもたちが体験したいと思う講座の企画。

講座を担う大人のやりがいや達成感。

受付方法の改良と職員間で連絡を密にする。



**まめとみそ - みそづくりと発酵の不思議を楽しもう -**      かいづか家族の日関連事業

<ねらい>

素材（大豆）を探求しながらみそづくりを行い発酵の世界を知る。  
みそ以外の発酵食のを知る機会。

<状況・成果>

11/15、12/13、1/17、2/14 日曜日 10時～12時（全4回） 受講者9人

講師：MALU。 - 農家のえんがわ - 縣紀子 岩本有希

昨年度に開催した「こめとみそ」の第2弾として子どもの食育講座に取り組む。今年度は小学3年生からの募集としたところ、3年生の申し込みが半数以上となった。子どもたちは講師の話や問いかけに積極的に発言し行動する子が多く、講師との掛け合いで講座中は笑いが絶えなかった。



初回はみそ作りをし、各自家に持ち帰って味噌の発酵を見守った。キッチン棚の上に置いて眺めている子、温度が一定になる食品庫に入れるなど、それぞれの家庭の工夫がうかがえた。途中でカビが生えたという問い合わせもあったが、処置の方法を伝えるとすぐに対処し防ぐことができていた。

ペットボトルピザでは、ピザ生地がペットボトルから飛び出す面白さを味わい、好みの具材をトッピングすることを楽しんだ。4回のプログラムの中で一番楽しかったという子がいるくらい好評であった。



豆腐作りは、豆乳を試飲した後に湯葉やざる豆腐、おぼろ豆腐を作ってみた。無味の豆乳が甘味のある豆腐に変わり驚いた表情をみせていたが、あまりの美味しさに食欲が止まらなくなっていた。

最終回は各自具材を持ってきて自分のみそ汁を作った。互いにみそを見比べ、色や固さが各家庭の環境によって違うことを知るなど、発酵の不思議さを体感した。



次年度も継続を望む声が多く、〇〇したいとリクエストが飛ぶほどであり、全体的に子どもたちが主体的な姿勢で取組めた講座となった。

<課題>

子どもたちが楽しみながら取組め、主体性を発揮できる講座の継続。

<感想>

- ・今度はみそを2倍つくりたい。
- ・ペットボトルピザを作ったり、とうふを作ったりすべてが楽しかったです。

プログラム

11/15(土)	みそづくり・大豆のはなし	1/17(日)	豆腐づくり
12/13(土)	ペットボトルピザ	2/14(日)	作った味噌で味噌汁を作ろう

## 赤ちゃんルーム

### <ねらい>

0歳児をもつ親が気軽に仲間づくりや情報収集できる場。

子育ての不安や疑問を出し合い、交流できる場。

既存のサークルや講座へつなぐ場。



### <状況・成果>

4/14～3/23 第2・第4月曜日 10時～11時半（全19回）受講者延べ221人 スタッフ7人

子育てネットワークの会（以下ネット）の先輩お母さんが7人関わり協力し講座を運営している。

ネットと担当職員は、定期的にミーティングを行い、お母さんたちがより安心し、気軽に楽しく講座に参加できるように工夫している。プログラムでは、足形制作や水あそび、季節の行事など「子どもとの思い出作り」をテーマとしたものは受講者数が多い。どのようなあそびが子どもの成長に繋がり、かつ楽しいのかを考えたり、講座をスムーズに進めるための準備を共に行っている。

今年度は、「ママの日企画」としてお母さんの日々の疲れを癒すヨガや「赤ちゃん運動会」をするなど、新しい内容にも取り組んだところ、親同士楽しみながら仲間を増やしていく姿がみられた。

昨年度と同様に、SNSを使った広報活動に力を入れた結果、「ためまっぷ」や「インスタグラム」を見て講座に来たというお母さんが多かった。また、子ども相談課が開催している離乳食講習会にもネットと共に宣伝に行き、スタッフとしてどのような人が講座に関わり、どのようなつながりが得られるのかを直接話すことで、参加してみたいというお母さんが増えた。

講座の一環で、子育てサークルの紹介を行ったが、その時点ではサークル加入には繋がらなかった。しかし、サークルに入っているお母さんが赤ちゃんルームに受講者として参加し、同じ目線で話し合うことで、横のつながりができ、5組以上の親子がサークルに加入した。講座内でもサークル活動が話題に上がることが増え、赤ちゃんルームとサークルのつながりができた。今後も、子育ての仲間づくりの第一歩となる、気軽に楽しい交流の場をつくっていききたい。

### 《プログラム》

開催日	内容	開催日	内容
4/14	はじめまして赤ちゃんルーム	10/27	はじめてのハロウィン
4/28	はじめてのこどもの日	11/10	赤ちゃん運動会
5/12	ママの日企画	12/8	ママたちのおしゃべり会
5/26	親子でふれあい遊び（サークル紹介）	12/22	はじめてのクリスマス
6/9	はじめての父の日	1/26	節分あそび
6/23	はじめての絵本	2/9	バレンタイン制作
7/14～9/8	はじめての水あそび	3/9	おや子時間の大切さを学ぼう
9/22	秋の絵具あそび	3/23	楽しいお別れ会

### <課題>

参加者を増やすために、0歳児をもつ保護者・妊婦へ届く広報を工夫する。

子育てサークルや講座の参加へつなげる。

## 保育つき講座 おや子教室

<ねらい>

子どもの成長に大切な知識を学ぶ。

子育ての不安解消をはかり、悩みを共有できる場をつくる。

ストレスやイライラを解消し、前向きに育児に取り組める機会とする。

<状況・成果>

10/28～12/9 火曜日 10時～11時半（全8回） 受講者11組

昨年度は6人と受講者数が少なかったため、もっと多くの人にこの講座を知ってもらいたいとSNSでの広報に取り組んだ。その結果、昨年の倍近くの11人の申込があった。なかでも、3人が毎年この講座を楽しみにしていると3年連続の受講だった。この3人が、講座にはじめて参加した人が会話に入りやすいように声をかけたり、率先して質問をするなどリーダー的な存在として講座を引っ張っていた。

講座が始まり、最初に「子どもの発達に大切な遊びのお話」があった。遊びは「やらされるものではなく、やらずにはいられないもの」であり、自分で考えることで「主体性」や「自主性」を伸ばすことができる。そのためには子どもの「やりたい気持ち」を見守り、できたことを認め、ほめることが大切だと学んだ。

次に、遊びの実践として冒険あそび場貝塚プレーパークに行ったが、体調不良や日程が合わず3組の参加となった。参加人数は少なかったが、子どもたちが興味をもって自分で楽しみを見つけ遊んでいる姿をみて講座で学んだことの意味を改めて知ることができた。

中盤では、砂糖の話・虫歯について学んだ。歯磨きをすることはもちろん大切だが、食べるものによって感情や体幹など様々なことに影響があると知った。また食についての講座でも共通する内容が多く、子どもの成長において「食」の知識をつけることは大切だと感じた。

後半では、リフレッシュとして、ヨガを行った。先生が優しく声をかけ、お母さんと会話をしながら体を動かしたり、足裏をほぐしたり癒しの時間となった。

保育ボランティアと話す会では、大人だけで話をするのが少なくなっているが日々の悩みを共感し合ったり、情報交換ができる、このような場がとても貴重で楽しかったという声が多かった。また、子どもの年齢によって悩みが違うので子育ての先輩に話を聞いてもらうことがすごくためになった。

修了式では、保育の様子をビデオで見て、子



ども同士が関わり笑い合っている姿や、おもちゃを貸してあげている様子など子どもたちの成長を見ることができた。

この講座を通して、子育てについて知ることの大切さを学び、子どもと離れリフレッシュでき充実した時間を過ごせたようだった。来年も受講したいという声も多く、引き続き講座の内容を充実させていきたい。

《プログラム》

	日程	内容	講師
1	10/28	はじめまして！自己紹介	相互
2	11/4	子どもの発達に大切な「遊び」のお話	NPO 法人えーる
3	11/8	みんなでプレーパークへ遊びに行こう！！	
4	11/11	砂糖の話・虫歯と歯磨き	小島歯科医院
5	11/18	ヨガでリフレッシュ	Nagi Yoga
6	11/25	子どもに大切な「食」のお話	NPO 法人えーる
7	12/2	保育ボランティアさんと話しましょう	保育ボランティア
8	12/9	修了式（保育室のビデオ上映）	相互

～感想～

- 世の中が便利になったことで、親にとっては良くても子の可能性を狭めてしまうことがあることを頭において、使うものや生活を見直したいです。
- 子どもと離れていられるだけでもありがたいのに、普段自分が悩んでいることを話したり、今日この後すぐ実行できる学びを得ることができて本当にありがたいと思いました。
- 毎回新たな気付きや反省することがあります。最近ほめることが少な過ぎて、つついできないことや失敗に注目してそればかり言ってしまうと思います。結果ばかりに注目せず、それまでの過程もしっかりみて「いい所」を探してどんどんほめて認める育児ができるといいなと思います。
- 歯のことだけでなく、食事において身体全部に影響がでることを知れてよかったです。体幹の体験もできて実感することができより学ぶことの大切さを知れました。
- 久しぶりに大人だけでゆっくり話せて、いろんな話を聞けてリフレッシュになりました。日々子育てをしていたら悩むこともたくさんあるけれど、みんなも色々悩みながら頑張っているんだな…自分もぼちぼちやっっていこうと思いました。

<課題>

講座内容を引き続き充実させる。



## つるかめ大学

<ねらい>

支え合い、助け合い、励まし合う関係を育む。

人がつながり幸福が感じられる社会へ。

### 前期

<状況・成果> 4/14～7/14 月曜日 10時～12時（全12回）受講者80人（平均年齢78歳）

62年目を迎えたつるかめ大学は卒業生12人の代わりに新たな受講者12人を迎え、昨年同様に80人で開講した。班替えは行わず、新たな受講者を6班に振り分けた。前期では、新しい受講者が大人数の中で気後れすることがないように、また、つるかめ大学では何を学んでいるのかを早く理解できるように意識して進めている。そのような中、開講式、交流会を済ませ、最初の座学となる3回目の講義の直前、講師から急用で行けないとの連絡が入った。開講早々、座学を中止にするわけにはいかず、急遽内容を「備える防災」に変更し、危機管理課へ依頼して地震のメカニズムと地域防災について講義してもらった。担当職員は、防災の備えについてのミニ学習と、エコノミー症候群予防体操とを分担して行いその日の講座を乗り切った。「防災の知識が知れたうえ、体操もできてよかった」と、急な変更にも関わらず受講者の評判は上々だった。新しい受講者にも、学びの一端を早期に知ってもらえ、つるかめ大学に馴染む機会にもなった。

また、受講者に人気の戸外活動は今回も場所を水間公園とし、各班が考えたゲームをもちより行うことにした。各班のユニークな進行に加え、景品を用意したことで大いに盛り上がった。ゲームの考案、準備などの作業を共にするなど新しい受講者も徐々に班に関わっていった。

前期修了は社会人落語大会で優勝の経歴をもつ講師による落語で楽しみ、笑顔で前期を終えることができた。

病気で長期欠席をする人もいるが、復帰することを目標に闘病していると聞く。連絡をとるなど班の中でのやり取りも見受けられる。引き続き、誰一人取り残さないSDGsの理念を意識しながら、高齢者にとって持続可能な社会とはどういう社会なのかを投げかけ、孤立しない関係づくりを目指していきたい。

<課題>

班活動の自主性を促し、顔と名前が一致する関係をつくる。

自己を語り、他を認め合う関係性をさらに深め、支え励まし合う仲間づくりを進める。

<前期プログラム>

4/14	開講式 ハーモニカ	貝塚ハーモニカクラブ	6/9	介護予防フィールドワーク	今岡真和
4/21	つるかめ交流カフェ	相互	6/16	食事会	岸和田五風荘
4/28	備える防災（内容変更）	危機管理課・職員	6/23	介護予防フィールドワーク	今岡真和
5/12	日本文化ってなに	岡本康敬	6/30	詐欺など消費相談から	消費センター
5/19	班対抗ゲーム大会	水間公園	7/7	つるかめ交流カフェ	
6/2	映画「ラジオ下神白」	アサダワタル	7/14	前期修了 落語	喜怒哀楽



## 後期

<状況・成果> 9/8 ~12/8 月曜日 10時~12時 (全10回) 受講者70人

開講当初80人いた受講者が後期には70人となった。家族の介護や不幸事、あるいは自身の健康状態が悪くなり止む無く退会していったという状況だ。もっと学びたかった、通いたかったという声を聞くことも多い。つるかめ大学での学びや繋がりがこれからの人生に役立つだろうか。励まし合い支え合える関係性が育まれただろうか。つるかめ大学の掲げるテーマが本当の意味で発揮するのは退会してからの人生の中であろう。退会していった人たちを思いつつ、後期の講座が始まった。

後期は座学に重点を置いた。経済評論家の中田さんは2年ぶりの登壇で相変わらず人気があり、受講者は講師の話しに耳を傾けていた。中田さんが来ると講座全体が引き締まるとの感想があり、存在の大きさがうかがえる。和歌山大学名誉教授の村田さんには公民館と生涯学習をテーマに話をしてもらった。公民館は自分自身を教育する場とも教わり、人生100年時代の生き方を考える機会になった。

古文書入門では学芸員の曾我さんに読み解き方を教わったことで貝塚の歴史について知りたいという欲求が高まっていた。アコーディオンの奥部さんは仕掛けや小道具を用いながら、童謡から昭和の歌謡曲までを幅広く歌い、初登場ながら受講者の心をつかんでいた。

食事はバスの送迎が必要なので場所を探すのが年々困難になり、2年前と同じところを選んだ。物価高騰の折、高めの参加料金になったことで希望者が大幅に減った。今後の食事は見合わせたいと事務局より提案したが、やっぱり行きたいとの声があがっている。

修了式では各班の発表の機会を設けてい

る。1年間の学習の成果として歌や貝塚の昔話の輪読、クイズなど、班で考え工夫を施し発表しあった。発表に向けて話し合い、何度も練習をすることで仲が深まり、班の結束も強くなっていった。

しかし、前回の班替えから3年が経ち、各班の人数が不均衡となったため、次年度は班替えを行うことにした。班を替えることに不安を感じる人も多く、せっかく仲良くなれたのに名残惜しいと言う人も多い。しかしお互いを慮る雰囲気がつるかめ大学にはあるので新たな班にもきっと早く馴染むにちがいない。不安を期待に変えるためにも交流の機会を多く持ちつつ、学べる場でありたい。

<後期プログラム>

9/8	開講式 (のこぎり演奏)	The Happy Sawing	10/27	食事会	八風の湯
9/22	つるかめ交流カフェ	相互	11/10	歌をうたおう	奥部真二
9/29	体を動かそう	高橋智子	11/17	古文書入門	曾我友良
10/6	暮らしと経済	中田進	12/1	つるかめ交流カフェ	相互
10/20	生きることは学ぶこと	村田和子	12/8	修了式 (二胡演奏)	田中庸一

<課題>

新たな出会いを楽しみ、支え励まし合う仲間づくりを進める。



## 傾聴ボランティア養成講座

<ねらい>

傾聴の基礎を学び、ボランティア活動や日々の暮らしに生かす。

傾聴ボランティアそよ風の学習の機会。

<状況・成果>

4/15、22 火曜日 13時半～15時半（全2回） 受講者 20人

講師：長谷川美津代（吹田傾聴ほほえみ） 協力：傾聴ボランティアそよ風（8人）

コロナを経て、6年ぶりに開講された傾聴ボランティア養成講座は、傾聴ボランティアそよ風（以下、そよ風）の協力のもと、傾聴のスキルを学ぶとともに、そよ風への入会の期待も含んでいた。傾聴という言葉が一般的に浸透した今、市民の関心度も高く募集定員10人を超える申込があり、そよ風メンバーと合わせて20人で受講することになった。受講者の中には、子どもの話や声に耳を傾けることを想定していた人もあり、講師は高齢者だけではなく、子どもに対しての傾聴の方法にも触れながら講義を進めた。



第1回目は、傾聴の基礎を学んだ。「傾き、笑顔、アイコンタクト」の3つを基本にしたコミュニケーションの方法と講師の実践事例を座学で学んだ。宿題として「3つの基本を用いて家庭で傾聴をしてくること」が出された。

第2回目は、ロールプレイを用いたワークショップを主に行った。いざ、ロールプレイングをしたら、思うような対応はできず、頭ではわかっているが難しいとの声が多く聞かれた。そよ風のメンバーは久しぶりの講座に、忘れていたことが多く今回学べてよかったと感想を述べていた。



今回の受講者からそよ風への入会にはつながらなかったが、繰り返し学ぶ機会がほしいとの要望があった。

### 【感想】

- ・傾聴する時は相手を大切に思う気持ちが大切という先生の言葉が印象に残りました。
- ・傾聴の難しさを改めて実感。ロールプレイングは色々と勉強になりました。
- ・事例がたくさんあり、どう傾聴すればよいのか改めて気づいたり、学び直しができました。

<課題>

初心者に対して基礎が学べる機会を増やす。

傾聴ボランティアの活動内容を知ってもらう機会をもつ。

4/15	傾聴の意味と意義	4/22	傾聴するにはどうすればいい？ —ワークショップ—
------	----------	------	-----------------------------

## スマホの教室

### <ねらい>

デジタルデバイドの解消。

高齢者のスマートフォンに対する不安解消。

### <状況・成果>

10/2、9、16 木曜日 10時～10時50分 11時～11時50分 (全6回) 受講者14人

講師：NPO法人えーる

公民館でスマートフォン（以下、スマホ）の講座は何度か開催してきた。過去のアンケートを見るとそれなりに満足度は高かったが、「貸してもらったスマホではできたのに、家に帰って自分のスマホでしようとしたら、できなかった」や「講座で使用したスマホと自分のスマホの画面が違い悩んだ」といった不満があった。

そこで今回は、「自分のスマホを持ち込み、わからないを解決する」をテーマに講座を企画した。

講座の工夫として、まず講師は3人とし、一人あたり3人の受講者を想定した。話しやすく、聞きやすい環境を作り、講座時間は短めの50分で切り上げた。また、講座申込み時、使っているスマホの種類（androidかiPhone）や、使用しているアプリなど聞き取りをして前半、後半とグループ分けをするなど受講者に丁寧に接することができるように準備した。

実際に講座が開講すると、講師側の厚意により講師5人に増員し対応してくれたので、ほぼマンツーマンで講座が進んだ。

講師は「早くから来ていますので、質問に来てくれていいですよ」と言ってくれたので10時からの受講者は9時すぎに来て講師に質問をし、11時からの受講者は12時半近くまで残るといった熱心さだった。

最初は講師1人に受講者3人を想定していたが、実際講座をすすめると、とても難しいことがわかった。受講者のスマホ理解度や質問内容の違いを考えると1人対2人でも大変な場面があった。

受講者には満足度の高い講座となったが、講師謝礼を考えると何度も開催できる講座ではない。

一方、受講者同士は、講座で習ったラインをさっそく交換し連絡を取り合うなど交流も生まれた。

アンケートからは「こんな講座をまたしてほしい」「講座日を楽しみにしていました」「優しく丁寧に教えてもらえた」と満足度の高い講座だったことがわかった。



### <課題>

市民の希望する講座と講座運営費。

高齢者のデジタルデバイドの解消に向けて内容を検討し、継続して企画していく。

## 気軽にできる楽しい運動（高齢介護課共催講座）

<ねらい>

フレイル予防。

公民館での仲間づくり。

<状況・成果>

5/15、5/22、6/5、6/12 木曜日 13時半～14時半（全4回） 受講者 21人

講師：西村 光代（音楽健康指導士）

高齢介護課との共催講座。

申し込みは26人あり、抽選で20人としたが、講座開催前にキャンセルした人が「参加できるようになったので、ぜひ受講したい」と連絡があり、21人で開催した。

出席率は平均して17人と高く、欠席者も事前に届けが出るなど、講座への関心の高さがうかがえた。受講者の中には毎回運動系の講座を楽しみに申し込んでくれる人もいたので、マンネリ化防止に新しい講師を迎えた。

講師は総合体育館でも講座を担当しているので、受講者の中には公民館は初めてだが、講師とは顔見知りの人もいた。講師の足の怪我というアクシデントがあったが、ほとんどの人が講座内容に満足していた。

毎回、フレイルについての話や脳トレーニング、ストレッチ、筋トレなどの内容に60分が短く感じるほどであった。

4回と限られた回数だったが、講座前後で受講者同士が会話している様子もうかがえ、初めて公民館を利用する人にも楽しく講座を体験してもらえた。

講師の体育館講座を伝えると内容について質問する受講者もいて、継続した運動につながるきっかけも作れた。

アンケートから講座を知るきっかけの9割が「広報かいつか」でそれ以外は公民館内のチラシであった。高齢者には紙の「広報かいつか」が身近な存在だと知ることができた。

今後もフレイル予防講座は高齢介護課との共催や、公民館主催講座として開催をしていく必要がある。

<課題>

高齢者のフレイル予防につながる講座開催と居場所づくり。



## シニアあそびたい会（高齢介護課共催講座）

### <ねらい>

あそび隊への入隊につなげる。

高齢者の社会参加の機会をつくる。

### <状況・成果>

①12/11 10時半～12時 ②1/8 13時半～15時 木曜日（全2回）受講者2人

講師：あそび隊

昨年度同様、あそび隊員も年々高齢化し人数も減少していることから、講座に来てくれた人を1人でも隊員につなげたいという思いで、今年度も高齢介護課との共催講座を行った。連続2回講座で企画し、60歳以上の方優先で募集を行った。講座の第1回目は中央公民館講座室であそび隊を講師として、風車とストロートンボの定番のおもちゃを受講者に作ってもらい、2



回目は浜手地区公民館（以下、浜手）の新春あそびたい会（以下、あそびたい会）に参加し、あそび隊の普段の活動を一緒に体験してもらうこととした。定員が15人のところ6人の申し込みがあったが、第1回目の当日に無断の欠席や急用、体調不良などによる辞退が重なり、2人のみの出席となった。2人の内1人は、昨年度も参加してくれた男性受講者であそび隊員に指導してもらいながら普段の活動について質問したりと、興味を持っている様子だった。もう1人の初参加の女性受講者もストロートンボに好きな絵を描いて、「今度ひ孫にプレゼントする」とあそび隊員と会話を楽しみながら手作りおもちゃを製作した。また、完成したストロートンボを飛ばしたり、あそび隊が展示していたブンブンゴマを回したりと受講者も若かりし頃を思い出しながら夢中になって遊んでいた。受講者も少なかったため、講座開催時にあいさつに来た高齢介護課職員もあそび隊や受講者と一緒に手作りおもちゃを体験し、交流してもらった。合間には介護保険の使い道やその他高齢介護課主催の講座についても詳しく説明してもらった。早速、あそび隊に興味をもってくれていた女性受講者が2回目の講座は参加できないとのことで講座とは別に普段の活動先（幼稚園）と一緒に参加してもらい、あそび隊について知ってもらう機会とした。「活動は楽しく、子ども達から元気をもらった」とあそび隊参加に前向きな意向を示してくれた。



第2回目は浜手のあそびたい会に受講者1人が参加し、会場に来た地域の子供達とふれあい交流した。受講者にも準備から手伝ってもらい、子供達と一緒に数種類のおもちゃを作ってもらった。

「思っていたより大きなイベントでたくさんの子供達に教えてるんですね」と感心していた。今回は第1回目であそび隊のことを知ってもらい、2回目で実際の活動に出掛けたことで会場の雰囲気や隊員が活き活きと子供達に教える様子を肌で感じてもらったのは良かったが、受講者の欠席が多く残念だった。来年度は高齢者が出てきやすい時期や開催場所を検討し、高齢介護課職員とも密に連携を図りながら講座開催していきたい。

### <課題>

講座の周知方法と開催時期について検討が必要。

## おやじのたまり場

<ねらい>

シニア男性の仲間づくりや居場所づくり。  
おやじの会のメンバーを増やしクラブ化を目指す。

<状況・成果>

1/24、31、2/7 土曜日 10時～13時（全3回） 受講者10人

講師：おやじの会 濱口邦子（公民館料理ボランティア）

定年退職をした人や、何かを始めたいと思っている人に公民館を知ってもらい、活動を通じて仲間づくりや趣味を見つけてほしいと企画した。既存グループのおやじの会にも協力してもらい、うどん打ちやそば打ちなど興味のもちやすい講座にした。また3回目では、自分たちの作りたいものをみんなで話し合っただけで決めた。

初回、あえて事前に班分けをせず着替えや準備の時間を利用して、自分たちでペアを決めることにした。その結果、ほとんどの受講者が初対面だったにも関わらず自然なコミュニケーションがとれ和やかな雰囲気講座がスタートした。それでも講座中は、受講者同士の会話を楽しむより講師の話に真剣に聞き、料理をすることに夢中になっていた。

7割の受講者が公民館を利用するのが初めてだとわかり、2回目の講座では仲間づくりをめざして、公民館の「クラブ一覧」や「一年の取り組み」の紹介から始めることにした。クラブ活動にも興味を持ち次回見学に行きたいと声をかけてくれた受講者もいた。

講座が進むにつれ、講師に頼るのではなく、受講者同士が助け合う姿がみられるようになった。例えば、料理慣れしている人が初心者に野菜の切り方を教えたり、調理器具の場所を教え合うなど自然に声をかけあっていた。個々の作業から、互いの作業を気に掛ける関係性が生まれ会話が弾みにぎやかな料理室となった。

講座終了後も、受講者からまた集まりたいという声が多く、講師団体からの声掛けによりこの仲間で継続的に活動を行うことに決まった。



<課題>

継続的な活動につながる支援。  
自主グループのクラブ化。

1/24	うどん打ち・いなり寿司
1/31	そば打ち・かき揚げ
2/7	ぎょうざ・おつまみきゅうり 手羽先・きんぴら



## 夢にチャレンジ

<ねらい>

障がいをもつ青年（年齢を問わない）たちのチャレンジの場、社会参加の場とする。

公民館クラブ利用者やボランティアと交流を深め、関わった人たちの障がい者理解にもつなげる。

<状況・成果>

4/19～3/21 第3土曜日 10時～12時（全11回） 受講者11人

今年度は、中央公民館まつり（以下、まつり）の舞台に出演することを目標に昨年度末から公民館クラブの「大人のHIPHOP チェケラッシュ」（以下、チェケラッシュ）に協力依頼し、ダンスの練習に3月から3回講座で取り組んだ。4月からの担当職員の交代にともない昨年度から1年をかけて引継ぎをおこなってきたが、6月にまた担当職員が異動となり、受講者に不安を与えることになった。年度途中であったため、毎月の講座は基本第3土曜日が出勤日にあたる職員で担当した。

6月からは新しい受講者が1人加わり、11人での講座開催となった。今回も受講者たちの希望でまつりに出演することになり、自分たちの好きな曲を選曲したことで練習にも熱が入った。まつりでの舞台出演も今年で3年目となり、ダンスが好きということもあり上達も早く、毎年ダンスを見た人たちに感動を与えている。また、舞台出演終了後すぐに講師として協力してくれたチェケラッシュのメンバーに、来年のまつりでの協力を受講者が直接依頼していたことが印象的であった。

7月は公民館クラブの「絵手紙クラブ」に協力してもらい、うちわ製作を行なった。用意されたうちわに金魚やあじさいの絵が描けるよう見本を準備していたが、開催日が貝塚市の太鼓台祭りの日であったため、お手本通りでなく太鼓台の絵を描いたり受講者オリジナルの作品ができあがった。9月は「ろうの花」に協力してもらいリースづくりをした。受講者1人ひとりのペースに合わせ、クラブ員も優しく丁寧に指導してくれ、受講者は出来上がったリースを手に「家の玄関に飾ります」と嬉しそうだった。担当職員が毎月代わり不安もあったが、受講者にも色々な職員と関わることで顔と名前を覚えてもらい、職員も講座に入り、実際に受講者と交流したことで全体の様子を把握することができた。12月のクリスマス会では受講者と料理ボランティアと一緒にビンゴ大会で盛り上がり楽しんだ。食事をしながら、受講者から来年度に講座で挑戦したいことなども聞き取れたので、今後興味を持って参加できるようなプログラムを考えていきたい。

<課題>

受講者が積極的に取り組める講座内容の検討。

担当職員が定まらないことでの不安解消と信頼関係の構築を図る。

《プログラム》



月	内容	講師	月	内容	講師
4月	夢チャレ はじまるよ～ 楽しくおどろうHIPHOP①	大人のHIPHOP チェケラッシュ	11月	HIPHOP ダンスで 公民館まつりにGO	大人のHIPHOP チェケラッシュ
5月	楽しくおどろうHIPHOP②	大人のHIPHOP チェケラッシュ	12月	クリスマス会	料理ボランティア
6月	お菓子をつくろう	貝塚の知恵袋	1月	染め紙で灯ろうをつくろう	月曜絵画
7月	絵手紙	絵手紙クラブ	2月	まつりの舞台で踊ろう	大人のHIPHOP チェケラッシュ
9月	ろうの花リース	ろうの花	3月	ペットボトルピザ	職員 中川 知子
10月	ハンドベルを鳴らしてみよう	おりい りかさん			

## ホッとワーク

### <ねらい>

視覚に障がいのある人たちに多彩な体験や学習の場を提供する。

障がいのある人たちの可能性を広げ、主体性を高める。

講師や協力者においては、視覚障がいを理解し交流を深める機会とする。

### <状況・成果>

5/27～3/24 第4火曜日 10時～11時 全10回 受講者 10人

受講者が固定化していて増えないことが課題となっているが、みな顔なじみでお互いをよく理解しているため話は弾みやすいし、和やかな雰囲気をすぐに作れることが利点である。今年度は受講者の誘いにより1人の参加があった。このような良好な雰囲気なので新たな受講者もすぐに打ち解け休まずに通うことができている。

プログラムは、昨年度末に行った受講者との話し合いにより決められている。「毎回ワクワクする気持ちで講座に来る」という人や「室内楽や落語はひとりで行くことはできないので、やってもらえたら嬉しい」などの話が出た。また、料理は生活に直接結びつけられるように「お惣菜系のものを2回やってほしい」との要望から今年度は料理の講座を2コマ加えた。

5月はそれぞれが持ち寄った言葉を合わせて詩を作るという初めての試みを行った。6月はバイオリンのソロ演奏を聴き、7月には、防災士でもある講師に、もしもの時のセルフハンドケアを教わるなど、前半は新しい講師の登場や試みが続いた。

後期は受講者待望の料理講座を行った。11月の料理は1品のみだったが、ゆっくりと取組むことができ、時間的にも余裕をもって食べることができた。12月にはクリスマスの気分で室内楽を聴くなど定番のプログラムが続いた。

のこぎり演奏は久しぶりだといい、のこぎりを弾く体験もしてみた。3月には話し合いの場を持ち来期への希望を聞いた。今後も受講者との対話の時間を設け、声を聞き希望を叶えつつ新しいことにも取組んでいきたい。

### <課題>

新規受講者、現受講者の積極的な参加につながる内容の検討と工夫。

### <プログラム>

**5月 合作詩**  
—みらい—  
早寝早起き  
ありがとう  
ささめゆき 散歩  
だいじょうぶ  
だいじょうぶ  
I shall do it my way  
根性  
どんどん 創造



5/27	詩の創作	あつコトバ	11/25	料理（さつまいものグラタン）	貝塚の知恵袋
6/24	バイオリンの調べ	大井規子	12/16	クリスマスコンサート	アンサンブル BUNS
7/22	セルフハンドケア	中尾和子	1/27	落語	千里亭だし吉
9/30	体を動かそう	高橋智子	2/24	料理（豚まん）	料理ボランティア
10/28	のこぎり演奏	室井一彦	3/24	茶話会（振り返り）	相互

## ふれあい料理

### <ねらい>

料理を通して障がい者のできることを伸ばす。障がい者の社会参加の場とする。

ボランティアをはじめ、他者との交流を深める。

### <状況・成果>

4/25～3/27 毎月第4金曜日 10時半～12時 (全11回) 受講者 22人

市内5施設(貝塚いぶき作業所、自立センターどんまい、夢二色、あすなる作業所、ワークサポートらぱん) 一般1人ふれあい料理ボランティア15人

3月に、施設職員、ボランティア、担当職員で、班の組み方やご飯の量などについて振り返りをした。昨年度は毎回施設職員が同行していた受講者が、ボランティアの声掛けにより自信がついて、「今年度からは一人で行ってみようかな」という嬉しい話も聞くことができた。

講座が始まり、4月は、毎年恒例のカレー料理を作った。受講者は、2か月ぶりにボランティアに会え、会話も弾みこの日を楽しみにしている様子だった。

ふれあい料理では、指を切る、やけどするなどけがの危険が伴う。そのため包丁を使って食材を切ったり火を使う場面では、ボランティアが丁寧に付き添い、声をかけている。また、怖がる受講者には手を添えたり、はさみを使ったりと他の方法を一緒に模索しながら、料理を行っている。初めて講座に参加する受講者にベテラン受講者が声をかけてサポートしている場面が見られ、受講者が自発的に動いている姿に成長を感じることができた。

調理を終えると、毎回受講者に食前食後のあいさつをしてもらうことが恒例になった。「いただきます」「ごちそうさま」の一言だけではなく、自発的に自己紹介をしたり、旅行、趣味、服装の話をするなど発表の場にもなりボランティアは受講者の話を楽しそうに聴いている。

12月のクリスマス会では、受講者が華やかに会場を飾りつけ、ボランティアがクリスマス料理を振舞った。受講者が日頃の感謝をボランティアに伝える場面もあり、和やかな雰囲気にも包まれた。

### <課題>

さらに主体的に講座に関われる工夫。



4月	カレー豆乳鍋、高野豆腐の卵とじ他	11月	大根と豚肉の煮物、なめこのみそ汁他
5月	三色ごはん、ひじきのサラダ他	12月	クリスマス会
6月	ビーフストロガノフ、チョコゼリー他	1月	キャベツ煮、ガレット、トライフル他
7月	親子どんぶり、無限ピーマン他	2月	すき煮、水菜の胡麻和え、蒸しパン他
9月	鮭のちらし寿司、豚汁他	3月	振り返りの話し合い
10月	豚キムチ、トマトと卵のスープ他		

## 介護について語り合う場

<ねらい>

介護に携わる人たち相互の交流と学習。

介護当事者の孤立や介護の不安を無くし、精神的な負担の軽減をはかる。

<状況・成果>

4/28～2/23 受講者

元「介護者家族の会」のメンバー、配偶者を介護する男性や、遠方の両親を支える現役世代など、多様な立場の人々が集う場となった。

年度の前半は、参加者の主体的な対話と身近なニュースを題材とした学習を中心に進めた。6月には新聞記事を題材として、高齢期における認知症を「加齢に伴う自然な変化」として捉え直す視点を共有した。参加者からは「病気と決めつけずに向き合うことで、少し気持ちが楽になった」との声が上がり、医学的知見を生活の実感へと落とし込む深い対話の場となった。



8月は、日々の語り合いの中で生じた疑問を整理した。特に「自分が介護を必要としたらどうなるか」「介護者が倒れた際の支え」など、個人や家庭の備えだけでは解決が難しい課題が明確になった。これらの不安を解消するため、後半の講座では高齢介護課の協力を得て、中央地域包括支援センターから講師を招くこととした。

10月及び12月は、中央地域包括支援センターの講師が参加者の輪に加わる形式で対話を行った。介護保険制度やおひとりさまの老後など、最近の介護情勢について学習を深めるとともに、参加者が抱える悩みや現状を専門家と直接分かち合う貴重な機会となった。近い距離感で接することで、ショートステイの利用手順や緊急時の連絡体制など、一人ひとりの状況に寄り添ったきめ細やかな助言を得るに至った。公的支援を「正しく頼る」ことの重要性を再確認できたことは、今年度の大きな成果である。

開催日	内容	参加人数（男性）
4/28	本年度の進め方・自己紹介と近況報告	15人（2人）
6/23	学習「脳機能低下は老化現象か」・意見交換	13人（1人）
8/25	包括支援センターを招いた講座について	12人（1人）
10/27	介護保険制度・緊急時の対応について 講師：中央地域包括支援センター	14人（3人）
12/22	老後のおひとり様生活 講師：中央地域包括支援センター	11人（4人）
2/23	一年間の振り返りと地域での支え合い（予定）	—

<課題>

- ・男性同士で本音を語り合える交流の場の設置
- ・誰もが安心して悩みを発信し続けられるコミュニティの維持

## 日本語会話よみかき教室

<ねらい>

在住外国人やさまざまな要因で日本語が不自由な人たちに日本語の読み書きの支援をする。

日本で安心して生活できるようにそれぞれの問題、相談ごとに対応し、支援を行う。

<状況・成果>

4/1～3/30 受講者 54人 ボランティア 34人

この講座ではボランティアが日本語の読み・書き・会話に困っている人たちに日本語を教えており、各館の開講状況は以下の表の通りである。今年度も受講者は全員在住外国人であった。

ボランティアは、受講者ひとり一人に寄り添い、それぞれの日本語のレベルに合わせて丁寧に学習を進めている。また、学習だけでなく生活面の相談にも乗るなど、受講者にとってボランティアは心強い存在となっている。

今年度は7月頃から3館ともに受講希望の問い合わせが急増した。大半は就労を目的に来日した人やその家族で、貝塚駅から歩いて来やすいこともあり、中央公民館（以下、中央）で受講を希望する人が多かった。熊取町の担当職員から日本語教室が不定期開催のため、在住外国人を貝塚市で受け入れてもらえるかと連絡が入るほどこの講座へのニーズは高まっている。

中央では午前中の開講とあって子どもを幼稚園、保育園に送ってから来る女性の受講者が多く、時には入園前の子どもを連れて来る姿も見られた。また、シフト制の職場で働く数人が交代で協力しながら毎週欠かさず教室に通うなど、学習意欲の高さがうかがえた。例外的なことだが、11月から毎週土曜日の午前中にボランティア1人がベトナム国籍の小中学生3人に学校の授業についていけるよう学習指導も行っている。

浜手地区公民館（以下、浜手）では中国（香港含む）出身の受講者が大半を占めており、そのほとんどが日本でビジネスをするために来日した人やその家族である。香港出身の夫婦3組が受講していて、学習だけでなく、日常生活や仕事についても情報交換をするなど和気あいあいとした雰囲気毎週教室に来るのを楽しみにしている。中には受講者からの紹介で来ている夫婦もあり、香港出身者間のネットワークの強さがみられる。教室は集いの場として活発に使われている。

山手地区公民館では、夜間開講のため近隣の工場で働く技能実習生が終業後に受講したり、今年度からバングラデシュ出身で京都の大学に通う留学生も新たに加わった。インドネシアやキプロス出身の受講者もいて、多国籍で賑やかに学習をしている。また、受講者の中には日本語検定などの試験に挑戦する人もいる。

11月には大阪府教育庁との共催事業として、魅力づくり推進課と共に識字・日本語パネル展を本庁1階のロビーで開催した。パネル展では3館の受講者にも協力してもらい、受講者の紹介写真と教室に対する思いを日本語と母国語で書いてもらった。



本庁で開催したこともあり、市役所に来た幅広い層の市民に見てもらえ、教室の存在や活動を知ってもらうことができた。今年は大阪・関西万博が開催され、貝塚市も今後さらに国際交流に力を入れていきたいとのことで、公民館として何ができるかを探った。まずは教室に来ている在住外国人と他の公民館利用者が交流できる場づくりを試みた。公民館活動をよく知るしゃべり場★公民館（以下、しゃべり場）のメンバーに協力してもらい、1月に受講者としゃべり場の交流会を中央で開催した。中央と同じ時間帯で開講している浜手の受講者とボランティアにも参加を呼び掛けた。当日は予想よりも多く全体で25人の参加があり、講座室がいっぱいになった。参加者の自己紹介から始め、最初はみんな何を話して良いかわからず緊張していたが、しゃべり場のメンバーが教室の受講者たちに「日本の好きなものや貝塚市の好きなところを教えて」の問いかけに日本語で一生懸命伝えようとする姿があった。まだ日本に来て間もない受講者もいたので、質問や会話の内容が理解できない時には他の受講者が母国語で通訳し、中央、浜手の受講者同士が助け合う場面も見られた。準備していたお茶菓子を食べながらの話は徐々に盛り上がり、参加者が自ら席を立ち進んで色々な人に声を掛けに行ったり、中央、浜手の受講者同士がラインを交換し交流していた。また、同じ校区の子どもを持つ親としてしゃべり場メンバーが教室の受講者に市内の子育てについての情報提供や困りごとを聞いたり、保護者が集まる学校の家庭学級の紹介をしていた。今回の交流会を開催したことで次回に向けての改善点などはいくつかあったが、中央と浜手の受講者にも接点ができ、普段関わる事のなかった公民館利用者（一般市民）と在住外国人がお互いを知り、つながる機会となった。香港出身者からも「日本語を話す練習になり楽しかった、また来たい。」と嬉しい感想があった。しゃべり場メンバーからも「長らく公民館活動をしていたが、教室に様々な国籍の人が集い、日本語ボランティアが彼らの学習や生活のサポートをしていることを初めて知った。」と新たな取り組みの第一歩となった。



今後とも地域から孤立しがちな在住外国人が公民館という場所を通してもっと色々な人と関わり経験していけるような機会を作っていきたい。

<課題> 安定して受講が継続できるようなサポートをする。



開催場所	曜日・時間	回数	受講者数	出身国
中央公民館	火・10時～12時	43	27	ベトナム、中国、台湾、ボリビア、ミャンマー、カンボジア、ネパール、タイ、スリランカ、インドネシア、スーダン
浜手地区公民館	火・10時～12時	41	10	中国、香港、ブラジル
山手地区公民館	月・19時半～21時	40	17	ベトナム、中国、台湾、パングラデシュ、インドネシア、キプロス、ネパール、スーダン

## 文化事業

<ねらい>

芸術や文化に親しむことができる場の提供。

公民館を利用したことのない人たちに公民館を知ってもらう機会とする。

<状況・成果>

### ◆深まる秋のコンサート～万博メモリアル（出演：貝塚市クラシック音楽家協会）

11/16 日曜日 13時半開演 場所：視聴覚室 来場者 61人

今年度は大阪・関西万博が開催されたこともあり、万博にちなんだテーマでプログラムを組んだ。演奏の前には曲に対する演奏者のコメントが読み上げられた。どのような思いや気持ちでこれから演奏をするのか語られたことで、それぞれの曲が身近に感じられ、観客も少し前のめりになって耳を傾けている様子であった。

公演後は衣装をつけた演奏者が廊下に出て、参加者と和やかに歓談する場面が見られた。観客からは演奏者たちに感謝やエールを送る言葉が溢れ、ふれあいの場となっていた。

一方、アンケートからは、後ろの席からは演奏者の表情や手元が見えないとの意見があった。今回は61人が入室したが、定員を減らしてゆったりとした環境をつくる方がよいのか今後検討をしていきたい。



### ◆ジャズライブ

2/1 日曜日 13時半開演 場所：視聴覚室 来場者 62人

（出演：中野ひろしくインテット）

ジャズライブは毎年人気がある。申込開始前から問い合わせに来る人もいた。募集人数は70人としたが、申込開始から5日間で配布済みとなる盛況ぶりであった。公民館でのジャズライブは1991年から定期的に行っている。観客は顔なじみの人から、ジャズライブをきっかけに初めて公民館を訪れる人とさまざまである。



公演は休憩を挟んだ2部構成で、ジャズスタンダードを中心に、1曲ずつ曲の解説を交えながら進行した。耳馴染みのある定番曲では、観客からは「おお」と、どよめきがあった。観客はリズムを刻んだり、目を閉じて聴き惚れる人もおり、心地よいジャズの世界に浸っていた。終演も拍手が鳴りやまず、アンコール曲も演奏され、観客は最後までジャズの音色に引き寄せられていた。

～感想～

- ・何ともいえない気分で演奏を聴き惚れました。
- ・各パートの演奏が楽しかったです。

- ・生演奏を近くで聞いて良かった。初めて参加のジャズライブでした。
- ・どの曲も素晴らしかったです。息の合った演奏ありがとうございました。
- ・90歳とは思えない力強い音色に、パワーをいただきました。

◆春一番コンサート

3/8 日曜日 13時半開演 場所：視聴覚室 来場者 65人（出演：サザンウインドアンサンブル）

春一番コンサートは30年以上にわたり公民館でコンサートを開催し、毎年来場している人も多く、たくさんの人が春の訪れを楽しみにしている。

整理券は貝塚市内と市外で配布日を変えている。市外は市内配布の1週間後からとしているが8割程度は市内の人たちで埋まるほど人気がある。当日も開場前から人が集まり、開演前には皆が着席し、演奏がいつ始まるかと司会者と時計を見比べて待っている状態であった。

どの曲も演奏前には曲の作者紹介や曲にまつわるエピソード、楽器の説明などがあり、知らない曲であっても自然と興味がわき、耳を傾ける工夫がされており、あっという間に1部2部が終了し最後に来場者と演奏者が一緒に「故郷」を歌い、和やかな雰囲気のうち終了した。

コンサートの終了後も演奏者と来場者が挨拶や軽い会話を交わしコンサートの余韻を惜しみつつ再会を楽しみにしている様子も伺えた。

昨年度団体と部屋の使い方について整理し1月以降の使用は免除扱い、それ以前は部屋の使用料を2表で払ってもらうことにした。

～感想～

- ・初めて参加しました。心にひびき感動しました。
- ・素晴らしいアンサンブルを満喫しました。感動の一日でした。
- ・いろいろ工夫を凝らしていただいて、楽しく鑑賞することができました。
- ・素晴らしかったです。もっとたくさんの方に！と思いましたが、初めに話されていたとおり身近に息遣いを感じながらというコンセプトでということで、それも良かったな。って思いました。
- ・クラシックを身近に感じる時間がとても心地よかったです。心が洗われるようで、メロディーの中に浸ってずっと幸せでした。これからも参加させていただきたいです。



## ピアノリレー

### <ねらい>

老若男女を問わず、あらゆる世代の人に文化に親しむ機会を提供する。

公民館が身近な場所であることを知ってもらう機会とする。

### <状況・成果>

<b>こどもの日ピアノリレー</b>	5/4	日曜日	10時～16時	参加者 83人	演奏者延べ 17人
<b>七夕ピアノリレー</b>	7/6	日曜日	10時～16時	参加者 125人	演奏者延べ 23人
<b>Xmasピアノリレー</b>	12/21	日曜日	10時～16時	参加者 82人	演奏者延べ 24人
<b>ひなまつりピアノリレー</b>	3/1	日曜日	10時～16時	参加者 143人	演奏者延べ 23人

今年度も、季節のイベントに合わせて4回開催をした。毎回テーマに合わせて、こいのぼりや万国旗、クリスマスツリー、おひな様を飾り会場はとても華やかで、この飾りつけを楽しみにしてくれている参加者も多い。

今年は、ピアノリレーをより多くの人に知ってもらい参加してほしいという思いから特に広報活動に力を入れ、「SNS」や「ためまっぷ」に掲載した。さらに、申し込みをLoGoフォーム（電子申請システム）にすることによって窓口に来たり電話をせず申し込むことができ、気軽に誰でも参加しやすくなった。初めて公民館に来る参加者もかなり増加し、この取り組みを多くの人に知ってもらうことができた。

少年少女合唱団のミニコンサートでは、季節の童謡を観客と一緒に歌うなど場を盛り上げてくれた。また、ピアノの伴奏に合わせてダンスを披露する場面もあり、子どもたちも発表の場を楽しんでいた。

演奏が始まると、前後の演奏者が観客として席に座り音楽を楽しんでいる様子が見られた。他にも家族が見に来ている人や、自分の演奏風景を撮影している人もいて、それぞれがピアノリレーを楽しんでいた。

趣味で家でピアノを練習しているという人にとっては、人前でピアノを演奏する機会が少ないので場所を提供していただけることはとてもありがたいという声が多く、ピアノリレーを開催することは必要だとより感じた。また、定期的な開催により、一定の周知が図られ、安定して多くの人に参加している。来年度は、公民館まつりが近い連休中や文化事業の多い年度末の開催を減らし、年に2回みんなが身近で文化に触れる場として開催していきたい。

### <課題>

講座の認知度をあげるための宣伝方法の工夫。

気軽に参加しやすい工夫。



## あそび隊

### <ねらい>

子ども達に遊びを伝えることを通して異世代交流を進める。

こども園、保育園、幼稚園、小学校や施設、町会など、地域に出かける事業を支援する。

### <状況・成果>

登録メンバー 12人

貝塚市内を中心に小学校・幼稚園・保育園・こども園・町会・子育てグループ・介護施設・障がい者施設・児童養護施設・公民館の講座事業などからの依頼で現地に出向き、子どもから高齢者まで幅広くおもちゃ作りや昔あそびを通して交流している。また月に1度、中央公民館で定例会を開催しスケジュールの調整、おもちゃ製作の勉強会、講座準備、材料作りなど隊員の交流や情報交換を行っている。

今年度は年間を通して忙しく10月以外、毎月活動に出掛けていた。中には活動先を午前と午後の2件を巡っている日もあった。また、新たに海塚町会館で開催される子ども食堂や魅力づくり推進課主催の「水間桜のテラス」からも活動依頼が入りコロナ以降、連絡のなかった幼稚園からも保護者会でおもちゃづくりとあそびコーナーを開催してほしいと依頼が舞い込んだ。

年々、隊員の高齢化が進む中、家庭の事情などによる脱会もあり、新たな隊員の獲得が引き続き課題となっている。今年度はあそび隊の活動を知ってもらい、隊員につなげたいという目的で講座を開催した。講座は高齢介護課との共催事業で12月と1月の2回連続講座として企画した。講座当日に複数人の欠席があり受講者は2人と少なかった。しかし、内1人は早速活動に参加するなど入会に前向きな意向を示している。隊員募集についてもチラシ、SNS、公民館ロビーでのポスター掲示、市のホームページでの活動報告、活動先で隊員からの宣伝はしているが、今後も増員のために積極的に声を掛けるなど、対策をしていかなければならない。

経験年数の浅い若手の隊員も回数を重ね慣れてきており、講座の企画や準備を進んで分担するなど、積極的に関わっている。また、ラインや定例会でこまめに活動日程や隊員の出欠確認、活動報告などの情報共有を行い、徐々に隊員みんなで協力しながら進められるようになってきた。ただ、隊長が活動の依頼先とのやり取りや打ち合わせなどをほぼ1人でこなしているため、活動の継続のためにもその他の隊員が分担して進められる体制を作っていくことが課題となっている。また、隊員の中でも80代に差し掛かり車の運転に不安を覚え、免許を返納する人も出てきたので、事前の打ち合わせや活動先に行くまでの交通手段についても今後検討していく必要がある。

### <課題>

新たなあそび隊員の獲得に向けた広報活動。

今後のあそび隊を担う後継者の育成。

誰もが運営できる体制づくり。

今年度の活動（計50回）	
幼・保・こども園・小学校	26回
公民館講座・グループ	7回
施設・他市	4回
地域・町会ほか	13回

**あそび隊の歴史**・・・あそび隊は「あそび隊」と「折り紙グループ」をあわせた総称。あそび隊は「つるかめ大学遊び隊」と公民館講座の「あそびボランティア養成講座」終了メンバーを中心に平成20年に発足。折り紙グループは平成9年につるかめ折り紙として結成し、平成22年中央公民館クラブ協議会に加入。その後あそび隊と共に活動していく中で平成24年に一緒に活動することとなり、その際に全体の総称を「遊び隊」とした。折り紙グループは、誰でも申込みなしで参加できる「オープン折り紙」事業を毎月第3土曜日に実施していたが、令和6年6月解散。令和6年7月より「遊び隊」から「あそび隊」に総称が変わった。

## 保育ボランティア

### <ねらい>

子育て中の親の学習機会を保障。

子どもにとって安心・安全でより良い保育をめざす。

### <状況・成果>

定期登録 10人 不定期登録 10人

おや子教室 12人 貝塚子育てネットワークの会共催講座 6人

今年度のおや子教室は、昨年度より受講者が増え、保育の子どもも11人と増えた。2歳未満が8人と多かったため、ボランティアは子どもの人数とほぼ同数で保育を行った。

準備会では、保育体制や1歳未満の受け入れ、ボランティアの人数調整、おやつの有無などについて話し合った。おやつについては今年度無しにすると決めた。その他開講式は、子どもの年齢に合わせた絵本やエプロンを使った人形劇を取り入れ、修了式は例年通り、保育の様子動画視聴やボランティアが製作した写真付きの折り紙のペンダントを渡すことを決めた。

講座が始まり、最初は泣いていた子も少し時間が経てば泣き止み、室内ではままごとやプラレール、外では滑り台や砂場で子どもたちが自由に遊んでいた。1歳前後の子どもには一人ひとりボランティアがつき、危険がないように見守ったり、抱っこをするなど常に目を離さないよう気をつけていた。講座の中盤から母と離れることが分かりだし、保育室に入る前から泣いている子が増えた。ボランティアは公民館の周辺を散歩するなど子どもの気分転換を図り、落ち着けるように工夫していた。

保育終了後は、修了式に向けて意見を出し合い、また自宅で折り紙のペンダントを折ってくるボランティアもおり、みな協力して製作を進めていた。修了式では、保育の様子動画を流し、親子で視聴した。しかし、子どもたちは親元を離れ、ボランティアと外で遊び始めた。子どもたちはボランティアを信頼して一緒に遊べるまでに成長し、ボランティアもやりがいを持って子どもの成長を見届けていた。ボランティアからは「ビデオを見たかった」という声もあったため、来年度の準備会などで見てもらう機会を図りたい。また、「今年は3歳未満で人数も多かったのに泣く子が少なく、落ち着いていてよかった」とボランティアから感想が聞けた。

貝塚子育てネットワーク共催講座では、7回の連続講座に12人の保育申込があり、保育ボランティアに依頼をした。子どもは兄弟での参加がほとんどであり、年齢が高い幼児期後期の子が多く活発であったため、ボランティアが怪我や事故がないように声かけや、目配りをしていた。講座が2時間だったため、おやつの時間を設けたり、ボランティアが折り紙で自作したものを持ってきて一緒に遊んだり、コスモシアターでイベントがあった際は、イベントに参加をするなど保育で過ごす時間が飽きることはないように工夫していた。

### <課題>

ボランティア同士、ボランティアと受講者との交流。



## 日本語会話よみかき教室ボランティア

### <ねらい>

日本語会話や読み書きが困難な人たちに学習支援をする。

受講者の生活面での相談事に対して、サポートできるボランティアを養成する。

### <状況・成果>

4/1～3/30 ボランティア 34人 受講者 54人

3館ボランティア内訳（中央公民館 12人 浜手地区公民館 4人 山手地区公民館 18人）

日本語会話よみかき教室ボランティアは中央公民館（以下、中央）、浜手地区公民館（以下、浜手）、山手地区公民館（以下、山手）の3館で活動しており、中には教室を複数掛け持ちしているボランティアもいる。日本語検定取得や日常会話、業務に必要な日本語等目的は様々で、受講者に合わせた対応をしている。

教室では日本語の学習だけでなく、ボランティアの企画で日本の文化を知ってもらうために折り紙や節分には手巻き寿司を自分たちで作って食べるなど、受講者同士がコミュニケーションを取れるような工夫もしている。ボランティアは日々、受講者が安心して生活ができるよう教室以外でもサポートを行い、強い信頼関係を築いている。

今年度、中央では11月から毎週土曜日の午前中にもベテランボランティア1人が学校の授業についていけるよう、ベトナム国籍の小中学生3人を学習指導している。きっかけは、教室に通うベトナム出身の受講者から、数年前自身の子ども達が教えてもらいととても助かったので、知り合いの子ども達もみてもらえないかと依頼があったことである。子ども達は「日本で生活するうえできちんとした日本語が使えるようになりたい」、また「日本の高校に行きたい」という目標を持ち一生懸命学習している。



また、山手では主となるボランティアが受講者の勤務する近隣の会社とも情報交換しながら、仕事や生活の相談にも乗り、様々な書類の手続きをはじめ、日常生活に必要な支援を幅広く行っている。

浜手では、現在受講者を学習レベルに応じて2グループに分けて授業しているが、受講希望者が増えてきているので、新しいボランティアの増員が必要である。

今年度、職員や現ボランティアからの声掛けで新規ボランティアが中央7人、山手10人、浜手に2人加わったが、仕事や家庭の事情、学校などで毎週出席することが難しく、以前からいた60代から80代のベテランボランティアを中心に教室運営している状態である。年々、ボランティアも高齢化してきているので、識字・日本語パネル展や広報かいつか、SNS、公民館ロビーに掲示、声掛けなどを通じて日本語ボランティア募集をした。今後も引き続き新規ボランティア募集と後継者育成に力を入れていかなければならない。

### <課題>

今後の講座を担うボランティアの増員及び育成。

## ふれあい料理ボランティア

### <ねらい>

受講者が安心して活動できるようにボランティアのスキルアップを支援する。

交流を通して障がい者への理解を深める。

受講者が主体となる関わりを心がける。

### <状況・成果>

ふれあい料理ボランティア 15人

昨年に引き続き今年度もボランティア 15人で講座がスタートした。年々ボランティアの高齢化が進んでいるが、「この講座に来ると元気になる」「受講者と話すのが楽しい」と活動に前向きだ。

受講者が指を切ったり、火傷をしたりしないよう細心の注意をはらいながら、料理だけでなく受講者との会話やボランティア同士の交流も大切にしている。

例年、猛暑が続きボランティアや受講者も夏バテや食欲不振など体に影響が出やすくなっていた。そこで、6月に高木哲男さん（岸和田グランドホール顧問）を招き夏野菜とタンパク質を組み合わせた夏バテ防止の料理研修会を行った。身近な食材で簡単に作れるレシピを教えてもらい、早速夏のふれあい料理で実践したところ、受講者からもおいしいと大好評だった。

ふれあい料理講座が休みとなる8月に、夏の子ども講座に初めて協力した。ボランティアは、普段のふれあい料理とは違う子どもたちとの会話に少し緊張したものの、新鮮さがあり楽しかったという声があがった。当日は、熱中症対策としてスポーツドリンクを用意するなど細かい気配りもみられた。

2月は、視覚障がい者のための教養講座「ホッとワーク」に協力し、昨年のボランティア研修会で学んだ豚まんづくりを行った。受講者が日常的に作れるよう、あまり手出しをせず様子を伺いながら調理を進めた。「とてもおいしかった」という声が聞けてボランティアもやりがいを感じていた。

3月にはボランティア、施設職員、担当職員で1年の振り返り会を行い、受講者の感想や様子、よかったところ、改善点を話し合った。来年度からも、受講者への関わり方や調理方法などをみんな話しながら、継続していきたい。

### <課題>

新規ボランティアを増やす。

障がい者理解につながる学びの場をもつ。



## 第69回中央公民館まつり

<ねらい>

中央公民館と、公民館を拠点に活動する団体とが協働して企画、運営することで、強固な関係構築をはかる。

公民館で活動する団体、グループの交流を図り、公民館活動の活性化につなげる。

公民館活動を広く地域の人々に知ってもらうことで、地域の課題解決につなげる。

<状況・成果>

5/18 日曜日 バザー 参加者 約 250 人

5/24 土曜日 5/24 日曜日 参加者 3,000 人（土曜日 1,000 人、日曜日 2,000 人）

参加団体 29 団体

第 69 回中央公民館まつり（以下、まつり）は、前年（令和 5 年）の 12 月に準備会を開催し、スタートを切った。

準備会では、昨年同様、展示・舞台・野外舞台・模擬店を行うことを確認したほか、昨年からの協議事項であった協賛金については、今回は募集せず、バザーを開催することで合意した。

年も明けた 1 月 16 日には第 1 回実行委員会を開催し、5 月のまつりに向けて本格的にスタートすることとなった。まつりのテーマは事前に公募し、実行委員会に投票を行った結果、「未来につながる公民館まつり」に決定した。

周知については、近年は学校園への周知を控えていたが、役員会で子どもの参加を促すために学校園に配布してほしいという声があったことから、各委員会にも諮って学校園にチラシを配布することとした。チラシは表裏カラー印刷で、イラストを多用し、文字にルビを振るなど子どもにも分かりやすく工夫した。

まつり当日はチラシの効果もあってか、子どもたちの姿も多くみられ、中にはチラシを持った子どもが楽しそうに会場に訪れる姿もあった。模擬店委員会では、まつり参加の母親の言葉として「夜店などに行けば 1500 円出さないといけないが、まつりだと 1000 円以内で 1 日遊べる。これには子どもも満足して、本当に良かった」とのコメントが紹介されるなど、あらためて学校園にチラシを配布したことの効果を実感することとなった。そのほか、今年もまつり PR 映像を作成し、市の YouTube チャンネルやロビーで映像を流し、宣伝活動を行った。

まつり本番に先がけ、1 週間前の 5 月 19 日にバザーを開催した。昨年同様新品のみを対象としたが、子ども用品のみ中古品 (Used) 可とし、保育室で販売し、手作り品も受付をすることとした。バザー品の回収は 5 月 7 日～13 日の時間も限定して行った。その結果、バザー一品約 1800 点、子ども用品約 2000 点が集まった。



バザーのようす

当日は、こども用品会場に約 100 人、2 階中央公民館会場に約 150 人の参加者が訪れ、賑やかな雰囲気包まれた。

まつり本番は天気にも恵まれ賑わった。オープニングはつげさんと大人の HIPHOP チェケラッシュによる「つげサンバ」で、子どもたちも一緒に踊るなど、賑やかで楽しいオープニングとなった。



オープニング  
つげさんもいっしょ！！

舞台は2日間、中ホールにて23団体が多彩な演目を披露した。26日の舞台オープニングは、「よっちょれ津田」によるよさこい踊りで花を添えた。

ホール前にはテレビを置いて、ホール内の様子を見てもらい、参加者に興味を持ってもらえるよう工夫した。また、来観者に出演団体に向けてのひとことメッセージを記入してもらい、ロビーに貼り出したところ好評で、多くのコメントが寄せられた。

野外舞台は2日目の26日に開催した。今年は9団体が出演し、今年は高校生バンドも3団体出演した。



しゃべり場★公民館ブースと  
模擬店

実行委員会や役員会の反省会では、つながりの大事さを改めて認識したという声や「まつりが無くなると、復活は難しい。いろんなクラブ・団体が一緒に楽しめる場、集まって話せる場が必要」といった声も聞かれた。人と人がつながるための場を継続する必要性を感じたまつりであった。

#### <課題>

実行委員会、役員会の開催体制等各団体参加者への各委員会決定事項共有の徹底。  
今年の反省点を踏まえての会場レイアウト、駐車場動線の検討、関係各課との調整。  
まつり運営費の見直し（協賛金、バザー開催についての検討）。

展示は12クラブが出展、絵画や写真、書、陶芸、彫刻、絵手紙などの作品を小ホール及び中央公民館ロビー壁面に展示した。また、中ホールのロビーには、ろうの花を展示した。

中央公民館内ではコスモ写真クラブの映像展示や昨年好評だった即売会を開催し、各々のクラブが制作した作品を販売した。



舞台発表と作品展示

昨年、「1日目に野外舞台が無かったので、音が無くて寂しかった」との声があったことから、今年は「しゃべり場★公民館」の協力を得て、同じ野外スペースで音楽を流したり、まつり参加団体にインタビューをして紹介をしたりするブースを設置した。紹介してもらった団体は、「このおかげで他の参加者から声をかけてもらった」と、新たなつながり、交流が生まれていた。

模擬店は20団体が出店。そのうち2日目のみ1店舗が屋内で喫茶を出店した。今年は両日とも暑かったので、参加者も休憩を兼ねて多く来店し、昼前には食べ物がすべて売り切れるほど盛況だった。

ただ、今年は天気が良かったものの、日中の気温は5月にも関わらず真夏のように、暑さ対策と、熱中症など救護対策が次年度にむけての課題となった。

実行委員会や役員会の反省会では、つながりの大事さを改めて認識したという声や「まつりが無くなると、復活は難しい。いろんなクラブ

## ロビー活用

<ねらい>

クラブや団体の発表の場（展示）、情報収集の場、コミュニケーションを図る場、憩の場等とし、市民がいつでも誰でも気軽に利用できるように整備する。

<状況・成果>

### ○居場所・コミュニケーションの場として

ロビーは適宜利用されており、昼間は主に雑談、ミーティング、休憩、昼食、クラブ前の自主練習などの場として、幼児から高齢者まで幅広い年齢層の人が利用している。部屋が満室の場合はロビーで会議をしていることもある。

夜間には高校生が学習のためにやってくる。コスモシアターの3階には学生の自主学習を支援する取り組みがあり多くの学生が足を運ぶが、公民館のロビーを好んで学習する学生や社会人もいる。

今年度は、給水機の横に新たに天ぷら油回収ボックスが置かれた。廃食油のリサイクルスポットとして周知をしており、こちらも定着し利用が増えてきている。

### ○展示場所として

クラブや市民が自由に展示できる場として通路壁面やガラスケースが開放されており、多様な作品が年間を通じて展示されていた。ある個人展示では急な受付設置の申し出

があり、想定以上のスペースに戸惑った。また、接客の声が大きいなど、公民館の講座事業に影響がでる場面があった。事前にどういった展示にしたいのかよく話しを聞き対応することが求められた事例であった。

### ○情報収集の場として

様々な情報を提供する場として、公民館主催または共催講座事業のチラシ、市の広報や市内外の各種団体からのチラシを市民が自由に手に取れるよう配架している。また、クラブ協議会のお知らせなど、周知の場としても活用されている。男女共同参画をはじめとする人権啓発コーナーや、子育てサークルのポスターなど多くの活動紹介がなされている。

<課題>

市民がロビーを展示として利用できることのさらなる周知。

展示方法など団体（個人）との話し合いをもち双方が納得したロビー活用になるよう努める。

団体名(内容)	期間
どんまい	6/5～6/19
月曜絵画クラブ	6/23～7/14
コスモ写真クラブ	8/24～9/13
陶芸どろんこ	9/4～9/18
貝塚美術協会展	9/20～9/21
市民展示（絵手紙）	9/21～9/28
にっこり展（障害者施設展示）	10/2～10/30
市民展示（色鉛筆画）	11/1～11/11
市民展示（写真）	11/13～11/18
木曜書道クラブ	11/20～12/4
ろうの花クラブ	11/25～12/9
市民展示（さくらの会）	11/5～11/16
市民展示（小物作品）	1/5～1/13
市民展示（絵画）	2/3～2/14
貝塚美術協会小作品展	1/18～2/1
市民展示（絵画）	2/3～2/14
月曜絵画	2/16～3/2
水墨画クラブ	3/13～3/27



## 地域出前講座

### <ねらい>

話題提供を行い、長生会や町会の活性化を図る。

地域の人に公民館を知ってもらう機会。

### <状況・成果>

コロナ後、地域からの依頼が増えてはいるものの今年度は3回の出前講座にとどまった。いずれも馴染みの長生会からの依頼だった。

長生会の会長や世話人は、毎月活動をしなくてはいけないとのプレッシャーが強く、内容に困って公民館に相談にやってくる。会員の減少を憂える声や担い手不足からいつまでたっても役が交代できないなどそれぞれの課題が同時に語られる。

内容は落語が一番喜ばれると言い、中には1年に2回も同じ演者を指名してくる長生会もあった。

どの地域に行っても、笑って元気になったと嬉しそうに話してくれる人たちが多く、その笑顔に世話人たちもほっとした表情を見せていた。

今後も、特技登録者制度から多くの方に出前講座に関わってもらえるよう声をかけ、地域活性化への一助として継続していきたい。

7/20	窪田シャルマンフジ長生会	満腹亭楊枝(落語)	15人
8/24	旭住宅老人会	満腹亭楊枝(落語)	31人
2/15	窪田シャルマンフジ長生会	満腹亭楊枝(落語ほか)	18人



### <課題>

市内町会へ出前講座の周知を行う。

地域に出向く機会を増やす。

特技登録者制度(まちのすぐれもの)の活用を増やす。

## 移動公民館「健康サロン」

### <ねらい>

地域の町会館（自治会館）などを利用して「健康」をキーワードに地域コミュニティの活性化と絆を深める機会とする。

「公民館を地域へ」の足掛かり、公民館を知ってもらう機会とする。

公民館が地域を知るきっかけとする。

### <状況・成果>

4月～3月（11回） 延べ210人

14年目を迎える「健康サロン」はコスモス市民講座のプログラム「移動公民館～公民館があなたの町へ出かけます～」を利用し、依頼のあった町会や団体へ出向いて軽体操と茶話会をしている。体操後の茶話会では、その地域の特色が見えてくる。

どの人が中心となって動いているか、周囲が協力的であるかどうか、意見を言いやすいかどうかなどは1回の訪問ではわからないが、毎年のように開催しているところではその地域の人や個性が見えてくる。同じ職員が訪問するので身近に感じるのか、時には愚痴ややりがいを職員に吐き出す人もいて、そんな時は聞き役に専念する。

訪問時にはできるだけチラシを持参し、講座やイベントの紹介をしている。チラシを見た人から質問など受けることもあり、そんな時はこちらの話をよく聞いてくれているのだなと実感できる。

どこの団体・町会も役員のみで手不足の課題があるようで、役員が入れ替わることがない為、行事やイベントのマンネリ化で困っていると相談を受けることが多い。役員についてはそれぞれの問題なので助言はできないが、行事のマンネリ化については、「ほかでもがんばっているよ」（公民館クラブが現地に出向き、音楽や踊りを披露する）や、「まちのすぐれもの」の活用なども紹介し運営の手助けになるようにも働きかけている。

### <課題>

地域の人たちが自分たちの活動を継続するための支援。

「地域の居場所づくり」に向けた働きかけ。



日	場所
6/14	畠中町長生会
6/20	東山いきいきクラブ
8/26	小瀬婦人会
9/27	二色の浜旭住宅おしゃべりサロン
10/4	アジュール二色の浜 あゆみの会
10/4	畠中町長生会
10/10	東山いきいきクラブ
1/11	窪田シャルマンフジ長生会
1/16	津田南町福寿会
1/24	二色の浜旭住宅おしゃべりサロン
3/29	窪田シャルマンフジ長生会

## 親子で楽しむ 1DAY イベント

<ねらい>

親子で楽しみ、親子のつながりを深める。

公民館を知る機会。

<状況・成果>

6/22 日曜日 10時～12時（全1回） 参加者 50人

共催：音楽グループかたつむり・折り紙部・よみきかせ部 人形劇夢ふうせん

昨年度12月の同事業が好評で継続を望む声が多かったため、今年度は季節を変えて6月に開催した。音楽コンサートや人形劇を行うメイン会場の他に、絵本のひろばや、折り紙のコーナーなど、子どもの様子に合わせて自由に出入りできる部屋を昨年同様に設営した。

昨年度は初めての開催ということで、小学2年生以下の子どもを対象に、市内の幼保小学校にちらしを配布した。その結果120人の申し込みがあり抽選をして90人を受け入れた。今年度は、事業で一定の定着が見られたと判断し、ちらしの配布は控え広報かいつかやSNSの広報を主として募った。前回より減ったものの60人ほどの申込があった。やはりちらしの配布効果は大きいと実感したが、ちょうどよい参加人数で大人も子どももゆったりと過ごせていたようであった。また、公民館ではあまり見かけない家族連れの姿も多かった。



今回も父親の参加が多く、子どもを膝の上に乘せ音楽に合わせて体を揺らしたり、絵本の部屋で読み聞かせをするなど、子どもと楽しそうに関わる姿が見られた。

人形劇では、演者の問いかけに子どもたちが大きな声で元気よく答えるなど子どもとの掛け合いが大いに会場を盛り上げた。

人形劇と音楽コンサートの間におり紙を折る時間や絵本のコーナーで過ごす時間を挟んだことで、子どもが退屈せずに過ごすことができたようだ。「静と動」の組み合わせで無理なく楽しめる構成を今後も取入れて、小さい子どもたちにも生の文化に触れる機会を設けていきたい。市民が提案した事業として一定の成果と定着があり音楽グループの代表は来年も企画したいとの意向を示している。

<課題>

ちらしの配布以外で効果的な宣伝方法。

多くの親子が参加できそうな時期を見極めて日程を決める。



【参考】ほかでもがんばっているよ 中央公民館クラブ協議会や団体の地域での活動

No.	月日	クラブ名	会 場	備 考 (感想など)
1	4/27	あそび隊	北小学校 北校区福祉まつり	開始から終了時間まで子ども達が絶えることなく遊びにきてくれました。
2	5/5	あそび隊	二色の浜公園	最高のお天気に恵まれ、たくさんの親子の笑顔が見られました。
3	5/12	あそび隊	パルティ道教寺	約40人の子ども達と遊びました。笑顔でハイタッチし解散しました。
4	5/17	あそび隊	三ヶ山学園	顔見知りの子ども達と再会を喜び、とても充実し良い時間になりました。
5	5/20	あそび隊	わきはまこども園	CDゴマとブンブンゴマ、遊びコーナーを用意し、楽しく遊んでもらいました。
6	5/23	あそび隊	まーぶるこども園	園のお祭りで一部のコーナーを担当しました。子ども達は、はしゃぎながら楽しんでいました。
8	5/28	あそび隊	東山こども園	遊びコーナーでのゴム銃がとても人気で子ども達は取り合いになっていました。
9	6/22	あそび隊	浜手地区公民館 パパサロン	4つのおもちゃをパパと一緒に作りました。
10	6/24	マジッククラブ	やすらぎ老人福祉センター	3つのマジックを披露した後、頭の体操で遊びました。
11	7/6	マジッククラブ	岸和田市三田町公民館	マジックショーが終わった後、マジック講座をし、とても喜んでいただけました。
12	7/9	ホロホロ ウクレレクラブ	二色3丁目集会所	フルートやハワイアンな曲では、フラダンスを披露し、一緒に歌ってくれました。
13	7/12	オカリナふぁみりあ	脇浜会館	みんなで口ずさみながら、熱心に聴いてくれました。
14	7/19	あそび隊	青少年センター	4つのおもちゃで遊びました。みんな一生懸命おもちゃを作っていました。
15	7/29	マジッククラブ	北小学校 仲良しホーム	マジックが終了した後、一緒に瞬間色変わりと瞬間移動のマジックを作りました。
16	7/29	あそび隊	中央小学校 仲良しホーム	回すのが難しいブンブンゴマを上手に回して遊んでいました。
17	7/30	あそび隊	東小学校 仲良しホーム	ブンブンゴマと牛乳パックゴマを作りました。思い思いの色で組み合わせ、楽しそうでした。
18	7/31	あそび隊	二色小学校 仲良しホーム	ブンブンゴマを作り、昔遊びをしました。
20	8/4	あそび隊	津田小学校 仲良しホーム	色鮮やかなトンボを作り、みんな楽しく飛ばして遊んでいました。
21	8/5	あそび隊	木島小学校 仲良しホーム	サイコロビックと牛乳パックゴマを作りました。
22	8/7	あそび隊	わとわ	風車と牛乳パックゴマを作りました。少し難しかったが楽しかったと言ってくれました。
23	8/8	あそび隊	西小学校 仲良しホーム	牛乳パックゴマと大きいブンブンゴマを作り楽しみました。
24	8/10.11	あそび隊	水間 桜のテラス	ストロートンボと風車をつくり、エアコンの風を使い遊びました。
25	8/19	人形劇あひる	ハート交流館 Eメイツ	小学1年生から3年生の子ども達40人程が見に来てくれました。
26	8/19	あそび隊	永寿小学校	夏休みの開催で少人数でしたが、思う存分遊べ、楽しんでいました。
27	8/25	あそび隊	北小学校	ストロートンボが空中に高く飛ぶのを見て大喜びでした。
28	8/25～ 9/8	月曜絵画	山手地区公民館	クラブ員やロビーで勉強している学生さんなどたくさんの方に見てもらえました。
29	8/30	あそび隊	東山グリーンパーク	会場の体育館では、いくつものストロートンボが飛んでいました。

—地域連携事業—

30	9/5	あそび隊	津田こども園	おとなしかった子どもも興味が湧いて、嬉しそうに遊んでいました。
32	9/14	箏曲クラブ	山手地区公民館 貝塚市文化協会展	小学生部員の演奏がとても好評でした。
33	9/15	マジッククラブ	デイサービスときわ	楽しく笑いがたえませんでした。
34	9/18	あそび隊	ひがし保育所	とても元気な5歳児クラスで、楽しんでくれました。
35	9/20	あそび隊	海塚町会館 1中おかんの会	少ない人数だったが、楽しんでくれました。お礼にカレーもいただきました。
36	9/27	マジッククラブ	鳥羽会館	ショーが終わった後、簡単なマジックを体験してもらい、楽しんでもらいました。
37	9/30	あそび隊	北小学校 北小フェスタ	6年生のリーダーがグループをまとめ、各コーナーを楽しんでいました。
38	10/2	人形劇あひる	木島小学校 仲良しホーム	楽しく人形劇を見てもらいました。
40	10/18	人形劇あひる	三ヶ山学園	楽しんでもらえてよかったです。
	11/1	あそび隊	三ヶ山学園	風車を作り、楽しんでもらえました。
41	11/2	あそび隊	ほっこりの里	子ども達は少なかったが、来た人は喜んでくれ来年の依頼もしていただきました。
42	11/3	マジッククラブ	いやしのデイサービス 岸和田	マジックが難しく理解されませんでした。次回はもう少し簡単なものにします。
43	11/3	箏曲クラブ	貝塚市役所	たくさんのお客さんの前で演奏し大好評でした。
44	11/8	マジッククラブ	こすもすの里	ご家族のかたも見に来てくださりにぎやかで、喜んでくれました。
45	11/8	ハワイアンフラ	こすもすの里	みなさんがあたたかく、優しく、とても気持ちよく踊らせてもらいました。
46	11/10	あそび隊	ひさほ保育園	年齢に合わせて色々なおもちゃを作り楽しんでもらえました。
48	11/11～	ろうの花	浜手地区公民館 ロビー	浜手地区公民館にはろうの花のクラブがなく大変ほめてもらいました。
49	11/14	あそび隊	木島幼稚園	40人と子どもの人数が多かったが、先生も手伝ってくれ楽しく遊べました。
50	11/15	あそび隊	海塚町会館 1中おかんの会	午前中は来る人が少なくさびしかったが、午後からは楽しく出来てよかったです。
51	11/16	あそび隊	中央小学校	子どもだけでなくお父さんお母さんも一緒に楽しんでもらいました。
52	11/22	あそび隊	桜のテラス	来場者は少なかったが、来た人は楽しんでくれました。
53	11/28	あそび隊	貝塚中央こども園	久しぶりの訪問でヨーヨーとストロートンボを作り、楽しく遊びました。
41	11/28	室内楽クラブ	ソラスト高石	クリスマスコンサートをした。指揮者体験コーナーも楽しんでもらえました。
54	12/1～ 12/15	月曜絵画クラブ	貝塚病院廊下壁面	廊下の雰囲気が明るくなって良かったという声をもらいました。
55	12/4	マジッククラブ	木積文化会館	子どもからお年寄りの方みんなで楽しみました。
56	12/7	ホロホロ ウクレレクラブ	旧貝塚市立第5中学校 体育館	総勢100人を超える参加者の前で演奏で、和やかな雰囲気、楽しい時間となりました。
57	12/7	マジッククラブ	行遇町会館	クリスマス会のイベントとして、マジックを楽しんでくれました。
58	12/11	人形劇あひる	ケアハウス亀寿の森	人形劇とエブロンシアター、ご高齢のみなさまに喜んでいただきました。
48	12/14	室内楽クラブ	貝塚カトリック教会	多くの人に聴いてもらえて良かったです。

60	12/14	マジッククラブ	岸和田市池尻町会館	マジックを一緒にしたり、子どもたちも喜んでくれました。
61	12/17	あそび隊	天使幼稚園	大人数の子ども達で隊員たちも大慌てだったが、楽しそうに遊んでいてうれしかったです。
50	12/18	あそび隊	北小学校	ストロートンボを作り、みんなで飛ばした。高く飛んだ子は大喜びでした。
52	12/20	あそび隊	1中おかんの会	子どもは来なかったが、ボランティアの大学生達は、童心にかえり遊んでいました。
62	12/20	マジッククラブ	近木の里町会館	町会のクリスマスイベントでみんな楽しんでいました。
63	12/24	マジッククラブ	東小学校	クリスマスイベントで披露しました。子どもたちから歓声上がり楽しんでいました。
65	1/14	あそび隊	カトリック幼稚園	牛乳パックヨーヨーを作り、その後釣りやゴム銃で遊びました。
65	1/16	あそび隊	海塚保育所	牛乳パックヨーヨーを思い思いの色で作り楽しそうに遊んでくれました。
58	1/17	あそび隊	1中おかんの会	子どもの数は少なかったが、友達同士で楽しく遊んでいました。
61	1/22	あそび隊	わきはまこども園	みんなキャーキャーと楽しそうに遊んでいました。
63	1/23	あそび隊	北幼稚園	園のお楽しみ会の一環で、保護者の人にも一緒に楽しんでもらいました。
64	1/24	あそび隊	いぶき作業所	障がい者を対象とした活動だったので、一人ひとり丁寧に話しかけおもちゃを作りました。
65	1/29	あそび隊	西幼稚園	最後子どもたちからお礼を言ってもらえて、とてもうれしかったです。
70	2/11	あそび隊	まるっと笑顔フェスタ	クレーンゲームの景品が午前中でなくなり大盛況でした。
71	2/16	あそび隊	おおぞら保育園	ヨーヨーとCDごまを作製しました。
72	2/19	あそび隊	南幼稚園	保護者主催のイベントで、親子で楽しみました。
73	2/21	あそび隊	1中おかんの会	ゴム銃などの遊びを楽しんでもらいました。
74	3/3	あそび隊	ピアノ一道教寺	できあがったヨーヨーやけん玉を使って、夢中になって遊んでいました。
75	3/14	あそび隊	つげさんランチフェス	晴天に恵まれ、多くの人で盛り上がりました。
76	3/22	あそび隊	縁ジョイ会	ブンブンゴマが人気で、子どもたちが絵を描き、楽しんでいました。
77	3/24	月曜絵画クラブ	どんまい	凧に絵を描き組み立てました。作った凧を公園で揚げ遊びました。
78	3/28	あそび隊	プレーパーク 春の巻	子どもたちは、嬉しそうに風車で遊んでいました。



人形劇あひる



ハワイアンフラ



ホロホロ  
ウクレレクラブ

## 中央公民館クラブ協議会

### <ねらい>

クラブ協議会（以下、クラブ協）が文化・学習活動を通して豊かな市民文化の基盤を形成する。  
クラブ協の円滑な運営へのサポートをおこなう。

会員の相互交流と理解を図るために事業・研修をおこなう。

### <状況・成果>

クラブ数 40 クラブ員数 437 人

3 クラブが退会し、1 クラブが入会した結果、昨年度と比べて 2 クラブ減少した。クラブ数は減ったもののクラブ員は昨年よりも約 40 人増加しており、これは何かしてみたいと思う人が、公民館を訪れ、クラブを体験し、入部する人が増えたからであろう。公民館事務所にも来館しクラブ一覽を求める人や電話でクラブについて質問する人が増えているという実感がある。

クラブが廃部になる理由に高齢化による部員の減少と講師の高齢化がある。

クラブ員について具体的に上げてみると、運転免許証を返納し、公民館に来る手段がなくなり退部するという人の話を時々耳にする。

講師については、講師自身が高齢となり、指導ができなくなり、他の講師が見つからず廃部となる場合もある。今回は、クラブの廃部後、新しい講師が見つかり新クラブを結成して入会というクラブもあった。

クラブ協が大きく関わっている公民館まつりはあいにくの天気で土曜日は室内開催、日曜日は通常の室内、野外での開催となった。金曜日の準備から日曜日の野外と、いつもと違うパターンではあったが、役員、クラブ員、職員が一丸となって準備・運営・片付けと進めた。来場者は昨年に比べて減ったが、よい雰囲気の中愉快地楽しんでもらえたとの声も多かった。

クラブ協の宣伝で毎年 1 回は広報かいつかの紙面にクラブ一覽表を載せていた。広報に掲載された時には公民館にクラブ見学の話や来館がより多くあり、広報かいつかの効果が大きかったが、今年からクラブ一覽表が掲載できなくなった。苦肉の策として、個別にクラブ体験講座を持ち掛け、クラブ案内の代わりにした。それによってクラブ員が増えたクラブもあったが、全体的に見るとクラブ一覽表を載せるほどの効果はみられなかった。

地域担当研修部会は、障害者福祉施設の展示「にっこり展」を例年より期間を長く、約 1 か月間開催した。1 か月という期間は長かったのでは、という意見が上がる一方で、利用者や施設職員、出展者と家族と一緒に作品を見に来る姿が多く見られて良かったという意見もあった。来年度は施設職員から月初と月末を外した期間にしてほしいという意見を聞き、例年の 2 週間程度の期間に戻すことを検討している。3 月に行われたクラブ協議会委員研修会については、クラブ協議会について説明をする際のパワーポイントの内容を委員で見直した。クラブ協議会が関わる行事予定や活動写真を入れるなど、新役員の人にも分かるように、部長が新しくパワーポイントを作成した。それに基づき、クラブ協議会について説明を行った。パワーポイントの視聴後には、クラブ合同活動に関するアンケートの集計結果をフィードバックするとともに実践例の紹介を行った。その後のグループワークでは自己紹介やお互いのクラブ紹介などで話が盛り上がり、他クラブの人との交流に繋がっていた。また研修会の報告として毎年公民館ロビーに貼り出している壁新聞については、例年

よりもコンパクトにし、写真やグループワークで出た意見なども入れて分かりやすくまとめ、ポスターサイズで掲載することになった。

レクリエーション部会は、3年連続となるバスツアーを開催した。部長の意向で昨年度と同様の奈良方面に行き、当日のバスでは、交流が持ちやすいよう文化系、音楽系クラブに分けた。また、クラブ紹介のために自作のチラシを持って来るなど今までにない交流がみられた。役員の誘いで初参加のクラブもみられ日頃あまり会うことのないクラブ員と交流し、親交を深めた。

部長の積極的な関わりによりスムーズに準備が進みバスツアー自体は良かったが、役割に偏りがあったため全体の達成感が少なくもう一つレクリエーションを増やしてもいいという意見もあった。



広報部会の担当は木曜日のクラブであった。毎年パソコンが使えるメンバーがいるか否か心配されるころだ。今年も運よく使える人がいたが、協議会ニュース「泉のほとり」、クラブの活動を記した「どらせな」を発行するのに1人への負担が大きすぎることは否めない。今年度は部会の中から「どらせなは必要か」という意見が持ち上がった。面倒なことはなるべく避けたいという部員も多い中、「どらせなの発行を積み重ねることでクラブ協の歴史や重みを感じられるから必要」という声があがり、皆納得をしたようだった。今後も同じような声があがるだろうが、その度に何のために発行をしているのか話し合い、考える時間をもつことが求められる。

<課題>

クラブ存続についてきめ細かく相談にのる。

クラブ協議会活動の円滑化と活性化を図る。

## 貝塚学習グループ連絡会

### <ねらい>

相互の連絡調整や情報交換を行うことで、貝塚学習グループ連絡会（以下、連絡会）全体の活性化を図る。

公民館との各学習グループ（以下、グループ）との適切な連携を通じて、地域における生涯学習の推進に寄与する

### <状況・成果>

本年度は、昨年度からの継続課題であった「グループ間の交流」と「組織の維持」に重点を置いて活動した。

特筆すべきは、高齢化により今後の運営が懸念されていた「第3土曜の会」において、今年度新たに50代の会員2名が加わったことである。この新会員の加入は、会の継続に向けた大きな一歩となり、グループ全体の活性化にも繋がった。こうした動きを受け、本年度は活動をより広く紹介するため、公民館ホームページへの掲載を積極的に行った。

これらのグループは、もともと公民館講座の受講生たちが「修了後も学び続けたい」と立ち上げた自主グループが原点となっている。かつては10ほどあった学習グループも、現在は「あこーる♪」と「第3土曜の会」の2グループとなったが、こうした学びを目的とした活動が長年続いていることは、本市中央公民館の特色ある貴重な財産である。また、その活動は学習に留まらず、顔なじみの仲間と他愛のない会話や交流を楽しむ「心の拠り所」として、参加者の日々に彩りを与えている。

グループ間の連携としては、年に数回、合同で学習や交流の場を設けており、長年の付き合いを通じた安定した関係性が維持されている。第69回中央公民館まつりにおいては、連絡会として実行委員会の副委員長を務め、運営の中心的役割を果たすとともに、「あこーる♪」の喫茶コーナー出店により、公民館エリアの賑わいを創出した。次回の公民館まつりにおいても、グループの強みを活かした取り組みを通じて、自分たちの活動をより多くの方に知ってもらえるよう努めていきたい。

### <課題>

今の会の規模と、仲間と繋がれる「居場所」としての魅力を大切に守っていく。

ホームページ等を活用し、長年続く学習と交流の場を次世代へと繋いでいく。

「あこーる♪」…1989年「公民館保育を考える会」として発足。中央公民館が現在のコスモシアターに移転する際保育室の内容について提言した。2000年から現在の名称。

「第3土曜の会」…1985年に「働く女性の会」として発足。働く環境の問題から関連して女性史、女性問題について学習してきた。20～30年も活動しているメンバーもいる。現在は介護の問題や時事的な問題をメンバー持ち回りで担当し学習している。2020年より連絡会の活動に興味を持った男性1人が加入した。

## 貝塚ファミリー劇場

### <ねらい>

人と人のつながりが深まるような取り組みを支援する。

創造力・想像力・コミュニケーション力を育み、自主性を大切にする活動を支援する。

### <状況・成果>

昨年ひき続き天気への心配があったこども市は、緑の市民広場で開催することができた。店長会議や実行委員会議を重ね、テーマをかかげ子どもたちが自分たちのやりたいことを形にした。当日、どの店も子どもたちの工夫がたくさんあり、飽きることなく最初から最後まで楽しい一日となった。

今年度、初めて夏の子ども講座に協力した。子どもが主役で活動する楽しさを知ってもらおうと自分たちでお店を選んだ。受講者にはファミリー劇場（以下、ファミリー）の楽しさ、居心地の良さ、普段見られない我が子の一面や、創意工夫のすばらしさを感じてもらえた。

9月のキャンプでは、参加者が2倍に増え「サプライズ企画」「自分たちで買い出し」と新しいことにチャレンジをした。みんなで集まり、食べたり遊んだり充実した時間になった。

1月は、ファミリーと中央公民館共催事業「クモばんばとぎんのくつした」を開催した。たくさん子どもや保護者が鑑賞し、会場は満席だった。

今年度も、例会の開催やファミリーひろば、公民館大会の実行委員会など様々な活動を通じて子どもたちの「生きるちから」を育んだ。来年度も継続して活動を行い、ファミリーがより一層活躍できる機会を増やしていきたい。

### <課題>

新規会員の獲得につながる広報、取り組み。

### 【主な活動】

4/19	総会 会員 58 人
4/20	こども市 200 人
5/11	第 143 例会「こまのおっちゃんのこまのサーカス」 会員 83 人
5/25	中央公民館まつり
7/27	夏の子ども講座 一般 23 人 会員 17 人
8/31	第 144 例会「笑うアミーゴス」 会員 114 人
9/20・21	親子キャンプ 大人 5 人 子ども 8 人
9/20・21	チャレンジキャンプ 大人 5 人 子ども 12 人
11/24	第 145 例会「どろろヶ淵のメッケ」 74 人
11/29	善兵衛が観た未来プロジェクト「家族で楽しむ測量の地図・宇宙」 90 人
12/13	レビュー「水」 72 人
1/25	中央公民館共催「クモばんばとぎんのくつした」 一般 78 人 会員 76 人

《こども市のテーマ》

こ：こどもがかんがえる

ど：どうしようかな？

も：もうええわ

い：いや、がんばろう

ち：チャレンジだ！



## 貝塚子育てネットワークの会

### <ねらい>

会の円滑な運営に対しての助言。大人が育つ学習の場と環境づくりを提供。

### <状況・成果>

1988年に発足して以来、自主的な運営と活動で37年の歴史を紡いできた貝塚子育てネットワークの会（以下ネット）。年々、子育てサークルの会員数が減り全体的に人員不足となっている。

運営に携わるメンバーも仕事を持ち、それぞれのスケジュール調整が難しくなっている。乳幼児部会は復職をするメンバーがほとんどとなり、冬場にはサークルの存続が危うくなるという状況が毎年のように繰り返される。急きょ体験会を開くなど勧誘をしてしのいでおり、毎年新しい顔ぶれで春を迎えている。

一方、園児部会はメンバーが豊富で活発な動きを見せている。しかしほぼ全員が仕事をもっているので会議の日程調整に苦勞をしている。

小学生部会は学校や地域での役割なども抱え、仕事やネットの活動と一番忙しい世代である。暮らし方を調整しつつ、ネットからは離れたくないと奮闘している。

中高生部会のメンバーは今年度で部会を卒業するメンバーが複数人おり、ネットの語り部のように後輩世代に色々なことを語っていた。後輩世代からは憧れの存在でもある中高生部会のメンバーたち。このタテのつながりこそ、ネットが37年続く秘訣である。この繋がりが絶えないよう、各部会の運営を通じて部長会メンバーがよりよい関係を作っている。

### <課題>

各部会の縦横のつながりを強める。

個々の負担を軽減させる組織の在り方。

目的を確認しつつ楽しく持続可能な活動への知恵と工夫。

### 【主な取り組み】

ネット研修会・部長会議（毎月）、代表者会議（不定期）・中央公民館まつり（参画）・公民館大会（参画）・公民館共催講座・公民館講座事業への協力・プレーパーク・学校、地域活動、他団体への協力など

### 乳幼児部会

今年度は「どんぐりさくらんぼ」「のんたん森のようちえん」「ありんこ」の3つのサークルで活動をスタートした。

前期は「チャレンジ！！～五感を使ってあそぼう～」と題して、NPO法人えーるを講師に迎えた2回連続の講座を開催した。第1回の「学び編」では、講師が貝塚市で実際に子育てをした経験や、当時のネットワーク活動での思い出を交えながら講話が行われた。子どもの成長にとって「あそび」がいかに大切か、心や体の発達とあわせて分かり



やすく解説があり、受講者からは「失敗しても大丈夫だと思えた」「普段の子どもとの何気ない関わりが成長の一步だと気づけて自信になった」といった前向きな感想が多く聞かれた。

第2回の「実践編」は7月に開催し、暑さ対策を徹底した上で、屋外でのどろんこ遊びなどを実施した。前回の学びを活かして平均台渡りに親子で挑戦し、泥まみれになって遊ぶ中で、家庭ではなかなかできない体験に多くの感動の声が上がった。親子で一緒に楽しみながら学ぶことで、参加者同士の絆も深まる貴重な機会となった。

後期の講座開講あたり、3サークルで行う合同の座談会やミーティングを行った。0歳から2歳の発達と3歳の姿、また母の心の余裕について聞きたいということで、北幼稚園の園長先生を招いて講座をすることになった。座談会では、『子どもの困った行動』、『日々の暮らしの困ったこと』について話し合うグループワークを行い、ミーティングでは講座や今後の活動に向けて意見をまとめた。講座では、『乳幼児期がわかればもっと子育てが楽になる』をテーマに、子どもの行動や発達を理解して、親の心の持ち方についても学ぶことができた。初めは集中して聞いている様子であったが、先生からの問いかけが話の合間であり、一人が答えれば他の人も次々と意見を発言しており、参加者が積極的に自分の意見や悩みを言える雰囲気であった。最後にはグループワークを行い、子育ての悩みについて参加者と先生で意見交換のできた賑やかな講座となった。

近年、産育休をとり、仕事に復帰する母親が増え、サークル活動への継続的な参加や定着が難しくなっている。「費用を払って完成されたサービスを受ける」というニーズが高まる中、「自分たちで課題を見つけ、労力を分かち合いながら活動を作り上げる」という自主活動の意義を共有することの難しさに、役員は葛藤を抱えている。

来年度のサークル運営については、メンバーの卒業等により「ありんこ」の在籍が0組となり活動休止を余儀なくされるなど、深刻な存続の危機に直面した。しかし一方で、「どんぐりさくらんぼ」では声かけやロコミが実を結び、新規加入者が増加した。こうした各サークルの浮沈はありつつも、ネットワーク全体としては活動を継続していく方針となった。単なるサービス提供ではない、共に悩み、共に作る活動のよさを今の時代にどう伝えていくかが、今後の大きな検討課題である。

<課題>

サークル活動の一般の方への周知方法。サークル存続のために新たなメンバーを増やす工夫。プログラム

**前期** 6/17 講座「チャレンジ!!五感を使ってあそぼう 学び編」/朝日陽子・高岡和美(NPO 法人えーる)

7/1 講座「チャレンジ!!五感を使ってあそぼう 実践編」/朝日陽子・高岡和美(NPO 法人えーる)」

**後期** 10/25 座談会「みんなで話そう!子育てのこと 自分の気持ちをスッキリ吐き出しママからハッピーに」

11/28 講座「乳幼児期がわかればもっと子育てが楽になる」/貝塚市立北幼稚園 園長 松田ひとみ

## 園児部会

新しい部長を中心に30人ほどの委員で進めてきた。部会は、乳幼児部会の現役メンバーやかつて子育てサークルに所属していたメンバーで構成され、互いに顔見知りという中で新年度を迎えた。

今年度は子どもを知るといよりは、タイトルに「整える」という言葉が用いられたように自分自身を見つめ直すということをやテーマとした。母親が心身ともに健康でなければよりよい子育てができないという理由からである。前期は講師である助産師の話に感銘を受け、個々の出産時の話を聴きあうなど、より個人的な話題にフォーカスされていた。

また、部会のメンバーのつながりを強めるために夏休みに交流の機会をもち、秋にはお泊り会、

## －団体支援事業－

登山、クリスマス会などレクリエーションを盛り込みながら部会運営を行ってきた。

後期はガラリと視点を変え、10年後の社会や世の中を見据えた子育てと、子どもの遊びに必要なさんま「時間、空間、仲間」をキーワードに、生きる力とは何かを学びたいということになった。

10月は和歌山で森のようちえんを運営する夫婦が登壇し、遊びを中心とした保育の中で自分の土台を創ることをモットーにした実践に学んだ。遊びを通していかに心が動くのか、その環境を大人がどう保障していくのか、プレーパークの運営にも通じる内容であった。

12月では平和と憲法を軸に、政治や食糧問題、女性の人権など多様な社会課題と向き合った。知らないことが多すぎて何から始めればよいのか戸惑っていたが、社会で起きていることが自分たちの子育てと地続きであることが分かった。社会のことに関心を持ち、他人事ではなく自分事として捉えることが必要だと語っていた。

講座は乳幼児部会にも聴いてもらいたい内容が多かったため、個別に声をかけ誘い合っていたが、早い段階で合同で講座を開催するなどの工夫があってもよかった。

### <課題>

他部会と合同で学習に取り組むなど部会間の連携を密にする。

子どもを取り巻く環境や社会など周りに目を向ける機会をつくる

新規会員を増やす。

### プログラム

テーマ：自分を整える～これからの心と身体の変化について～

6/12 女性の身体の変化/小林美里 6/26 座談会(講座の振返り) 11/7 学ぼう、考えよう、子どもの今と未来/めぐみと森のようちえん 佐道大倫 12/1 10年後の社会を知る/伊藤宏

## 小学生部会

年間テーマは「子どものええやん見つけたい」一寄り添い向き合う低学年・信じて見守る高学年・親子でええやん見つけていこ！と昨年と同じく長めのテーマとなった。

部長や副部長を決める話し合いで長い時間を取られた。その結果、今年度から小学生部会に入っただけの2名がその大役を担うことになった。

部長、副部長は、部会に入っただけで会議の持ち方や講座への取り組み方などがよくわからず、自分たちで工夫するも何から手をつけてよいのか迷うような状態が続き時間だけが過ぎていった。そこで前期は講座をせず、座談会と部会内のイベント(運動会、見守りスタディ、川遊び)を企画、運営しながらみんなで話し合う環境を整えることにした。

恒例となりつつある夏の子ども講座「夏休みの宿題しよう」(公民館で夏休みの宿題をし、大人がそれを見守る)は、初めは手探りで開催していたが、回数を重ねることで、自分たちでしっかり考え対応できるようになってきた。また全市的な講座で周知されるようになったからか、定員の倍以上の申し込みのある講座となった。自分たちの活動に目を向け、イベントや夏の子ども講座などを重ねるなかで部会の一体感が盛り上がってきた。

講座企画する時間が足りなかった反省から、後期に向けいつもより早い時期から意見を出し合い、チラシ作成までのスケジュール管理も自分たちでしっかり組んだ。結果、講師からも「聞きたいことがよくわかり、とても楽しく、やりがいのある講座ができた。」とほめてもらえる講座となり、部会の自信につながった。

後期は講座、座談会を含め3講座の開催、その他にも山登りや餅つきに積極的に参加し、小学生部会の結束力が徐々に高まっていった。

#### プログラム

7/31 夏の子ども講座「夏休みの宿題しよう！」

11/20 講座「子どものええやん見つけたい」 九十九 綾子(大阪府公立学校チーフスクールカウンセラー)

12/4 座談会「THE(座)談会」

1/10 親子レクリエーション「みんなで思いっきり遊ぼう！」 市民の森

#### <課題>

講座の企画や会議の持ち方の工夫。

次の中心となる担い手を育てる。



### 中高生部会

今年度は「思春期をともに乗り切る！」をテーマに、年間を通じて講座と座談会を織り交ぜた学習活動を展開した。

前期には、学校教育課の指導主事を招き「変わりゆく、高校受験を知ろう！」を開催した。最新の入試制度やネット出願の手順を学んだほか、講師から語られた「現場の先生方の思い」に、多くのお母さんたちが安心感を得ることができた。後期には貝塚南高校の協力を得て、高校卒業後の多岐にわたる進路選択について理解を深めた。学校側と公民館が連携し、お母さんたちの不安を具体的な情報で解消できたことは大きな成果であった。



特に初めての試みである8月夏休み企画「社会人・現役学生を交えての交流会」は、乳幼児期に「子育てネットワークの会」のサークルに親子で参加し、この場所で共に育ってきた社会人や大学生・専門学校生ら6名をゲストに迎えるという、本会ならではの取り組みとなった。多感な時期ゆえに、親がいる場に出てくることへの「恥ずかしさ」や、学業・仕事の「忙しさ」など、若者たちにはそれぞれに葛藤や都合もあっただろう。それでも「自分たちの経験が、今のお母さんたちの学びになるなら」と快く引き受けてくれたその姿こそが、長年培ってきた会の絆と、彼らの健やかな育ちを証明するものとなった。当日は、親子が気兼ねなく話せるよう別々のグループに分かれたが、母たちは隣から聞こえてくるわが子の受け答えや本音がとても気になってしまう場面もあり、後日その内容を詳しく聞くと、親としてとても嬉しい言葉で「うるっときた」というこぼれ話もあった。家での自分の姿を振り返り「直さないといけないなあ」と反省する声も上がるなど、小さい頃からの深い信頼関係があるからこそ、親子で素直な気持ちに向き合える貴重な交流となった。

## －団体支援事業－

また、夜に集まってお母さん同士がリラックスして語り合う「ナイト公民館」も実施した。この活動は、日々の子育てに忙しい乳幼児・園児部会のお母さんたちにとって「いつか自分たちも」という憧れの場となっており、世代を超えて活動が続けていく上での大きな励みとなっている。

### <課題>

仕事を持つ会員が多い中での会議の持ちかたの工夫。

### プログラム

**前期** 座談会 5/16「話してスッキリ、聞いて安心！」  
講座 6/17「変わりゆく、高校受験を知ろう！」  
8/3「8月夏休み企画」

**後期** 講座 11/6 講座「高校卒業後の進路について」  
座談会 12/5「先輩お母さんにきいてみよう！～進路にかかる費用ってどうしてました？～」

## 冒険あそび場 プレーパーク

子育て中の親だけで企画運営を行っているプレーパークは全国でも数少ない。運営の難しさを抱えながらも、迷えば基本に立ち返り対話を積み上げて大人が楽しみながら子どもの遊び場を作ること大事にしている。しかし、現状は実行委員の担い手不足が昨今の課題となっている。プレーパークが大事だと思う人たちが集まっているにも関わらず、いざ開催となると人が不足していることが運営上の気がかりとなっている。

今年度は夏のプレーパークにプールを新調するか否かで議論が起こった。いつものプールでは小学生が思い切り遊べないので、深さもたっぷりある大型のプールを購入しようという案が実行委員の1人から出た。夏の暑い時期に子どもが水で思い切り遊べる環境を作りたいという主張に、実行委員が不足している中、そこまで目が行き届くのか水の事故を心配する声や、そもそもプレーパークでプールを整えることが必要なのかと、意見が分かれ何度も話し合いがもたれた。

議論は、「プレーパークとは何か」、「自分の責任で自由に遊ぶ」をどう解釈するか、「どこまで子どもを見守るか」など、本質を問い返す議論となった。しかし結論が出るわけではなく、とりあえず万全の体制を敷くことを確認しプールを購入した。事故もなく、楽しい水遊びを行えたが、プールの課題はこれで解決したわけではなく、引き続きプールの設営について議論を続けることになった。

秋は、まきまきパンをインスタグラム風に画像で収めた「パンスタグラム」や相撲大会など、さまざまなアイデアで大人も子どもも遊べる空間を作っていた。

また、春のプレーパークに8人の高校生がプレーリーダーとして来ていた。実行委員の親が直接高校に呼びかけたことで地元の高校と繋がりがもてた。高校との連携のひとつとしてこれからも小まめに声をかけていき、学生にとっても子どもたちと触れ合える場として受け入れを続けていきたい。

**開催日** GW 5/10、11 夏 7/25～27 秋 11/8、9 春 3/25～29 延べ 1383 人

### <課題>

プレーパーク実行委員やプレーパークに関わる担い手を増やす。  
しっかりと意見交換ができる話し合いの場を創る。



### ◆研修会 (10/9・2/2)

今年度も2回の研修会を行った。10月は部長会メンバー13人と乳幼児部会3サークルのリーダーのみの研修とし、個々がリーダーとしての思いや葛藤を語った。子育てで大変な思いをしている時に声をかけてもらいサークルに入会したことや、支えられ、助けられたことで子育てを乗り越え、今度は自分が他者に恩返しをする番だと感じリーダーになったということが語られた。運営の悩みを吐き出して涙を見せる場面や、楽しいエピソードで笑いに包まれるなど、本音で語り合える仲間がここにいることを確認する研修会となった。

2月の研修会は、「このつながりがあったからこそ今がある」をテーマに、乳幼児部会の代表とOBをパネラーに迎え、子育てサークルを運営する側の現状と子育ての見通しについて話し合いをもった。今の活動とつながりが、子どもが思春期になった頃に花開くことやOBの話が子どもの成長の見通しだけでなく自身の人生の見通しにも通じることを知り、もっとOGの話が聴きたいとの感想が出た研修会となった。

### ◆みどりさんの子育て講座 (6/15～11/23) 全7回 (保育付)

全部会を対象にした滝口みどりさんの子育て講座。過去に何度か講義をしてもらったが、その度に乳児から成人までの発達を体系的に学びたいとの声が聞かれたため、今年は7回の講座を組んだ。保育付としたため、保育には公民館の保育ボランティアに依頼をし、親がしっかりと学べる体制をとった。

日曜日に設定したこともあり、仕事を持つ親や父親の姿、また遠方からの受講もあった。

講義内容は胎児から始まったため前半は乳幼児部会の親が受講者の中心であった。当初、受講者から投げられる質問は、わが子の困った行動に「どうしたらいいですか」と講師に答えを求めるものだった。質疑応答は1対1となるものが多く、質問に対して正解を得たいという思いでのやりとりが続いた。その光景が後半にはがらりと変わった。質問を投げながらも受講者自らが考え、安直に答えを求めない姿勢へと変わった。続けて受講することで学んだことを考え行動することに受講者たちが気づき始めたようだった。後半からは小学生部会の受講者も増え、思春期の子どもの育ちまでを見通せる内容の講座となった。午後からは講師との交流会をもつなど、ほぼ一日をかけての講座となり自身の子育てを振り返り、気持ちを切り替えて向き合おうという受講者も多かった。

【共催】貝塚市教育委員会  
貝塚子育てネットワークの会

保育つき/  
**2025年子育て講座**  
講師 滝口みどりさん  
(アリースペースモモ多)

一緒に講座を聞くことで子育てが楽になるかも。

子育ては大人するまで一人で思っていたいませんか？  
「子育て」なんてことはありません。認識でもまだやうなことが  
できる滝口さんは私たちに伝えています。子どもたちのために、  
私たち親や大人にできることは何なのか一緒に考えてみませんか？  
子どもが育つ環境や子ども達の発達について学ぶプログラムは、一回に  
分けて行います。詳しい内容は初回にお伝えさせていただきます。

5/8日より受付スタート

1. 主会費  
2. 子育ての発達 (胎児～2歳) 身体と心の土台ができる  
3. 子どもの発達 (2歳～3歳) 身体と心の土台ができる  
4. 子どもの発達 (3歳～5歳) 自分らしさを伸ばさせる  
5. 子どもが育つ暮らしと環境

1. 滝口みどりさん、プロフィール  
2019年 貝塚市教育委員会  
水戸市教育委員会へ派遣中に年間研修し、年間研修  
を何度も受けて実践の活動に2019年から3年連続参加。  
2020年4月、子育て実践者、講師養成研修などを経て  
2022年4月、貝塚市子育て実践者となる。

会場  
貝塚市立中央公民館

ご予約・お問い合わせ  
☎ 072-433-7222(水曜 祝日 休館日)

仮) 子育て講座プログラム (2025年)

第1話 「育てる」気持ちを手離して  
- 親の仕事は子どもが育つ環境を作ること  
- 子どもの発達に大きな役割と小さなプロセス  
- 子育て3つの軸

第2話 子どもの発達 (胎児～2歳)  
身体と心の土台ができる①  
- お腹の赤ちゃんのために大切な2つのこと  
- だっこ、おっぱい、こちよさ  
- 赤ちゃんとお母さん  
- 子どもの病気、予防接種

第3話 子どもの発達 (胎児～2歳)  
身体と心の土台ができる②  
- 聴覚の発達  
- 遠くはいと感動的な  
- おっぱいから食事へ(離乳食)  
- オムツからパンツへ  
- 幼稚園、保育園選び、早期教育について

第4話 子どもの発達 (2歳～3歳)  
土台がら人間へ  
- 自我の誕生-拡大-情緒-言葉  
- 赤ちゃん返り  
- 「なぜ?」から私が多感力とことば  
- 「自分で」の心を大切に  
- テレビ、スマホ、ゲーム、おもちゃ

第5話 子どもの発達 (4歳～思春期)  
自分らしさを開花させる①  
- 4歳～6歳 - 「動き」が脳と心をつくる  
- 離乳食4歳児～運動する5歳児  
- 豊かな体験-自分の世界に出会う-新しい事  
- 生活習慣(読書、運動)  
- 「お友達?」から友達関係へ  
- 絵本と手と言葉を思い出す  
- 絵本と書  
- 「なぜ?」を知りたい心から「学び」の世界へ

第6話 子どもが育つ暮らしと環境  
- 5～10歳-日常生活-生活習慣-心の自立、次の世代へ  
- 心の発達-心の世界  
- 「心配」の心を手放す  
- 祖父母の役割-社会での役割  
- 他人に育ててもらう気持ち  
- 親は自分を愛する

滝口みどりさん、プロフィール  
1953年 貝塚市教育委員会  
大学が主催の研修員(1974年)に11年連続参加し、早期研修  
もその後子育て実践の活動に2007年から  
3年連続参加、大塚研修生、子育て実践者、優良実践者などに  
認定  
2022年4月、貝塚市子育て実践者となる。

## 文化団体

<ねらい>

団体の主体的な運営のもと、市民の手による文化活動の実現。

団体に活動の意義や役割についての理解を深めてもらい、活動拡大につなげる。

<状況・成果>

中央公民館は 6 団体を育成団体として各団体の活動や発表の機会を支援している。今年度も各団体の文化発表が行われた。

貝塚市民踊連盟は 6 月 1 日、「第 41 回貝塚市市民民踊まつり」をコスモシアター中ホールで開催し、演者やその家族など約 300 人が参加した。舞台には昨年より 1 団体多い 12 団体が出演し、42 の演目が披露された。年齢を感じさせない演者の美しい立ち姿や華麗な踊りに観客から大きな拍手が送られた。



貝塚市クラシック音楽家協会は「音楽にのって旅をしよう」をテーマに、第 69 回中央公民館まつり協賛事業として取組まれた。折しも大阪・関西万博が開催された年ということで会場を万博に、来場者を万博ツアー参加者に見立て、音楽で世界の国を紹介するというスタイルで進行された。



司会の優しくもユーモアにあふれた進行に会場は和やかな雰囲気に入れられ、実際に世界旅行に行っているかのように感じられた。

各国を意識した衣装も見応えがあり、目を引くような華麗なドレスや日本の歌では法被を着て登場した。このコンサートを毎年楽しみにしている人も多く、今回も楽しかったとの声が聞かれた。

貝塚市日本民謡連合会（以降、会とする）の「2025 年民謡フェスティバル」は今年も山手地区公民館のホールで開催された。各団体の会員減少は止められない中ではあるが、山手地区公民館活動協議会に所属する津軽三味線クラブをゲストに迎え従来どおりの形で進められた。



約 50 年前に結成され、公民館育成団体として活動を続けてきているが、長い年月の間に形骸化されている事も多く、今一度、公民館との関係を理解する時間が必要になってきている。今後は会員の高齢化と会員減少のこの状態をいかに維持するのが課題として挙げられる。近い将来、コスモシアター中ホールで民謡フェスティバルを開催したいという願いを実現するためにも、会の存続に向けて結束を固めることが必要となっている。

貝塚市合唱連盟が主催する「合唱フェスティバル」は、昨年と同じくコスモシアター中ホールで開催し、市内及び近隣市町で活動する 16 団体が出演した。

今年度は広報かいつかをはじめ周知方法を工夫したためか、昨年に比べると観客は多かった。

オープニングは団体名を書いたプラカードをもった代表たちが舞台上に上がり「貝塚市民の歌」を歌ってはじまり、休憩後には客席も含め会場にいる全員で「雪」を合唱するなど、舞台と客席が一体となって盛り上がった。

各団体は歌うだけでなく、演出や衣装にも工夫を凝らし、全員が楽しそうに歌っている姿に会場も和やかな雰囲気につつまれた。

貝塚市美術協会(以下、貝美協)は、6月の総会后、萩原雅也さん(大阪樟蔭女子大学名誉教授)による「文化創造活動と地域社会」というテーマで講演会を開催した。貝美協でこのような講演会をするのは初めてだったが、地域社会における文化創造活動の必要性が感じられる講演会になり、多くの会員がこれからの貝美協を持続させていくための方法を考える良い機会となった。

「第 58 回美術協会展」では、SNS を中心に広報活動を積極的におこない、前年度の 2 倍を超える集客で、たくさんの人に作品を見てもらうことができた。また、会員が展示作業や展示作品を撮影・編集した動画を後日ロビーで上映するという新しい試みもおこない、作品展に来ることができなかつた人たちにも活動を見てもらうことができた。

1 月の小作品展では、廊下の壁面に作品が展示された。クラブ活動で公民館に来た人も作品の前で足を止めている姿が多くみられた。



貝塚市軽音楽連盟は、今年で 40 回目となる「ライトミュージックコンサート」を開催した。約 100 人が参加し、立ち見の人がでるほど大盛況であった。今回は、「ガラクターズ」「サウス ガイズ オーケストラ」の 2 グループが出演し、迫力のある演奏が会場に響いた。1 曲 1 曲ソロの演奏があり、ソロパートでは観客から拍手がおきた。

－団体支援事業－

高齢化で車の返納などを余儀なくされ、夜の練習は難しいが、自主練習をかさね1回しか音を合わせられず本番を迎えた会員もいた。だが、そんなことを感じさせない演奏で、観客からはとてもよかったという声が聞かれた。



団体名	事業	日時	場所	参加者
貝塚市民踊連盟	第41回貝塚市市民踊まつり	6/1(日)	中ホール	310
貝塚市クラシック音楽家協会	第69回中央公民館まつり協賛 音楽にのって旅をしよう	5/18(日)	中ホール	253
貝塚市美術協会	第58回美術協会展	9/14(土)～9/15(日)	視聴覚室	250
	小作品展	1/18(土)～2/1(日)	ロビー	—
貝塚市日本民謡連合会	2025 民謡フェスティバル	11/9(日)	山手地区 公民館ホール	60
貝塚市合唱連盟	第48回貝塚市合唱フェスティバル	12/7(日)	中ホール	380
貝塚市軽音楽連盟	第40回ライトミュージックコンサート	2/22(日)	小ホール	100

貝塚市立  
浜手地区公民館

# 目 次

■年間総括	浜 1
■講座・事業	
◇ 青少年対象事業	浜 6
プロに学ぼう！パティシエ講座	
夏の子ども講座	
おばけやしき	
Nゲージ鉄道模型 展示走行会	
ビストロはま〜て	
新春あそびたい会	
子ども居場所事業（はまて子どもパーク・+KOMINKAN・レッツ TRY）	
◇ 子育て支援事業	浜 13
SALON BeBe	
パパサロン	
げんきに子育て	
子連れヨガ	
◇ 成人対象事業	浜 19
スマホらいふ〜もっと便利に、もっと楽しく♪〜	
シルバーライフ	
かしこく夜活（前期・後期）	
終活へいらっしや〜い♪	
星降る公民館☆ みんなで「皆既月食」を見よう	
続ける！ノルディックウォーキング（高齢介護課共催講座）	
シニア世代の筋力アップ講座（高齢介護課共催講座）	
◇ 共生社会づくり事業	浜 29
ふらっと	
ふれあい料理	
◇ 文化振興事業	浜 32
浜手アフタヌーンコンサート	
Autumn Jazz Concert	
にんぎょうげき	
トールペイント展示&体験会	
◇ 人材養成事業	浜 37
保育ボランティア	
ふれあい料理ボランティア	
浜手アフタヌーンコンサート企画委員	
図書整理ボランティア	
◇ 地域連携事業	浜 40
ふれあいまつり	
二色学園コラボ芸術鑑賞会	
プレイルーム開放	
防災講演&落語	
ロビー活用（展示・図書・コーヒーコーナー）	
二色学園校区地域学校協働本部会議(すこやかネット)	
二色パークタウン（連絡協議会・防災専門委員会・盆踊り実行委員会）	
【参考】「ほかでもがんばっているよ」一覧表	
◇ 団体支援事業	浜 47
浜手地区公民館利用者連絡会	

## 令和7年度 浜手地区公民館 事業総括

### はじめに

青少年から高齢者、また障がい者に至るまで相互に支え合い、交流関係が育まれる講座の実施や、市民からのニーズ、地域の現状を参考に事業展開を図った。

地域との結びつきを大切にし、地域住民の憩いの場、学習拠点になるよう努めるとともに、人材育成や団体連携を進め、誰もが来館しやすい館運営に努めた。

### 1. 公民館主催事業

- ・市民誰もが親しみやすい文化・学習活動の場を提供するとともに、地域づくりに向けた意識の醸成を図り、市民の生活課題を反映させた講座・事業を進める。

#### <状況・成果>

- ・講座事業において、受講者の声を講座内容に反映させ、地域と公民館の繋がり・地域住民同士の繋がりを意識し、職員間で協議を重ね開催した。またSDGsに関連した取り組みの推進を図った。
- ・働く世代が参加しやすい夜間・土日での講座を開催し、新規利用者増につなげた。
- ・広報かいつか・ホームページ・フェイスブック・インスタグラムを活用し広報に努め、事業終了後は壁新聞等で学習成果の報告を行い、また地域の広報紙にも情報提供した。

#### <課題>

- ・引続き、現代的課題の学習機会の提供と市民ニーズの把握に努め、様々なツールで学習成果の共有を図る。
- ・主に現役世代の新規受講者の獲得を意識した講座・事業を検討する。

#### ① 青少年対象事業

- ・子どもが公民館を利用しやすいよう環境を整えるとともに、夏休みや土日を利用して様々な体験ができる講座などを開催する。
- ・子どもが、企画・運営にも関わる事業に取り組み、主体性を育む。
- ・異世代・異年齢の人との交流ができる機会を設ける。
- ・青少年の自主活動でも施設の利用ができることを広く知らせる。

#### <状況・成果>

- ・「プロに学ぼう！パティシエ講座」は、学生の職業選択の機会になるとともに、料理を通しての交流に努めた。
- ・「夏の子ども講座」は、ボランティアの協力を得て開催した（12講座）。子どもたちに様々な体験の場を提供することができた。
- ・「新春あそびたい会」は、子どもたちが地域のボランティアから遊びやおもちゃ作りを教わり、交流を深めた。また伝統文化や昔遊びの継承のきっかけづくりにも繋がった。
- ・「鉄道模型 Nゲージ展示走行会」は、子どもや大人、また親子連れが多数参加し、世代間交流の場となった。
- ・「ビストロはま〜て」は、子どもが自分で簡単な料理が作れるようなメニューを考案し、実践した。出来上がった料理を、保護者と一緒に食べ、子どもたちの生きる力の一助となった。
- ・「+KOMINKAN」は、大阪体育大学の学生ボランティアの協力を得ながら実施することができた。
- ・「おばけやしき」は、子どもたちがボランティアの協力を得ながら企画立案することで、主体性を育むことができ、また世代間交流にも繋がった。
- ・ロビーで集う子どもたちが快適かつ安心して遊べるように努め、職員もロビーに出て子どもたちへの声掛けを心がけ、利用者増の促進に努めた。

#### <課題>

- ・引き続き子どもたちが参加しやすく、安全に講座を開催するため内容の検討を行う。

#### ② 子育て支援事業

- ・子育て世代対象の講座を企画し、学習・交流を通じて不安を解消し、孤立しないよう仲間づくりを進める。
- ・乳幼児親子の交流の場を設け、父親も含めた親同士の繋がりが広げられるよう工夫し取り組む。
- ・関係各課と連携して、子育てに対する幅広い支援を推進する。

#### <状況・成果>

- ・「SALON BeBe」は、英語あそび・造形あそびを取り入れ、SNSを活用し周知した。新規利用者

も増え、またボランティアの協力もあり、子育ての相談や交流の場となった。

- ・「パパサロン」は、通年講座にしたことで、子どもを通して父親同士の交流の場にもなった。
- ・保育付き講座は、子育てに迫られる親の学習意欲を高めるとともに、学びの大切さを感じるきっかけとなった。講座終了後も、受講者同士が繋がり学べる場を作ろうと主体的に活動している。
- ・「子連れヨガ」は、母親のストレス解消、また交流の場となった。第5火曜日に実施しているが、知らない人が多く、今後周知方法を再考し、参加者増に努める。

<課題>

- ・引続き親子が安心して参加でき、子育てするなかで孤立しないような居場所づくりを行う。

### ③ 成人対象事業

- ・若者や働く世代が参加しやすい日時を考慮した単発講座などで受講者の拡大を図り、また講座修了後の学習及び集団作りに繋がるよう働きかける。
- ・市民が関心を持ち、新規受講(参加)者の開拓につながるような、事業の企画・運営に努める。
- ・地域課題の把握に努め、学んだ知識を日々の生活や地域の中で生かし、支え合う人間関係づくりができるような事業展開を図る。
- ・関係各課との連携で、事業内容を充実したものにしていく。

<状況・成果>

- ・「シルバーライフ」は、受講者が会話しやすい雰囲気づくりに努め、座談会やふれあいまつりへの出店、また館外学習などを通して、受講者同士の繋がりが強まった。
- ・「星降る公民館☆みんなで皆既月食を見よう」は、天体観測で夜空の素晴らしさに気づいてもらう、また公民館を利用したことのない新規利用者増の取り組みを行った。
- ・「かしこく夜活」は、若者や働く世代が参加しやすい時間帯を考慮し夜間に実施。また講座についても若者が興味を抱く内容を取り入れ、公民館の利用増のきっかけづくりに努めた。
- ・「シニア世代の筋力アップ講座」「ノルディックウォーキング」は、高齢介護課と共催で開催し、高齢者の筋力アップや、フレイル予防対策に繋がった。
- ・「スマホらいふ」は、高齢者が自分のスマホを活用できるように、一人ひとりのペースに合わせて実施した。
- ・「終活へいらっしゃ〜い♪」は、市民が終活準備についてのノウハウを得て、不安を解消し、人生100年時代を愉しく過ごせるための一助とした。

<課題>

- ・引続き開催日時やテーマを工夫し、現役世代の新規受講者増に努める。
- ・高齢者が地域の中で生き生きと暮らせるよう講座・事業に取り組む。

### ④ 共生社会づくり事業

- ・多様性社会への理解を深め広めるとともに、講座・事業の展開を図り、共生社会の課題を考える機会を設ける。
- ・各関係課と連携し、共生課題の取り組みをめざす。

<状況・成果>

- ・「ふれあい料理」は、料理を通して障がい者の食の自立・社会参加の場を提供した。また、受講者とボランティアの交流の場となった。
- ・「ぷらっと」は、心身に障がいがある人の居場所づくりとして新しい事業に挑戦した。現在も手探り状態ではあるものの、受講者とコミュニケーションを図り、楽しく行っている。

<課題>

- ・多様性社会への理解については、テーマや切り口を変えながら、継続的な開催に努める。
- ・人権を身近に捉えられるようさまざまな方法で人権学習の構築を図る。

### ⑤ 文化振興事業

- ・発表や展示の場を提供し、利用者(市民)の文化活動の活性化を図るとともに、企画に携わる市民ボランティアの拡大など、市民参画の文化事業を推進する。
- ・ロビーやホール等の活用で、身近に生の文化芸術に触れる機会を設ける。

<状況・成果>

- ・「アフタヌーンコンサート」「Autumn Jazz Concert」は、音楽を通じて市民が文化芸術に触れる機会を設けることができた。
- ・ロビーを活用し、公民館利用者の作品を展示した。
- ・「にんぎょうげき」は、公民館クラブとこども園の協力で行い、親子が人形劇を身近に感じ、

楽しむ機会となった。

<課題>

- ・引き続き、身近に生の文化芸術に触れる機会を設けるとともに、新しいニーズ把握に努める。

## 2. 人材養成事業

- ・クラブやグループ活動の中から、主体的に活動を担う人材が育つよう助言や支援を行う。
- ・ボランティアの研修を実施し、活動の充実・人員増を図るため周知する。
- ・公民館利用者の意識を高めるため、公民館に関する課題が認識できるような取り組みを企画・実施するとともにクラブに対しても協力を求めていく。
- ・ふれあいまつりや地域連携事業を通して、新たな人材の発掘・登用を図る。

<状況・成果>

- ・アフタヌーンコンサート企画委員会は、公民館が市民の企画委員とともに運営している。前回の振り返りや今後の出演者候補などの話し合いをし、またポスター掲示や近隣へのチラシポスティング等の広報活動を行った。
- ・保育ボランティアは、保育つき講座「げんきに子育て」の保育に加え、「SALON BeBe」のあそびボランティアでも保育協力を得た。その結果ボランティア間の交流に繋がった。
- ・ふれあい料理ボランティアは、施設指導員・ボランティア・職員と、事前に運営や対応についての打ち合わせをし、円滑に「ふれあい料理」が行える体制を作っている。
- ・図書整理ボランティアは、利用者が使いやすいよう図書整理を行った。

<課題>

- ・継続的にボランティアの人員拡大を図る。
- ・ボランティアの声も聞きながら、安心して講座運営に関わることができるよう支援する。

## 3. 地域連携事業

- ・地域の課題やニーズの把握に努め、事業に反映する。
- ・町会館・学校など身近な施設を利用し、普段公民館に来られない人も参加しやすくするよう考慮し、それを通じて地域の繋がりを目指す。
- ・「ふれあいまつり」は、地域団体を含む参加団体で企画段階から話し合いながら広く地域住民への啓発・交流の場として取り組んでいく。

<状況・成果>

- ・偶数月に開催する「パークタウン連絡協議会」会議、奇数月に開催する「防災専門委員会」会議、また毎年恒例の盆踊りの打ち合わせ会議に出席、盆踊り当日は「あかちゃんの駅」を設置し、地域や各種団体と繋がりを持った。
- ・「二色学園コラボ芸術鑑賞会」は、小中一貫校として開校した二色学園と、地域住民が繋がりをもち、深める場となった。また、地域出身のテノール歌手を招き、開催したことで、子どもたちが身近に感じ、将来夢を持てるような芸術鑑賞会となった。
- ・「ふれあいまつり」は、運営の負担を減らし、簡素化したことで、クラブや各種団体の主体的な活動が生まれ、盛況に終わった。
- ・「防災講演&落語」は、沿岸部に住んでいる地域住民とともに、楽しみながらより一層の防災意識を高めるきっかけづくりの一助となった。また、身近に代表的古典文化である落語に触れたことで、文化振興につなげることもできた。
- ・「みんなのロビー展示」は、クラブや子どもパーク、三館利用者連絡会の展示交流を行い、地域の憩いの場となった。
- ・プレイルームは、利用がない時間帯に乳幼児親子の居場所として開放した。

<課題>

- ・人との繋がりが希薄にならないよう、地域と連携を図りながら取り組んでいく。
- ・地域の状況やニーズに応じた事業を展開していく。

## 4. 団体支援事業

- ・クラブやグループの状況把握に努め、会員拡大・活性化や新規クラブ化のために適切な支援をおこなう。
- ・各クラブの体験講座や地域活動等の取り組みを奨励し、活発に行えるよう支援するとともに、その活動状況・成果をパネル展示等で広く利用者・市民に紹介する。
- ・公民館活動の意義や重要性について啓発し、主体的な活動となるよう繰り返し働きかける。

<状況・成果>

- ・利用者連絡会定例会で、クラブ体験講座開催について呼びかけ、広報で受講者を募った。またクラブ同士が連携し、課題を共有しながら活動を支援した。昨年度作成した「公民館利用の手引き」を役員が読み上げ、公民館活動の意義や大切さを再認識できた。また公民館を利用するための使い方を伝えた。
- ・年末大掃除について、これまで利用者連絡会で行っていたが、今回からある一定の利用がある団体にも参加を呼びかけ、利用者の主体的活動を働きかけた。

<課題>

- ・今後も公民館活動に対する認識が深まるよう働きかける。
- ・引き続きクラブ活動が活発に持続できるよう支援していく。

《主催講座・事業・共催事業》

事業区分	講座・事業名	受講者数	期間	回数	延べ参加者数
青少年対象事業	レッツ TRY		通年		
	+KOMINKAN		4/27～3/22	10回	76人
	プロに学ぼう！パティシエ講座	16人	7/6	1回	16人
	夏の子ども講座		7/20～8/5	12回	158人
	おばけやしき作戦会議	14人	7/28～8/21	4回	48人
	公民館へゴー！Nゲージ鉄道模型展示走行会		8/3～8/4	2回	250人
	おばけやしき		8/22	1回	161人
	ビストロはま～て	9人	9/27～1/31	3回	21人
	新春あそびたい会		1/8	1回	103人
支援事業 子育て	SALON BeBe		4/1～3/23	46回	285人
	げんきに子育て（保育つき）		5/16～7/4 1/15～3/19	8回 4回	48人 28人
	パパサロン		5/25～12/7	7回	130人
	子連れヨガ		7/29～3/31	3回	25人
成人対象事業	スマホらいふ	8人 8人 8人	4/22～7/8 8/26～11/11 12/23～3/10	6回 6回 6回	43人 35人 44人
	シルバーライフ	35人	5/8～12/4・ 3/5	24回	620人
	続ける！ノルディックウォーキング（高齢介護課共催）	19人	5/13～6/3	4回	57人
	かしこく夜活	17人 19人	5/15～6/19 11/6～12/18	4回 4回	40人 62人
	シニア世代の筋力アップ講座（高齢介護課共催）	31人	9/2～10/21	5回	134人
	終活へいらっしゃ～い♪	15人	12/2～12/23	4回	45人
	星降る公民館	17人	3/3	1回	雨天中止
づくり 共生社会 事業	ぶらっと		5/11～3/1	9回	30人
	ふれあい料理講座（障がい者のための料理講座）		5/12～3/9	10回	109人

文化振興事業	浜手アフタヌーンコンサート		4/10～2/5	6回	716人
	Autumn Jazz Concert		9/21	1回	108人
	にんぎょうげき		2/21	1回	102人
	トールペイント展示&体験会		2/14～2/22 展示 2/19 体験会	1回	体験9人
人材養成事業	保育ボランティア	16人		11回	83人
	ふれあい料理ボランティア	11人		12回	73人
	浜手アフタヌーンコンサート企画委員	6人		6回	34人
	図書整理ボランティア	1人			
地域連携事業	プレイルーム解放		4/1～3/31	164回	424人
	二色学園コラボ芸術鑑賞会		10/17	1回	80人
	ふれあいまつり		10/25・26	1回	1,130人
	防災講演&落語		2/8	1回	70人
	ロビー活用（展示・図書・コーヒーコーナー）				
	二色学園校区地域学校協働本部会議（すこやかネット）			3回	
	二色パークタウン【連絡協議会・防災専門委員会・盆踊り実行委員会（盆踊り含）・校区福祉委員会総会】			17回	
団体支援事業	浜手地区公民館利用者連絡会[22クラブ]	309人			
	よる☆うた	20人		26回	
	将棋を楽しむ場		4/13	1回	

【表の見方】「受講者数」は、申込を受理した人数。記載のないものは当日参加、または、1回限りの事業（参加者数は「延べ参加者数」欄に記載）、ボランティアにおいては「登録人数」

## プロに学ぼう！パティシエ講座

<ねらい>

中高生の職業選択のきっかけ作り。  
中学生から大人まで、料理を通しての世代間交流。

<状況・成果>

7/6 日曜日 13時～16時 受講者 16人

講師：下吹越 惇（大阪調理製菓専門学校 製菓専任講師）、学生 4人

メニュー：デコレーションケーキ

今年で3年目となる講座。募集枠を見直し定員を16人にし、申込時に単身かペアかで受け、その希望に沿って抽選することにした。単身10人（大人5人、子ども5人）、ペア14組（親子6組、兄弟4組、友達4組）の申込があり、結果それぞれ4人と6組を当選とした。世代別では中学生12人、高校生2人、大人2人となり、講座当日は子どもが目立ったのか、大人から、「学生さんばかりの中、大人が入って申し訳ないです…」という声があった。しかし、そこはあえて子どもと大人が混じり交流しながら体験してほしいということ話し、安心してもらった。実際、講座中に会話を交わし交流しながらケーキを作っていた。

専門学校との打合せでは、スポンジケーキを焼く体験もできないか相談したが、初心者の多い単発講座では難しいとのことだった。



当日は、講師が材料を忘れ、スポンジ生地を焼く実演ができないというハプニングがあったが、その分受講者は上手く焼くコツを丁寧に説明してもらい教わる事ができた。説明を聞いた後は、一人1台ずつ、用意されたスポンジ生地に生クリームを塗り、デコレーションケーキを仕上げた。作業中は、テーブルに1人ずつ専門学校の学生がついてくれ、とても頼もしかった。中学生が多いためか、初めはとても静かな雰囲気だったが、学生に話しかけられ教えてもらうことで、次第に打ち解けていく様子が見られた。生クリームを塗る作業は難しく、講師や学生が手を加えてくれると完成度が上がるので、手伝ってもらう度にあちらこちらで「すごい」と感心する声が聞かれた。また、受講者の質問に答えたり、学校でのエピソードを話したりする学生もいて、子どもも大人も時に作業の手を止めて、聴き入っていた。

【アンケートより】

- ・おかし作りが好きで、一人では勇気がでなかったけど、友達も気になって一緒に参加できた。
- ・教えてくださる先生、学生さんが凄くやさしくて、わかりやすく教えてくれた。
- ・ケーキを作る体験をしてみたかった。パティシエ講座をしていい経験になって楽しかったです。
- ・クリームのものせかたとか、どうやったらうまうまひろげられるのかを知れてよかったです。また家でも自分で作ってみたいです。

<課題>

中・長期的な開催を視野に入れ、さまざまな分野からプロの講師を招くことを検討。



## 夏の子ども講座

### <ねらい>

学年や学校を越えた異年齢交流。

公民館クラブ・グループ等、地域の大人との関わりの中でさまざまな体験をする。

### <状況・成果>

7/20～8/5 12講座 協力12団体 申込総人数239人 受講者延べ158人

今年度は主事講習で一人ぬけることで職員体制が整わないため、企画申込みの時点で12講座に限定することを利用者連絡会に伝えた。それでもクラブからは8講座、その他の団体から4講座の申込があり、希望するクラブは参加することができたようだ。下の感想にあるように、今年度もそれぞれの講座でさまざまなクラブ員・ボランティアの関わりがあり、子どもにも、大人にとっても気づきのある講座となった。

受講者の申込についてはこれまで使っていたサイト「QRのススメ」をやめて、「LoGoフォーム（電子申請システム）」を使用した。ちょうど本庁全体でLoGoフォームを使った業務効率化を進めており、3公民館でもそれぞれ担当を決め会議を進めていた。氏名や学年等、申込者がメールに打ち込んだ内容がそのままエクセルの表に反映され、事務作業が減り入力ミスもなくなった。申込む側も、気軽に申込みという利便性があるようだ。ただ、注意書きを読まずに申込み、受講確認の電話がかかってこない、同日の講座にとりあえず申込み、抽選結果が出てからキャンセルするなどのケースが一部見られた。直接話して理解してもらいたいところだが件数が増えると難しい。

定員を超える申込があったのは7講座で、今年度はお絵かき、クッキング、卓球、ダンスが人気だった。可能そうな団体には定員を増やしてもらおうようお願いし、3クラブが申込者全員を受け入れてくれた。

将棋は3年目になるが、徐々に申込者が増えてきている。これは放課後にロビーで子ども相手に将棋を教える活動（はまて子どもパーク）を続けてきたボランティアの努力の結果と見える。貝塚市で将棋ができる・強くなる子どもを増やしたいという熱い思いがあり、優しく子どもに話しかけながら、将棋を通してその子の性格や個性に合わせた対応をする姿には頭が下がる。ロビーで教えてもらった子が講座に来て、「おっちゃん」と親しげに話しかける姿が微笑ましい。その他の講座でも同じような大人の関わりがあり、子ども達への温かいまなざしが感じられた。

#### 【子どもの感想】

- ・自由気ままに楽しく絵がかけた（絵画）
- ・つよいやつもいたらふつうのやつもおって、ちょうどいいバランスやった（卓球）
- ・教えてもらったら勝てるけど、教えてもらってなかったらできなかった。考えながらやるのがむずかしい（囲碁）
- ・去年は機能重視だったけど、今年は見た目重視で作りに来た（木工）

#### 【ボランティアの感想】

- ・子ども達がかわいくて、楽しかった。パワーをいただきました。（体操）
- ・（クラブの子にとって）教えることの難しさや人前で話す緊張感を体験することができよかったです（けん玉）
- ・一人ひとりに何かアドバイスができればもっと良かったと思います（将棋）

### <課題>

LoGoフォームを使った申込の研究。とくに受講確認の徹底を申込者にどう伝えるか。

## おばけやしき

<ねらい>

子どもが企画・運営したおばけやしきを多くの人に楽しんでもらう。

子どもが主体的に考え活動できる場を作る。また、大人のボランティアと世代間交流をする。

<状況・成果>

【作戦会議】7/28、8/4、8/18 月曜日 13時半～15時 8/21 木曜日 15時半～16時半

メンバー14人 ボランティア8人（打ち合わせ7/22）

小学1年生から6年生までが集まり、ボランティアと一緒におばけやしきを企画した。

初日には子ども達と大人のボランティアがお互いを知り合うために自己紹介をした。その後以前の画像を見てイメージを膨らませ、子ども達から案を出してもらって話し合い、テーマは「のろいのにんぎょう」に決定。内容も自分達で考え、2回目からは「おばけの衣装」「ドールハウス」「受付で渡すお札」などを作っていた。また、当日の役割も子ども達の自主性にそって決めた。

最初はおとなしい子ども達だったが、回を重ねるごとに盛り上がり、前日のリハーサル時には、「もっとこうやって驚かそう」とか「しかけのところを通ってもらうためにどうするか」など、活発に意見が上がるようになった。驚かすために風船を用意して割ることになったが、小さい子を怖がらせすぎないように、「受付で確認して4歳以下の子がいたらドアをロックして合図をし、風船を割らないようにしよう」ということも自分達で決めることができた。

初回の自己紹介で、「一緒におばけやしきを作ることでみんなと仲間になりたい」と抱負を話してくれた子や、「子ども達に携わり、交流を深めたくて参加した」というボランティアの話のとおり、一緒に作っていく中で子ども達の中にチームワークが生まれ、ボランティアとも和気あいあいと交流する姿を見ることができた。

【おばけやしき】8/22 金曜日 13時半～15時 参加者延べ161人

当日はケーブルテレビの取材が来て、本番開始前に子ども達は取材カメラの前でポーズを決め、やる気が一層盛り上がりスタートした。本番が始まると、子ども同士のグループや親子連れがたくさん来場し、作戦会議の子ども達は楽しんでおばけ役や受付係などをし、大人ボランティアがそれを見守りサポートした。

終了後は片づけまでをボランティアと子ども達で行い、反省会では、「驚かすのが楽しかった」「過去イチ盛り上がった」「僕たちはアツかったがお客さんは怖くて寒かったと思う」など、感想が出た。

子ども達は自分達で考えて運営することができ、やりがいや楽しみを感じられたようだ。

～作戦会議の子ども達のアンケートより～

（楽しかった）理由…おどろかしたらわらってたりにげたりするのがおもしろかった。/みんなとふれあえたから。/来てくれたみんなも楽しんでくれたし、自分も楽しかったからです。

～ボランティアのアンケートより～

楽しそうにしてるのを見てよかったです。元気ハツラツで見て気分よかったです。/それぞれ自分の役割を楽しんでいたと思います。子ども同士声をかけて協力してお客さんをおどろかせていたのが良かったと思います。/初参加でしたので、当日どうなるかと思いましたが、子どもの順応性にはおどろかされる。

<課題>

引き続き子どもが大人と関わり参加・活躍できる場、子ども達が楽しめる場を作る。



## Nゲージ鉄道模型 展示走行会

<ねらい>

子どもから大人まで人気のある鉄道模型を介して、世代間交流、及び日本の歴史ある鉄道文化や面白さを子どもたちに伝え、関心を持ってもらう。

<状況・成果>

8/2 土曜日 12時～16時 参加者 150人 ・ 8/3 日曜日 10時～15時 参加者 210人

展示者：鉄道クラブ代表 眞鍋 友昭

展示会については、ロビーで行ったことにより、公民館利用者、偶然公民館へ立ち寄った人たちが鉄道模型に気づき、子どもたちとコミュニケーションを取るという場面がみられた。また、国鉄・JRの記念切符、車掌の帽子や鉄道の歴史本なども展示し、参加者は興味深く見入っていた。

走行会は、未就学の子どもから大人まで、幅広い参加があり、各々に自前の鉄道模型を走らせ、披露し合っていた。また、参加した大人が走行の操作方法や鉄道文化、列車の歴史の話をし、子どもたちがそれに聴き入り楽しむ場面も見られ、鉄道の魅力を伝えるとともに、世代間交流につながった。

二日間で昨年以上の来館者があり、走行操作で30分以上の待ち時間が発生するという事態になったが、整理券を発行するなどし、公平かつ安心して順番待ちができた。

4回目とあって、毎年参加している者同士が、鉄道を通じて、互いに交流を深め、新しい団体がうまれた。この団体は今回から自主的に運営に参加しており、ねらい以上の成果となった。来年もこの団体に参加してもらい、さらに楽しい事業となるよう、魅力ある展示手法や企画などを仕掛けていきたい。

<課題>

自前の鉄道模型を出し入れするスペースの確保、及び走行操作時間の配分について再考。



## ビストロはま〜て

<ねらい>

子どもたちが楽しく調理することで、家庭でも簡単な料理ができるようになる。

<状況・成果>

9/27、11/22、1/31 土曜日 10時～12時半（全3回） 受講者9組

講師：榎本 有紀（榎本農園）、ボランティア4人

昨年度、子どもの生きる力をつけることを目的に3館で取り組んだ子どもの料理講座。継続するにあたり、講師の一人は妊娠・出産のため協力できないことがわかっていたので開催するか悩んだが、もう一人がボランティアと相談し、開催すると決意を固めてくれた。聞くと、一年やってみて、子どもが真剣に楽しく料理をする姿や親の喜ぶ顔を見て続けたいと思うが、自分にとってはメニューを考えることが苦手な一人になることに不安がある。でも、ボランティアに「とてもいい講座だから絶対続けて」「メニューも一緒に考えるから」と背中を押されたとのこと。



講座内容はほぼ昨年通りで、調理はボランティアと子どもだけで行ない、料理ができた頃に保護者が来て一緒に食事をする。講師から提案があり、弟や妹がいる場合、講座中に下の子どもが一人で留守番することにならないよう、親と一緒に来て食事ができるようにしたところ、4組が下の子どもを連れての参加（食事時のみ）となった。職員からは、昨年度ボランティアの参加が不確定で当日になってみて多かった、ということがあったので、一回に4人までで調整をしてもらうよう伝えた。

講座内容はほぼ昨年通りで、調理はボランティアと子どもだけで行ない、料理ができた頃に保護者が来て一緒に食事をする。講師から提案があり、弟や妹がいる場合、講座中に下の子どもが一人で留守番することにならないよう、親と一緒に来て食事ができるようにしたところ、4組が下の子どもを連れての参加（食事時のみ）となった。職員からは、昨年度ボランティアの参加が不確定で当日になってみて多かった、ということがあったので、一回に4人までで調整をしてもらうよう伝えた。



初回、ちょうど9月頃に学校でインフルエンザが流行り、欠席者が多く受講者は5人だった。それでも受講者とボランティア・講師・職員も交じり、全員で自己紹介をし、講師がボードを使い旬の食べ物当てゲーム等をする中で、次第に打ち解けていった。

講師は、「家でもできる簡単な料理」を軸に献立を考えているが、アンケートを見ると、「クレープの材料がホットケーキミックスと水と油、トッピングでできるなんて初めて知った」「食べたことのない料理を食べることができた」「家では自分で作る機会があまりない」と書かれてあり、子ども達にとって、とてもいい経験になっていることがわかる。また、もし来年も講座があれば作りたいものはあるか、を聞くと「マリトッツォ、いももち、春巻き、夏だったら冷たい料理で冬だったら温かい料理」その他たくさんさんの案が挙がり、子どもたちが期待していることがわかった。

<課題>

引き続き、講師にとって負担の少ない日程調整。

【メニュー】

1回目	9/27	しょうが焼き/みそ汁/切り干し大根のごまマヨ和え/サツマイモごはん
2回目	11/22	巻かないロールキャベツ/菊菜のホットサラダ/にんじんごはん/柿のヨーグルト和え
3回目	1/31	フォカッチャ/ミルクスープ/きのこソテー/クレープ

## 新春あそびたい会

<ねらい>

子ども達が地域のボランティアから遊びやおもちゃ作りを教わり交流を深める。

伝統文化や昔遊びの継承のきっかけづくり。

<状況・成果>

新春あそびたい会 1/8 木曜日 13時半～15時 参加者 53人 遊びボランティア 34人

遊びボランティア打ち合わせ 12/1 月曜日 13時半～ 遊びボランティア 17人

子ども達が遊びボランティア（以下、ボランティア）と一緒に、昔遊びや工作をする新春あそびたい会を、始業式の日の午後から開催した。

ボランティアの募集は、チラシ・ポスターを掲示するとともに、以前も参加した人を中心に声掛けを行った。中央公民館で活動しているあそび隊からは事前に参加・協力の申し出があった。というのも、中央公民館で高齢介護課と共催の「シニアあそびたい会」講座を開催し、2回目の講座で「新春あそびたい会で子どもたちと遊ぶ」という内容が盛り込まれていたためだ。打ち合わせでは、それぞれの担当の遊びや工作内容と部屋割りを決め、必要備品や材料、当日の流れを確認した。初参加のボランティアによる工作と遊びが増え、スタンプラリーも13か所で実施の運びとなった。

当日はホールに集合し、職員から子ども達に注意点やスタンプラリーの案内を伝え、ボランティアからは遊びの紹介を行った。

ホールでは、コマ回し・けん玉、ボウリング、テーブルホッケー、わなげ、おりがみ、おはじき・お手玉を開催した。友達と（点数や出来栄を）競い合って盛り上がった。おはじきやお手玉は、「学童でもやっている」と楽しそうに遊んでいた。

和室には、百人一首、将棋あそび、お茶会体験といったお正月の遊び体験が勢ぞろいで、最後まで子ども達の参加が途切れなかった。講座室では、割りばし輪ゴム鉄砲、あそび隊による猿の木登り・ストロートンボ・ブンブンゴマなどの工作を開催した。輪ゴム鉄砲は、マ트에当てては、大はしゃぎしていた。あそび隊のコーナーでは、いろいろな種類のおもちゃ工作があり、自分で好きな絵を描いて、世界に一つだけのおもちゃを完成させ、得意そうに遊んでいた。

プレイルームを覗くと、エアベッドでの飛び跳ね遊びや、積み木ブロックを利用した鬼ごっこなどで、汗だくになっていた。またロビーでは、手作りランタン・ペーパークラフトを実施。工作に取り組んだ子どもたちは自慢げに作品を持ち帰った。

すべての遊びコーナーを回った子もいれば、好きな事や面白かった遊びだけに取り組む子もいて、それぞれの楽しみ方であそびたい会を満喫し、「楽しかった」「来年も来ます」と言いながら帰っていった。ボランティアは子ども達が楽しそうに遊ぶ姿を見てやりがいを感じ、反省会では「次回はもっと子どもが楽しめるように工夫したい」「次は、トランプやカルタなど正月らしいものをしたい」と意欲的で、地域の大人と子どもが交流する良い機会となった。

<課題>

世代間交流の場として、ボランティアの協力のもと事業を継続していく。

新規ボランティアの確保。



## 子ども居場所事業（はまて子どもパーク・+KOMINKAN・レッツ TRY）

### <ねらい>

子どもの安心安全な居場所づくり。異世代・異年齢の人との交流の場の提供。

中高生の自主的な活動を支援する。

### <状況・成果>

#### 【はまて子どもパーク】

社会教育課主催の「放課後子ども教室」として、月・木の曜日担当で行なっている。二色学園の子どもたちがロビーに来て、ビーズやおりがみがしたいとボランティアに声をかける姿も見られた。また、将棋ボランティアは担当日以外の木曜日也将棋コーナーを開設し、それを楽しみに毎週来る親子連れもいる。



今年度、図書コーナーのカーペットを新調し、靴を脱いでくつろげるようにした。寝転がる子もいてフカフカの感触を楽しんでおり子どもには好評だが、リラックスしすぎてか、お菓子の袋を片付けずに帰る子もいた。気づいたボランティアがメンバーにラインし、その都度ごみを捨てるように声をかけるよう情報共有していた。言いにくい場合は職員に相談してもらうように伝えた。

図書コーナーの床の工事がちょうど七夕の時期だったため、笹飾りができなかったが、その分クリスマスツリーの飾りは腕によりをかけて作製し、来館者を楽しませた。

#### 【+KOMINKAN】

毎月第4日曜日 13時半～15時半 参加者延べ76人

協力：大阪体育大学 体育実技研究部

大阪体育大学 体育実技研究部の代表が代わり、うまく連絡が届いていなかったようで、4月に来るはずの学生が来なかった。新代表との連絡手段がラインのみだったため、他に連絡の取りようがなく焦ったが、職員が見守るなか子ども達はバドミントンなどを楽しんだ。



6月ごろまではバドミントンが流行り、小学生や付き添いの大人も交えてゲームを楽しんでいた。また、大学生との鬼ごっこも人気でホール内を駆け回って遊んでいる。熱中しすぎて館外へ飛び出すことがあったので、なるべくホール内で、せめて館内で遊ぶよう学生に説明した。体を動かす楽しさを思う存分味わってほしいが、怪我がないように安全に配慮していく必要がある。

今年度のもちつき大会はパパサロン受講者で行なったが、ボランティアとして学生2人来てもらった。去年参加した学生もいたので、お湯を運んだり餅をついたり大活躍だった。

#### 【レッツ TRY】

+KOMINKANに参加していた子が中学生になり、友達とバドミントンをするために11月に公民館に相談に来た。レッツ TRYに登録してもらいホールを利用したが、バドミンントンのネットは貸し出しを許可しておらず使えない状態だったため、その後の利用につながっていない。

### <課題>

事業を継続させるため、引き続き広報や内容の工夫をする。

+KOMINKANについては、大学生との調整をしっかりと行う。また、備品の貸出を検討する。

## SALON BeBe

<ねらい>

0歳から未就園児親子の居場所・交流の場。

子どもの“あそび”について考える場。(英語あそび・造形あそび)

<状況・成果>

4/2～3/25 毎週火曜日(46回) 10時～12時 参加者延べ145組(285人)

【第2火曜日(11回)】「英語あそび」 10時半～11時半 協力：英語あそびボランティア

【第4火曜日(12回)】「造形あそび」 10時半～11時半 協力：保育ボランティア

乳幼児親子がいつでも気軽に集える場として、毎週サロンを開催している。参加人数は週によってばらつきがあるが、今年も新たな顔ぶれが見られた。

第2火曜日には英語あそびボランティアによる英語あそび、第4火曜日には保育ボランティアによる造形あそびを実施している。今年度もボランティアと共に造形あそびの内容を考え、毎月チラシを作成した。

参加親子は、昨年より継続しての参加、ためまっぷかいつかや広報を見て、友人に誘われてなどさまざまな理由で来ているが、父親が子どもを連れてくることも珍しくなかった。初めて見る親子には、公民館を知ってもらい参加につなげる大切なきっかけとして、積極的に声をかけるよう心がけている。



英語あそびでは、楽しく英語に触れあってもらえるよう、ボランティアは幼い子どもやまだ興味を示さない子に対しても、親子で楽しい時間を過ごせるように声をかけ配慮している。

造形あそびは、作品を制作する場に留まらず、ボランティアと対話し交流する場になっている。制作中の何気ない会話から、参加者が悩みを打ち明けたり、ボランティアが自身の子育ての経験談を語る場面もあった。



転勤が多いという土地柄もあり、近くに知り合いがいないという母親も多いため、公民館に来ることで新しい出会いをつくるきっかけとなっているようだ。また SALON BeBe から他の講座に参加するきっかけにもなっている。

<課題>

転勤の多い土地柄なので、情報を得てもらいやすいようあらゆる方法で広報を行う。

サロンに参加することで、人とのつながり、子育てに関する情報を得られる場となるよう努める。

### 造形あそびの内容

4/22	・・・鯉のぼり制作
5/27	・・・新聞びりびり
6/24	・・・七夕制作
7/23	・・・金魚すくい(水あそび)
8/26	・・・金魚すくい(水あそび)
9月	は祝日の為お休み
10/28	・・・ハロウィン撮影会
11/25	・・・落ち葉ひろい
12/23	・・・クリスマス制作
1/27	・・・絵合わせカルタ
2/24	・・・ひなまつり制作
3/24	・・・お庭でピクニック

## パパサロン

<ねらい>

転居の多い地域性を考慮し、新しい参加者の取り込みと、継続した父親の仲間づくり。

親子が過ごせる居場所づくり。また母親に自由時間をつくる機会とする。

<状況・成果>

5月～12月 第4日曜日 全7回（8月、10月休講、11月は11/2、11/23、12月は第1日曜日に  
変更）10時～12時（12/7は10時～13時）参加者9組（24人）

月/日	内容	講師／協力	参加組
5/25	ビビンバを作ろう・さつまいもの苗植え	相互/ 保育ボランティア・パパサロンボランティア	6組 14人
6/22	おもちゃを作って遊ぼう	講師：あそび隊	7組 17人
7/27	水あそび	相互	5組 12人
9/28	段ボールあそび（カニ公園で土手滑り）	相互	7組 18人
11/2	いもほり・つるでリース作り・野菜の種まき	相互／パパサロンボランティア	9組 23人
11/23	やきいも	相互	8組 20人
12/7	もちつき大会 【家族参加可】	相互／あそびボランティア	8組 26人

パパサロンは、就学前の子どもと父親対象の講座。

昨年、継続して参加した親子が積極的に関わり楽しんでいたため、今年も7回連続講座にした。連続講座にすることで申込みが減らないか心配したが、9組で開講することができた。

今年も、できるだけ父親達の活躍の場を作るよう意識して進めた。初回の「ビビンバを作ろう」では机や調理器具を運ぶことから始めると、積極的に運んでくれ調理も順調に進んだ。ホットプレートを使用するため、安全に配慮し保育ボランティア2人に協力してもらった。ボランティアは父親と子どもへの声かけがとても丁寧で、良い雰囲気になっていた。

6月「おもちゃを作って遊ぼう」は、あそび隊に講師として来てもらい、動くおもちゃを作製した。父親が子どもの作りたいものを完成させようと試行錯誤していたのが印象的だった。完成したおもちゃで子ども達が嬉しそうに遊んでいると、あそび隊のみなさんも一緒に遊んでくれた。帰り際に見送られ、作製したおもちゃを嬉しそうに持ち帰った。

9月「段ボールあそび」は、ダイナミックな遊びをするために、場所をカニ公園に移し「土手滑り」をした。教育研究センター駐車場に集合し、寄り道したりしながら現地



までの道のりを楽しんで移動した。山の上に到着したら、みんなで運んできた段ボールをつなぎ合わせ、滑り台を作った。年齢差があったものの、ゆっくり、寝転がって、お兄ちゃんの真似をして、思い思いの滑り方で楽しんだ。父親も一緒に滑ったり、滑り台の修復に専念したりする姿があった。



11月「やきいも」は、父親達が中心となり、火おこしの準備から火力の調整、焼き上がりまでを担った。

火を扱うので、我が子以外でも声をかけて欲しい事を伝えてから始めた。子ども達は落ち葉を拾い集め、葉を火の中に入れたり、さつまいもを焼くのを手伝ったり、どんぐりや虫を見つけて遊んだ。虫を見つけて遊ぶ様子を見て、虫などの命の大切さを子どもにどう教えるか、という話題になり、伝え方は様々だと知ることができた。焼き上がりの時間を気にしながら焼いていた父親達は、大量のさつまいもを無事に焼き上げ、ホッとした様子だった。



12月「もちつき大会」は、母親も参加を可能にし、+KOMINKANボランティアの大学生2人に協力してもらった。職員がノウハウを伝えながら、父親達が中心になりもちをついた。5月から9組の親子と一緒に活動してきたパパサロン最後のもちつき大会は、もちつきが始まると父親達が臼の周りに集まり、自然に一体となっていた。もちがつき上がり、丸める段階に入ると、公民館を普段から利用している母親とボランティアが中心に、子ども達と一緒にもちを丸めた。返し手は職員と昨年マスターした父親が担っていたが、今年初めての父親も体験し、職員がもちをつく工程を具体的に伝えると、真剣に聞く姿があり来年頼れる存在になりそうだ。

父親達の仲間づくりまでには至らなかった。しかし、初回は子どもが小さいのでパパサロンに参加するのは早いと感じていた父親が、回を重ねるごとに積極的に参加するようになる姿や、帰り際に職員達と会話する機会が少しずつ増え、公民館という場に慣れていく父親達の変化がうかがえた。そして母親達は、家族がパパサロンに出かけている間、家でのおんびり過ごしたり、買い物にでかけたり、病み上がりの身体を休めたり、一人の時間を楽しみにしていたそうだ。



#### <課題>

父親が参加しやすい企画運営に努める。

継続した父親の仲間づくりのための講座の持ち方や内容を検討する。

## げんきに子育て

<ねらい>

子育て仲間と一緒に学んで交流し、子育ての悩みや情報を共有する。

受講者同士がつながり主体的に活動するきっかけ作り。

<状況・成果>

5/16～7/4 毎週金曜日 10時～11時半（全8回） 受講者8人 保育8人

1/15、2/19、3/5・19 木曜日 10時～11時半（全4回） 受講者10人 保育10人

保育つき講座は、日中子どもと過ごす時間が大半である親が、子どもを保育ボランティアに預け、自分の時間を持ち学習や交流をする機会である。そして今年度は、講座終了後保育で使用していたプレイルームを継続して使えるようにし、講座期間中に交流を深められる場を設けた。

今年度は8組の親子が受講。子どもの年齢層は近年1～2歳児が中心である。母親達は、初参加で緊張した人から、継続参加によりボランティアと親しく会話する人まで様々だった。ボランティアの自己紹介では、親子の緊張を和らげ、安心感を与えられるよう、一人ひとりが笑顔で語りかける姿が印象的だった。

「包括的性教育」について2回に渡って学んだ。包括的性教育とは、人権を基盤とし、性や生殖に関し科学的根拠に基づき正確な知識を学ぶだけでなく、人間関係やジェンダー平等、性の多様性など幅広い内容を包括的に学ぶ教育。人が幸せに生きるため、自分の意思が尊重され、自分のからだのことを自分で決められる大人へと成長するために、乳幼児から段階的に始めることが重要だと教わった。前半は専門的で難しく感じる内容もあったが、講師の明るく親しみやすい雰囲気ですリラックスして受講することができた。後半にゲーム形式のワークショップを実施。参加した母親達は笑顔で積極的に取り組んでおり、楽しみながら学ぶ貴重な機会となった。



「子育てがたのしくなるヒント」は、母親が自分自身の五感に意識を向けることから始まった。日々の忙しさの中で、自分のことは後回しになりがちな母親たちが、「今朝、自分はどう感じていたか」を思い出し、体の力を抜いて自分自身を振り返ることの大切さを学んだ。受講者にとって、この静かな時間は非常に意味深いものとなったようだ。子どもと関わる中で大切な声掛けやスキンシップ、夫婦間の相互理解を深めるためのコミュニケーションについて学んだ。中でも印象的だったのは、「自立」という言葉の概念だった。この講座では、自立とは決して一人で抱え込むことではなく、自分が困っている時に「助けて」と言えることだと教わった。受講者からは、「これまでの認識とは正反対だったが、子どもだけでなく大人にとっても大切な考え方で、自分以外の人にも伝えていきたいという感想があり、多くの気づきを得る機会となった。

「レクリエーション」は、受講者の親子とボランティアが市民の森まで徒歩で移動した。道中、子どもたちの年齢や興味の対象が異なるため、進むペースにも個人差があったが、ボランティアはそれぞれの子どもの歩調や好奇心に寄り添い、



楽しみながら歩いた。公園到着後のレクリエーションでは、ボランティアが中心となり、楽しい雰囲気の中受講者もリラックスした交流の時間となった。

「保育ボランティアさんと話しましょう」は、2名のボランティアによる子育ての経験談を聞いた後、2グループに分かれて座談会を行った。異なる環境や悩みでも母親同士が共感しあい、前向きになれたようだ。最初は戸惑っていた受講者も、ボランティアの促しによって「自分も驚くほど話せた」「会話をするだけで気持ちがすっきりした」と語り、有意義な時間となったようだ。

日時	内容（講師）	受講者 （保育あり）
5/16	オリエンテーション・交流会（保育ボランティア）	6人
5/23	幼い時からでもできる心とからだの守り方① （性教育講師 あんぐり さなえさん）	5人
5/30	子どもの足を育てる ～日本人の身体の知恵とヨガの視点から～ （Nagi Yoga 岩川 風沙さん）	7人
6/6	子育てが楽しくなるヒント （奈良教育大学 家庭科教育講座 准教授 中川 愛さん）	7人
6/13	レクリエーション 【相互】	7人
6/20	幼い時からでもできる心とからだの守り方② （性教育講師 あんぐり さなえさん）	6人
6/27	保育ボランティアさんと話しましょう	5人
7/4	まとめ・保育ビデオ鑑賞	5人

全ての講座終了後、職員から講座を受講してさらに学びたい事、新しく学びたい事があるか、そして企画してみてもどうか問いかけると、前向きな回答だった。この為受講者6人が企画委員として講座の運営が始まった。

7月から毎月、企画委員会を職員も入って進め、講座内容、回数について話し合った。1歳～小学生を持つ母親達の予定を合わせ集まり、幼い子どもを連れての話し合いは、思うように進まないことや、行き詰まってしまうことがあったが、その度に受講者同士が協力しアイデアを出し合い解決していった。各講座で中心となる担当を決め、都合が合えば講師との打ち合わせにも参加した。案内、周知用のチラシは「作ってみたい」と名乗り出た母親が作成し、初めてとは思えない程、思いが込められた素敵な物が完成した。各講座担当の報告や企画委員会に欠席した人への共有は、ラインを活用し丁寧に進めていた。

講座当日は、担当以外の母親達も積極的に協力する姿があり、自分達で作りあげた講座だという意識が高く、一体感が感じられた。

企画、運営を経験した母親達からは、「企画に携わることで講座に愛着が持てた」「子ども達の成長を実感した」「おもちゃの取り合いなども見守り合える関係を築けた」といった声上がり、交流を深めることができたようだ。

#### <課題>

子育ての学びを意識した内容の充実。  
受講者同士が交流を深めるきっかけづくり。

日時	内容（講師）	受講者 （保育あり）
1/15	子どもの食事と栄養のお話 （貝塚地域活動栄養士会 藤原 美枝子さん）	10人
2/19	コーヒーのプロに教わろう （まる珈琲店 名加 夢子さん）	6人
3/5	みんなで座談会～コーヒーやおやつと共に～	7人
3/19	未来の歩く力を育てる“足育”講座 （Physical Heart® 梅本 道代さん）	5人

## 子連れヨガ

<ねらい>

母親のストレス解消、交流の場。

<状況・成果>

第5火曜日（7/29、9/30、3/31） 10時半～11時半 参加者延べ25人

講師：MIKI（まちのすぐれもの登録者）

母親が子連れでも運動、リフレッシュできる場として子連れヨガを開催している。この講座では子どもも同じ空間で、みんなで子どもを見守りながらヨガをしている。毎回講師から「子どもさんがうろうろしてても大丈夫！子どもさんの様子を見ながら、ヨガに戻ってきてくれたらいいからね」と声掛けがあることで、受講者は安心して参加することが出来ている。子ども同士が遊ぶ姿も見られ、和やかな雰囲気の中時間が流れている。

講座終了後、「子どもが生まれてから久しぶりに運動できて気持ち良かった」「肩こりや腰痛があるので次回も参加したい」と受講者同士感想を話したり、講師に質問したりしていた。

<課題>

母親が安心して参加しリフレッシュできる場とする。



## スマホらいふ～もっと便利に、もっと楽しく♪～

<ねらい>

高齢者がスマートフォン（以下、スマホ）の操作に慣れ、楽しみながら生活や防災に役立てる。

<状況・成果>

下記日程 火曜日 10時半～12時 （全6回・受講者8人）×3回

①4/22、5/13、5/27、6/10、6/24、7/8

②8/26、9/9、9/30、10/14、10/28、11/11

③12/23、1/13、1/27、2/10、2/24、3/10

講師：中庭 陽子（まちなすぐれもの登録者）



昨年度から手探りで行なっているスマホらいふ講座は、「もっと定員を増やしてほしい」「月1回では忘れてしまう、隔週でしてほしい」という声を受け、定員や日程を見直し開催した。全6回の講座を春、夏、冬の3回、それぞれ定員を8人にして募集し、毎回定員を上回る申し込みがある。

講座は、その日に1～2コの操作を覚えて帰ることを目標に、ゆっくりしたペースで進む。スマホの機種やバージョンによって操作方法が違うので、一対一で説明することも多く、職員もサポートに入るが、定員を2人増やただけで昨年度より忙しくなった。ただ、比較的できる人が隣の人に教えてくれるなど良い場面も見られた。

講師は、主にラインや地図アプリの便利な使い方、防災時に役立つ操作、写真の加工など、その時の受講者の様子を見ながら進めている。また、それぞれ知りたいことが違うので、質問の時間を大事にし、受講者みんなでも共有できるようにしている。

ラインを使っている人は比較的多いが、友達登録や名前の変更の仕方等、細かいことがわからないと言う人が多く、「スマホを持っていながら中途半端な事しか知らずで…本当に教えていただきたい事で嬉しかったです」「有益な使い方をいくつか教えていただきありがとうございます」と、知らないことを教えてもらえると好評だった。また、常に笑顔で親身に受け答えする講師の人柄もあり、受講者が笑顔になって帰る姿が印象的であった。

【追加講座】11/25 火曜日 10時半～12時 受講者16人

講座は初めての人を優先に抽選しているため、一度受講した人がその後は参加できないことが昨年度から続いていた。そのため5月に講師と相談し、グループ活動を目指し、秋に一度追加講座を行なうことにした。スマホらいふ講座に一度でも参加したことのある人に手紙を郵送すると、18人の申込（当日2人欠席）があった。



グループ活動だと、高齢者にとっては会費や自主運営による負担が出てくるという不安があり、参加者アンケートをとると、10人程がグループ活動でも続けたいという結果になった。そのメンバーで再び1月に集まり話し合った結果、班に分かれて月2回（基本第2火曜日の午後と第4金曜日の午前）に活動することになった。

<課題>

今後は初心者向けの講座と発展した内容のグループ活動という、内容の違いを明確にする。

## シルバーライフ

<ねらい>

高齢者（65歳以上）の居場所・仲間との絆づくりの場。

社会情勢などに目を向け関心をもつ場。

<状況・成果>

5/8～12/4 木曜日（7/10～8/28 は休講）10時～12時（全23回） 受講者35人

65歳以上の高齢者の居場所、仲間との絆づくり、学習と体験の場として、毎年開講している。

2025年度の開始にあたり、新たな仲間の募集もおこない、35人の受講者が約一年を通して、様々なことを学習・体験した。今年は、館外での「施設見学」に加えて、公民館主催講座でも人気の「筋力アップ」などを盛り込んだ。

「自己紹介(第1回)」では、新たに参加する受講者にも早くなじんでもらおうと、仲間づくりを意識して、班ごとに座談会形式を取り入れ、シルバーライフが開講した。

前年度のアンケートで、健康・体力維持の要望が多く寄せられたことから、公民館の連続講座でも人気の「筋力アップ(第2回、第4回)」と次世代のエクササイズ「ジャイロキネシス(第7回、第19回、第21回)」に取り組んだ。筋力アップでは、ペットボトルダンベルを活用し、頭から足の先まで筋肉を意識した動きを繰り返し、汗がにじむ受講者もいた。また、みんなでタオルを使ったゲームも楽しんだ。ジャイロキネシスでは、手から足まで筋肉をほぐしながら、全身運動を体験。寒い時には布団の中でするのがおススメと講師。いずれも受講者には好評で、「次年度もプログラムに入れて」と、熱望されている。



高齢期になると出かけることも少なくなるため、みんなで楽しく学習できる施設見学も積極的に取り入れた。「府立弥生文化博物館(第5回)」や「きしわだ自然資料館(第14回)」は施設職員の詳しい案内があり、受講者から「見学時間が足りなかった」「知らないことが知れて、とても楽しかった」と感想が寄せられた。ただ、シルバーライフの講座自体が午前中と制限があるため、遠出できないのが悩みの種である。

刻々と変化する社会情勢のもと時事問題を学びたいとの声を受け、「戦後80年の日本(第3回)」を学ぶ講座を開催した。講師は「明治～昭和初期は戦争と貧困の時代。第二次大戦後、復興により生活は向上した。しかしバブル崩壊後の国民の生活水準は横ばいとなり、諸外国との賃金・権利格差が大きく開いている」と話し、「今こそ日本国憲法を活かした国づくりを進めよう」と力を込めた。受講者らは、真剣に、ときには笑いながら、メモを取っていた。最後に、講師から「自主的に、学び行動する皆さんに期待している」と激励もあった。

受講者自らが講師になった「ミヤクミヤクを折ろう(第10回)」では、講座前にほかの受講者5人が折紙指導を受けたうえでの開催となった。班に分かれた受講者らは、仲間からの指導を受けなが

ら、赤と青の折り紙を一枚ずつ、細やかに折り込んでいった。予想以上に難しく、終了時間ギリギリまでかかって、ようやく完成する受講者もいた。しかし苦勞した分、思いのほか仕上がりが良く、「帰って孫にあげるわ」と喜びの声が上がっていた。

このように受講者の声を活かした講座を盛り込んできたが、全体を通して、班で受講者同士がゆっくりと話し合う時間が十分に取れたとは言えず、主体的な仲間づくりに欠けていたことを反省している。引き続きよりよい人間関係が築ける講座となるよう努めたい。

【2025 年度シルバーライフプログラム】

回	月日	内 容	講 師
1	5/ 8	開講式&自己紹介	相互
2	5/15	筋力アップ①	梅本道代 (Physical Heart®代表)
3	5/22	憲法から時事問題まで 「戦後 80 年の日本を考える」	中田進
4	5/29	筋力アップ②	梅本道代 (Physical Heart®代表)
5	6/ 5	課外見学「府立弥生文化博物館」	施設職員
6	6/12	座談会(健康の秘訣&私のとっておき)	相互
7	6/19	ジャイロキネシス①	三好悠子(ジャイロキネシス認定トレーナー)
8	6/26	座談会(ふれあいまつり&ふりかえり)	相互
9	7/ 3	課外見学「月化粧ファクトリー」	
10	9/ 4	折紙講座「ミヤクミヤクを作ろう」	井宮美栄子(シルバーライフメンバー)
11	9/11	メグミルク「骨の健康のために大切なお話」	メグミルク社員
12	9/18	愛彩ランド・昼食ビュッフェ	
13	9/25	手話を学ぼう！手話で唄おう！	障害福祉課職員、手話サークルさくら貝
14	10/ 2	課外見学「きしわだ自然資料館」	施設職員
15	10/ 9	座談会・自主活動の案を練ろう	相互
16	10/16	ふれあいまつり準備	相互
17	10/23	ふれあいまつり仕上げ	相互
*	10/26	ふれあいまつり出店	相互
18	10/30	日本経済は復活するか？ &まつり感想交流・報告	町田昌弘 (シルバーライフメンバー) 相互
19	11/ 6	ジャイロキネシス②	三好悠子(ジャイロキネシス認定トレーナー)
20	11/13	脳トレ・ゲーム、自主活動発表	相互
21	11/20	ジャイロキネシス③	三好悠子(ジャイロキネシス認定トレーナー)
22	11/27	地震火災に備える・消火訓練	貝塚消防署員
23	12/ 4	修了式&座談会(ふりかえりと自主活動)	相互
番外	3/ 5	淀河津桜&サントリービール工場見学	
*自主活動(12/11 演劇鑑賞会、1/22 新年会、2/5 卓球バレー、4/2 グラウンドゴルフ)			

<課題>

新たな受講者の獲得。

仲間づくりの仕掛けを常に意識する。

受講者の主体性を活かすよう工夫する。

## かしこく夜活

<ねらい>

日中仕事をしている人など、比較的若い世代の人に公民館を利用してもらうきっかけとする。

<状況・成果>

### 【前期】

5/15、5/29、6/5、6/19 木曜日 19時～20時半（全4回） 受講者 17人

夜の時間を活用して、公民館で楽しくいろいろなことが学べるよう、全4回、各回違う内容を組んだ。半数弱が現役世代で、男性は3人だった。

1回目の「フラをたのしもう」では、連続講座の初回として、まず皆で自己紹介をした後、曲の物語を表現した振り付けを習い、踊った。その後の講師のデモンストレーションの演舞は、全身で感情を表現していて、圧巻だった。

「絵手紙はじめまして」では最初に筆で線を描く練習をし、その後、見本のピーマンや花を見ながら作品作りをした。受講者はどう描くか悩みながらも楽しく描いていた。

「英語でたのしく」はお互いに顔が見える形で座り、対話しながら英会話を学んだ。講師の海外生活の体験談など、異文化の興味深い話も聞け、始終和やかな雰囲気だった。

最終の「箏と尺八」は、紙芝居の朗読付きの曲や皆で歌える曲の演奏があり、受講者が箏に触れる時間も持った。講師の箏曲クラブ員と受講者との交流が生まれ盛り上がった。

交流会では講座の感想を交換し、今後、色鉛筆画や韓国語・中国語、生け花やボイストレーニングなどの講座を受けてみたいとの意見も出た。

### 前期プログラム

月/日	内 容	講 師
5/15	フラをたのしもう	野原美和(フラスタジオ主宰)
5/29	絵手紙はじめまして	青枝年子(絵手紙クラブ講師)
6/5	英語でたのしく	与那城テイ子(EEHクラブ講師)
6/19	箏と尺八/交流会	箏曲箏聖会(熊取町公民館クラブ)



フラをたのしもう

～アンケートより～

やさしい音楽にいやされ、先生のていねいなご指導で一曲踊れてたのしかったです。先生の踊りもすてきでした。(5/15) /描き方もぬり方も思っていた方法と違っていて難しくて楽しかったです。ありがとうございました。(5/29) /とても楽しかったです。現代の言葉も興味深く、発音も細かく教えていただき、ありがとうございました。あいさつも教えていただきしゃべってみたいなと思いました。(6/5) /おことと尺八は、初めて生演奏をきき、とてもいやされました。自分もやってみてみたいなと思いました。演奏会の後に実際にさわらせてもらえてとても貴重な体験をすることができました。参加してよかったです！！ありがとうございました。(6/19)

### 【後期】

11/6、11/20、12/4、12/18 木曜日 19時～20時半（全4回） 受講者 19人

約3分の1が現役世代で、男性は5人だった。

1回目は、浜手地区公民館職員を講師に、「星空観測」を実施した。天体や星座、観測に関する話を聞いた後、駐車場の一角に設けた観測場所に移動して実際に星空を観測した。望遠鏡は善兵衛ラ

ンドから借用した。望遠鏡の順番待ちの間に受講者間で星空談議に花が咲き、講座で初めて会う人同士も打ち解け、盛り上がっていた。

「貝塚の歴史」では、貝塚市の成り立ちや市内の史跡、昔の暮らしなどについての話を、受講者は前のめりになって興味深く聞いていた。今回の講座に出てきた場所を実際に歩いてみたいとの声がたくさん出た。

「モルック」ではスポーツ推進委員が4人来館し、ルール説明の後、4つのチームに分かれて対戦した。モルックは初めてという人がほとんどだったが、最年長と最年少がいるチームが優勝し、まさに老若男女誰もが楽しめるニュースポーツを体験できた。

「和菓子づくり」では、講師が用意したあんを形成して、雪だるまとクリスマスリースの形の練り切りの菓子を作った。皆それぞれ、世界で一つだけの可愛いお菓子ができ、自分で点てた抹茶とともにいただいた。受講者同士でお菓子を愛であったり、抹茶の点て方のアドバイスをしあったりと、会話が弾んでいた。

講座の中で問いかけ、講座終了後の3月に、自主活動として2回目の「貝塚の歴史」の地を実際に歩くこととなった。案内を貝塚観光ボランティアガイドに依頼し、5人が参加した。

#### 後期プログラム

月/日	内 容	講 師
11/6	星空観測	古家 和彦(浜手地区公民館職員)
11/20	貝塚の歴史	曾我 友良(文化財保存活用室職員)
12/4	モルック体験	貝塚市スポーツ推進委員
12/18	和菓子づくり	中島 美央(和菓子・茶道講師)



和菓子づくり

#### ～アンケートより～

土星、衛星、スーパームーンを初めて望遠鏡で見られて感動！！(11/6) /住んでいる貝塚の町がどのようにできたか、考えたこともなかったですが、道の事、教えていただき、納得できる部分がたくさんありました。お酒や、しょうゆが作られていたなんて、食べてみたかったなあ。おもしろかったです。(11/20) /はじめての和菓子づくりでした。いつも「パクッ」と食べるだけですがこんな感じで作っていたのと知る事ができました。(12/18)

#### <課題>

引き続き夜の講座を実施し、若い世代、仕事現役世代の更なる公民館利用の拡大、定着を図る。

自主活動やボランティア活動などにつながる講座の組み立て。

## 終活へ いらっしゃ〜い♪

### <ねらい>

なかなか聞けない終活準備についての、ノウハウを得る。  
不安を解消し、人生 100 年時代を愉しく過ごせる一助にする。  
夜講座として現役世代の参加を促す。

### <状況・成果>

12/2、12/9、12/16、12/23 火曜日 18時半～20時半（全4回） 受講者 15人

言葉として「終活」は定着してきたが、何から始めればいいのかと悩んでいる人が多くいる。今回は、現役世代の参加を視野に夜講座として開催し、併せてこれまでの内容に加え、終活を前向きに考えようとの思いを込め、「人生でしたい 100 のコト」をみんなで話し合う座談会を盛り込んだ。

「エンディングノート」は、市内の葬儀事業者に講師を依頼し、記載の留意点を話してもらった。受講者は、家族への思いや自身の意志を残すために、真剣な面持ちで記載する内容を聞いていた。講義のあとは、現物の棺を触ったり、中に入ったりして入棺体験をした。

「葬儀・お墓・永代供養」では、亡くなる前からの準備、死亡後の手続き、お墓への埋蔵についての話を熱心に聞きながら、ペンを走らせていた。事前に集めた質問でも挙がっていた「墓じまい」については、多くの受講者がその方法を知りたがっており、講座の中に盛り込んだ。

「遺言書保管制度、相続登記の義務化」については、講師が扱った事例に基づいた話で始まった。

「相続で揉めるのは、遺言書がないときなので、書くほうが良い」。そして「書くなら判断能力があるうちに」とアドバイス。また、「子どものいない方は遺言書を活用すべき」と強調した。法務局での遺言書保管制度を利用することで、個人（故人）の意思を尊重するとともに、遺言書が通知され子どもたちのいさかいが解消されるメリットがある。しかし簡単に作れる分、もちろんデメリットもあり、財産相続の細やかな指示については司法書士など専門家への相談を奨励していた。義務化については、「制度化で、過料罰が課されることになった」「登記件数が増え、所有者不明土地解消へ一歩を踏み出した」と制度内容や効果などを話しながらも、「過料罰は義務違反を確定することが非常に困難である」との懸念も表明していた。質疑応答の中では「兄弟の口約束は効力ある？」「親に遺言書を書かせる方法は？」などに、丁寧に答えてもらった。

「人生でしたい 100 のコト」は、受講者に生活、旅行、人間関係、趣味など多岐にわたって、やりたいことを考えたうえで、一人ひとつずつ発表してもらった。「フェイスブックを始める」「流氷を見に行く」や、「配偶者より先に逝く」との声に「わたしも同じ考えです」と笑いがおこるなど、やや重い感じがする終活を楽しく進めるきっかけになった。

夜開催で、全体としては受講者が少なかったが、現役世代の参加者が見受けられ、ねらい通りの効果があった。

日 程	内 容	講 師
12月 2日	エンディングノートを書こう（入棺体験付き）	㈱和泉セレモニーセンター
12月 9日	どうする？葬儀、お墓、永代供養	浜手地区公民館職員
12月 16日	遺言書保管制度、相続登記の義務化ってなに？	新川眞一司法書士事務所
12月 23日	人生でしたい 100 のコト	座談会（相互）

【受講者の感想】

(エンディングノート) 自分でノートを書こうと思う。／親に勧めにくいと思っていたが、気軽に書けるものとわかった。

(入棺体験) 思ったより狭かった。／入棺体験できることに驚いた。

(葬儀・墓・永代供養) 家族で話し合うことは必要と思った。／葬儀やお墓のホンネ(慣例と法令の違い)がよく分かった。

(遺言書保管制度・相続登記義務化) 遺言書保管制度を使用しようと思った。／財産は残さず、使い切ったほうが良いと思った。／遺族のトラブルを避けるため、遺言書を残そうと思う。

<課題>

「終活」に踏み出すきっかけ作りや不安解消のため、内容および開催日時を検討・精査しながら継続的な開催に努める。



## 星降る公民館☆ みんなで「皆既月食」を見よう

### <ねらい>

皆既月食の観望を機に、夜空のすばらしさに気づいてもらう。

現役世代の人に、気軽に来てもらうことで公民館デビューのきっかけにする。

### <状況・成果>

3/3 火曜日 19時～21時 受講者 17人

かしこく夜活（後期）で開催した「星空観測」が好評だったため、今回企画に至った。

はじめは、参加申し込みを受けず、だれでも気軽に来ることができるようにと考えていたが、職場で相談すると「夜の屋外講座で安全性の確保が困難」との意見があり、定員制・申し込み制に変更した。また、市立善兵衛ランドでも観測会を開催するため、「同じ内容でバッティングするのでは」との声も出たが、「夜間の運転に慣れないかたなど、地域でも一定の需要（観測希望者）が見込まれる」と、開催に向け動き出した。

ただ、雨など天候次第では「中止」になることから、ポスター・チラシにはその旨を記載し、（天候が不順な場合は）当日 15 時に開催可否を判断することとした。

市立善兵衛ランドには、公民館でも観測会を実施することを報告し、望遠鏡借用の依頼を行ない、当日の好天を待つばかりとなった。

そして迎えた 3 月 3 日のひなまつり、皆既月食当日。前線を伴った低気圧が、朝から雨を降らせるあいにくの天候となり、夜中まで雨予報だったため、15 時の時点で「中止」を決めた。

受講者からは、「月食は無理でも、ほかの日に星を見たかった」と失望と期待の声が寄せられた。今回、月食をメインに考えていたため、予備日を考えていなかったが、今後開催する場合は検討する必要がある。

### <課題>

興味深い天体現象などを選びながら、開催の検討を行う。また、予備日を検討する。

夜間の屋外講座となるので、安全面に留意する。

## 続ける！ノルディックウォーキング（高齢介護課共催講座）

<ねらい>

全身運動につながるノルディック・ウォークを体験し、フレイル予防・筋力アップを目指す。  
浜手ノルディックウォーククラブ員の新規獲得で、クラブ活動を支援する。

<状況・成果>

5/13、5/20、5/27、6/3 火曜日 14時～16時（全4回） 受講者 21人

講師：古澤裕文、堀川一代、宮内千代子、中西紀美代  
（大阪府ノルディック・ウォーク連盟南大阪支部）

高齢介護課との共催で、フレイル予防と筋力アップ、あわせてクラブ員の獲得も目標に、今年度も開催の運びとなった。クラブのメンバーには講座が始まる前に、



受講者と積極的に会話し打ち解けるよう促した。講師にも会員獲得のため、呼びかけなどの協力を依頼した。

初心者はもちろん、しばらくノルディックウォーキングから離れていた経験者などからも申し込みがあり、初夏を思わせる陽気のもと講座が始まった。講師が実演しながら、ウォーキングのポイントなどを説明し、受講者のひとり一人の身長と肩の動きに合わせ、ポールを調整し、ホールで実際にウォーキング開始。緊張からか、右手と右足が同時に出る受講者や、頭で考えながら歩くためか不自然なウォーキングになる受講者が多く、その都度、講師が適切なアドバイスを行った。

講座の中では、足にフィットする靴ひもの結び方も学び、各段に歩きやすくなるため、受講者は口々に驚きの声を漏らしていた。そのあと、本格的にウォーキングを開始するが、慣れないため、その都度、講師からポールを持ち方や体重のかけ方、重心の位置など細やかな指示を受けつつ、緊張しながらも市民の森まで往復した。

講師は講座内で、毎回クラブのことを紹介してくれ、クラブメンバーと受講者をペアにしたゲームも取り入れつつ、「学んだことを仲間と一緒に続けることが重要です」と、クラブ加入の有用性を語ってくれた。担当職員からも受講者に対して、声掛けやクラブ活動日の案内などを行い、講師の協力と、クラブメンバーの努力が実り、講座終了後、受講者2人がクラブへ加入し、仲間づくりの輪が広がった。

—参加者の感想—

教えていただいたことを忘れないよう、ウォーキングを続けていきたいと思います。／足の悪い私にとっての歩き方を、個別に教えていただき、「歩き方が良くなった」と家族から言われて、参加して良かったです。／講師の方に直接教えていただくのが新鮮です。自分の姿勢や足の運び方など、改めて見ていただくことが、自分のためになるのがうれしいです。／講師の先生のご指導はわかりやすく、4回はあっという間でした。ポールも購入しましたが、クラブ活動はもう少し検討してみたいです。

<課題>

経験問わず、楽しく参加できるコースや講座内容を検討する。

高齢介護課との共催で、引き続き開催に努めるとともに、クラブ員獲得につながる仕掛けづくりをすすめる。

## シニア世代の筋力アップ講座（高齢介護課共催講座）

<ねらい>

筋力が低下しやすいシニア世代の健康維持・フレイル（虚弱）予防をめざす。

<状況・成果>

9/2、9/16、9/30、10/7、10/21 火曜日 13時半～14時半（全5回）受講者31人

講師：梅本道代（Physical Heart®代表）

講師と打ち合わせを行い、全身の機能維持・改善の効果を考え、全5回の内容を、1回目は足と爪のケア、2回目からは順に、下肢、体幹、上肢、全身の体操やストレッチができるように組み立てた。

ペットボトルのダンベルを使ったりと少し頑張りが必要な筋トレもあったが、講師は受講者の様子を見て身体とともに頭も働かせるレクリエーションなどを組み込んで進め、無理なく、楽しんで参加できるように工夫していた。レクリエーションはグループに分かれてお互いの名前や動きをセットで覚えるものなどがあり、受講者同士の交流にもなっていた。成功して盛り上がったり、動きがこんがらがって笑いが起こったりし、なごやかな雰囲気になった。

最終回には全身運動である歩行の改善を目的に、頭にタオルを載せて落とさないように歩いたり、ホールの端から端までを任意の歩数で歩いたり、さまざまな運動やレクリエーションが行われた。

全回を通じて、講師が元気よく、受講者のやる気を引き出す声かけをしながら進めた。また、受講者から講師に個別に、外反母趾がひどくて歩行に支障が出ていることなどが相談されたが、講師は個別の相談にも丁寧に対応し、改善するためのアドバイスをしてくれた。高齢期の健康に不安を抱える受講者にとって講師は前向きに身体を動かす元気をくれるとともに、頼れる心強い存在となっていた。

講師は多忙で、クラブ・グループ化の実現は難しいが、高齢期の受講者の健康・体力維持のために、今後も高齢介護課との共催で講座を続けていきたい。

～アンケートより～

- ・足爪のお手入れを習いました。一生続けようと思います。
- ・仕事の都合で5回中3回の参加でしたが、先生のハツラツとした動きとお話から元気をもらえて良かったです。
- ・運動不足なので参加して良かったです。運動後はじんわり汗もかき、日頃使わない筋肉も使い、ほぐれてうれしかったです。
- ・体のいたみが取れました。足の役目など教えてもらっていたみを取りたいので。
- ・毎日続ける事が大事だと思いますが、なかなか持続できないですネ！そんな中、少しでも筋力アップできる内容のお話、ためになります。また次回も参加したいです。

<課題>

高齢期の継続した健康維持・フレイル予防。



## ぶらっと

### <ねらい>

心身に障がいのある人達が体験、学習できる場。

興味のある事、体験したい事を考え、計画、実行、振り返りまでを経験する場。

居場所づくり。

### <状況・成果>

5/11～3/1 第1日曜日 10時～12時 受講者延べ25人

今年度から新たな取り組みとして始めた講座。対象は、生きづらさを抱えている人を含め心身に障がいのある人とした。それぞれ障がいの種類や程度が違う受講者を受け入れ、かつ安全に講座を開催するために、障害福祉課等に相談し「受講シート」を作成。受講者に提出してもらうことにした。

初回「集まっておしゃべりしよう」は、受講者が1人だったため自己紹介や近況を話した後、自然遊学館を見学し、二色の浜公園を散策した。ゆったりとした2時間で、会話から受講者の日常を知る良い機会となった。

「水の実験を楽しもう♪噴水フルーツポンチ」は、水に関連した絵本を読んでもらうことから始まり、水の実験やクイズを行った。受講者はひとつひとつの実験に興味を持ち、積極的に参加し楽しんだ。

「レクリエーション」では、この講座の開始を知った山手地区公民館のボランティアより連絡を受け、協力を得ることになった。受講者全員がボッチャの経験があったため、ルールの確認後すぐに2グループに分かれて得点を競った。モルックは初めてだったので、投げる練習とルールの説明に時間をかけ進めた。受講者同士は支援センターや学生時代などの顔見知りということもあり、和気あいあいとした雰囲気の中ゲームを楽しんだ。

「キャンプ気分でホットドッグ作り」は、中庭で行う予定だったが、雨天のため料理室で行った。工程や味付けを受講者と相談しながら作ったホットドッグは、美味しそうに出来上がった。おしゃべりしながら食べる中で、講座について意見を聞くことができ、1月以降に取り入れ企画することにした。



1月～3月は、受講者のやりたいことを取り入れ実施したことでやりがいを感じていきいきとした姿を見る事が出来た。

### <課題>

興味を持ち楽しんでもらえるような内容にし、なおかつ学習できる場とする。

日時	内容（講師）	受講者
5/11	集まっておしゃべりしよう	1人
6/1	水の実験を楽しもう♪噴水フルーツポンチ （講師：ハピネスバコ）	4人
7/6	レクリエーションをしよう （協力：ぶらっとボランティア）	5人
9/7 中止	心と体を整える、姿勢と呼吸の時間 （講師：元林観さん 柔道整復師）	0人
11/9	キャンプ気分でホットドッグ作り	3人
12/21	クリスマス会	2人
1/11	初詣に行こう （場所：脇浜戎大社）	4人
2/1	恵方巻をつくろう	6人
3/1	レクリエーションをしよう	5人

## ふれあい料理

<ねらい>

料理を通して障がい者のできることを伸ばし、社会参加の場を提供する。

ボランティアとの交流を深める場とする。

<状況・成果>

5/12～3/9 原則第2月曜日(12月はクリスマス会) 10時半～12時半 (全10回)

受講者延べ153人(内、指導員延べ44人)

浜手地区公民館の「ふれあい料理」では、毎回、貝塚いぶき作業所、社会福祉法人どんまい、ワークサポートセンターらぱんの施設利用者が指導員とともに参加しており、ボランティアの手助けを得ながら、調理・配膳・片付けまでを行っている。

4月にボランティア・施設職員・公民館職員で今年度の「ふれあい料理打合せ」を開催。施設職員より「浜手のゆったりとした講座の雰囲気が参加しやすいので、このまま継続してほしい」との意見があり、昨年どおりの内容で実施することを決定した。初回、例年通りメニューを单品ごとに各班で振分け、分担して作っていたが、同じ作業が続く意欲が失せてしまい、途中で参加しない受講者が出てしまった。講座終了後、施設側から以前のように班ごとに全てのメニューを作ることは出来ないかと相談があった。このことについて次回担当のボランティアに伝え、施設側の希望に沿う方向で進めることになった。またこのことはボランティア内でも共有され、メニューの変更や段取りについて話し合っていた。



材料費が高騰しているため、米や調味料等が無駄にならないよう、残りの量を共有するなどして次回に使えるよう工夫している。講座終了後にはボランティアが毎回内容を振り返り、工夫できる点はないかなど確認し合い、よりよい講座運営に努めている。



施設職員からはこの講座をとっても楽しみにしており、参加できない時は、レシピを貰ってきて欲しいと言う受講者がいることや、人見知り強く外出が難しい受講者が、浜手地区公民館のふれあい料理に笑顔で参加できていることを、保護者は驚き喜んでいるとの話を聞いた。施設職員は、この様子を家族に見せたいとボランティア達と笑顔で写真を撮っていた。



心待ちにしている受講者が多いクリスマス会は、人形劇グループ「夢ふうせん」を招いた。クリスマスの音楽が始まると同時に、各テーブルを手作りのサンタの人形を持ちながら回り、興味を引く演出から始まった。その後の人形劇、腹話術、パネルシアターでは、受講者が参加出来るような内容で楽しんだ。食後はボランティアによる恒例のなまえビンゴで遊び、受講者全員にプレゼントを用意した。ふれあい料理講座は月に1回で、毎回メンバーも変わるが、12月だけは受講者、ボランティア共に勢揃いするので、他施設の顔見知りのメンバーや料理ボランティアと嬉しそうに話していた場面が印象的であった。

月日	メ ニ ュ ー
5/12	夏野菜カレー・マカロニサラダ・みかんとパインゼリー
6/16	オムそば・コールスローサラダ・中華スープ・プリンのフルーツ添え
7/14	ぶっかけそうめん・梅ご飯・なすの煮びたし・コーヒーゼリー
9/8	野菜たっぷりキーマカレー・コールスローサラダ・フルーツポンチ
10/6	三食丼・すまし汁・小松菜煮びたし・フルーツヨーグルト
11/10	スパゲッティミートソース・キャベツのサラダ・ロールパン・コンソメスープ・フルーツポンチ
12/8	【クリスマス会】鶏のからあげ・じゃがいものグラタン・スパゲティサラダ・ロールパン・スープ デザート（ショートケーキ・みかん）・飲み物（コーヒー・紅茶）
1/19	チキンのカンタン酢いため・豚汁・フルーツアイス
2/9	クリームシチュー・マカロニサラダ・キウイとオレンジゼリー
3/9	ちらし寿司・ほうれん草のおひたし・かき玉汁・カステラのフルーツ添え

<課題>

受講者が参加しやすいレシピの工夫と講座運営。

新しいメニューの研究や高騰する材料費への工夫。

## 浜手アフタヌーンコンサート

### <ねらい>

乳幼児から高齢者まで、誰でも身近に様々なジャンルの生の音楽に触れる機会を作る。

市民と協働で文化事業を実施することで、市民力を公民館事業に活かしていく。

### <状況・成果>

4/10～2/5 偶数月第2木曜日 14時～15時 参加者延べ716人

月/日	タイトル	内容	出演者
4/10	躍動の季、彩るサクソフォンの春風パート2	サクソ四重奏	岩本雄太、山本恵、金谷陽志、松田拓也
6/12	アンデスの風と陽気なひと時	アンデス音楽	アントニオ・カマケ
8/7	バリトンはいかが？	声楽(バリトン)、ピアノ	細川勝、田所千佳
10/9	ピアノであそぼう！！	ピアノ	宮崎剛
12/11	ようこそ！エレクトーンの世界へⅢ	エレクトーン、ピアノ	松内愛、多田憲伸
2/5	ヴァイオリンとヴィオラ友情物語	ヴァイオリン、ヴィオラ	中島慎子、古味亜紀

市民の企画委員と職員の協働で企画・運営を行った。毎回開演前に、乳幼児から高齢者や障がい者まで誰もが楽しめるコンサートであることを伝え、コンサートの最後には、来場者みんなで「ふるさと」の歌唱や手話を行っている。

4月、6月はこれまでも出演経験のある出演者が、楽しいトークとともに、コール&レスポンスや全員でダンスをする演出などを組み込み、参加者と一体になるコンサートをしてくれた。

8月はバリトン歌手の音量を間近で感じ、参加者が感激していたとともに、出演者からも、間近で聴いてもらえて嬉しかったとの感想があった。ユーモアのある曲も組み込まれていて、会場全体で楽しめた。

10月のピアノは、前半のクラシックの演奏では曲の解説もしっかりとしてくれ、参加者は興味深く聴いていた。最後、恒例のリクエストコーナーではその場で客席からリクエストを募り、15曲程度を即興で自由自在にアレンジし、演奏してくれた。

12月のエレクトーンでは今回、楽器に加え、スピーカーやケーブルなども出演者が手配して持ち込んだ。万全の環境を整えての演奏で、参加者らは序盤から音楽に合わせて体を揺らし、楽しんで聴いていた。途中、スペシャルゲストとして、テレビにも出ている奏者が登場し、会場はさらに盛り上がった。出演者は2人とも親近感の持てる話し方で、会場をあたたかい雰囲気にしてくれた。

2月は企画委員が出演交渉し、初めてのヴァイオリンとヴィオラの奏者が出演した。出演者が普段からネパールのチャリティー活動をしているとのことで、企画委員の発案で募金箱を置き、活動を支援した。息の合った美しいハーモニーが奏でられ、好評だった。

整理券は昨年度末から配布数を150枚に増やし、1人当たりの配布数は今年度から2枚までに減らしたが、ほとんどの回で当日までになくなっており、多くの人に求められるコンサートとなっている。

全回を通して、身近でアットホームな、あたたかいコンサートで、「障がいのある人も楽しめる」とうたっており、「車椅子で参加する」、「足が悪いので席を配慮してほしい」、「ガイドヘルパーと

一緒に行く」等相談も多い。ゆっくりと音楽を聴いてもらえるように、席を配慮するなど丁寧に対応している。

～アンケートより～

4月：今日のアフタヌーンコンサートとても楽しみにしていました。サクスの四重奏、最高でした。MCもおもしろくとても良かったです。アツという間の一時間でした。又の機会を楽しみにしています。

6月：カマケさんのコンサートは、音楽だけでなくトークも楽しく、心が明るくなります。“コンドル～”はペルーの風を感じます。/南米の風と空気、陽気さを届けてくれて、ありがとうございました。周りの人も楽しかったねと言っていました。

8月：すばらしかった！！体全体が楽器のように思いました。バリトンの声をきくのが心地よかったです。/オペラ鑑賞のコツがわかったような。歌の深みを支える細川さんの人間の深さを感じた。すばらしかった。

10月：曲の解説がわかりやすく、それをふまえて聴くことができとても興味深く楽しかったです。先生の集中力と技術力の素晴らしさをあらためて実感し感動しました。リクエストコーナーはさすがです！！とてもよい時間をありがとうございました！！

12月：エレクトーン一台でいろいろな音を奏でられてオーケストラを聴いている様な。とてもすてきでした。サプライズゲストのけんしん君もすごく良かったです。明日出演番組をみようと思いました。いい演奏をありがとうございました！！

2月：バイオリン、ビオラの春の海、いつもとちがう春の海がうかんできました。いいですね！ちょっとしずんだ気持ちだったのですが、終わった後は心はればれ。音楽の力、すごい！！

### <課題>

市民企画委員と協働で、市民が身近に様々なジャンルの生の音楽に触れる文化事業を開催していく。

引き続き、乳幼児から高齢者、障がいのある人など様々な人が気軽に参加できる場としていく。



6月「アンデスの風と陽気なひと時」



8月「バリトンはいかが？」



12月「ようこそ！エレクトーンの世界へⅢ」



2月「ヴァイオリンとヴィオラ友情物語」

## Autumn Jazz Concert

### <ねらい>

フルバンドの迫力ある生演奏を味わう。

親しみやすい文化事業をきっかけに公民館利用を促す。

### <状況・成果>

9/21 日曜日 13時半～15時半 参加者 108人

出演：中野ひろし&スウィングガイズオーケストラ 20人

フルバンド開催が5度目となった「Autumn Jazz Concert」は、恒例の文化事業となっている。ポスター掲示や広報配布の前から多くの問い合わせがあり、整理券配布の当日は窓口で列ができ、数日で予定の120枚に達した。その後もキャンセル待ちなどの問い合わせが相次いだ。

コンサートは、毎回20人ほどの出演メンバーが集まる。駐車および機材搬入出のため、おおぞらこども園の駐車場を借用しているため、円滑に進めることができています。

演奏当日、開場前から多くの方が来館し、ホール前やロビーは賑わっていた。あわせて、キャンセル待ちで早くから並ぶ人もおり、このコンサートを楽しみにし地域から親しまれている様子が伝わってきた。

メンバーは午前中に集合し、機材搬入後、ホールで念入りにリハーサルを行っていた。

今年のテーマは、「ジャズで奏でる映画音楽」。演奏は「Moonlight Serenade」から始まり、聴きなじみのある「On The Sunny Side Of The Street」「Singin' in the Rain」など、スタンダードナンバーの映画音楽を中心に演奏された。演奏の合間には、バンドマスターが、映画の説明を交えつつ曲名を参加者に問いかけるなど、参加者との掛け合いも楽しんでいた。

演奏終了後は、出演者による「参加者の見送り」が行われ、互いに声を掛け合っていた。演奏中を含め、このような親しみやすいやりとりがコンサートの魅力でもある。

バンドマスターが高齢ということもあり、健康状態に配慮が必要になってきているので、開催については負担が少ない形で継続していきたい。

### 【アンケートの感想より抜粋】

- すごく楽しめました。楽しくて楽しくて、もっと聞いていたいくらいです。ありがとうございました。
- なつかしい映画音楽を聴けて大変感動しました。中野さんの会話も楽しかったです。
- 生のフルバンドの迫力はすばらしいです。JAZZを近くに聴かせて頂いて、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。
- JAZZは、今まであまり聞けなかったが、本日聞いて大変良かった。心に響きました。ありがとうございます！
- 大迫力ですばらしかった！中野さんの解説も楽しく、すごく楽しめました。
- なつかしい曲ばかりでよかったです。

### <課題>

フルバンドコンサートの継続開催または新規文化事業の拡充。



## にんぎょうげき

<ねらい>

子どもから大人まで、生の人形劇を楽しむ。

公民館や地域で活動しているグループの交流、発表の場とする。

<状況・成果>

2/21 土曜日 10時半～11時10分 参加者102人



出 演	演 目
おおぞら劇団（おおぞらこども園保育教諭）5人	ジャックと豆の木
人形劇きしゃぽっぽ（浜手地区公民館クラブ）4人	なかよし

今年度も人形劇きしゃぽっぽ（以下、きしゃぽっぽ）とおおぞら劇団に依頼し、乳幼児や小学生、大人も楽しめる人形劇を開催した。

今回はきしゃぽっぽの提案で、小さい子の集中力などを考慮し例年と出演順を入れ替え、おおぞら劇団の演目とつなぎの手遊び、きしゃぽっぽの演目の順になった。

昨年度は日程の都合でできなかった2団体合同での事前リハーサルを、今回は1週間前と前日に行うことができた。1週間前のリハーサルでは、おおぞら劇団は人形や大道具小道具をどう動かすか、どう見せるかなどを悩んでいる様子だったが、きしゃぽっぽの助言を受け、何日かのうちにどんどんでき上っていった。

当日は、こども園の園児も含め、たくさんの保護者と子ども達が集まった。母親だけでなく父親も一緒に来る家族や、祖父母と来る子がいたり、全体的に男性の参加が増えている様子がうかがえた。

おおぞら劇団は、人形の動きと生演奏のピアノの効果音もぴったりで、観る人を引き込んだ。きしゃぽっぽは、人形や小道具の動きがたくみで、その場で子どもが発する声を聴いてアドリブも入れながら演じ、みんなを楽しませた。今回、どちらの団体も人形が客席を走り回る演出があり、子ども達は出てきた人形を立ち上がって目で追いかけて、大いに盛り上がった。

幕間の手遊びを今回はおおぞら劇団が担当したが、こども園の教諭達は、子どもの心をつかむのがとても上手だった。また、障がいのある大人が本当に楽しそうに参加していた姿も印象的だった。

心配されていた子ども達の集中力も、構成や演出の工夫で最後まで途切れることなく、終了後は出口で恒例の人形達のお見送りがあり、出演者と子ども達が交流する機会となった。

出演者の反省会では、今後さらに良くするためにどうしたらよいか、意見が交わされ、次年度の出演も約束し、終了した。

～アンケートより～

子ども達、とても楽しんでました。特に、客席の方に人形たちが出てくる演出がとても盛り上がっていてよかったです。毎年たのしみにしています。ありがとうございました。/普段おちつきのない息子ですが、集中して見ており、興味深く人形劇を見ていました。

<課題>

子ども達、親子が楽しめる人形劇の継続。

引き続き複数団体の出演とし、団体間での交流及び、出演者と参加者の交流を図る。

## トールペイント展示&体験会

### <ねらい>

アメリカやヨーロッパ等、各国のトールペイントの文化を知る機会。また、トールペイントを身近に感じ、体験する機会。

### <状況・成果>

展示期間 2/14～2/22

体験会 2/19 木曜日 10時～14時 参加者9人

展示協力者 川端 英子 (アトリエ・リ・ベール)

クラブ講師から川端さんの紹介があり、11月に市民ロビー展を開催してもらった。並べられた作品を前に、同じトールペイントでも国によって描き方や歴史が違うことを展示者から教わり、またクラブ員や地域の人がじっくりと見入り好評だったため、再度展示と体験会をすることにした。

内容は時期的にお雛様を中心に展示し、体験会も雛人形を作ることになった。参加者は、人型の板材に目や頬の色を付け、好みの生地で着飾り、自分だけの雛人形を作っていた。中には、「トールペイントを教えてほしい」と言う人もいたが、浜手地区公民館でグループ活動をすすめるには人数が少なかった。

### <課題>

今後もさまざまな文化を伝える機会を増やしていく。



## 保育ボランティア

### <ねらい>

保育付き講座の受講者が安心して受講できるよう、子どもにとって安全な保育を実践する。

ボランティアが活躍できるようサポートする。

### <状況・成果>

定期登録者 9 人 不定期登録者 12 人

今年度、5/16～7/4 の保育付き講座「げんきに子育て」の保育は、1～2 歳の子ども 8 人の申し込みがあり、コロナ後としては最大の人数となった。講座開始前の定期登録者は 7 人だったが、日程が合わなかったり、怪我をして積極的に保育できないという人がいたり、定期のメンバーだけでは保育者の確保が困難な状態だった。そのため、5/9 の準備会の後、主に他館で活動している不定期登録者に館から保育の依頼をしたが、同時にボランティアからも以前のボランティアや新規の知り合いに声をかけ、講座 1 回目に集まってみると、子どもよりボランティアの数が多い状況となってしまった。多くの協力者を集めたのはボランティアの力であるが、全体での調整が課題となった。



ボランティア達にも、連絡の仕方や、浜手のボランティアのあり方に対する問題意識が生まれ、講座期間中にボランティアと職員で話し合いの時間を持った。ボランティアからは、浜手のボランティアグループを固めていきたいとの意見も出た。今後グループとして情報を共有できるよう、以前からあった浜手保育ボランティアのライングループを整理して職員もそこに加わり、保育の依頼、調整がスムーズにできるようになった。

ボランティア達にも、連絡の仕方や、浜手のボランティアのあり方に対する問題意識が生まれ、講座期間中にボランティアと職員で話し合いの時間を持った。ボランティアからは、浜手のボランティアグループを固めていきたいとの意見も出た。今後グループとして情報を共有できるよう、以前からあった浜手保育ボランティアのライングループを整理して職員もそこに加わり、保育の依頼、調整がスムーズにできるようになった。

保育時、ボランティアは、子どもの様子を気にかけて、丁寧に接していた。毎回の講座前後には、母親から子どもの家での様子を聞いたり、母親に保育中の子どもの様子を伝えたりし、母親達にとって、身近な相談相手にもなっていた。

最終日に渡すのが恒例となっている子ども達へのプレゼント作りは、ボランティアの一人が写真立てを提案し、毎回少しずつ作業をして完成させた。

今年度ボランティア達はほかに、SALON BeBe の造形あそびや 5 月のパパサロン、公民館大会保育など、活動の幅を広げている。1 月からは春夏の「げんきに子育て」の受講者達が企画した冬講座の保育も行った。

冬実施の「げんきに子育て」は、保育の子どもが定員いっぱいの 10 人となった。前期よりもさらに子どもの数は多くなり、前期にボランティアから要望があった、ボランティアと子どもの数が 1 対 1 という訳にはいかなかったが、公民館での保育に慣れた子達であることもあり、ボランティアは 1 回当たり 6～7 人で対応した。その際出席したボランティアで、どうすれば人数の多い子ども達をスムーズに引きつけて遊べるか話し合い、主体的に関わる頼もしい姿があった。

### <課題>

新規ボランティアの確保。

ボランティアの活動機会を継続し、乳幼児親子との交流を進める。

## ふれあい料理ボランティア

<ねらい>

障がい者の料理作りのサポートを通して、食の自立への支援を行うと共に、ボランティア集団の学びの場とする。

<状況・成果> 登録者数 12 人

4/14、ふれあい料理講座打合せをボランティア、施設職員、公民館職員の三者で行った。昨年度の感想や今年度に向けて意見交換をした中で、施設職員から「浜手のゆったりとした講座の雰囲気居心地よいのでこのまま継続してほしい」と意見があり、今年度も同じ規模・運営方法で開催することを決めた。

12名（4人×3グループ）で活動していたが、1名減ったため他グループから補充して進んでいた。8月、ベテランボランティアの声かけで1人加わったが、9月に1人体調不良で休養をとることになった。再びボランティアの声かけで、10月に新しいメンバーが加わった。この体制を整えたのは、地域活動を活発に行っているボランティアの人脈の広さである。

5月の講座終了後、施設側から「メニューを班で分担して作るのではなく、全てのメニューを作る方法に変更してほしい」と要望があった。このことをボランティアに伝えると、早速対応し、ボランティア内でも共有され、メニューの変更や段取りについて話し合い、その後も継続している。

11月には毎年行っているクリスマス会の打合せをした。打合せの始まりは職員が進行したが、次第にボランティアが中心になり役割、段取りを決めていき、新しいメンバーにも分かりやすく丁寧に説明をしていた。物価の高騰により、少ない予算内でのやりくりと、時間内に完成させるための段取りが、話し合いの中心となり、アイデアを出し合い、それすらも楽しむように進んでいた。

クリスマス会当日はボランティア全員が参加し、料理を作り、配膳、片付け、なまえビンゴゲームの進行などを行った。60

人分の料理を準備するだけでなく、ゲームの進行までを担い無事に終了できたのは、普段からお互いを気遣い協力し合いながら続けてきているからだと感じる。

講座終了後の振り返りや次回の打ち合わせで、ベテランのボランティアが新しいメンバーに、公民館でのボランティア活動に留まらず、地域活動の大切さや楽しみ方を伝えている場面を目にする。公民館にとっても地域にとっても心強い存在である。

<課題>

ボランティアが活動しやすい支援。



## 浜手アフタヌーンコンサート企画委員

<ねらい>

公民館と市民との協働でコンサートを企画・運営し、公民館事業に市民の力を発揮できる場をつくる。

<状況・成果>

6人で活動している。2ヶ月に1回、計6回の企画委員会議を行い、浜手アフタヌーンコンサート（以下、アフコン）開催ごとの振り返りと、今後の企画・打ち合わせなどを行った。コンサートの感想やアンケートを元に、どうすれば、より参加者に身近に楽しんでもらえるかを職員とともに考えて、運営に参画している。

都度のコンサートでは、ポスター掲示やその依頼、近隣へのチラシポスティング等の広報活動、当日の準備・受付・開演挨拶・来場者対応・片付け等を職員とともにいった。

しばらく休んでいたメンバーもいたが復活し、現在委員の活動は安定している。委員の周知、メンバーの確保のため、広報かいつか5月号に募集記事を掲載したが、問合せや申込みはなかった。

新しい出演者を開拓するため、委員が市内のコンサートに出向き実際に演奏を聴いて出演交渉をし、2月は初めての出演者での開催にこぎ着けた。委員の意欲と行動力、交渉力が発揮された。

また今年度は、二色学園コラボ芸術鑑賞会にも関わり、アフコン出演経験のある音楽家を、出演へとつなげた。

<課題>

引き続き、来場者が身近に楽しめるコンサート作りへの協力を促していく。

## 図書整理ボランティア

<ねらい>

ボランティアの協力を得て、多くの方が本に親しみ楽しめる環境を整備する。ボランティアが主体的に活動できる場の提供。

<状況・成果>

家庭文庫「エルフの森」が図書コーナーで月3回程度、本の整理を行っている。季節やテーマに合わせて入れ替え、たくさんある本の中から親子連れや子ども達にお勧めの本を陳列している。

今年度図書コーナーのカーペットを張替え、この機会に絵本を陳列していた面展台が、古く不安定になっていたため安全面を考慮し撤去することにした。しかしボランティアから「その面展台は、利用者の目に留まり、手に取りやすくするため残して欲しい」と要望があった。

検討した結果、公民館利用者も所属している「二色木工ボランティア」に面展台の製作を依頼することにした。図書整理ボランティアと二色木工ボランティアが集まり職員も交えて打ち合わせを行い、サイズや材質等細かな仕様を決め、その後の調整は職員が連絡役となり製作を進めた。1ヶ月後、木の温もりのある、こだわりの詰まった本棚が完成し設置した。また、ボランティアから「より絵本を見やすくしたい」と提案があり、図書コーナーのレイアウト変更を行い、以前よりも絵本が見やすく手に取りやすい空間となった。図書コーナーは、靴を脱いで利用することにしたため、幼い子どもが直接本を手にとることが可能になり、親子でくつろぐ姿が見られるようになった。

<課題>

引き続き、ボランティアが主体的に活動できるよう支援する。



## ふれあいまつり

### <ねらい>

公民館で活動しているクラブの活動成果発表の場。

クラブや地域団体・参加者との交流の場。

### <状況・成果>

10/25 土曜日（展示のみ） 13時～16時 参加者延べ130人

10/26 日曜日（舞台・展示・模擬店） 10時～14時 参加者延べ1,000人

参加団体：20クラブ、7団体



昨年度、クラブに入らなくても舞台発表ができるという現状が、グループ活動に留まる一因になっているのではないかと、という意見があり、4月に団体へ参加伺いをする際、「よる☆うた」と「ノイジーパパ」には、利用者連絡会（以下、利連）の代表から、利連へ加入したうえで舞台へ参加してほしい旨を伝えた。「よる☆うた」は1月にクラブになることが聞けたが、「ノイジーパパ」は、利連加入には至らず舞台参加もなかった。また、クラブでは、まつり前に「書道 木曜会」が廃部、「朗読グループ サルビア」が休部となり不参加、「おやじの料理」は参加の方向で会議に出席していたが、途中でまつり本番が別行事と重なり主要メンバーが参加できないことがわかり、出店なしとなった。

運営の簡素化を目指し昨年度から動いてきた実行委員長は、今年は委員長の肩書も外し、「まつり担当者」という形に関わった。肩書は変わったが通常通り代表の役割を果たし、全体把握に努めていた。5月実行委員会の全体会議では、日程や場所についての確認と今年もチラシは作らないがプログラムは作成することを決めた。また、三部会（舞台、展示、模擬店）に予算一万円を配分し、リーダー・サブリーダーを中心にやりたいことを形にしてほしいと伝えた。

舞台部会ではオープニング出演団体についても話し合い、二色学園ブラスバンド部の出演が決まり、その後の二色学園への挨拶も主体的に動いていった。

展示部会では、展示で出展するクラブが減ったことで講座室が寂しくなると予想し、賑わいのある1階ロビーで展示したいという案がでた。模擬店部会や全体との調整が必要であることを説明すると、提案した実行委員が率先して、まずは展示部会と模擬店部会リーダーが、最後には三部会リーダーとまつり担当者が集まる場を設け調整を進めた。更に、図書コーナーが土足厳禁となった（カーペット新調）ため、7月会議で決めたことの一部に変更が生じた際も、展示部会のリーダーとサブリーダーが話し合い、担当職員も相談に乗った。このように、その都度丁寧な話し合いができたことで、その後の準備やまつり本番はスムーズに進んだ。

アンケートには「講座室は人の流れが少なく一年の成果発表の場であるのに多くの人に鑑賞してもらえない、という今までの意見がやっと反映された（展示部会）」と書いてあった。また、模擬店部会では、講座室にバザーと子どもの遊びの店を出したことで、来年度の課題が見えてきたようだ。

誰でも担えるまつりを目指し2年間仕掛けづくりをして支えてきたが、来年度の実行委員長をどうするかはまだ見えていない。ただ、ふれあいまつりが利連役員以外でも、誰でもできるというイメージは付いた。今後も三部会リーダーが中心になり運営していくことを支えていく。

### <課題>

誰でも担えるまつりを目指した2年間の取り組みを継続する。

## 二色学園コラボ芸術鑑賞会

<ねらい>

コミュニティ・スクールの観点より、二色学園と地域住民、公民館利用者がつながりを深める機会とする。

<状況・成果>

10/17 金曜日 10時45分～12時半

参加者 二色学園生徒 208人 二色学園保護者 15人 公民館利用者 80人

出演 佐々木 涼輔 (テノール)、宮崎 剛 (ピアノ)、二色学園ブラスバンド部

協力 アフタヌーンコンサート企画委員



昨年度二色学園が開校し、コミュニティ・スクールの観点から始めた二色学園と浜手地区公民館のコラボ芸術鑑賞会。2回目となる今年度は、アフタヌーンコンサート企画委員であり二色在住の細川さんに協力を依頼し、地元パークタウンで生まれ育ったテノール歌手の佐々木涼輔さんと、毎年アフタヌーンコンサートで大人気のピアニスト宮崎剛さんの協演が実現した。

二色学園・企画委員と打合せを重ねる中で、この芸術鑑賞会の目的が、①子どもが「ホンモノの音楽」を聴く、②音楽家を目指すきっかけや生い立ちなどの話を聞き、より身近に芸術を捉える、③二色学園ブラスバンド部との協演、の3本柱に決まっていた。

また、初めは出演者二人が別々で演奏する予定だったのが、佐々木さんの伴奏を宮崎さんが買って出て演奏してくれることになった。そこに、二色学園ブラスバンド部も加わった演奏が本当にうまくいくのか、不安があったため、リハーサルの日を設けることにした。三者が揃ったリハーサルは30分と短い時間だったが、プロと音を合わせていく作業は、生徒たちにとって貴重な経験となり、かけがえのない財産となったようだ。三者はこの日を含め本番直前も打合わせをし、より良い演奏会を目指していった。

当日までの準備物や会場の配置については、いくつか二色学園と丁寧なすり合わせが必要だった。例えば、イスを並べず鑑賞させたい学園側と、大半が高齢者という公民館利用者のことを考えてイスを並べたい公民館側とのくい違いなどが挙げられる。結果、当日の会場準備は公民館が担い、イスは後方の左右に50脚を並べる形で納まった。

本番当日、1曲目から子どもたちは佐々木さんのきれいな歌声や声量に圧倒され、一瞬会場が静まり返ったようだった。続く宮崎さんの巧みなピアノ演奏にも聴き入り、ほぼ全員が前を向き真剣に鑑賞していた。そして、曲の合間には出演者二人の小学校での思い出話などがあり、そのフラットな会話から親近感が生まれた。子どもたちはみんな思いおもいに身体を揺らしたり、また、アニメ曲では佐々木さんの誘導で、曲に合わせて「ヘイヘイ」と言いながら拳を突き上げるポーズをしたりと、思う存分音楽を楽しんでいた。

後半は、二色学園ブラスバンド部も交えた演奏とみんなで歌い演奏する二色学園校歌で、リハーサルの成果が十二分に発揮され、会場は一体感が生まれ盛り上がった。後方で見えていた大人達もその雰囲気を楽しむ、帰り際には「すばらしかった!」「癒されました」「ありがとう」という感想がたくさん聞かれた。このコラボ芸術鑑賞会は、保護者や浜手地域の公民館利用者も参加できることが醍醐味で、普段から地域の大人に見守られ育つ二色学園の子どもたちと、それに関わる大人たちの温かい関係(絆)が垣間見える良い機会となっていることがわかる。



～ほっと♡エピソード～

曲の合間に、佐々木さんが音楽の道に進むきっかけとなったエピソードを話してくれました。(学生の時に、先生からソリストを任されたことがきっかけで、音楽を続けていこうと決心した話)それを聞いた本宮先生(ブラスバンド顧問)は、休憩時間に演奏者お二人と相談し、二色学園校歌2番を生徒のKさんにソリスト指名したそうです。佐々木さんからマイクを渡されたKさんは見事な歌声を響かせ、会場から大きな拍手をもらいました。音楽家たちのバトンが子ども達に手渡された瞬間をたくさんの地域の方々が見守りました。きっと子ども達の未来が拓かれていくことでしょう。

(アンケートより)1年生から9年生まで皆が楽しめる選曲をして下さっていて素晴らしいと思いました。/唱歌から歌曲、クラシック、ポップスまで多様なジャンルで本当に素晴らしい演奏でした。/歌声も美しくピアノもすばらしく感動しました。/校歌を大きな声で元気よく歌っていて嬉しく泣きそうになりました。/7・8・9年生の鑑賞態度がさすが!!でした。集中していてすばらしかったです。/ブラスバンド部の活躍も応援しています。

<課題>

学校との連携や協働について理解を深める。

## プレイルーム開放

<ねらい>

利用のない時間帯にプレイルームを開放し、乳幼児親子が安心して過ごせる場を提供する。

<状況・成果>

4/1～3/31 (164回 延べ424人)

近隣に乳幼児のいる家庭や転勤で貝塚市に住むことになった家庭も多く、乳幼児親子が安心して過ごせる場、親子同士が交流できる場として、利用のない時間帯にプレイルームを自由に使えるよう年間を通して開放している。同じ時間帯に他の親子が遊びに来た時は一緒に使用してもらうよう伝えている。

今年は、家族や友達家族の他に、面識のない親子と一緒に利用する事が増えた。また SALON BeBeに参加している親子の利用も多い。子どもが活発になり行動範囲が広がると、室内で遊ぶ機会は少なくなるが、暑さ寒さが厳しい季節は、子どもを遊ばせるためにこの場所があることは助かると母親が話していた。また、この事業を通じて、ロビーでコーヒーコーナーボランティアやクラブ活動に来た人が親子に声をかける姿をよく見かけ、幼い子どもを連れた親子が、公民館利用者と交流できる機会となっているようだ。母親は「みなさんに声を掛けてもらい可愛がってもらっている」と嬉しそうに話していた。行動範囲が限られる幼い子どもを連れた親子にとって、気軽に立ち寄り、過ごしやすい場所となっているようだ。

<課題>

乳幼児親子が安心して過ごせる居場所の周知を図っていく。

## 防災講演&落語

<ねらい>

地震・津波災害に対する意識向上を図り、対応力を習得する。

難しいことを笑って学ぶ機会とする。

<状況・成果>

2/8 日曜日 13 時半～15 時半 参加者 70 人 講師・出演：桂 福丸



異常気象などに伴う自然災害が多発し、地震による津波被害も想定されている。そのため地域住民と一緒に、防災意識を高めたいと考え、「難しいことを笑って学ぶ機会」として、防災士の資格を持つ落語家を招き「防災講演&落語」を企画した。

講師は、高校生で東灘区在住時、阪神淡路大震災に被災した。防災講演はその体験から話が始まった。「当時と今では、ライフラインの電気、水道、ガスの重要性が変化しており、スマホの普及で通信・情報収集のため電気の重要性が増している」と述べ、バッテリーやソーラータイプの充電器などを紹介。また「防災の敵は思い込み。地震なんて起きたことがない。起こるはずがない、など自分の思い込みを変えることが、防災につながる」と話しながら、クイズを4問出題し、参加者は自身の思い込みをなくして答えを導き出そうと頭をひねっていた。全問解けた人はいなかったが、思い込みをなくすためのきっかけを得たようだった。

続いて、避難所と避難場所の違いについて、「避難所は被災後生活を維持する場所で、避難場所は被災時早急に命を守る場所」と説明。具体的に言うと「公民館内で火事が起きたら、避難場所は建物の外、地震で津波がきたら、公民館の2階(建物の上階)というように、災害によって変わるのが避難場所」との話に、参加者はうなずきながら、認識を新たにしていた。

最後に講師から、「地域の防災力は人間力の和。避難所では家族以外の人と生活する。そのとき、知り合いが多いほどもめ事が少ない。ストレスが少ない。顔見知りを増やすことが防災力の向上につながる。そういう意味では、今日の防災講演&落語は、非常に良いイベントだ」と参加者を笑わせながら締めくくった。

落語の演目は「たいらばやし(平林)」。他人の言葉を信じた(思い込んだ)がゆえのオチがつき、参加者は大いに笑っていた。

学びと笑いがいっしょになり、「とても分かりやすく、あっという間だった。たくさんの知識を得ることができた(防災講演)」「クイズを交えて、面白おかしく話していただき、楽しかった(防災講演)」「一人で何役も演じる力が改めてすごいと思った(落語)」などの感想が寄せられた。

開催当日は今季一番の冷え込みに降雪と強風で、まさに災害級の天候に見舞われたが、無事に終えることができた。また、午前中は、浜手地区公民館利用者連絡会主催による同講演を行い、利用者の輪と防災の輪を広げることにもつながった。

<課題>

引き続き、地域課題をさぐり、解決に向けた具体化に努める。

## ロビー活用（展示・図書・コーヒーコーナー）

### <ねらい>

市民のコミュニティの場として整備し活用する。

### <状況・成果>

ロビーには歓談しやすいようテーブルとイスを配置し、小学生から高齢者まで、さまざまな年代の人が利用している。平日の11時から14時は地域ボランティアと障がい者施設（火曜日は社会福祉法人どんまいのボランティア、金曜日はいぶき作業所）がコーヒーコーナーを開設しているの、それを楽しみに、地域の人やクラブ員がコーヒーを片手に談笑し賑わっている。

今年度7月に図書コーナーの床（カーペット）を新調し、裸足でくつろげるスペースにした。赤ちゃんや子どもが寝そべり本を読むなどリラックスできるが、高齢者にとっては靴の脱ぎ履きが大変な面もあるので、イスや靴べらを用意し、また寒さ対策にスリッパも置いた。更に、絵本の面展台を二色木工ボランティアに作ってもらい環境を整えた。このことを子育て支援調整委員会の会議で報告すると、「もっと宣伝したら良い」と意見をくれたので、図書コーナーを「ハマチクライブラリー」と名付け、写真付きで子育てナビゲーションに載せ宣伝した。

ロビーに人が集まることで、公民館の講座・事業のチラシをじっくり見て、持ち帰ったり講座の申し込みをしたりする人が多くなっている。

### 【ロビー展示】

展示内容	期 間
大阪関西万博PR動画	4月～5月11日
流木・流石アート	6月6日～6月26日
Nゲージ鉄道模型 展示走行会	8月2日～8月3日
鉄道 記念乗車券 展示	8月2日～8月16日
夏の子ども講座 作品展示	8月5日～8月18日
二色校区福祉委員会 サポート部会活動紹介展示	8月8日～8月18日
夏の子ども講座報告	9月1日～9月30日
二色木工ボランティア針金ファルテット	9月16日～9月21日
二色木工ボランティア木工作品展示	9月22日～10月6日
夏のしゃべり場☆かき氷トーク展示	10月5日～10月24日
クリスマスツリー（放課後子ども教室活動）	11月6日～1月29日
中央公民館 ろうの花クラブ作品展	11月11日～11月25日
かいづか家族の日 展示	10月21日～10月25日
中央公民館 ろうの花クラブ作品展	11月12日～11月26日
かいづか家族の日 展示	11月17日～11月28日
トールペイント アトリエ・リ・ベール	11月29日～12月7日
山手地区公民館 絵手紙クラブ	12月9日～12月26日
貝塚公民館大会 PR動画	12月12日～12月21日
トールペイント アトリエ・リ・ベール2	2月14日～2月22日
二色校区福祉委員会 クラブ活動展示	2月24日～3月2日
木工ボランティア だんじりプラレール	3月12日～3月31日

### <課題>

引き続き、誰もが集いやすい居場所作りの工夫。

## 二色学園校区地域学校協働本部会議（すこやかネット）

### <ねらい>

校区内の学校、公共施設、地域の団体・住民が情報を交換し、定期的な会議での交流を深めることにより、子どもを中心とした事業の協働を進める。

### <状況・成果>

毎年、年3回の会議に出席し、周辺施設、学校、こども園、地域団体の近況報告、課題・問題点の解決のため情報を共有している。定期的に発行されている「すこやかネットニュース」には、子ども対象の公民館事業などを記事として提供した。

### <課題>

地域の子どものすこやかな成長と見守りのため、公民館としての役割を担っていく。  
協議会でのつながりを事業運営に繋げる。

## 二色パークタウン（連絡協議会・防災専門委員会・盆踊り実行委員会）

### <ねらい>

地域住民との相互交流を図るとともに、会議に参加し、課題の解決・地域の福祉に資する。

### <状況・成果>

パークタウン連絡協議会・防災専門委員会・盆踊り実行委員会に、地域の公民館として、職員が情報交換やその地域独自の課題について共有するため、年に十数回ある会議に参加している。

「盆踊り」も、公民館からは「赤ちゃんの駅」設置で協力し、安全・安心の開催に寄与した。

「パークタウン防災訓練」は、4月からの新役員とともに、隔月に開催される防災専門委員会を重ね、避難訓練前日には豚汁の炊き出し準備などに参加した。また、防災専門委員会に参加したことによって、地域住民の防災に対する意識の高さを改めて認識した。

### <課題>

引き続き、昨今の社会状況をふまえ、地域の公民館としての役割を検討していく。

【参考】ほかでもがんばっているよ 浜手地区公民館利用者連絡会所属クラブの地域での活動

月日	クラブ名	会 場	備考（感想など）
4月5日	ハーモニカ・アンサンブル 「アンダンテ」	あゆみの丘 (アジュール集会所)	ハーモニカに合わせて、喜んで歌っていただきました。
4月11日	ハーモニカ・アンサンブル 「アンダンテ」	女性学級 岸和田市光陽公民館	メンバー6人で不安でしたが、皆さん元気よく大きな声で歌ってくれ、楽しく過ごせました。
4月24日	ハーモニカ・アンサンブル 「アンダンテ」	二色の浜安心住宅	歌詞を大きく書いてくれて、昔の歌も頑張って覚えて歌って、盛り上げてくれました。
9月11日	ハーモニカ・アンサンブル 「アンダンテ」	二色の浜安心住宅	ハーモニカについての質問があったり、曲を聴いて涙を流す方もいて、メンバーももらい泣きしていた。
11月8日	コーラス サラダボール	デイサービスあゆみ野	「あゆみのデイ」の頭文字の歌を一緒に合唱したり、手遊びや体操もして楽しんでいただけた。
12月14日	ハーモニカ・アンサンブル 「アンダンテ」	貝塚市沢 旭住宅自治会	自治会のクリスマスで、小学生も一緒に、少人数の男性も大きな声で歌っていただけた。
12月19日	人形劇きしゃぼ っぼ	北幼稚園	子どもたちの反応が良くて、とてもうれしかった。
12月24日	人形劇きしゃぼ っぼ	西小学校なかよしホーム	私たちの問いかけに直ぐに、元気に答えてくれる子ども達の様子に、不安が高揚に変わり、その場が1つになったことを感じた。
1月22日	ハーモニカ・アンサンブル 「アンダンテ」	二色の浜安心住宅	気温1～4℃の日、寒波で大変でした。いつもより利用者さんが少なめでしたが、元気に歌ってくれた。
2月13日	人形劇きしゃぼ っぼ	西幼稚園	「ネコのお医者さん」みんなノリノリで一緒に歌ってくれて、大盛況でした
2月28日	よる☆うた	いぶき作業所	利用者さんは表情、身体の動き、声、全身で楽しんでいることが伝わり、こころの交流ができました。

## 浜手地区公民館利用者連絡会

### <ねらい>

公民館活動への理解を深め、自主的な活動ができるよう支援する。

クラブが連携して活動に取り組み、課題を共有して活性化できるよう支援する。

### <状況・成果>

クラブ数 22 全クラブ員数 309 人 役員 8 人 (8 クラブ)

昨年度末、「いけ花」の脱会・「浜手川柳」の廃部が決まった。理由はメンバーの減少もあるが、講師の問題（逝去や親の介護で続けられなくなったこと）も大きい。今年度は 22 クラブで始まった利用者連絡会（以下、利連）だが、6 月には「書道 木曜会」から廃部の相談があった。クラブ員と講師間で考え方の違いがあるとのことで、クラブでの話し合いに職員も入ったが解決できなかった。その中の一人は 4 月から役員で、クラブが無くなるから役員もやめると相談があり、今度は役員みんなで話し合ってもらった。そこで委員長から「一度引き受けた役職なのだから今年度いっぱい続けてほしい」と説得があり、役員は続けることになった。

委員長は役員 2 年目なので、一年間の流れや、運営を誰もが担えるための取り組みを把握している。また、みんなで話し合い決めていく民主主義の仕組みもよく理解しており、利連の行事や定例会での意見を役員会で話し合い、再び定例会で報告することを丁寧に取り組んでいる。

5 月の定例会では座談会を行ない、クラブでの困りごとを聞いた。クラブ・クラブ員の減少、公民館への交通の不便さ、年末大掃除が負担という意見の他、和室の畳や料理室の機器等、公民館の設備改善の要望も出た。年末大掃除については、クラブ以外の団体にも掃除に関わってほしいという意見も出たので、役員会で話し合うことになった。コロナの時期は 12 月を大掃除月間としクラブごとに日を決め掃除していたが、これをきっかけに（4 年ぶりに）12 月第 1 水曜日に一斉で行なうことになった。クラブ以外の団体も一緒に、クラブの垣根を超えた交流を目指し行なうことを再確認し、掃除の内容や分担は利連が決め、クラブ以外の団体への声掛けは職員が行なうことにした。18 団体に手紙を出し、16 団体が参加。掃除の後は「みんなで掃除ができて気持ち良かった」「とてもいいことだから、また来年も声をかけてください」という感想が多く聞かれた。

クラブ数については、2018 年度の 32 クラブからずっと右肩下がり、クラブ・クラブ員の減少は大きな課題である。今年度から広報かいつかにクラブの一覧表を載せることができなくなったため、利連の活動紹介という形で載せる工夫をした。少しでも力になればと思い、クラブ体験講座を勧めたりクラブ紹介の壁新聞を作り替えたりしている。そんな中、講座後 1 年間グループ活動をし、今年度のふれあいまつりにも参加した「よる☆うた」が 1 月から利連に入り、明るいニュースとなった。

昨年度、作成委員会を発足し完成させた「公民館利用の手引き」は 4 月の総会でクラブ員全員に配布した。さらに 7 月・9 月の定例会では委員の前で役員が率先して読み合わせをした。誰でも運営を担えるように作成した冊子をみんなで見返すことで、委員・役員の仕事内容がわかり、それ以上に委員・役員になることはしんどいがやりがいもあること、つながる大切さ等も語られ、学びの場になった。

### <課題>

クラブ・クラブ員の減少を止める工夫と引き続き運営を誰もができるような工夫が必要。

貝塚市立  
山手地区公民館

# 目 次

■年間総括	山 1
■講座・事業	
◇ 青少年対象事業	山 8
子ども将棋クラブ	
百人一首	
フアフアクラブ	
夏の子ども講座	
ヤマチクキッチン	
レッツTRY	
もしもにそなえよう！防災キャンプ	
◇ 子育て支援事業	山 15
子育て講座（保育つき）	
親子で料理	
ヤマチクオープンサロン	
◇ 成人対象事業	山 19
ことぶきクラブ	
ニュースポーツ体験（高齢介護課共催）	
花を楽しむ（高齢介護課共催）	
食と会話を楽しむ（高齢介護課共催）	
ア・カペラ🌙ナイトカレッジ	
ヤマチクでスマ活	
スマホ学習会	
脂肪燃焼&筋トレエクササイズ	
◇ 共生社会づくり事業	山 30
ふれあい料理	
学習の集いの場	
◇ 文化振興事業	山 32
気軽にコンサートピアノを弾こう	
Be in Voice ア・カペラ Live	
はじめての人形劇	
ピアノと声が紡ぐ四季の物語「Muku ライブ」	
津軽三味線ライブ～和の響きの世界へ～	
山手寄席	
ロビーコンサート	
◇ 人材養成事業	山 39
保育ボランティア	
ふれあい料理ボランティア	
◇ 地域連携事業	山 41
山手地区公民館まつり	
移動公民館	
地域出前講座	
ロビー活用	
【参考】ほかでもがんばっているよ	
◇ 団体支援事業	山 46
山手地区公民館活動協議会	

# 令和7年度 山手地区公民館 事業総括

## はじめに

山手地区公民館では、「誰もが気軽に集い、出会える、自由に学びあえる居場所」をテーマに掲げ、公民館が地域の居場所となるよう施設整備も含めた学びの場の創出に努めることを意識した取り組みを行った。

山手地区の地域性や地域課題を考慮し、講座・事業の企画に活かすため、受講者や事業参加者の意向や地域住民の意見も積極的に聞き取るなどした。

## 1. 公民館主催事業

- ・あらゆる方法で地域課題を探り、課題に応じた講座・事業を企画、展開する。
- ・講座・事業を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の実現、及び人権意識の醸成に努め、市民が主体となった学習を支援し、その成果を地域に還元することにより、地域の活性化を促す。
- ・青少年から高齢者まで、多世代の交流を活性化させ、「学習」「交流」を通して地域と公民館、地域住民同士の繋がりを創出する。
- ・公民館の役割、意義を広く市民に知ってもらい、SNSなど様々な方法で広報に努め、新規利用者の開拓を図る。

### <状況・成果>

- ・全ての講座・事業には、SDGs（持続可能な開発目標）や人権の視点を取り入れるよう意識し、とくに「フアフアクラブ」、「ことぶきクラブ」、「夏の子ども講座」等では、SDGs、人権に関する内容を積極的に取り上げて受講者の意識醸成に努めた。
- ・「出前講座（移動公民館）」などを通じて地域に出向き、地域住民との交流から地域課題を探るよう心がけ、あらゆる世代の講座に地域課題を反映させるようにした。
- ・ホームページ、インスタグラム、フェイスブックなどにより、公民館の役割、意義を理解してもらおうよう努めた。また、「夏の子ども講座」や「気軽にコンサートピアノを弾こう」などの講座の申込みには、LoGo フォーム（電子申請システム）を導入し、あらゆる世代が参加しやすい状況を整備した結果、申込数は増加し、逆に職員の業務量は減少した。

### <課題>

- ・講座・事業に活かすため、地域との連携拡大と地域課題や幅広い年齢層のニーズの把握。
- ・身近で集いやすい公民館を目指した講座・事業内容の企画と環境の整備。
- ・働く世代や交通手段のない住民なども参加できるよう、Wi-Fi環境を活かした講座・事業の検討。

### ① 青少年対象事業

- ・地域の大人に講座に関わってもらうことで、異世代交流を通じた子どものコミュニケーション能力や社会性、自己肯定感を高め、何事にも主体的に取り組める能力を育む。
- ・主に中高生の活動場所を確保し、積極的に周知することで、青少年が安心して、前向きに物事に取り組み、心身ともに成長できるよう支援する。
- ・子どもたちが生きる力を身につけるための、食育・料理講座や防災講座を実施する。
- ・子どもにとって身近な公民館となれるよう、子どもの居場所づくりに取り組み、またはそのような団体を支援することで、地域全体で子どもを見守り育てる環境整備に努める。

### <状況・成果>

- ・「子ども将棋クラブ」は今年度から将棋をより詳しく学ぶ座学を取り入れ、子どもたちが集中して受講できる環境が整った。受講者は年齢や経験年数など全く異なるが、回を重ねるごとに仲良くなり、将棋を通じた仲間づくりに繋がっている。
- ・「百人一首」は、7月に講師を招いて百人一首を深く知るための講座や、1月に恒例の「百人一首大会」を開催した。講座では、合間に小学生と大人が談笑する姿がみられ、多世代交流の場となっている。
- ・「フアフアクラブ」は募集方法を見直し、受講者の確保に役立てた。ボランティアの丁寧な関わりによって子どもにも成長がみられるなど親子の大切な居場所となっている。夏には親の悩みにも向き合った。
- ・「夏の子ども講座」は13の講座を開催した。いずれの講座も人気が高く、受講者、協力団体とも満足度が高いものとなった。
- ・「ヤマチクキッチン」、「もしもにそなえよう！防災キャンプ」は夏の子ども講座と同時期

に開催した。いずれも子どもの生きる力を育むための講座で、開催にあたってはハプニングもあったが、子どもにとって日常や有事の際に必要な知識を得る貴重な機会となった。

- ・「レッツTRY」は10組（バンド8組、ダンス2組）が登録している。そのうちの1組は4月にホールライブを開催し成功させ、先輩バンドの活動にも刺激を受けているようだった。

#### <課題>

- ・青少年の参加拡大を企図した講座、事業の検討。
- ・安心・安全な講座運営と急なハプニング等への対策強化。
- ・「フアフアクラブ」など青少年の社会課題に関する講座企画と参加の呼びかけ。
- ・各講座に必要なボランティアの確保。

#### ② 子育て支援事業

- ・現代における子育ての課題を取り上げた講座を開催し、学習を通して親子同士がつながり、子育ての悩みや疑問などを共有して解決に導けるよう取り組む。
- ・親子で過ごせる場を提供し、子育て家庭の孤立を防ぎ、他の親子ともつながり合えるきっかけづくりに努める。
- ・関係団体、関係課と情報交換を行い、積極的に連携を進め、子育てを楽しむことができるような取り組みを行う。
- ・子育て支援活動をしている団体・サークル・個人が地域の子育てに関わる課題について学習を深め、情報交換を行うことができるよう支援していく。

#### <状況・成果>

- ・「子育て講座（保育付き）」は、子育て中の親のストレス解消に重点を置いたカリキュラムを組み実施した。受講者どうし悩みを共有することで、心もほぐれ、保育中の子どもの成長も見ることができ、満足度も高かった。
- ・「親子で料理」は毎回満員に達する人気講座で、先着順から抽選へと申込方法を変更するほどであった。昨年から引き続いて継続的に受講する親子もおり、父親の参加も多い。料理作りを通して子どもの食育にもつながっている。
- ・「ヤマチクオープンサロン」は利用が増加しつつあり、少しずつ周知されてきている。親子の居場所として大事な事業であるため、新たな利用者の拡大が必要である。

#### <課題>

- ・子育て中の親が興味をもち、学びを深めるための講座内容の検討。
- ・親子が安心・安全でゆっくり過ごせるための居場所づくり。

#### ③ 成人対象事業

- ・誰もが生涯にわたり心豊かで生きがいのある人生となるよう、様々な成人が興味・関心を持つことができる講座を開催し、多様な学びと交流の機会を提供する。
- ・実生活の中で生起する様々な課題を発掘し、主体的に取り組んでいる市民とも連携しながら地域課題の解決につながる講座・事業を実施する。
- ・普段公民館に向くことが難しい人たちにも公民館を知ってもらおうよう、内容や時間帯を工夫した講座を企画、実施する。また、必要に応じて地区会館など公民館以外の場所での講座や事業、Wi-Fiを利用した講座も積極的に取り組み、地域での学びの拡大に努める。
- ・講座終了後もその学びを活かして、さらに継続した自主活動につなげていけるよう働きかけを行う。

#### <状況・成果>

- ・「ことぶきクラブ」は主体的に講座に関わるよう班単位での活動を増やして交流を深め、受講者の希望や提案を取り入れた多様なプログラムを展開した。とくに子育て支援センターと連携した「おひさまえんにち」は、高齢者と乳幼児が触れ合う微笑ましい多世代交流の場となった。
- ・高齢介護課との共催事業である「花を楽しむ」、「食と会話を楽しむ料理」では、講師の工夫もあり、受講者同士が楽しく交流する姿が見られた。「ニュースポーツ体験」はまだ認知度の低い「ニュースポーツ」を体験することで、高齢でも気軽に楽しく運動ができることを知ってもらえた。講座中は大きな歓声があがるほど盛り上がった。
- ・「ヤマチクでスマ活」、「スマホ学習会」はNPO法人えーののスタッフに協力を依頼し、高齢者のデジタルデバイス解消を目的に開催した。スマホの使用頻度や機種の違いにより、進行や講座手法等課題を残したが、スマホ操作を通して受講者同士の交流も生まれた。
- ・夜間開催の「脂肪燃焼と筋トレエクササイズ」は、日中に公民館に来ることができない働く世代の参加を期待するもので、公民館の利用層拡大をはかった。
- ・「ハーモニーで彩るア・カペラ🌙ナイトカレッジ」は、日中に公民館に来ることができない

働く世代の参加を期待した夜間講座として、これまで馴染みのなかったア・カペラの周知を兼ねて開催した。受講者は音楽経験の有無など差があったが、講師の熱心な指導や細やかな配慮により、最後はステージで2曲を披露できるまでに上達し、自主グループ化を望む声もあがった。

<課題>

- ・地域課題や要望を把握し、講座内容に反映させるための仕組みづくり。
- ・働く世代も含めた新規利用者の拡大とあらゆる地域住民が公民館の学びを享受できるようにするための仕組みづくり。
- ・公民館主催講座を機に人のつながりを深化させ、グループ化につなげるための工夫。

④ 共生社会づくり事業

- ・年齢、性別、国籍、障がいの有無などに関わらず、誰もがその人らしく生き生きと暮らすことができる共生社会の実現に向け、講座・事業の展開を図り、市民理解を促進する。
- ・障がいのある方、在日外国人などがボランティアとの交流や活動を通して、自立した生活ができるようにするとともに、受講者同士の仲間づくりや地域の人達との交流を支援する。
- ・誰もが身近に集い、互いの人権や尊厳を守り、その人の持つ能力が十分に発揮できるよう、場所の提供や情報発信を積極的に行い、あらゆる立場の人々の居場所づくりに努める。

<状況・成果>

- ・障がい者とボランティアが料理を通して交流する「ふれあい料理」は、新たに2施設が参加するようになり、互いに賑やかに楽しく会話をしている姿が印象的である。
- ・「学習の集いの場」は、今年度より空き室があれば随時利用を可能とした。徐々にではあるが、ロコミ等で利用者も増えつつある。しかし、職員の目が行き届きにくく、学習以外の利用や室内で騒ぐなどの迷惑行為もあり試行錯誤の運営が続いている。

<課題>

- ・誰もが尊厳のある生活を営むことができるよう、人権を身近に捉え、考えるための講座・事業の継続。
- ・職員など監視の目の行き届かないところでの学習の場の確保と安全な運営についての検討。

⑤ 文化振興事業

- ・ホール、ロビーの活用により、市民が身近に文化芸術にふれる機会を増やすとともに、音楽室・ホールピアノなどを積極的に利用してもらうことで市民の文化活動の場を保障する。
- ・クラブやグループの活動を支援し、その発表の場を提供することにより、より多くの市民参加と地域の文化活動の活発化を促進する。

<状況・成果>

- ・「ロビーコンサート」は昨年同様、2団体が交互で季節ごとのテーマ内容に沿った曲目演奏を披露している。今年度から曜日を金曜日に変更したことで、以前は来ることができなかった人も参加できるようになり、新たな観客の確保につながった。
- ・「気軽にコンサートピアノを弾こう」は、幅広い世代がコンサートピアノに触れる貴重な機会となっており、新たな若手の参加も目立った。今年度からボランティアの協力を得たことで、講座運営もスムーズとなった。
- ・貝塚市にもゆかりの深いアコースティックデュオ「MuKu」による「MuKu ライブ」、新進気鋭の女性ユニット「来世楽」による「津軽三味線ライブ」は、今最も勢いのある若手のライブとあって、力強く迫力のある演奏に、参加者にも好評であった。
- ・「Be in Voices ア・カペラ Live」は全国で活躍するア・カペラグループ Be in Voices のライブに、メンバーの一人が講師を務める2グループの発表も加えた二部構成とした。当日は、声で聴かせるア・カペラの魅力を十分に堪能できる公演となった。
- ・毎年開催している「山手寄席」は地域でも活躍する新進気鋭の若手落語家2人が登場し、落語や漫談など新鮮な話芸で観客を魅了した。

<課題>

- ・多数の来場者が見込まれる文化事業における駐車場の確保。
- ・ロビーコンサート等での新たなジャンルの開拓と地域で活動している文化団体・グループの発掘、支援。

## 2. 人材養成事業

- ・公民館で活動するボランティアを支援し、情報交換や新たな知識を得る機会を提供するとともに、新たなボランティア人材の育成を図る。
- ・公民館のクラブや利用者が公民館で学んだ成果を地域に出向いて発表する機会を創出し、地域貢献活動に積極的に関わることができるよう働きかけを行う。
- ・まちのすぐれもの登録制度の認知度を上げ、地域に埋もれている人材を発掘し、地域の学びに活かせるようにする。

### <状況・成果>

- ・ふれあい料理ボランティアは、ボランティア同士や受講者とも良好な関係を築いている。講座終了後は当日の感想や意見を述べ合い、互いの情報共有に努めている。
- ・保育ボランティアは新たに定期登録者が2人増えたが、人数が足りていない。子育て講座の保育では、子どもを預ける受講者に安心感を与えており、必要不可欠な人材となっている。
- ・講座事業ではまちのすぐれもの登録者活用を積極的に進めたが、市民からの利用を含め、活用状況は活発でないため、更なる周知が必要である。
- ・クラブなど公民館の利用グループは、ボランティアとして「夏の子ども講座」の企画・運営などに関わったりしている。とくに「気軽にコンサートピアノを弾こう」では、受付業務を手伝ってもらうなど、利用者と職員が一体となった運営を行っている。
- ・各ボランティア登録者数を拡大するため、ボランティア募集のポスターを掲示し、SNSなどでも周知を図ったところ、新たな人材も確保することができた。

### <課題>

- ・ボランティア登録者数の拡大とスキルアップや情報交換の機会創出。
- ・まちのすぐれもの登録制度の認知や登録者の活用拡大のための周知・宣伝の徹底。
- ・保育体制の強化。

## 3. 地域連携事業

- ・「山手地区公民館まつり」など、あらゆる機会を通じて、広く地域の人々に公民館活動やその意義について知ってもらえるよう、情報発信と周知に努める。
- ・町会や三中校区、四中校区地域教育協議会等と連携し、地域への関わりを強めることにより、協働して地域コミュニティの活性化を促進する。
- ・あらゆる機会を通じて地域課題の解決、地域の魅力を深化させるよう、「移動公民館」など地域へ出かける事業を積極的に実施する。

### <状況・成果>

- ・「山手地区公民館まつり」は8月に第1回の実行委員会を開催し、展示、舞台、模擬店各部会も併せて、準備を行った。当日は学校行事などが重なり、参加人数などは減少したが、実行委員からは和気あいあいとして楽しかったとの声も多く寄せられた。
- ・「第三中学校区地域教育協議会」の総会及び第三中学校区「ふれあいフェスティバル」実行委員会等に参加し、地域との連携強化に努めた。
- ・「ロビー活用」は、団体や個人の展示を開催するほか、今年度は一般市民のコンサートの開催もあった。ロビーを多世代の地域住民の居場所とするよう工夫を重ねているが、昨年に引き続き利用マナーの悪い人があり、対策に苦慮している。
- ・「移動公民館」は4団体、「地域出前講座」は5団体の依頼に答え、「職員による健康体操や創作」や、「クラブや落語家などの公演」を行った。そのほか、地域のふれあい喫茶などにも積極的に参加し、地域課題の聞き取りや公民館の宣伝などを行った。
- ・「ほかでもがんばっているよ」は、町会や福祉施設等15か所からの依頼で、ウクレレや津軽三味線、沖縄三線などのクラブが演奏を行った。

### <課題>

- ・第三中学校区地域教育協議会等、地域の各種団体との更なる連携強化と公民館の学びを地域全体の学びへ拡大するための工夫検討。
- ・「移動公民館」、「地域出前講座」の更なる周知と新たな地域の開拓。

## 4. 団体支援事業

- ・クラブや自主グループに寄り添い、その学習活動や文化活動を支援するとともに、公民館での活動の意義や重

要性についての理解促進と、主体的かつ活発な活動促進につなげていく。

- ・各クラブの体験講座や地域活動等の取り組みを奨励し、活動の活発化を促進するとともに、活動状況・成果を広く利用者・市民に紹介することにより、新たな人員の確保を支援する。

#### <状況・成果>

- ・「山手地区公民館活動協議会」は、留任・新任役員とも活発に意見を交わしながら、互いに協力しあって会の運営にあたっている。レクリエーション部会、広報研修部会とも部会運営を順調にこなし、研修会や2回のイベントは盛況であった。年々減少しているクラブ数は廃部の危機にあるクラブが多い中、いくつかのクラブは持ちこたえている。
- ・昨年の講座受講生を中心に「筆に親しむ」という自主グループが生まれ、4月から活動を開始した。「公民館まつり」のプログラム作成を目標に、クラブ活動へと移行できるよう、職員が支援した。また、「ハーモニーで彩るア・カペラ🌙ナイトカレッジ」から生まれたヤマチク Voices は、1月より本格的に自主グループとしての活動を開始した。

#### <課題>

- ・「山手地区活動協議会」役員及び委員の公民館まつりを含めた運営への負担軽減。
- ・団体の主体性を確保しながらの存続支援と職員の関わり方

【主催講座・事業・共催事業】

事業区分	講座・事業名	受講者数	期間	回数	延べ参加者数	
青少年対象事業	子ども将棋クラブ	13人	4/19～3/21	12回	82人	
	百人一首	13人	4/5～3/7	12回	68人	
	フアフアクラブ（前期）	5組	4/27～7/20	4回	45人	
	（後期）	5組	11/23～2/15	4回	47人	
	夏の子ども講座	災害時に備えて パッククッキング		7/22	1回	12人
		ウクレレをさわってみませんか		7/22	1回	6人
		ミツロウラップとクリームソーダ		7/25	1回	12人
		キラキラゼリーとカラフルおむすびづくり		7/26	1回	16人
		コリントゲームをつくろう		7/26	1回	10人
		伝統文化のお茶とお花を楽しむ		7/28	1回	20人
		楽しく卓球をしよう		7/28	1回	15人
		みんなで楽しく卓球をしよう		7/29	1回	20人
		水の実験と噴水フルーツポンチ		8/1	1回	16人
		楽しい卓球		8/1	1回	17人
うさぎパンをつくろう	8/4	1回	12人			
おやこ de 性教育	8/7	1回	26人			
キラキラ♡レジン小物をつくろう	8/9	1回	12人			
ヤマチクキッチン		8/19	1回	12人		
レッツTRY	10組	通年	75回	312人		
もしもにそなえよう！防災キャンプ		7/31	1回	26人		
支子援育事業	子育て講座（保育つき）	6人	9/4～10/23	8回	48人	
	親子で料理		5/11～12/7	4回	60組 120人	
	ヤマチクオープンサロン		4/6～3/5	14回	42人	
成人対象事業	ことぶきクラブ	30人	4/15～12/9	25回	750人	
	花を楽しむ（高齢介護課共催）	6人	5/8～6/26	4回	24人	
	ニューススポーツ体験（高齢介護課共催）	16人	9/5～9/19	3回	35人	
	食と会話を楽しむ（高齢介護課共催）	8人	5/9～12/5	8回	63人	
	ヤマチクでスマ活（第1期）	8人	5/19～8/18	4回	25人	
	ヤマチクでスマ活（第2期）	8人	9/8～12/15	4回	29人	
	スマホ学習会（第1期）	5人	5/22～8/21	4回	5人	
	スマホ学習会（第2期）	3人	9/11～12/18	4回	9人	
アカペラ🌙ナイトカレッジ	15人	9/4～11/27	7回	104人		

	脂肪燃焼&筋トレエクササイズ	24人	5/15～6/26	4回	69人
く 共 り 生 事 社 業 会 づ	ふれあい料理		5/16～3/13	10回	100人
	学習の集いの場		通年		573人
文 化 振 興 事 業	ロビーコンサート		5/30～3/27	6回	332人
	ピアノと声が紡ぐ四季の物語「MuKu ライブ」		5/31	1回	120人
	気軽にコンサートピアノを弾こう		4/27～10/5	3回	82人
	津軽三味線ライブ～和の響きの世界へ～		6/29	1回	164人
	Be in Voices ア・カペラ Live		11/30	1回	120人
	山手寄席		3/8	1回	140人
	はじめての人形劇		9/27	1回	76人
成 人 事 材 業 養	ふれあい料理ボランティア	7人		11回	78人
	保育ボランティア	19人		9回	55人
地 域 連 携 事 業	地域出前事業		6/14～12/19	5回	172人
	山手地区公民館まつり		10/18～10/19	1回	1008人
	移動公民館		7/4～12/19	4回	76人
	ロビー活用		通年		
援 団 事 体 業 支	山手地区公民館活動協議会 32 クラブ	379人			

【表の見方】

- ・「受講者数」は、申込を受理した人数。記載のないものは当日参加又は1回限りの事業
- ・「参加者数」は延べ参加人数欄に記載、ボランティアにおいては「登録人数」

## 子ども将棋クラブ

### <ねらい>

将棋を親しみ、将棋を通じた仲間づくりをすすめる。

地域の大人との異世代交流の場とする。

### <状況・成果>

4/19～3/21 第3土曜日 13時半～15時（全12回） ボランティア指導者3人

受講者 延べ82人（小学生10人・中学生3人）

今年は、昨年のアンケートを踏まえ、受講対象を「小学生」から「小・中学生」に拡大した。

4月は誰でも参加ができる体験月とし、参加者9人のうち1人は初参加だった。

5月以降在籍は12～13人となったが、各回の受講は平均5～6人だった。活動は、主に受講者同士又はボランティア指導者との対局で、初心者へはボランティア指導者が個別でルールの説明や攻め方・守り方の戦術を解説した。初心者～経験者、年齢・性別・学校等様々であるが、回を重ねるごとに子ども同士が自然と仲良くなっていく姿が見られた。

今年はボランティア指導者の提案で、冒頭で座学を取り入れた。基本的な戦術解説等をみんなで学び、最後にクイズを出題し子どもに答えてもらった。これまでは、対局のみで子どもが飽きる時間帯があったが、座学から対局へ意識を切り替えられ効果的な時間割となった。

### ＝新春将棋大会＝

1/17 土曜日 13時半～15時 参加者6人

日頃の活動の成果を発表する場として『年に1度は大会をしよう』ということで、毎年開催している。ルール説明の際、「対戦相手には、（たとえ友だちであったとしても）きちんと対応してください。負けたときは、はっきり「負けました」といみましょう。始まりと終わりの挨拶も、きちんとしましょう」と伝えた。

表彰式では1～3位には賞状や盾を、参加者全員にボランティア指導者手作りの粗品を手渡した。

表彰式終了後、「来年は新しい仲間を迎えてまた活動に励み、さらに強くなってたくさんの参加者にお会いしたい」とあいさつをして閉会した。

### <課題>

講座時間を飽きさせない工夫。



通常活動（戦術解説）



新春将棋大会

## 百人一首

### <ねらい>

日本の伝統文化である和歌に親しみ、記憶力や集中力を養う。

多世代交流の場とする。

### <状況・成果>

4/5～3/7 土曜日 14時～15時半（全12回）

受講者13人（小学生6人、高校生1人、大人6人）

新たに小学生が4人増加した。「百人一首をしたい」と調べてこの講座を知ったという子が多かった。

講座では、毎回、競技かるたを個人戦やグループ戦で行っている。子どもと大人が混ざって対戦し、互角に戦う場面も見られるようになった。毎月勝負を重ねる中で、「この札は〇〇さんの得意札!」といったように、お互いを知るようになり、得意札が取れなかった時には笑って慰め合ったり、声を掛け合ったりするなど、受講者同士の関係性が深まってきている。

また、講座の進め方は特に固定せず、参加者の提案を取り入れている。競技かるた以外の遊びをすることも多く、大人提案の「魚鳥木（ぎょちょうもく）」や、小学校で流行っているじゃんけんゲームなどを行った。大人にとっては馴染みのある遊びである一方、小学生は初めてということもよくあり、遊びを通じた多世代交流が自然に生まれている。

### 百人一首～上達への道～

7/5 土曜日 14時～16時 参加者8人（小学生2人、大人6人） 講師：野路義之

昨年度は大会以外で講師を派遣せず、和歌の内容を学ぶ機会がなかったため、百人一首の内容を学ぶ講座を企画した。万葉集と小倉百人一首の比較や、百人一首が生まれた背景について学び、歌の意味や情景を読み取り感じる事ができた。一般応募では大人3人の参加があった一方で、子どもの一般参加はなかったため、来年度は情報が届きやすい夏休み期間に実施するなど、開催時期の検討が必要である。

### 百人一首大会

1/10 土曜日 14時～16時 参加者14人（小学生5人、大人9人） 講師：野路義之

定期受講者が日頃の活動の成果を発表できる場として企画するとともに、講座を広く知ってもらうため一般応募も行った。結果、定期受講者6人、一般参加者8人の計14人が参加した。

1回目の対戦では、参加者全員をくじ引きで2グループに分けて実施した。2回目は、1回目の取得枚数が多い順に2人組を作り対戦した。経験や年齢がさまざまな参加者がいる中で、定期受講者の多くが上位に入賞した。最後に、定期活動の案内を行い、終了した。

### <課題>

初心者でも参加しやすい講座づくり。



## フアフアクラブ

### <ねらい>

親も子も小集団の中で自分の居場所を見つける。  
 学校生活が難しい子どもに成功体験ができる場とする。  
 親は子どもの心と体の成長が感じられる場とする。



### <状況・成果>

前期 4/27～7/20 後期 11/23～2/15 第3日曜日 10時15分～12時（全8回）

受講者延べ40組 （親の会 8/24、9/21 日曜日 10時～12時）

講師：松本啓子（学校心理士） ボランティア6人

昨年度の課題であった募集方法を見直し、前期・後期に分けて募集を行った。材料費も半期ごとに一括徴収したことで、結果的に通年ほぼ同じメンバーで参加が継続され、出席率も良好であった。その一方で、その日の気分で欠席する親子も見られた。場所見知りや人見知り、新しいことが苦手、集団生活になじめない子もいたが、継続して参加することで次第に自分でできることが増えてきて自信が付き、子ども同士の関係性も良好になってきた。

講座は、講師の出席確認と体調の聞き取りから始まり、当日の内容をホワイトボードに示し、言葉と視覚の両面で説明する。終了後には作品の品評会や全員で振り返りの感想を述べている。内容は、工作とクッキングを中心に講師とボランティアが協力し企画している。初回のマーブリングでは、偶然生まれる美しい模様を親子で楽しむことができ、作品はラミネート加工し名札として活用した。工作の好きな子どもは、時間いっぱいまで集中し、自分のアイデアを形にしようとする姿が見られ、その姿を親やボランティアと共有することができた。

クッキングでは、2組ずつテーブルに分かれ、親子で協力する姿が見られるだけでなく、他の親子との交流も生まれている。親が他の子どもの相手をする様子や、ボランティアの人数が足りず困っている時は、雰囲気を感じて手助けしてくれる場面もあり、親の主体性も育まれている。ただし、段取りがうまくいかず終了時間を過ぎてしまうこともあり、その際は子どもは退屈し、部屋から抜け出したり、自由に遊びだす場面もある。

前期と後期の間隔が空くため、その間に講師と親だけで集まる「親のほっこりする会」を開催し、日頃の悩みを共有し共感し合う大人の居場所となっている。

また、フアフアクラブを卒業して、ボランティアとしてかかわっている若者は、中学生1人と成人2人で、子どもたちの良き兄・姉的存在となっている。3人には得意・不得意があるため、講師と相談しながら役割を調整している。最近では、自ら職員に声をかけて役割を確認する姿も見られるようになった。

月日	内 容
4/27	マーブリング
5/18	キッシュをつくろう
6/15	フアフアまつり
7/20	仕掛けつき図画工作
11/23	壁画を楽しもう
12/21	ミルクレープをつくろう
1/18	巨大カルタ
2/15	デコ寿司

### <課題>

親子の居場所となる  
 雰囲気づくり。  
 時間に余裕をもてる  
 プログラムづくり。



## 夏の子ども講座

<ねらい>

子どもたちの様々な体験や学習の機会。

地域の大人との交流、異なる学年・学校の交流の場。

協力クラブや地域団体の活性化。

<状況・成果>7/22～8/9 受講者 延べ 194 人 13 講座（申込み総数 440 人）【協力団体 13】

山手地区公民館のクラブ・グループが講座の企画に参加し、13 講座を開講した（公民館主催講座を除く）。

申込みは、LoGo フォーム（電子申請システム）を 3 公民館で初導入した。抽選結果の確認作業は電話・窓口対応に迫られたが、受付業務の負担は軽減できた。また山手は追加申込みも LoGo フォームで受付できるようにしたため、欠員のあった 3 つの講座もほぼ初日に埋まった。1 つの申込みフォームで複数申込みができたことや日中窓口に来ることができない親が申込みしやすくなったことで、山手では昨年定員に満たなかった講座も抽選になるなど、どの講座も申込み状況は好調であった。

講座は、毎年参加している団体以外にも積極的に声をかけ、新たな企画・参加を促した。久しぶりに企画・参加したジャムおばさんクラブの「うさぎパンをつくろう」は今年度一番申込みが多く、子ども達の心をつかんでいた。

調理を伴う講座は、毎年人気があるが、そのほとんどの講座で体調不良者が出た。暑い時期の講座であることに加え、寝不足など生活リズムを崩していることに起因していたようである。その際、家族に連絡がつかない場合もあったので、次年度からは緊急の連絡先を事前に聞いておくようにしたい。

子どもの賑わいととも、夏の子ども講座はクラブ・グループのやりがいにもつながっている。子ども達からは、「おじいちゃんがおもしろかったので楽しく出来た（卓球）、カエルの歌で輪唱するのが楽しかった（ウクレレ）、ミツロウラップづくりははじめてだったのでワクワクしました」、また企画グループからは、「子ども達とできて楽しかった（卓球）、楽しく一緒にやれて、こちらも元気をもらえました（ウクレレ）」などの感想があった。昨年度公民館公式インスタグラムの立ち上げに伴い、改めて夏の子ども講座の写真撮影や SNS 掲載の許可の取り方が課題となっていた。今年度は LoGo フォーム申込み時に確認項目を設け、講座終了後の報告動画を SNS に投稿し、講座の様子を広く知ってもらうことができた。

<課題>

LoGo フォーム申込方法の検討。

緊急連絡先の確認。



## ヤマチクキッチン

<ねらい>

子どもたちの生きる力を身につける。  
食育の推進と調理スキルの向上を図る。

<状況・成果>

8/19 火曜日 10時～13時半 受講者12人 講師：山中 弓子（全国学校調理師連合会）

メニュー：彩りそうめん、季節のシュワシュワフルーツポンチ

夏の子ども講座と同時期に開催。子どもたちが「買い物→調理→片付け」の一連の流れを経験できるようにした。対象は小学生で、学年が混ざるように4人ずつのグループを編成した。

まず、班ごとに自己紹介を行った。講師からは、火を使わなくてもできる出汁の作り方と牛乳寒天の実演があり、子どもたちは牛乳が沸騰していく様子にくぎ付けになっていた。



続いて、近隣スーパーに買い物へ。電卓を使って一生懸命計算し、予算内で必要なものと欲しいものを考えながら買い物をするなど食材選びから会計まで子どもたちが自主的に取り組んだ。

館に戻り、調理開始。そうめんを茹でる、野菜やフルーツを切る、炒り卵を作るなどの工程を6年生が積極的にリードしながら協力して進めた。低学年で包丁を初めて使う子がいたが、周りにサポートしてもらいながら挑戦したり、きゅうりの千切りを講師から習った子が別の子に教えたりして、子どもたち同士で教え合う姿も見られた。

さらに、「卵は平らなところで割ると殻が入りにくい」「おくらには数本まとめて串に刺すと切りやすい」「ささみは電子レンジで簡単に調理できる」など、班ごとに講師から実践的な調理テクニックを学んだ。しかし、調理スピードの差から、班ごとで伝えられた情報が異なったため、今後は講座のはじめに全体で調理テクニックの説明や実演の時間を取ることも考えていきたい。

できあがったそうめんは、自分で好きな具材をトッピングした。フルーツポンチは、ナタデココやぶどうなど班ごとに具材が異なり、他の班に紹介したり味見したりして、班を超えた交流となった。自分たちで調理した達成感から、そうめん、フルーツポンチともにおかわりする子が多かった。

今回は、職員3人と講師側2人で対応したことで、常に大人の目が行き届いた状態で講座を進められた。申込数は、夏の子ども講座と同じ申込フォームとしたことで、昨年度の3倍以上になった。開催時期については、夏休み中が適している一方で暑さの課題もあるため、今後は涼しい時期での開催や広報方法も検討していく。

《受講者の感想》

そうめんもおいしくて具材も作ったり切ったりできてたのしかったです。／  
ともだちができてたのしかった。／みんなと調理できて楽しかったです。／  
大人数で買い物に行くことがなかったので、楽しかったです。／フルーツい  
っぱいたべてたのしかったです。／おかいものいったのしかったです。／おな  
かがいっぱいになった。料理がたのしかった

<課題>

開催時期の検討。

全体で調理方法を学ぶ時間を設ける。



## レッツTRY

### <ねらい>

中高生のグループ活動（音楽やダンス、創作活動など）を支援する。

若者が公民館を利用する機会とする。

### <状況・成果>

グループ登録は10組、延べ75回の利用があった。なかには、年間を通して数十回利用するなど、継続的に活動するグループも見られた。

活動内容はバンド活動が中心で、1日音楽室を利用し長時間にわたり熱心に練習に取り組むグループもあった。一方で、ダンスや他の活動での登録は少ないため、さまざまな活動の利用が広がるよう、SNSなどを活用して周知していきたい。

また、20代の先輩バンドが登壇した貝塚公民館大会（三館連携事業「第14回貝塚公民館大会」参照）に参加した高校生もおり、身近な先輩世代の活動に触れることで、今後の活動の意欲や憧れを抱く様子が見られた。

昨年度に引き続き、本事業を活用している高校生バンドが、ホールでイベントを開催した。準備段階から、20代の先輩バンドが音響面などでアドバイスや協力を行った。当日は、出演者含め40人が参加し、世代を超えた交流の中でイベントを成功させることができた。

今後も、学生たちが自主的に活動できる場を提供していく。

団体名	在学区分	種別	メンバー数(人)	使用回数
VANTAGE	中学・高校	ダンス	6	21
サカバンクレイジー	高校	音楽	5	8
元三中軽音部	高校	音楽	4	13
積乱雲	高校	音楽	3	15
満身創痍	高校	音楽	3	1
PasCal	高校	音楽	5	3
つぼみ	高校	音楽	4	3
東山 girls	中学	ダンス	3	3
ホットロック	高校	音楽	3	7
ういUi	中学	ダンス	3	1

### <課題>

活動ジャンルの拡大。



## もしもにそなえよう！防災キャンプ

<ねらい>

防災知識やスキルを身につける。

地域の防災意識を向上させる。

他学年同士の交流の場とする。

<状況・成果>

7/31 木曜日 10時～13時半 受講者 26人

講師：貝塚市立中央公民館職員

夏の子ども講座と同時期に開催。夏の子ども講座では、低学年や中学生が参加できる講座が少ないため、対象の幅を広げ、小中学生を対象とした。当初は定員15人であったが、約30人の応募があり、受け入れ体制を整えて全員を受け入れた。7～8人のグループを4班づくり、学年が均等になるように調整した。1班に1人担当職員がつくようにして、当日の運営や見守りを担当した。

はじめに、グループごとに班長と班名を決めるオリエンテーションを行った。人見知りや緊張からうまく話せない子もいたが、班名を決める時にはメンバーの共通点を探すなどお互いを知る時間となった。

次に、火起こし体験と飯ごう炊さんを2班ずつに分かれて実施した。火起こしではなかなか火がつかず苦戦する場面もあり、手伝いに来てくれた20代の公民館利用者が子どもたちを優しくサポートした。また、火おこし経験のある6年生が成功すると、歓声が上がりみんなで喜んだ。



その後に危機管理課による講義を予定していたが当日の災害待機のため急遽中止となった。事前に代替案を考えておらず対応に戸惑ったが、防災士資格を持つ中央公民館職員が講師を務め、防災ゲーム「なまずのがっこう」を実施した。ゲームでは、災害時に役立つアイテムを考え、子どもたちが自由な発想で話しあい、発表した。遠慮気味だった子も、「どんな意見でもいいよ！」という講師の声かけにより積極的に手を挙げ、発言する姿が印象的だった。

食事では、炊いたご飯と非常食として準備した缶詰を食べた。缶詰を開けるのが初めてという子には、高学年の子がそっと教えるなど、自然な助け合いが見られた。

最後の交流ゲームでは、じゃんけんを使った「ごきぶりゲーム」を行った。じゃんけんで負けたらどんどんポーズを変えていき、最終ごきぶりのポーズになったら負けというシンプルなゲームだったが、これまでの活動ですでに仲良くなった子どもたちは、さらに賑やかに盛り上がった。

全体を通して、火起こし体験や防災ゲームで「もっとしたい！」という声が多く聞かれた。また、熱中症対策については、こまめな水分補給を促し、野外はテントを張るなど工夫した。

《受講者の感想》

火をおこすためには何をすればいいか体験することができた。／みんなでごはんをたべたりゲームをしたりしたからとてもうれしかった。／家では缶詰を食べないのでおいしかったです／ともだちもできたし交流ゲームもたのしかった

<課題>

講師が来られなくなった時の代替案をあらかじめ考えておく。

ゆとりのあるプログラムにする。



## 子育て講座(保育つき)

<ねらい>

- 子育て中の親の学びの機会とする。
- 子育てに関する情報や悩みを共有できる場とする。

<状況・成果>

9/4～10/23 木曜日 10時～11時半 (全8回) 受講者6人 保育6人

受講者6人中5人がLoGoフォーム(電子申請システム)からの申込みであった。メールアドレスの記載を必須にしたことで、保育シートを送信し、保育する子どもの情報(生年月日や愛称など)を事前を知ることができた。宣伝は、子育て支援センターの講座に参加している親子や「親子でリトミック」グループに声がけした。定員内だったので、市外から参加している「親子でリトミック」メンバーも受け入れた。

講座内容は、子育て中の親にとってストレス解消になることを第一に考えた。また、毎回の感想を記入する時間を省略し、途中の座談会と最終日に振り返りを行った。



開講式では、受講者親子の緊張をほぐすための手あそびを行ったり、自由あそびを通して、保育ボランティアもこれから預かる親子の様子をうかがう機会となった。また、全員で自己紹介を行った際、「初めて参加する講座で今日は何をするんだろう?と不安と緊張が入り混じっていましたが、自己紹介の時には気持ちが和んでました。これからこのボランティアさんたちに預けるのかと思うと安心しました。」と感想があった。

二回目はレクリエーションで、新聞あそびなどを親子で楽しんだあと、後半は初めての親子分離。受講者は、子どもに気づかれないように部屋を退出し、あらためて自己紹介を行ったことで、より深くお互いを知る機会となった。保育室に迎えに行くと、意外に泣いている子どもはおらず、保育者も受講者も驚いていた。

三回目は、ヨガで心も体もリフレッシュ。偶然にも受講者全員が運動系クラブに所属していた。普段の生活に取り入れられる動きや子どもと一緒にできるヨガの紹介もあり好評だった。

四回目は、料理実習で、時短料理や便利な料理グッズの紹介。普段は一人で黙々と作ったり、子どもの相手をしながらの料理作りなので、受講者同士雑談をしながら行った料理は楽しかったようだ。



五回目は、歯科に行っても医師とゆっくり話す機会がないため、講座で幼児期の体と歯の成長との関係や歯磨きのやり方の説明、虫歯と砂糖の話などを聞いて食生活を見直す機会となった。

六回目は、座談会。この回が一番楽しかったようだ。じゃんけんゲームから始まり、持参したマイカップの話で盛り上がった。事前に、聞きたい質問を考えてきて、箱に入れてくじのように引いていった。

—子育て支援事業—

質問) パンは好きだけどご飯は食べない/イヤイヤ期の乗り越え方/家事をしていると抱っこしがつくので、テレビばかり見せてしまう/幼稚園選び/普段どこで遊んでいる/子連れで行く外食はどこ/おおすすめのお出かけスポット/ストレス解消法/歯医者や美容院に行く時、どこに預ける/簡単に作れる晩ご飯メニュー

身近な先輩お母さんのアドバイスは説得力があり、今かかえている悩みについて直接聞くことができたので、早速実行に移した人もいた。

七回目は、家計とお金の話。先を見通した教育資金や税金の話など、今の家計を見直したり、学んだことを夫婦でも話す機会となったようだ。

最終日の前半は講座の振り返りを行い、後半は、全員で保育中の様子を撮ったビデオを鑑賞し、子どもたちの成長を見守った。

また、子どもの体調や家庭の事情で楽しみにしていた講座を受講できなくて残念がっていた人もいたが、全体を通して、初めてわが子と離れリフレッシュする時間が持てたり、子育て真最中の学びを通して、実際の生活に活かすことができたり、一人の受講者の悩みを自分事として考えたり、みんな同じような悩みをもっていることに気づく場となった。

(受講者の感想)

- ・自分だけ悩んでいたが、みんな同じように悩みを持っているんだと気づいたり、他の意見を聞いて、違う考え方の人もいるんだとわかった。
- ・ぜんそく持ちで、なかなか外に出る勇気がなく、講座も8回続けられるかと不安を持ちながら参加したが、全回参加したことで、自信がついた。
- ・子育てまっさい中でも学びを通して、引き出しをたくさん持っておくと、イヤイヤ期以前に聞いていた話が、きたな!とあまりあせることもなく対応できる。
- ・一回目にみんなで自己紹介をやったのがよかった。どんな人に預けるのかとみんなの顔がわかった。

<課題>

保育つき講座の周知と、魅力ある講座内容。

子育ての悩みなどを共有できる交流の場と仲間づくり。



日時	内容	講師
9/4	講座・保育の説明	相互
9/11	レクリエーション	相互
9/18	ヨガ	本田 典子(ヨガインストラクター)
9/25	簡単作り置きレシピの紹介と料理実習	大力 恵美(子連れ料理FlashkitchenMEG☆LABO)
10/2	砂糖の話・虫歯と歯磨き	小島 理恵(小島歯科医院 副院長)
10/9	座談会	相互
10/16	子育て中のママや働く女性の家計とお金の話	わたなべゆうこ(家計アドバイザー、さろん和楽代表)
10/23	講座のまとめ	相互

## 親子で料理

### <ねらい>

子育て世代に食への関心を持ってもらうきっかけとする。

子どもが生きる力を身につける機会とする。

親子と一緒に過ごす時間を提供する。

### <状況・成果>

5/11、7/6、10/5、12/7 日曜日（全4回）受講者延べ60組 120人

午前の部 幼児親子（3歳～） 午後の部 小学生親子

講師：大力 恵美（子連れ料理教室 Flash kitchen MEG☆LABO）

昨年に引き続き3年目の取組となる。LoGo フォーム（電子申請システム）での受付は、氏名や年齢など基本の情報を必須としたことで、正確に聞き取ることができた。先着順としていたが、特に午後の部はすぐに定員に達したので、10月からは募集方法を先着順から抽選に変更。幼児から小学生へと学年が上がっても継続して参加する親子もいる。また父親の参加も増加した。兄弟姉妹組は両親が2部に分かれて参加する人もいた。

献立は子どもの好きなメニューで、材料も普段家庭で使っている食材を選んだ。そこには講師の「ここにいる時間だけは親子水入らずでゆっくり楽しんでほしい、そして家でも親子で一緒に作業することで、自然と会話が増えて、親子の信頼関係づくりにつながってほしい」という思いが込められている。

ぎょうぎやハンバーグは、あそび感覚で“こねこね”したことがとても楽しかったようだ。食材に触れることで、食べ物への興味が高まり、自分でできたという達成感が得られたのか、「食べた、おいしい」につながり、親の分も横取りするほどであった。

講師は、調理道具の使い方、特に包丁を持つ時の注意点を毎回伝えてくれた。午前の部は、幼児にはまだ包丁を持たせたことがないという親がほとんどだったが、子どもの横でハラハラしながら見守っていた。手作りケーキを作る際には、卵の割り方やハンドミキサーの使い方について説明があった。中には、卵を割るのも初めての子がいたり、ミキサーの音が怖い子がいたり苦戦する場面もあったが、ケーキが出来上がるとみんな満足そうな顔をして、完食していた。

午後の小学生の部は、なんでも上手に手際よく作業をすすめる親は横で見ていることが多かった。内容によっては、時間が余る時もあったので、子どもや親から講師へ質問タイムを設けた。受講者からは「来年は中学生になるので、もう参加できない。中学生の部を作ってほしい」という要望があった。

ご飯物は、午前の部では昼食替わりになるが、午後の部は食事を済ませてからの参加になるので食べきれないようだった。

### <課題>

開催時間を検討する。

日時	内 容	幼児親子	小学生親子
5/11	ぎょうぎとスープ	5組	8組
7/6	ハンバーグ、オニオンスープ	7組	8組
10/5	ロールケーキ、ミックスジュース	8組	8組
12/7	ケーキサレ（惣菜ケーキ）	7組	8組



## ヤマチクオープンサロン

<ねらい>

乳幼児親子の居場所の提供。

<状況・成果>

4/6～3/5 9時～17時 (23組 延べ42人)

ヤマチクオープンサロンは、公民館を訪れる乳幼児親子が気軽に利用できる居場所として保育室を開放している。利用は予約ができないこと、同じ時間帯に他の親子があそびに来た時は一緒に使用することとし、保育室の利用を促している。昨年度、祖父母と一緒に公民館を訪れた乳幼児がいたので、親子以外でも利用できるよう対象を「乳幼児とその家族」に変更した。

今年度は、子育て支援センターの貸館が増え、それに伴い乳幼児親子が保育室の利用をきっかけにオープンサロンの存在を知り、講座を周知する良い機会となった。昨年度の開講当初は、活用方法の問い合わせも多かったが、今年はリピーターの利用が増えている。平日の利用は少ないが、土日は講座やホールのイベントに参加する親子連れの待機場所としての利用があった。

山手では「親子でリトミック」クラブが廃部になるなど保育室の利用者が減少している。また保育室内の老朽化が進み、乳幼児親子が気軽に過ごせる環境の整備が遅れている。おもちゃや備品整理、子どもが楽しめる空間づくりなど工夫しながら、乳幼児連れの家族が気軽に利用できる居場所の周知を引き続き行っていく。

<課題>

利用したことがない人への周知。

気軽に利用できる工夫。

## ことぶきクラブ

<ねらい>

高齢者の社会的孤立の解消や心身の健康保持、仲間づくり。

受講者の要望を受け入れるとともに、自ら考え学び合う環境づくり。

<状況・成果>

前期 4/15～7/15 後期 9/2～12/9 火曜日(全 25 回) 10 時～11 時半 受講者 30 人(内新規 6 人)

昨年度より参加人数が増え、新たに 6 人が加入、うち 5 人が男性であった。主体的な参加を促すため、講座の代表者 2 人を選出し、それとは別に受講者を 4 班に分けて各々班長を置いた。班分けは毎年メンバーが変わるよう配慮し、今年は 50 音順で分けた。受付・準備・片付け、後期のプログラムの企画、座談会や創作活動などを、班ごとに分担して行った。

開講式では、緊張を和らげるため自己紹介ゲームを実施し、その後「まちのすぐれもの」登録者の西村文花さんの指導のもと、歌と発声を取り入れた健康体操を行った。昨年度の振り返りで「野外活動をもっと増やしてほしい」という要望があったため、公民館から徒歩 10 分で行くことがで

きる大阪河崎リハビリテーション大学(以下、リハ大)、特別養護老人ホーム「水間ヶ丘」(以下、水間ヶ丘)、善兵衛ランドなどを訪問し、各施設で講義や体験活動を行った。リハ大では久利彩子教授の研究に協力し、3 日間に分けて筋力(握力・足の筋力)の測定と歩行のビデオ撮影を実施。その間、筋力アップの体操を継続することで自身の身体の変化を実感する機会となった。終了後は毎回学食で昼食を取り、学生気分を味わう楽しみもあった。水間ヶ丘では施設見学と施設長による介護保険の説明があり、清潔感のあ



る快適な環境に安心した様子が見られた。将来利用する可能性のある介護サービスや利用料の話には、特に関心が高かった。善兵衛ランドでは、天体望遠鏡で太陽観察を行い、特別企画の「伊能忠敬展」も見学。後日、有志が土星観察にも訪れるなど、身近なところにこんな施設があるという新たな発見があった。

浜手地区公民館職員による葬儀・お墓・永代供養の話も大変好評で、「いまさら聞けない話を聞けてよかった」「事前準備の大切さがわかった」との声が多く寄せられた。

レクリエーションでは、グランドゴルフ・卓球バレー・モルックを体験。特にモルックは初体験の人が多かったので、簡単なルールで作戦を考えながら楽しみ、脳トレにもなるとして「今までで一番楽しかった。またやりたい」と好評だった。昨年度好評だったたこやきパーティーも継続し、今年度はベビーカステラ作りも加え、茶話会も大いに盛り上がった。

また、受講者から「自分の所属団体をぜひ活用してほしい」との申し出があり、観光ボランティアによる講話や紙芝居、和泉葛城ネイチャーによる工作(来年の干支づくり)を実施。細かい作業な



### —成人対象事業—

がら完成品には満足感があり、世界に一つだけの作品として喜ばれた。

今年度新たな取り組みとして、子育て支援センター(以下、センター)との共催事業「おひさまえんにち」を実施。センターでは移転に伴い、改築するまでの期間、公民館保育室を臨時に使用することとなった。曜日も開催時間もことぶきクラブと同じだったこともあり、乳幼児親子と高齢者との世代間交流の場として企画した。事前交流では、2日間それぞれ受講者3人が保育室を訪れ、講座で練習していた皿まわし・つげさん体操を親子の前で披露したり、びっくり箱を作って親子に体験してもらった。本番では、各コーナーの店番として受講者が参加。子どもたちや保護者、センター職員との交流が生まれ、「久しぶりに小さい子どもと触れ合えてうれしかった」「毎年開催しているのか?」という声もあった。センター職員からも「来年も機会があれば実施したい」との感想が寄せられた。

一年の振り返りでは、「リハ大は、一回だけでよかった」「バスで社会見学に行きたい」「細かい作業は苦手」など感想が寄せられた。また職員としては、介護や葬式の話は受講者にとって不快と感じる人もいるのかと懸念していたが、受講者の中での関心が高かった。



### <課題>

引き続き、互いに支え合う関係づくりと仲間づくりを推進する。

野外活動への要望が高まる一方で、平均年齢の上昇もみられるため、安全面に配慮した講座内容の検討。

月日	内 容	講 師
4/15	開講、講座の説明 みんなで楽しく歌いましょう	まちのすぐれもの登録 西村 文花
4/22	いきいきサポート健康プログラム ～いつまでも元気に歩くために～パートⅠ お話・計測・運動方法 会場：大阪河崎リハビリテーション大学 終了後は学食で昼食	大阪河崎リハビリテーション大学 リハビリテーション学部教授 久利 彩子
5/13	本当のももたろうをご存じですか？	寝屋川市生涯学習センターIT 講師 鳥居 伸利
5/20	グランドゴルフ 雨天の場合は公民館（卓球バレー、6点セット）	相 互
5/27	気になる最近の社会情勢	経済評論家 中田 進
6/3	いきいきサポート健康プログラム ～いつまでも元気に歩くために～ 中間計測	大阪河崎リハビリテーション大学 リハビリテーション学部教授 利 彩子
6/10	卓球バレー&6点セット、ベビーかすてら作り	相 互
6/17	どうする？ 葬儀・お墓・永代供養 今さら聞けないけど、事前に準備しておくで安心！	浜手地区公民館職員
6/24	絵手紙に挑戦	絵手紙クラブ
7/1	座談会 班企画相談	相 互
7/8	いきいきサポート健康プログラム ～いつまでも元気に歩くために～パートⅡ お話・計測・運動方法	大阪河崎リハビリテーション大学 リハビリテーション学部教授 久利 彩子
7/15	前期を振り返って	相 互
9/2	腹話術から学んだ幸福と健康の秘訣	和歌山県腹話術協会 会長 宮本 年起
9/9	貝塚の観光ボランティアさんによる 貝塚の歴史 お話と映像	貝塚観光ボランティア
9/16	生活習慣病とその予防 ロコモってなあに？ 骨の健康度 チェックあり	(株)近畿中央ヤクルト販売 広報課 戸川 真早美
9/30	介護の話と施設見学 【1班企画】	特別養護老人ホーム水間ケ丘施設長 榎本 利浩 山手包括支援センター職員
10/7	明治ヨーグルト工場見学とお食事会 【昼食代実費】 【3班企画】	相 互
10/14	グランドゴルフ 【2班企画】	相 互
10/21	(休講)	
10/28	和菓子作り お琴の演奏を楽しみながら、自分で作った和菓子进行いただきます	裏千家茶道桜央貝 中島 美央 お琴 浜手地区公民館職員
11/4	善兵衛ランド見学 望遠鏡、岩橋善兵衛さんの話、季節の星座 【4班企画】	善兵衛ランド 館長 井出 博
11/11	ニュースポーツ モルック体験	相 互
11/18	子育て親子との交流に向けて びっくり箱作り	相 互
11/25	竹で来年の干支「馬」を作ろう	和泉葛城ネイチャーメンバー
12/2	講座のまとめとたこやきパーティー	相 互
12/9	子育て親子との交流～縁日～	子育て支援センターとの共催事業

(表)年間プログラム

(補足)6点セット:認知症予防のために、①つげさん体操②つげサンバ③南京玉すだれ④花笠音頭⑤皿まわし⑥よさこいを取り入れている。

## ニュースポーツ体験（高齢介護課共催講座）

### <ねらい>

高齢者の健康づくり・介護予防に役立てる。

レクリエーションとして交流を深めながら、心身をリフレッシュする。

### <状況・成果>

9/5、9/12、9/19 金曜日（全3回）10時～11時半 受講者 延べ35人

協力：スポーツ振興課、スポーツ推進委員協議会

定員をわずかに上回る16人の申込みがあったが、やはりまだまだニュースポーツの認知度が足りない。

そのため初回は「ニュースポーツってなに??」というテーマで説明。高齢者がイメージしやすいように「誰でも・どこでも・気軽に」楽しめることを強調したところ、頷きながら説明を聞く人や板書を撮影する人もいた。少しは理解してくれたり関心をもってくれたようだ。

実際の体験では、まず個人戦で輪投げからスタートした。ビンゴになった際のポイントアップや正しい投げ方など、初めて知るルールに沿って行う輪投げは想像以上に楽しんでもらえた。そして次にグループ対抗でラダーゲッター・ボッチャ・ミニモルック。馴染みのない競技は参加者のレベルがみんな同じ程度ということが魅力でもあり、協力や交流のコミュニケーションが自然と生まれていた。また、絶妙な力加減が必要な場面でうまくいかずに悔しがったり、反対に成功したときには歓声があがるなど大いに盛り上がっていた。参加者自身で運動量を調整でき無理せず楽しめることも実感してもらえたように思う。

### 《受講者の感想》

- ・新しい競技を体験でき、頭や身体を使うスポーツの講座があれば今後も参加したい
- ・今回のようなニュースポーツをまたしてほしいです
- ・時間的にもよくまた新しいスポーツを紹介してください
- ・今後も続けてやってほしいです
- ・また、このような機会があれば是非参加したいです
- ・大変盛り上がって楽しかったです。定着すればいいですね

### <課題>

講座内容をより詳しく掲載する等効果的なチラシ作成に努める。

回目	受講者	種目	備考
1	11人	輪投げ・ラダーゲッター	あいさつ：高齢介護課職員 魅力紹介：山手地区公民館職員 種目説明：スポーツ推進委員
2	13人	ボッチャ・輪投げ	
3	11人	ミニモルック	

輪投げ



ラダーゲッター



## 花を楽しむ（高齢介護課共催講座）

<ねらい>

高齢者の健康づくり、介護予防の促進。  
季節を感じ、選ぶ楽しみや創作の喜びを味わう。  
心身の活性化や認知機能の維持につなげる。

<状況・成果>

5/8、5/22、6/12、6/26 木曜日 10時～11時半（全4回）  
受講者6人 講師：南 敬（華道家）



手先を使った作業や色彩の工夫を通して、心身の健康維持や認知機能の刺激につなげることを目的として開催した。初めての人にはハードルが高く感じたり、具体的な内容が伝わりにくかったりした可能性もあり、参加者はやや少なめだった。しかし、一人ひとりがじっくりと作品づくりに取り組む様子が見られた。

講座では、まず参加者が自由にイメージを膨らませて花を活ける。全員の作品が完成した後、講師が数パターンの見本を提示しながらポイントを解説。その後、「基本に忠実」「豪快に生きたい」「少し人と変わった花を生きたい」など受講者の希望を活かしつつ、よりよくなるポイントを個別で教わった。吸水スポンジを使用したアレンジメントのため、花を生けた後も何度でもさし直しが可能で、講師のアドバイスを受けて手直しする参加者も見られた。さらに、講座後も自宅で花を活け直すなど、学びを深めようとする様子が見られ、継続的な学習への姿勢がうかがえた。

参加者同士で完成した作品を見せ合い、「私にはこんな発想がない」「同じ花でも生け方に性格が出ていて面白い」といった感想を交わし合うなど、交流を深めていた。

また、講師が用意してくれたお茶セットで、毎回参加者がお茶を点てて談笑しながら楽しい時間を過ごすことができた。こうした交流の場も受講の満足感につながっていたように感じる。

参加者は、6人と少人数ではあったが、出席率は非常に高く、毎回全員が出席した。落ち着いた雰囲気の中で自然と会話も生まれ和やかな講座となった。

<<受講者の感想>>

家で何度もアレンジできて生活の役に立っています。／こんなに手軽に“花を楽しむ生活”ができて本当に良かったです。／最初は生花っぽかったが、少しずつアレンジっぽくなったかな。／もう一回やってみたい！！／先生、参加者の雰囲気がとても良かった。最後のお茶も楽しみでした。／どのお花も個性があって、その時々目に頭に刺激を頂きました。／季節を変えてまたやってほしいです。

<課題>

具体的な制作イメージを広報に取り入れる。



①5/8	カーネーション、パピアナなど	<基本編>まずは自由に生けてみよう
②5/22	ひまわり、かすみそうなど	<基本編>型を学ぼう(ドーム型、個性デザイン型など)
③6/12	バラ、ガーベラなど	<応用編>小さい花を生けよう
④6/26	バラ(淡い色)、カモミールなど	<応用編>ガラスのコップに生けてみよう

## 食と会話を楽しむ（高齢介護課共催講座）

### <ねらい>

高齢者の健康づくり・介護予防に役立てる。

高齢者の「孤食」をふせぎ、栄養バランスのとれた食事を作って交流する。

### <状況・成果>

5/9～12/5 金曜日 10時～12時（全2回×4期） 受講者 延べ63人

講師：花田 幸子（全国学校調理師会会員）

募集は、2ヶ月を1期とし4期講座とした。地域出前講座で町会へ出かけた時に、チラシを配布し宣伝したが、ほとんどが高齢者講座「ことぶきクラブ」の受講者だった。1人で参加した人が孤独にならないようにテーブル分けなど配慮した。

献立は、2回のうち1回目は講師が献立を考えて、2回目は受講者の要望を聞いてから献立を決めた。旬の材料を基本とし、簡単で、普段の料理にひと工夫したり、市販の便利な調味料を活用することで、個々のレパートリーが広がったようだ。特に魚ハンバーグや水ナスステーキはめずらしいようだった。

新しい調理方法で、冷たい状態のフライパンに油と食材を入れてから加熱を開始する調理法「コールドスタート」、胸肉を「ブライン液」（水・砂糖・塩）につけて柔らかくする方法はとても参考になった。

また、ぎょうざ作りでは生地を皮に包んだり、ホットプレートで焼きながら食べることで受講者同士会話が弾んでいた。その他にも、回を重ねるごとに、自然と役割分担ができて、初めて出会った人とも交流を深めていった。講座を通して「何を食べるか」よりも「誰と一緒に食べるか」の大切さを再確認することができた。

講師からは、「全8回をまとめて募集して、材料代も全回分集める方がやりやすかった」という指摘もあったが、受講者側からは「今回のやり方のほうが参加しやすい、8回まとめてだと参加できるか自信がない」という感想があった。結果、5人が4期連続して参加していた。

#### （受講者の感想）

- ・習ったメニューはすぐ家でできそうなものでよかったです。ちょっとした調理の手順とか切り方のコツとかが今になって知ることがあり勉強になりました。わらび餅が家でつくれそうでうれしいです。スペアリブも梅シロップを使うことで短時間で柔らかくなったようで食べやすかったです。
- ・胸肉をブライン液につけると柔らかくなり、助かっています。家に帰って作れるレシピなので大変役に立ちます。ナスのステーキは初めて食べ、ほんとうにナスってこんなにおいしいと思いました。今度作ります。
- ・普通教えてもらえないようなちょっとしたコツ等を話していただけてよかったです。

### <課題>

対象世代の新たな公民館利用者の拡大。

	月日	参加者	献立
第一期	5/9	7人	ぎょうざ、三色ナムル、スープ、ご飯
	6/13	7人	さば缶ハンバーグ、かき玉汁、ジャーマンポテト、エンドウご飯
第二期	7/11	9人	鶏と夏野菜の中華酢あん、トマトと卵の中華スープ
	8/8	9人	水ナスステーキ、スペアリブ、酢の物、タピオカわらび餅
第三期	9/5	8人	ポークピカタ、ズッキーニのポタージュ、パンナコッタ
	10/3	7人	コールスロー、きのこスパゲッティ、さんまのイタリアン野菜スープ
第四期	11/7	8人	きのこご飯、小松菜の味噌マヨ和え、揚げないごま団子
	12/5	8人	豆腐キッシュ、かぼちゃスープ、チキンとキャベツの味噌マヨ焼き、豆乳パン、りんご玉ねぎドレッシング



## ア・カペラ🌙ナイトカレッジ

<ねらい>

日中公民館を利用できない現役世代が、ア・カペラを体験する機会をもつ。

学習後の成果発表の機会を設け、目標をもって取り組む。

<状況・成果>

9/4、9/18、10/2、10/16、10/30、11/13、11/27 木曜日 19時～20時半（全7回）受講者15人

講師：見掛綾子（Be in Voices）

現役世代の公民館利用促進を図り、今年度は学生や若年層の一部で親しまれているア・カペラ講座「ア・カペラ🌙ナイトカレッジ」を開講した。ア・カペラは、楽器を使わず声だけでハーモニーを気軽に楽しむことができる。ドラムやベースなどのリズム楽器の要素も入るため、難しさはあるが、心地よいハーモニーに魅了される。

講座の指導は、中央公民館の自主グループ「はぴ♡はも」講師に依頼した。

受付は7月よりLoGoフォーム（電子申請システム）を使って受付を開始し、小学生2人、40代2人、50代6人、60代5人の幅広い世代の受講者が集まった。この講座は、11月に行う「Be in

## —成人対象事業—

Voices ア・カペラ Live」の出演を条件としていたが、受講者全員が出演を快諾してくれた。

初回は自己紹介とパート分けを行った。講師の配慮で、受講者同士が気軽に声をかけられるようにニックネームで呼びあった。第2回は、受講者の世代や音楽経験等を考慮した楽譜が配布され、新たな取り組みに胸を膨らませた。中には楽譜が読めない人も複数人いたため、講座の30分前から講師が練習のサポートを行い、また各パートのピアノ音源を受講者に送り自主練習に活かせるようにしてくれた。メロディーラインを歌わないパートはできあがりのイメージが掴みづらく講座の前半は苦勞していた。パート練習の際は経験者である「はぴのはも」のメンバーがサポートしてくれた。講座の前半、苦勞して練習してきたことが、後半、曲の完成イメージとして少しずつ形となってきたときは、高揚感を味わった。



舞台衣装（上は白、下は薄いブルーのジーンズ）

やアンケートを取って決めたグループ名（ヤマチク Voices）、当日の受講者の紹介挨拶をする人（小学生）を決めるなど、講師は本番に向けての準備も受講者と話し合いを重ね、全員で舞台をつくる楽しさを引き出してくれた。また受講者側から講座グループのイメージイラストが提供され、揃いの楽譜（台紙）を作成した。

第6回と最終回は、本番を見据えてホールで練習を行い、また最終回は実際にマイクを使ったりハーサルを行い、発表当日に備えた。

回を重ねるとともに、講師と受講者だけではなく、受講者同士が自主的にパート練習を行ったり、談笑したりする様子もうかがえた。仕事帰りの、開始時間ギリギリに駆け込んでくる人も多くいたが、自主練習の成果を発揮しながら目標を持って取り組んでいた。

講師は遠方から来館していた為、公民館でア・カペラグループを作ることは難しいのではと思っていたが、最終回を目前に、講師および受講者から山手でもア・カペラのグループ活動を継続する意向を確認した。講座終了後には受講者の希望調査を行い、継続を希望される人の今後の活動についても支援していくこととなった。

### 《受講者の感想》

- ・あまり合唱をしたことがなかったので、いい経験になりました。うまいとか下手とか関係なく楽しんで歌えて良かったです。見掛先生が根気よく教えてくださり、感謝しております。
- ・パートごとの音源を作って頂き、すぐにスマホで聴くことができたのでありがたかったです。
- ・夜にさせていただいたので、仕事をしながらも参加することができ嬉しかったです。
- ・初めてア・カペラを経験させて頂き、とても楽しかったです。皆さんの声がきれいな層をなし、音が重なり一人ではかなえることができないハーモニーが響いてきこえた時、何とも言えない高揚感や感動がありました。先生の美しい歌声も可愛らしいお人柄もステキで大ファンになりました。ありがとうございました！！

### <課題>

自主グループ移行へのサポート。

## ヤマチクでスマ活

<ねらい>

高齢者のデジタルデバイドの解消。  
災害時に役立つスマホ活用術を学ぶ。

<状況・成果>

第1期 5/19、6/16、7/14、8/18 月曜日 13時半～15時（全4回）受講者8人

第2期 9/8、10/20、11/17、12/15 月曜日 13時半～15時（全4回）受講者8人

講師：中庭陽子（まちのすぐれもの登録者）協力：NPO法人えーる キャリアステップかいつか  
昨年まで「スマホ相談会」と位置づけ、公民館職員が窓口で相談に応じていたが、窓口での対応に限界があるため、今年度は講座として講師や協力スタッフと一緒に学習する機会をもった。

講座を進めるにあたり講師の希望する定員は6人であったが、1人でも多くの人を受け入れてもらえるよう職員と協力スタッフがサポートに入ることを条件に8人にしてもらった。また災害時に役立つスマホ活用術の内容は必須とし、それ以外は受講者の学習したい事やレベルなどの様子を見ながら進めていくことにした。

内容は災害時に役立つ機能（ライトの付け方）に加え、ラインの便利な機能（友達登録、Keepメモの活用、ピン留め、写真で暑中見舞いや年賀状づくり）、地図アプリや二次元コードの活用などを学習した。写真にスタンプやテキスト入力をした暑中見舞いの製作では、アプリの機能を使い家族や仲間にメッセージを送り、楽しみながら取り組んでいた。

第2期は、半数が第1期受講者だったので講座前から講師や受講者が気軽に雑談をしている光景が通例となった。推しの写真をスマホの壁紙にしていたことをきっかけに新たな交流が生まれ、スマホの練習を一緒に始めるなど、受講者同士が互いに交流しながら学習していた。協力スタッフからも、写真を使っただけの学習が交流の一助となるのでよかったと話してくれた。

地図アプリの学習では講師の出身である松江周辺を、地図アプリの機能を使って案内してくれた。地図アプリでは、観光スポットや店の情報、写真などを見ることができ、旅へ出かけた気分を味わった。

知りたい事、聞きたい事、レベルは様々であるため、講座の進め方を決めるのは難しい。iPhoneとアンドロイド等機種により表示機能の違いに戸惑い、参加を中止した人もいた。そのため、受講者には学習内容が全て習得できなかったことを気にするのではなく、1つでも何か習得して帰ることを目指してもらおうよう伝えた。今回は内容を決めずに進めたが、参加するための準備（設定）等もあるので、次年度は学習内容を決めて行っていく。

### 【受講者の感想】

少人数でつきそってくれる人がたくさんいたので、スムーズに事が進んで良かったです。講師の先生が、あかるい人で楽しく講座が受けられた。／ありがとうございました。／とてもわかり易かったです。再度の受講を希望します。／根気よく教えていただいても、その時だけでもと、たとえ1つでもと、たのしみにしています。ありがとうございました。

<課題>

学習内容を決めて広報していく。



## スマホ学習会

### <ねらい>

- 高齢者のデジタルデバイドの解消。
- 協力スタッフの活用と世代間交流の場。
- 個別相談に応じるためのスマホ学習の場。

### <状況・成果>

- 第1期 5/22、6/19、7/17、8/21 木曜日 13時半～14時半（全4回）受講者5人
- 第2期 9/11、10/23、11/20、12/18 木曜日 13時半～14時半（全4回）受講者3人
- 協力：NPO法人えーる キャリアステップかいつか

「ヤマチクでスマ活」講座を受講できなかった人を対象に、先着順で同週の木曜日に学習会を行った。学習内容は、スマ活講座の内容を職員と協力スタッフで進めた。

受講者全員が揃う日がほとんどなかったため、1つの画面を全員で見ながら講座を進める事ができた。そのため一人で取り残されることなく、みんなで話し合いながら進めることができた。

第1期は3回目が警報で中止、4回目が8月の暑い時期の開催で受講者全員が欠席となった。第2期は参加人数が少なかったものの、毎回意欲的に参加していた。

学習会では、ガラケーからスマホへ切り替えたまま何も設定していない受講者がいた。メールの受信設定ができていないためアプリのインストールも出来ず、学習に入ることができなかった。前もって使用するアプリが入っているか確認しておく必要があった。携帯ショップへ出向き、設定をしてもらうようアドバイスをしたが、店に何をどう伝えたらよいかという所までアドバイスできなかった。このようなスマホ初心者のデジタル活用力を底上げしていくことが目標であるにも関わらず、講座での対応の難しさを感じた。

スマホ学習会の内容は、復習の回も多かったため、学習したこと以外でも何か聞きたい事がないか受講者に質問しながらすすめた。「わからない事もわからない」と冗談を言っていたものの、「消して欲しい写真の削除方法」、「グーグルドキュメントの文字サイズ変更の仕方」「電車の時刻表検索」などの質問があり、相談内容もみんなで学習した。

今回の学習会では、受講者の前向きな学習意欲に驚かされた。便利な使い方を習得したい、吸収したいという積極的な姿勢があった。少しの助言で解決できたことに喜び、生き生きとした表情で帰っていく姿を見ると、細々ではあるが講座を開講して良かったと実感できた。また、協力スタッフに初めて関わってもらい、スマホ学習会を通じた世代間交流が生まれた。受講者と協力スタッフとのつながりを持ちながら、次年度は協力スタッフを主体とした運営につなげていきたい。

#### 【受講者の感想】

- ・先生の説明がわかりやすかった
- ・とにかくやさしくていねいに教えてくれました。あっという間の1時間半でした。

### <課題>

- テーマを決め、使用するアプリがインストールされているか確認しておく。
- 協力スタッフとの連携。

## 脂肪燃焼&筋トレエクササイズ

<ねらい>

地域の健康推進や運動能力の向上を図る。  
働く世代が参加しやすい講座とする。

<状況・成果>

5/15、5/29、6/12、6/26 木曜日 19時半～20時半  
(全4回) 受講者24人

講師：梅本道代 (Physical Heart®代表)

講座タイトルは変更しているが夜のエクササイズ講座を開催して4年目となる。働いている世代に関心を持ってもらうように内容を講師と相談し、前半2回を有酸素運動と筋力トレーニングを組み合わせたサーキットトレーニング、後半2回を講師が考案したボクシング(パンチ、キック)とピラティス(体幹強化)を取り入れたエクササイズを行うこととした。共に運動強度の高い内容で、薄着になる夏に向けて引き締まったボディづくりに効果的な運動を行った。

エクササイズの講座は、運動強度をどこに設定するかで内容を決定する。今回は夜の講座で働いている現役世代を対象に運動強度の高い内容であることを受講者に分かるようチラシに表記し案内した。またLoGoフォーム(電子申請システム)を初導入して講座の受付を行った。申し込みはLoGoフォームを活用した人が多く、電話での申し込みはほとんどなかった。逆に電話での申し込みが少なかったため、持物の周知が足りずヨガマットやバスタオルを持参しなかった人が数人おり、

その人には予備のヨガマット又は保育室のクッションマットで代用した。

サーキットトレーニングのコンセプト通り、最初のウォーミングアップは30分の有酸素運動が恒例となった。休憩は水分補給のみで呼吸を整える程度だった。またヨガマットとボールを使ったトレーニングでは、普段使えていない筋肉にアプローチするため、その後のクールダウンは心地よい解放感を味わっていた。

初回、ロビーで遊んでいた学生が、ホールから聞こえる講師の掛け声とビートのきいた音楽に引き寄せられ、ロビーで真似をしていた。担当職員に、「これは何をしているの?」と聞き、楽しそうな雰囲気に興味を示していた。

《受講者の感想》

- ・タイトルの通りでした!想像していた以上にキツかったです。梅本先生の講座は、音楽と先生の声かけが心地よくテンポもよいので、時間があっという間に過ぎて、終わった後は身体も気持ちもすごくスッキリしました。
- ・ボクティスは思いきりパンチすることでとても気分がすっきりしてストレス発散になりました。楽しかったです。あっという間の1時間でした。
- ・初めてだったのでついていけるか不安でしたが、少しずつ動きを増やしていったり何度も繰り返して教えてもらったので楽しく受けることが出来ました!ありがとうございました!
- ・普段運動することがないので、すごくいい機会でした!みんなでするので、飽きずに1時間頑張れました。

<課題>

働く世代の新たな利用者の獲得。



## ふれあい料理

<ねらい>

障がいのある人が主体的に料理実習に関わり、日常生活に必要な生活スキルを向上させる。

受講者同士やボランティアとの交流を図り、相互理解を深める。

<状況・成果>

5/16～3/13 金曜日 10時半～12時半 (全10回) 受講者 延べ100人

4月に施設職員・ボランティア・公民館職員で会議を行い、ほっこりの里 (以下「ほっこり」)、ワークサポートらばん (以下、「らばん」) の受講が決まった (11月からグループホームみずま追加)。ほっこりは昨年に続き、らばんは初参加。献立テーマは、大阪・関西万博の開催年にちなみ、海外の料理と季節の料理を味わいたいと要望があり「旬の野菜を使った多国籍料理」とした。

毎回、受講者の調理スキルが異なるため、スタッフは調理スキルを見極めながら進行し、コミュニケーションも取りながら、時間内に料理を完成させている。今年は、給湯器の調子が悪く湯加減調整が難しかったため、火傷をしないようにスタッフ間で細心の注意を払った。

「いただきます」や「ごちそうさま」の号令を担当してくれた受講者の中には、みんなの前で小話を披露し、ときには場を和ませてくれた人もいた。

<課題>

給湯器の更新 (30年以上使用・耐用年数経過)。

※施設職員・入所者

月	献立	参加施設	受講者
5	キーマカレー・新玉のサラダ・桜餅・ごはん	ほっこりの里 ワークサポートらばん	9
6	スコッチエッグ・切昆布千切り大根サラダ ・果物のヨーグルト和え・ごはん	ほっこりの里 ワークサポートらばん	9
7	焼きビーフン・かぼちゃのそぼろあん煮 ・もちりミルクプリン・ごはん	ほっこりの里 ワークサポートらばん	9
9	中華ちまき・チンジャオロース・杏仁豆腐	ほっこりの里 ワークサポートらばん	9
10	ルーローハン・コールスロー・あきの簡単デザート ・ごはん	ワークサポートらばん グループホームみずま	6
11	きのこのリゾット・アクアパッツア・ババロア	ほっこりの里 ワークサポートらばん グループホームみずま	12
12	キッシュ・ミネストローネ・クリスマスケーキ ・ごはん	ほっこりの里 グループホームみずま	8
1	ミートローフ・ほうれん草とベーコンのバター炒め ・きんとん茶巾・ごはん	ほっこりの里 ワークサポートらばん グループホームみずま	14
2	マカロニグラタン・コールスロー・ブラウニー ・ごはん	ほっこりの里 ワークサポートらばん グループホームみずま	12
3	カルボナーラ・かぼちゃとれんこんローストサラダ ・カップケーキ・ごはん	ほっこりの里 ワークサポートらばん グループホームみずま	12



## 学習の集いの場

### <ねらい>

気軽に利用できる「集いの場」を市民とともにつくる。

多様な学びを支え、学びを通して人をつなぐ。

より多くの市民が利用できる仕組みにすることで新規利用者の活動場所をつくる。

### <状況・成果>

自習室に使用できる部屋が空いているとき（小学生のみの場合 17 時 15 分、中学生のみの場合 18 時まで）受講者 延べ 573 人

今年で 3 年目の事業となる。昨年度まで毎週木曜日 15 時半～21 時の利用（※例外あり）とし、空き室があれば利用を認めていたが、テスト前など連日集中することがあるため、利用日を改めた。

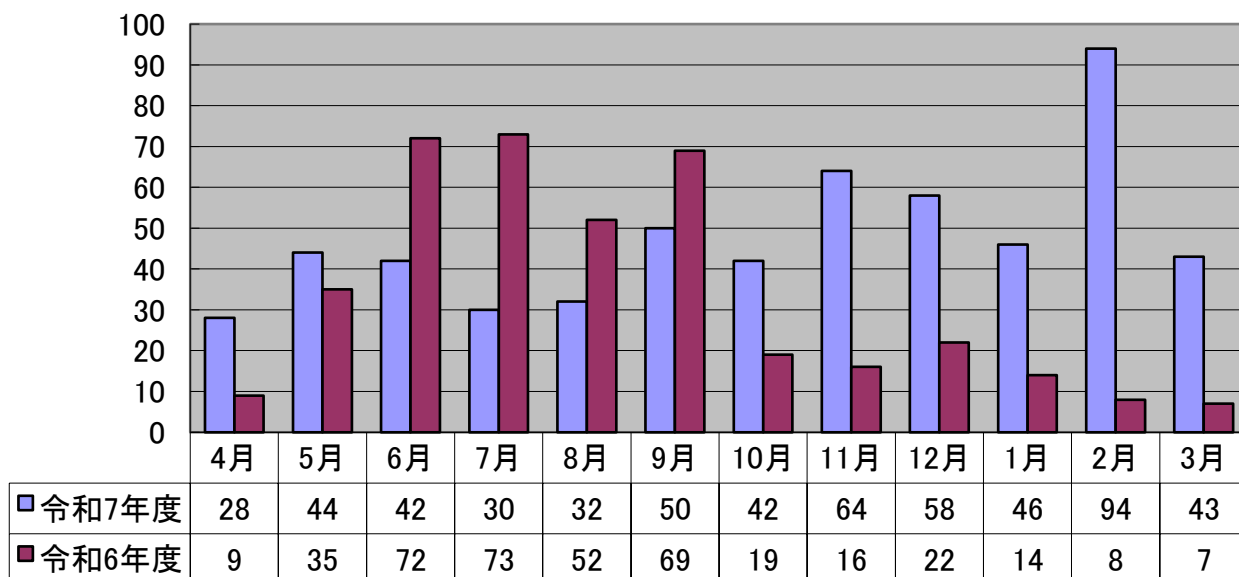
今年度は 5 月に「申込みをしないで入室する」、「室内でお菓子を食べる」、「自習をしない」、「2 階で騒ぐ」といった一部の中学生による集団（記名者だけで 31 人）での悪質な行為があった。多くの人に利用していただくため、過度な制限を設けてこなかったが、これを踏まえ、中学生に一定の制限をかけることとなった（生徒証明書の提示・利用時間の繰上げ・利用人数など）。さらに手引きを作成し職員間での認識の共有、学習の様子巡回などでマナーの向上を図り、悪質な行為は減少した。

下期は、新規で利用する高校生の継続的な利用や、下校時に公民館に立ち寄って自習する中学生の姿もあり利用者が増えてきている。特に試験前など遅くまで利用する学生の姿もあり、自習に取り組める場所として認知されつつある。公民館としても空き室の活用のため、利用したいときに利用できる体制作りを心がけて部屋の調整をしている。また、事業を継続することにより、山手にも自習できる場所があることが口コミで広がることを期待している。

### <課題>

学習の様子を見守りながら、マナーを呼び掛けていく。

（単位：人）



## 気軽にコンサートピアノを弾こう

### <ねらい>

コンサートピアノの有効活用と周知。  
練習の成果発表の場。  
他者の演奏を聴き、互いに刺激を受ける。



### <状況・成果>

4/27 日曜日 10時～15時(休憩 12時～13時) 参加者 20人 (内演奏者延べ 17人)

8/31 日曜日 10時～15時(休憩 12時～13時) 参加者 31人 (内演奏者延べ 21人)

10/5 日曜日 10時～15時(休憩 12時～13時) 参加者 31人 (内演奏者延べ 18人)

昨年度から継続的な参加が増えている。8月はピアノの発表会のリハーサルとして利用している人もいたため、開催1週間前に全ての予約枠が埋まり、参加出来ない人もいた。10月はコンクールやコンサート、公民館まつりなどのリハーサルとして参加している人が多く、真剣な面持ちで演奏に臨んでいた。また親子で連弾を披露したり、同日開催していた「親子で料理」講座前に演奏したり、参加者はスキルに関係なくコンサートピアノに気軽に触れていた。

8月よりLoGoフォーム(電子申請システム)の受付を導入し、申込時に空いている時間帯がわかるようになった。LoGoフォーム活用前は、電話か窓口でのみの受付であったが、導入後は約7割がLoGoフォームからの申込みであった。

今年度より2人のボランティアに講座協力を依頼し、受付や交代時間のアナウンスなどに関わってもらった。演奏前後の参加者に気軽に声をかけ、ピアノを介した会話が弾んでいた。ボランティアに関わってもらう事で、参加者同士の繋がりが生まれた。

また公式インスタグラムを活用した講座報告や案内に、演奏動画の活用を試みた。掲載できる演奏に制限はあるものの、ほとんどの演奏者が写真や演奏の様子をSNSに投稿することを快諾してくれ、宣伝や報告に活用した。

この講座では、普段あまり見る機会のない大学生が参加している。音楽家を目指している人もいれば、ピアノの指導を受けたことはないが自己流で様々なところに演奏に出かけている人もいる。エネルギー溢れる若者の演奏に参加者も見守りのボランティアも刺激を受けていた。

ねらいであるコンサートピアノの周知は一定の効果は認められた。中央や浜手地区公民館のグランドピアノとの弾き心地を比較する参加者も少なくない。弾きやすさの好みは分かれるが、長い弦で重みのあるコンサートピアノを舞台上で演奏できる機会を、今後も提供していきたい。またコンサートピアノで素晴らしい演奏を披露してくれる人も多くいるので、来年度は合同発表会形式をとったスペシャル企画も協力ボランティアと計画していきたい。

### 【演奏者・参加者の感想】

- ・気軽にピアノ発表会に参加出来るので、ありがとうございます。
- ・久しぶりでしたので、とても緊張しましたが準備していた曲全て弾けて満足です。良い刺激を貰えてありがとうございました。
- ・ホールでコンサートピアノを弾ける機会はなかなかないので毎回楽しみにしています。
- ・大きなホールで響きを感じながら練習できてありがとうございます。
- ・コンクール本番前の貴重な練習をさせていただきました。ありがとうございました。
- ・コンサート前でリハーサルとしてお伺いさせて頂きました。貴重なご機会ご提供くださりありがとうございます。

### <課題>

演奏者に加え、視聴のみの人も楽しめる機会を設ける。ボランティアの活躍の場。

## Be in Voices ア・カペラ Live

<ねらい>

市民の文化発表の場。

ア・カペラの文化に触れる。

<状況・成果>

11/30 日曜日 13時半～15時 参加者 120人

出演：第1部 ア・カペラ 🌙 ナイトカレッジ受講者グループ「ヤマチク Voices」と中央公民館  
ア・カペラグループ「はぴ♡はも」

### 第2部 Be in Voices

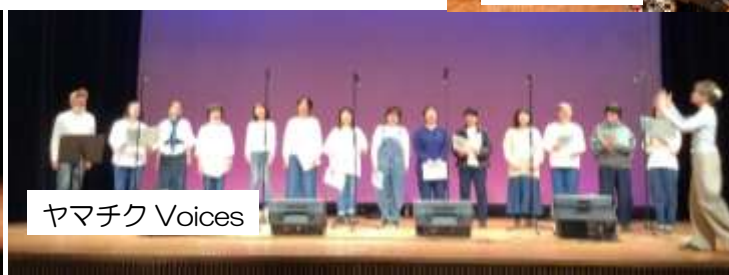
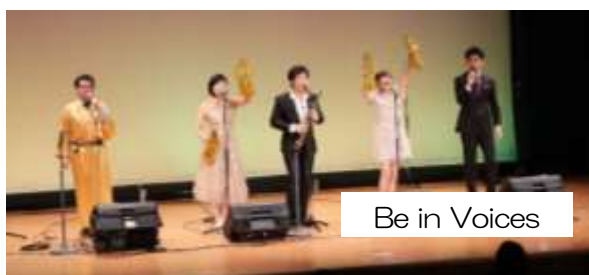
この事業は、ヤマチク Voices と「はぴ♡はも」の発表、Be in Voices の公演で構成し、学習発表とプロの公演鑑賞の2部構成で開催した。また Be in Voices は出演依頼にあたり、会場の設備（音響・照明）が十分整っていない事を確認してもらった上、引き受けてくれた。

Be in Voices メンバーの1人が講座やグループの講師を担っており、当日までの舞台・照明の打ち合わせやプログラム、リハーサルや設営等、公民館と密に連絡を取り合い進めてくれた。ア・カペラは、マイクの使用本数が多く、また3団体が同時に出演することで場面転換も多いためである。

受講者は、講座最終日にリハーサルを行った。技術スタッフに協力を依頼し、マイクの位置や立ち位置など3度にわたる調整を行い、舞台本番に備えた。

当日、はじめて顔合わせする3団体がホールに集合しリハーサルを行った。Be in Voices のメンバーが、発表者の緊張をほぐすように明るく進行し、各グループのリハーサルを見守ってくれた。指導講師は、自身の出演の準備もある中、出演10分前まで2団体の手直しを行っていた。

本番ではヤマチク Voices が2曲の発表を行い、曲間には小学生がグループの紹介を行った。元気なスピーチの音が響き会場の空気を一変させた。歌唱は、講師の指揮で一丸となって歌い、口笛担当と受講者のイラスト作成者を紹介し舞台発表を閉じた。次に「はぴ♡はも」の出演。受講者の発表と重なるメンバーは、衣装替えを速やかに済ませ出演していた。舞台経験のあるグル



## —文化振興事業—

ープで、ハンドマイクを使った歌唱や曲間で行ったグループ紹介なども堂々と発表していた。発表できる場所を探していた「はぴ♡はも」にとっても良い経験となり、また中央公民館での活動を周知する良い機会になった。

第2部の Be in Voices は、ワルツの曲を4拍子に編曲したオリジナル曲、少し季節の早いクリスマス曲や会場全体が盛り上がる曲を選曲し、プロのハーモニーに触れることのできる楽しいプログラムを披露してくれた。最後に3団体で歌ったアンコールは、会場を巻き込んだ壮大な歌唱で大いに盛り上がった。

ア・カペラ Live 終了後、それぞれが飲み物とおやつを持参し、短い時間の中で3団体の交流会を行った。はじめて顔合わせするメンバーもいる中で、同じ舞台上に立った仲間と親睦を深めた。

### 【参加者の感想】

- ・アカペラをはじめて観ましたが、感動しました(Be in Voices)
- ・すばらしい声に酔いしれました。また機会がありましたら聞いてみたいです。
- ・ヤマチク Voices 3分の2の方が未経験だったとはビックリ。年齢層も広く、楽しそう。
- ・ヤマチク Voices 少ない練習で発表できるまで出来た事がすごい。皆さんの努力のたまものだと思います、良かったです。はぴ♡はも、スゴイ!!
- ・はじめて聞いたけどすごくよかったです
- ・Be in Voices、こんなにおもしろいとは思わなかったです。よかったです。
- ・工夫された企画でアカペラを見直しました。又企画してください。
- ・はじめて Be in Voices を聴きましたが、トークも歌も大変よかったです。

### <課題>

成果発表も含めた文化事業の開拓。

グループ活動の支援。

## はじめての人形劇

### <ねらい>

乳幼児から参加できる人形劇を通して親子で生の舞台にふれる機会とする。

### <状況・成果>

9/27 土曜日 14時～15時 参加者 76人

出演：人形劇団クラルテ

演目：「ぞうくんのさんぽ」、「三びきのこぶた」

今年で10回目の開催となる。乳幼児連れの家族が大半で、生の人形劇を鑑賞する機会が身近にあることが喜ばれている。

演目の紹介を劇団員と人形で行い、その掛け合いが子ども達を引き付け、終始集中力を切らさず観ていた。背景や衣装の早変わり等完成度の高い演出に大人も楽しく鑑賞できた。

開催日は、地域の祭礼の時期でもありその催しと重ならないよう調整を行なった。

### 《参加者の感想》

- ・とてもシンプルな舞台で、でも、想像力で楽しめる。素敵な人形劇でした
- ・2人でよくやっている。子どもを引き付けるポイントが盛りだくさんでした
- ・毎回行きたいです。またあれば参加したいのでどんどん開催してください
- ・午前中開催だと子どもが眠くない時間でうれしいです
- ・騒いでいても「うるさい」と注意されない楽しい雰囲気でありがたかったです

<課題> 多くの人が参加しやすい日にち・時間に開催する。



## ピアノと声が紡ぐ四季の物語「MuKu ライブ」

<ねらい>

アコースティックデュオの心温まるコンサートにふれる。

<状況・成果>

5/31 土曜日 13時半～15時 参加者 120人

出演：MuKu(ボーカル 喜一、ピアノ 祐太)

昨年度開催した祐太さんのソロピアノコンサートに、喜一さんがシークレットゲストとして出演したのをきっかけに今年度はMuKuの2人に出演を依頼した。MuKuは、喜一氏が貝塚出身ということで、貝塚市代表として大阪・関西万博に出演したり、水間寺にある「愛染堂」のイメージソングを歌うなど貝塚と縁のあるデュオである。

当日は、2部構成で、オリジナル曲を中心に、ピアノのソロや聞きなれた曲、貝塚をイメージした曲が披露された。ピアノソロは情景が浮かぶようだった。また、ボーカルはきれいな澄んだ声で、舞台と観客との距離も近く、会場は生の演奏を楽しんでいた。

場面転換では、衣装替えがあり、大阪・関西万博をイメージしたかのようなミャクミャクカラーで登場。2人の人柄の良さも重なり、会場は温かい雰囲気につつまれていた。

オリジナル曲を聞いて欲しい出演者の思いがある一方、もう少しみんなが知っている曲を演奏してもらってもよかったかもしれない。

《参加者の感想》

- ・「むくの木の下で」は、映画の主題歌のような感じで聞いていました。とても素敵なピアノ演奏とボーカルのやさしい歌声がよかった。
- ・元気もらえた。生ピアノを聞けて楽しかった。歌は心に届きました。
- ・懐メロは、日本の曲がもっとあればと思った。今の活動などもう少し話をしてほしかった。

<課題>

参加者の年齢を考慮したプログラムの構成。



## 「津軽三味線ライブ」～和の響きの世界へ～

<ねらい>

津軽三味線の奥深さや楽しさを伝える。

<状況・成果>

6/29 日曜日 13時半～15時 参加者 164人

出演：津軽三味線ユニット 来世楽(ラセラ)京極あつこ、京極ゆか

2023年度に開催した「津軽三味線と民謡」で日本民謡京極流のメンバーでもあった京極あつこさんが司会進行し、話術のすばらしさもあり観客を引き付けて楽しませてくれた。次は、ぜひ演奏をお願いしたいということで、今回実現した。

定員200人とし、整理券を発行したが、すぐに定員に達した。参加者は70才以上がほとんどだった。

1部は、古典民謡の演奏や三味線の歴史の話、2部はオリジナル曲や民謡の聴き比べや掛け合い、観客も参加するコーナー(かけ声・手拍子)があった。特に、2人の速弾きは迫力があり、拍手喝

## —文化振興事業—

采だった。休憩がない中での場面転換は、一人が舞台に残って演奏し、その間にもう一人は着替えに行く、次は交代というように交互に着替えて、観客を飽きさせないように工夫されていた。

終演後すぐに、「体の底から響いて楽しかった、よかった、生演奏に感動!」という声が多く寄せられ、アンケート回収率も高かった。

### 《参加者の感想》

- ・若いお二人のかけあいで気もあい、迫力があり気持ちも明るくなりました、内容が良かった。
- ・元気ができました。90分という時間があっという間に過ぎた様に感じました。
- ・素晴らしかった、まさに国宝ですね。
- ・会場を巻き込む大阪おばちゃん風のしゃべりもとても楽しかった。
- ・母と来ました。とても喜んでいました。親孝行できました。

### <課題>

身近で高齢者が気軽に参加しやすい事業を今後も継続する。



## 山手寄席

### <ねらい>

多世代にわたり身近に文化にふれる。

### <状況・成果>

3/8 日曜日 11時～12時 参加者 140人

出演：満腹亭楊枝(落語・三味線漫談)、天神亭美笑(落語)

市内の町会で開催される「いきいきサロン」でボランティアとして活躍されている二人に、今回初めて山手地区公民館の文化事業に出演を依頼した。二人とも素人ながら、数々の落語大会で受賞されるほどの腕前である。

事前に整理券を200枚配布していたが、参加者は7割程度だった。

当日の客席は出演者の意向もあり、前から順番に詰めてもらい、次に可動椅子に座るという形式だったが、慣れている人は最初から可動椅子に座りに行こうとするので理解を求めた。

演目は、時うどん(楊枝)、真田小僧(美笑)、三味線漫談(楊枝)、冷蔵庫哀詩(作・桂小春團治 美笑)で、交互に出演。楊枝さんはハリのある声と動作が激しく、反対に美笑さんは強弱のある話し方だった。観客のなかには、落語や三味線漫談初体験の人や子どももいたが、わかりやすい演目だったので、会場は笑いにあふれていた。

### 《参加者の感想》

- ・久しぶりに笑えて、楽しかった。
- ・二人とプロに等しい。
- ・よく知っている「時うどん」だったけど、今まで聞いた中で一番笑った。
- ・三味線漫談初めて聞きました、いい声ですね。
- ・「冷蔵庫」の話に大笑いです。

### <課題>

整理券配布数の検討。

今後も身近に生の舞台にふれる機会を提供する



## ロビーコンサート

<ねらい>

身近で生の演奏を楽しむ機会とする。

市民の文化活動の場とし、内容の企画・運営についても自主的に進める。

<状況・成果>

奇数月 第4金曜日（5月と1月は第5金曜日）12時15分～13時（全6回）参加者延べ332人  
ロビーコンサートは、誰でも気軽に生の音楽に触れる機会として、昼の時間帯に開催している。2グループ（貝塚市クラシック音楽家協会、アンサンブルBUNS）で各回を担当し、それぞれが内容等の企画・運営に関わり取り組んでいる。

昨年度までは課題となっていた、駐車場が足りないこと、貸館で利用している団体への音出しの影響などに配慮し、今年度より比較的定期利用団体の少ない金曜日に開催し、また時間帯を15分短縮し他の貸館利用者への影響に配慮した。加えてこれまでチラシとプログラムは演奏者側で作成をしていたが、演奏者の負担を考慮し今年度より公民館で作成することにした。



開催曜日や時間帯が変わり、参加出来なくなった人がいる一方、はじめてロビーコンサートに参加する人も増えた。5月と1月はロビーの利用と重なり第5週目の開催となったが、昨年度と変わらずロビーコンサートに足を運んでくれている。駐車場の案内も引き続き必要であるが、昨年度までの混雑は回避できた。また火曜日から金曜日に日時を変更したことで、火曜日には出演できなかった演奏家が出演できる可能性も広がった。

7月は大阪・関西万博（以下、万博）開催に因んで、公民館で万博気分を味わってもらえる内容とし、パビリオンに出店している国やエピソードを紹介しながら演奏を披露した。ブルーインパルス展示飛行で盛り上がった直後のロビーコンサートだったこともあり、飛行映像の挿入歌としてよく使われる曲がアンコールで演奏され、参加者の心を掴んだ。また万博イメージキャラクターに合わせて、赤と青のドレスで魅せてくれた。

9月よりプログラムにアンケートと鉛筆をセットして配布した効果もあり、アンケートの協力も増えた。寄せられた感想を出演者へ知らせ、イベントの成果を共有した。約半数は市外からの参加であり、市内の人にも参加してもらえる工夫が必要である。

11月は浜手地区公民館で行っている活動グループ「よる☆うた」講師の出演だったため、普段あまり利用のない浜手地域の利用者がグループで参加していた。男性の出演は珍しく、参加者もバリトンの力強い歌声に心を掴まれていた。プログラム内容も、オペラ、ピアノソロに加え、アンコールで参加者とともに歌ったオーシャンゼリゼでは会場が一つになる心温まる演奏会となった。



1月は期日前投票期間のため開催場所を講座室に移し開催。箏は3面を準備し、箏曲の親子共演とフルートのコラボで新春を感じる和の音色を味わった。

—文化振興事業—

ロビーコンサートは出演を希望する演奏家や、こんな人に演奏して欲しいなどの要望が出される。これまで企画・運営を2団体で決めており、マンネリ化しているところもある。そのため次年度に向け、これまで関わっている2団体に加え、年に2回は公民館が企画していくことを2団体に伝えた。事業で行うロビーコンサートとは別にロビーを活用してコンサートをしたいという希望も増えてきている。事業と自主運営のコンサートのすみ分けを行い、また開催曜日が広く定着するように、しばらく金曜日の開催で進めていく意向を2団体と確認した。

＜参加者の感想＞

- 来てよかったです。皆さんの前向きな活動、楽しいお話、頭が下がります。心のこもったすてきな歌声・演奏聞いていてとても心地よかったです。また聞きたいです。これからもお元気で活躍ください。(5月)
- 大変たのしかったです。最後のブルーインパルスは特別でした。(7月)
- ピオラの音色が心地よかったです。タイスの瞑想曲で本当に眠ってしまいそうになった。(9月)
- いろんなジャンルの曲があって楽しかった。(11月)
- 新春らしく箏の音色とフルートのコラボが良かった。「光と風と」がとてもきもちよかったです。優雅な気持ちになれた。(1月)
- 桜満開の中で聞いているような気分になりました。たのしくなりました。(3月)

＜課題＞

様々な演奏家に関わってもらう工夫。

開催日時の周知。

※企画欄のB=アンサンブルBUNS、ク=貝塚市クラシック音楽家協会

月日	内 容 (企画) / 出 演 者	参加人数
5/30	さつき晴れの空に歌う (B) / とも池博子 (ソプラノ)・今川知恵子 (フルート)・西 規子 (チェロ)・三井好子 (ピアノ)	65
7/25	ヤマチクでEXPO気分 (ク) / 竹内裕美 (ピアノ)、樋口藍 (フルート)	55
9/26	初秋に奏でるクラシック♪ (B) / 三井梨愛 (ピアノ)・今川知恵子 (フルート)・西 規子 (チェロ)・三井好子 (ピアノ)	59
11/28	秋のメロディと木々に触れる昼下がり (ク) / 花篤孝子 (ソプラノ)・齋木慶子 (ソプラノ)・内山圭介 (バリトン)・白原理香 (ピアノ)	63
1/23	新春を迎えて (B) / 今川知恵子 (フルート)・常盤木和子 (箏)・山根利佳 (箏)	37
3/27	春爛漫うたとピアノで奏でるハーモニー (ク) / 西村裕恵 (ソプラノ)・奥村由起 (ソプラノ)・松本千賀子 (ピアノ)	53

## 保育ボランティア

### <ねらい>

子どもが安心して過ごせる保育環境を整える。

地域の一員として子育てを支える活動に参加し、主体的にかかわる場の提供。

### <状況・成果>

定期登録者 6 人 不定期登録者 13 人

定期登録は、不定期から定期への変更で昨年度より 2 人増えた。また、昨年度の養成講座に参加した 1 人が新たに不定期として登録した。

活動は、主に子育て講座（9～10 月）の保育を担当。8 月に開催した準備会では、初回のすすめ方や代表決め、おやつの有無について話し合った。おやつは、保育時間が短いこと、安全面を考慮して出さないと決めた。そのほか、保育ノートや名札の準備等も行い、初回の受講者への保育説明や読み聞かせ、手あそびはボランティアで分担した。

子どもは申込時点で 1 歳児 5 人、2 歳児 1 人の計 6 人。親族以外に預けるのが初めてという家庭も多かったため、子どもの人数プラス 1 人のボランティアを配置し、余裕をもって対応できるようにした。

毎回の講座終了後には、ボランティアからその日の様子を口頭で伝えた。全体を通して「優しく接してくれた」「話しやすく安心できた」という声が寄せられ、子どものペースを大切にされた保育が行えた。

保育ノートは前年度に引き続き実施し、毎回の保育室での様子を記録して受講者に渡した。最終回には、子どもたちの様子を撮りためたビデオを鑑賞し、普段見ることのない我が子のびのびと過ごす姿に、受講者は嬉しそうな表情を見せていた。さらに、保育中の写真を添えたサプライズカードもプレゼントして、温かい雰囲気講座を締めくくることができた。

ボランティアは定期登録者だけでは足りず、どの回も不定期登録者に声をかけて応援を依頼した。不定期登録者の中には講座の半分以上に出席した人もおり、今後は定期登録への変更を呼びかけつつ、不定期登録者にも積極的に保育協力への声掛けを行っていく。また、山手地区公民館だけでなく、他館でも活動している人が多いため、今後は他館での良い取り組みを共有し、よりよい保育環境の整備とボランティア事業の継続に努める。

### <課題>

定期登録ボランティアの確保。



## ふれあい料理ボランティア

### <ねらい>

受講者が安心して活動できるよう、ボランティアのスキルアップを支援する。

受講者、ボランティア同士が交流し、相互理解を深める。

### <状況・成果>

登録者7人（うち新規登録者2人）

「ふれあい料理」のボランティアは、単なる調理補助だけではなく、受講者との交流や地域活動への貢献（11月のほっこりの里イベントに参加）など参加者自身のスキルアップに繋がっている。

今年度は、ボランティア向けの講座は開催しなかったが「ふれあい料理」終了後のミーティングでは、新メンバーも含めて和気あいあいとした雰囲気ですれ話を交えてボランティア同士交流が深まった。

体制としては、ボランティア登録者に講師1人を加えると料理スタッフが8人となり、調理台に2人ずつスタッフの配置が可能となった。しかし、1人は今年度だけの登録の可能性があるので、引続きボランティア（若干名）の確保は必要である。

### <課題>

新規ボランティアの確保。



## 山手地区公民館まつり

### <ねらい>

日頃の公民館活動の成果を発表する。  
各クラブ、地域団体が協力して事業を成功させる。  
実行委員会形式の運営を公民館が支援する。

### <状況・成果>

10/18 土曜日 10時～16時（展示のみ） 晴れ  
10/19 日曜日 10時～14時半 曇り  
参加者 延べ1,008人（2日間）※昨年に比べ減少  
実行委員 クラブ32・地域団体7  
テーマ ヤマチク祭りだ わっしょいしょい  
オープニング 貝塚バトントワリングクラブ



オープニングの様子

概ね事業運営は例年と同様。今年の展示会場の設営は、役員負担の部分を業務委託し、負担軽減を図った。結果、予定していた作業以上のことが、低予算かつ短時間で終了した。まつり終了後の役員会では、「役員・委員業務の負担軽減・高齢化による危険作業の解消」になるため、来年も委託する方向となった。

舞 台…発表 15組。会場前に設置したモニターで舞台の様子が確認でき好評だった。ホール委託業者のスタッフ過多で、実行委員による舞台系の役割や配置転換が課題となった。

展 示…出展 9組。1階：クラブ紹介パネル設置、2階：出展会場（即売会や絵付け体験あり）。設営作業は円滑だったが、撤収作業の協力について一部の実行委員と認識共有不足だった。

模擬店…出店 8組（前回 12組）。イートインスペースの利用は少なく例年に比べ賑わいに欠けていた。来場者が減少しているにもかかわらず、飲食コーナーの完売のタイミングが早かった。

### 《実行委員の声》

- ・オープニングの子どもたちの一生懸命な演技・笑顔・音楽とても可愛くこちらまで元気になりました。
- ・クラブ活動で練習された成果を披露される姿に感動しました。チャレンジに年齢は関係ないことも気づかされました。子ども連れも多く来場され、観覧や遊びと楽しく過ごされていました。
- ・今年は来場者も少なく感じましたが、それなりに楽しいまつりだったと思います。

### <課題>

各部会で調査したアンケートに記載された反省点を来年に生かす。



模擬店



作品展示



舞台発表

## 移動公民館

### <ねらい>

近隣地域住民の交流機会を図り、コミュニティづくりを支援する。

さまざまな事情から来館できない人に、公民館活動を知ってもらう機会とする。

### <状況・成果>

7/4～12/19（全4回）参加者延べ76人

コスモス市民講座のプログラム「移動公民館～公民館があなたの町へ出かけます～」を活用し、町会や団体からの依頼を受けて開催している。課題であった新たな地域の開拓は、2ヶ所（蕎原・津田南）へ広がった。一方、三ッ松団地南自治会は町会長交代により今年度の依頼はなかった。

内容は、公民館職員からの提案がほとんどで、参加者の年代、会場の広さ、所要時間を考慮して計画。健康体操・つげさん体操・脳トレの後、本題としてさまざまなじゃんけんゲームや笑いヨガ、歯ヨガ、モルック体験を行った。

東山いきいきクラブの1回目では、次々とゲームを行ったため、参加者に疲れが見られた。想定より高齢者には負担が大きかったことを反省し、2回目はモルック体験を実施。足腰の弱い人にも配慮し、室内用モルックを使って、3～4人のグループ対戦としたところ、初心者でもすぐにルールを理解し「とても楽しかった」と好評だった。

蕎原町と津田南町では、健康と若返りを目的に笑いヨガ・歯ヨガを体験。初めて聞く内容に戸惑いもあったが、職員のリードにより作り笑いから自然な笑いへと変わり、最後には最高の笑顔が見られた。就学前の子ども3人を含む3世代の家族が参加した蕎原町では、地域の子どもの数が少ない現状も共有できた。蕎原町は、ふれあい喫茶形式で自由に集まる場のため、開始時間に全員がそろわない難しさがあった一方、津田南町のように目的を持って集まった地域では進行しやすかった。また津田南町では、山手地域では見られない町会長の参加があった。全地域で終了後茶話会を実施し、感想や地域課題の聞き取り、公民館の周知を行った。

「貝塚市をもっとPRした方が良い」との意見もあったり、これまで参加していた人が施設入所した現状、地域の高齢化に伴って役員のみ手がなくて役を兼任しているという現状など新たな地域課題の気づきの場となった。



### <課題>

地域活動を継続できるような支援の在り方を検討していく。

【東山いきいきクラブ】

月日	依頼先	内 容	人数
7/4	東山いきいきクラブ	レクリエーション(脳トレ、じゃんけんゲーム)	17人
7/19	蕎原ふれあい喫茶	笑いヨガ、歯ヨガ	30人
11/21	津田南町会	笑いヨガ、歯ヨガ	14人
12/19	東山いきいきクラブ	モルック体験	15人

## 地域出前講座

### <ねらい>

近隣の地域住民の交流の機会をつくる。

さまざまな事情で来館できない人に公民館活動を知ってもらう機会とする。

### <状況・成果>

6/14～12/19（全5回）参加者延べ172人

山手地区公民館では、これまで地域に出向く事業はすべて「移動公民館」として実施してきたが、公民館職員が講師として対応する場合は、コスモス市民講座の「移動公民館」とし、クラブや落語家など外部からの講師を招く場合は「地域出前講座」と区別することにした。

依頼団体は、老人会やふれあい喫茶の世話人が中心である。これらの団体は、毎月1回住民同士の交流の場を設け、高齢者の孤立を防ぐために工夫しながら内容を企画している。参加してもらうための魅力ある内容づくりに悩む世話人から、公民館に相談が寄せられている。公民館では、主催講座などの経験を生かし、講師の紹介を行っている。

団体はポスター掲示、当日の町内放送、会場準備や受付を担い、参加者は終了後の出演者との会話も楽しみにしている。「公民館は遠くて行けないので、身近で生の落語を聞いて楽しかった」「津軽三味線の音色が身体に響いた」「フラダンスをこんなに近くで見たのは初めて」などの感想があり、身近な町会館での開催はすべて好評である。

落語や音楽が好まれる中、今回はじめて畠中ロコモフレンズからスマホ講習会の依頼があった。町内在住の若い女性が、「地域に恩返ししたい」との思いで高齢者対象の学習会の開催につながった。当日は、講師と同郷の参加者もいて和やかな雰囲気の中で進み、次回開催を希望する声もあった。

### <課題>

新たな地域の開拓と出前講座のさらなる周知。



【蕎原ふれあい喫茶】



【畠中ロコモフレンズ】

月日	依頼先	内 容	人数
6/14	馬場長生会	喜怒家哀楽(落語)	48人
6/28	三ヶ山ふれあい喫茶	千里亭だし吉(落語)	43人
9/20	蕎原ふれあい喫茶	津軽三味線クラブ(津軽三味線)	30人
10/25	三ヶ山ふれあい喫茶	野原美和(フラダンス)	40人
12/19	畠中ロコモフレンズ	中庭陽子【まちのすぐれ者登録者】(スマホ教室)	11人

## ロビー活用

### <ねらい>

気軽に利用でき、交流できる空間づくりに努める。

文化事業や作品発表、啓発や事業案内などの情報提供の場として活用する。

### <状況・成果>

#### 音楽コンサート

タイトル「受け継がれる響き わがまちで広がる音楽」

日時：12/12（金）12時15分～13時

出演：待谷翠（ヴィオラ）、湯口愛友美（ピアノ）



#### 《出演者の感想》

- ・ロビーという開かれた空間で演奏の機会を頂き、誠にありがとうございました。
- ・公民館という「日常の学びの場」で演奏とお話を届けられたことは、本企画にとって非常に意義深いものだったと感じております。
- ・公民館という場だからこそ、文化的・教育的な側面を自然に共有でき、地域の皆さまに伝統あるクラシック音楽を身近に感じていただけたものと感じております。

#### 作品展示

期間	クラブ名
5月	手編み工房・陶芸
6月	水墨画
7月	水墨画・陶芸
8月	陶芸
9月	陶芸
10月	—
11月	絵手紙・木工・陶芸
12月	—
1月	パッチワーク
2月	木工・陶芸
3月	木工・陶芸

期間	内容（出展者）
6/17～7/1	現代アート（市内在住者）
8/25～9/8	絵画（中央：月曜絵画クラブ）
9/22～10/6	染め和紙を使ったちぎり絵作品・工作 （市外在住者）
10/7～14	あそびのわの仲間で作るフアフアクラブの 試作品（市内在住者）
10/31～11/17	児童絵画展（水間鉄道）
11/10～17	再織り（市内在住者）
11/17～28	かいづか家族の日（社会教育課）
2/3～10	着物をリメイクして小物作り（市内在住者）
3/2～7	絵画及びその他展示（市内在住者）

#### その他

ロビーは学生や大人が自習をしたり、放課後の子どもたちが集まってたまり場になるときがある。活気があって良いが、ゴミを捨てずに帰る等時にはマナーの悪さが目立つ。

#### <課題>

子どもがゴミを捨てる習慣を定着させる。

日常的にロビーが活用されていない。

## ほかでもがんばっているよ

山手地区公民館活動協議会所属クラブやグループの地域活動

回	月日	クラブ	会場／「イベント名」	備考（感想など）
1	5/17	ククルウクレレ	名越町会館 「名越いきいきサロン」	強風・大雨の中でしたが沢山の方に参加していただき、楽しく演奏できました。
2	5/31	ククルウクレレ	水間町会館 「水間町会いきいきサロン」	歌詞カードを配布し一緒に歌って頂き楽しく演奏できました。
3	5/31	沖縄三線あかばな	清見町会館	清見の方はとても元気で、全員で歌っていただいたのしかったです。
4	6/5	沖縄三線あかばな	麻生中 中村荘	みなさんよく歌いました。よく笑う麻生中の方でした。
5	6/24	津軽三味線	やすらぎ老人センター	ソーラン節では、皆さん大きな声で歌ってくださいました。
6	7/17	沖縄三線あかばな	ハートフル泉州	曲の中で、スタッフさん手作りの段ボールビールで乾杯をしました。
7	8/24	沖縄三線あかばな	天性寺 「蛸地蔵盆の余興」	めっちゃくちゃ暑い中50人くらい集まり、唄&三線をしました。最後にカチャーシーでなごみました。
8	9/13	ククルウクレレ	デイサービス そらまめ	歌詞カードを配布し、一緒に歌っていただき、楽しく演奏できました。
9	9/19	沖縄三線あかばな	デイサービス 蝶ちょ	みんな元気で知っている歌と一緒に歌いました。
10	11/2	ククルウクレレ	ほっこりの里 「ほっこりフェスティバル」	大人、子ども50名程度。手拍子をいただきながら楽しく演奏できました。
11	11/2	沖縄三線あかばな	ほっこりの里 「ほっこりフェスティバル」	みんなノリノリでした。
12	11/2	童謡を歌おう	ほっこりの里 「ほっこりフェスティバル」	みんなが楽しく歌えました。観客のかたも一緒に歌って盛り上がりました。
13	11/15	沖縄三線あかばな	名越町会館 「名越いきいきサロン」	元気な方が多く、唄っていただき最後のカチャーシーたのしくしました。
14	11/15	コーラスシフォン	こころあ病院	こころあ病院の秋のイベントで5曲を発表しました。
15	11/22	津軽三味線	岸和田グランドホール	大変盛り上がり楽しくかったです。大きなホールで緊張しました。
16	11/30	津軽三味線	清名台町会館	大変楽しく演奏できました。
17	12/18	ククルウクレレ	デイサービス そらまめ 「クリスマス会」	歌詞カードを配布し、一緒に歌っていただくなど楽しく演奏できました。
18	2/1	コーラスシフォン	山手地区公民館 「ミニらいとモルック貝塚大会」	練習よりうまく歌えました。
19	2/19	津軽三味線	石才町会館	皆さん世界のメロディーでは口ずさんでくださっていました。

## 山手地区公民館活動協議会

### <ねらい>

協議会の主体的な活動を支援し、協働・連携を図る。

クラブ運営における課題を考え、解決できるよう協議会と公民館が協力する。

### <状況・成果>

クラブ数 32 クラブ員 379 人 (11月1日現在)

役員の輪番制度(任期2年)3年目にあたり、業務の引継ぎが定着し、昨年の記録をもとに留任役員は新任役員をサポートし事業を進められた。また役員全員が女性という初めての体制となり、部会を無理なく効率よく進めるという共通認識を持ち、定例会当日の準備時間を遅らせるなど配慮ある運営だった。しかし、役員負担がまだまだ大きいことは否めない。

『レクリエーション部会』では、さよならパーティーを開催した。昨年好評だったため今年も開催し、「フラ&タヒチアンダンス」ほか様々な演目があり楽しい時間を共有できた。ジャズコンサートも昨年と同じく「中野ひろし&スイングガイズオーケストラ」の出演で盛況だった。

『広報研修部会』は、協議会ニュースを3回(6、11、3月)発行。また、貝塚市立病院の栄養士を招いて「誤嚥性肺炎と嚥下と栄養」について講演会を開催した。参加者からは「介護する身として参考になった」「近い将来自分や夫の身近な問題として勉強になった」などの感想があった。非常に丁寧でわかりやすく大きな学びがあった。

年々減少しているクラブは、今年も廃部の相談が1件あったが、活動の継続が決まった。

### <課題>

役員輪番制になり、選出された役員の負担をどのように軽減できるか。

これ以上クラブ数が減らないようにする。

【主な活動実績】※議案資料作成等職員がサポート

- ・総会 1回
- ・定例会 6回
- ・役員会 11回
- ・11/17 現・新役員意見交換会 1回
- ・10/18・19 公民館まつり 1,008人 (9/29 清掃活動 53人)
- ・11/6 研修会(山手ホール) 105人
- ・12/21 さよならパーティー(山手ホール) 159人
- ・3/1 ジャズコンサート(山手ホール) 146人



総会



研修会



さよならパーティー



ジャズコンサート

# 三 公 民 館 共 通

# 目 次

## ■三館連携事業 . . . . . 三館 1

- ・第14回貝塚公民館大会
- ・しゃべり場★公民館
- ・保育ボランティア養成講座

## ■会議・資料 . . . . . 三館 6

- ・貝塚市立公民館運営審議会
- ・阪南公民館運営研究協議会（阪公運）
- ・三館利用者連絡会（三館利連）
- ・K（研修）部会
- ・大阪府公民館・関連施設連絡会（府公連）
- ・講師交流会
- ・市内小中学校施設見学・視察・研修受け入れ・まちのすぐれもの
- ・広報・夏タイムズ
- ・利用統計

## 第14回貝塚公民館大会

<ねらい>

いろいろな世代の人が集まり、互いを知り、気づきを得て共有する機会とする。  
公民館を取り巻く課題や将来について考える学習の場とする。

<状況・成果>

12/14 日曜日 13時～15時半 参加者 160人(保育5人、保育者2人含む)

場所 山手地区公民館ホール

講師 青山 鉄兵(文教大学人間科学部 准教授)

大会テーマ 笑顔のチカラ～みんなが公民館で元気になるっ!!～

本大会は、例年2月頃に開催しており、各館利用団体及び職員による実行委員会形式で運営している。今年度は、山手地区公民館ホール事業を考慮し、初めて12月に開催した。山手地区公民館・浜手地区公民館の利用者からは「公民館まつりの会議と同時進行は負担が大きいのではないかと懸念の声もあったが、館の事情を説明し理解を求めた。公民館の通年講座・各種事業が活発に実施されている12月開催としたことで、受講者等に広く宣伝・周知することができた。

公民館大会実行委員会(以下、会議)は、6月から開催した。実行委員として初めて参加する人もいたため、1回目の会議では昨年度の参加者や職員が前回の様子を伝え、話しやすい雰囲気をつくりながら大会のイメージをふくらませた。

また、毎回の会議前には、お互いを知るために、自身の出来事を話す「1分間スピーチ」の時間を設けた。その中で、「自分のことを話すと、みんなが笑顔になっている」という実行委員の発言があり、これをきっかけに大会テーマが決定した。大会の方向性を改めて確認し、みんなが公民館で元気になっていく過程に光を当て、笑顔のチカラで人と人がつながり、その輪を広げていくことを目指した。

“笑顔”“居場所”“つながり”“若者”をキーワードに、講師やパネラーを選定した。長年公民館で活動している人でも、自身の活動以外については知らないことが多い。そこで今回は、公民館では「少数派」といわれている若者に登壇してもらい、他者の活動を知る機会とした。

テーマ・講師・パネラー・当日のプログラムが決定するまでに4回の会議を重ね、実行委員全員で大会の方向性を確認し、「楽しい大会にした」と意気込みを高めた。

宣伝については、参加者150人を目標に、8月に実行委員会ニュースを発行し、開催日等を事前に周知した。

目標達成に向けて、カウントダウン動画を作成しSNS等で配信したほか、実行委員による積極的な声かけを行った。

また、手作りの横断幕を作成し、共同作業を通して大会への思いを高めた。



13:00	開会 あいさつ 実行委員長・貝塚市長
13:05	基調講演 青山鉄兵氏
14:05	休憩
14:15	事例発表 ①若者バンド「STITCHES」 ②子どもと親の居場所「choose」
14:45	おとなりトーク&フロア発表
15:00	まとめの話 青山鉄兵氏
15:20	「STITCHES」演奏
15:30	閉会

## 一三館連携事業一

=大会当日=

基調講演テーマ：「地域の居場所としての公民館の役割」



基調講演では、参加者の意見やコメントを即座にスクリーンへ映し出しせるリアルタイムアプリ(sugukiku)を使用し、全員で共有することができた。大会では初めての手法であったが、講演中、参加者の反応が継続して見られ、双方向性のある講演となった。

前半は、「公民館」のことをよく知らない人や、初めて大会に参加する人もいるため、「社会教育とは」「公民館とは」といった基本的な内容や、全国的には公民館が減少傾向にある中で、貝塚公民館が

地域に根付いて存在していることの貴重さについて話してもらった。

後半は、テーマである「地域の居場所としての公民館の役割」について話してもらった。居場所はあとから生まれるもので、何かの“結果”としてだったり、“うっかり”活動につながったりすることが、多様な居場所づくりになるという話に、参加者は自身の活動と重ね合わせながら聞いていた。

基調講演のあとは、公民館を拠点に活動している若者のいきいきとしたエピソードとして、若者バンド「STITCHES」(スティッチーズ)と子どもの居場所グループ「ch∞se」(チューズ)に事例発表をしてもらった。「STITCHES」は、公民館に音楽室があることで、ライブハウスでは経験できない公民館での貴重な体験や他のバンドや後輩とつながって、音楽のすばらしさや楽しさを共有しているという話であった。また「ch∞se」は、不登校の子どもの思いや親の思い、公民館で居場所を立ち上げた経緯、地域や社会で柔らかい目で子どもたちを見守ってほしいという話であった。つながり、



次の世代へバトンをつないでいきたいという同世代の話に、フロア発表では、会場の若者から次々と手が挙がり、公民館に対する素直な思いを聞くことができた。最後は、若者バンドの演奏に合わせ、会場は大いに盛り上がった。

大会終了後には、短時間ではあったが、実行委員と講師との交流会を行った。一人ずつ感想を述べる中で、「楽しかった」「目標人数に達してよかった」「実行委員をやってよかった、来年もやりたい」といった前向きな発言があり、実行委員は達成感と笑顔にあふれていた。

(アンケートより)

- ・青山先生のお話は分かりやすく、自身の感想や他の人の意見をタイムリーに携帯を使って見れたことは、いままでにない参加型の講演会だった。
- ・自分の活動が社会にとって必要な場づくりであると感じた。公民館をこれからの世代に広めていくヒントのお話が興味深かった。
- ・改めて良い環境に置かれていることに感謝、公民館の市民への関わりや良さを認識できた。
- ・18年来の仲間と笑い合えたりほっとできる場所であることを再確認した。
- ・若者も公民館を利用していることを知って安心した。
- ・STITCHESの若者の“スナオ”な声をきけてよかった。ch∞seの話は泣けた、活動を初めて知った。

<課題>

大会の方向性を実行委員とともに明確にすること。開催時期の検討。



## しゃべり場★公民館

<ねらい>

公民館利用者及び市民と職員がともに公民館について考える場をつくる。

<状況・成果>

メンバー13人（職員3人含む）

しゃべり場★公民館（以下、しゃべり場）は、公民館利用者と職員と一緒に企画・運営を行いながら継続的に活動し、13年目となる。

活動計画はすべてメンバー間の話し合いによって決めている。昨年度末のミーティングでは、「社会教育の必要性を伝えたいから講座をしたい」「貝塚公民館大会で学んだことを活かしたい」「現在公民館を利用している人に公民館の大切さに気付いてもらいたい」といった意見が出され、これらを基に今年度の活動を行った。

### ——中央公民館まつり「しゃべり場★ラジオ」——

中央公民館まつりにおいて、メンバーがインタビュー形式でクラブや団体の活動を紹介し、その魅力を引き出す「しゃべり場★ラジオ」を実施した。団体によっては、曲を演奏したり、ダンスを一部披露したりする場面もあり、ロビーでも足を止めて聴いてくれる人がいた。雨天での開催となったが、屋内で実施したことで音声が入りやすいというメリットもあった。

### ——夏のしゃべり場★かき氷トーク——

クラブ同士のつながりを築くために、日頃の活動や身近な悩みを共有する機会として企画した。昨年度の貝塚公民館大会で紹介された「七輪トーク」の事例を参考にして、暑い時期だったためかき氷を食べながら交流をした。当日は雨天だったが多くの参加があり、異なるクラブ間で自然な交流が生まれた。参加者が書いたメッセージボードは、終了後も各館で展示を行った。

（メッセージボード「公民館はどんなところ？」）心のやすらぐ場／仲間づくり・社会参加／学びと遊び／楽しい老後

### ——講座「ホントにすごい！貝塚公民館」——

公民館の価値や公設公営の意義、指定管理者制度のメリット・デメリットについて学ぶことを目的とした。指定管理者制度と直営制度の違いについて理解を深めたいというメンバーの意見をきっかけに企画した。1回目は貝塚市立公民館運営審議会にも携わっている大学名誉教授を講師に招き、全国的に公民館が減少している背景や、貝塚市立公民館が評価されている理由、公民館が抱える課題などについて学んだ。2回目の講師は、直営制度の廃止を経験した他市職員で、公民館が廃止された当時の状況や他市の視点から見た貝塚市立公民館について話を聞いた。その後、グループワークで他市との比較をしたり、利用者同士が話し合ったりすることで貝塚市立公民館の良さや気づきを得ることができた。

（感想）指定管理者制度への転換は必要かどうか話し合う機会も必要／指定管理者制度になったら現在の職員と利用者の関係がなくなると思う／人と人のつながりが学びを生むことが再確認できた／指定管理者制度は引継ぎの保障がない。本当に市民の学びが継続されるのだろうか

### ——日本語会話よみかき教室との交流会——

中央公民館館長より、貝塚市に住む在住外国人と市民の国際交流を深めたいとの依頼があり、その第一歩として、しゃべり場が協力し交流会を実施した。日本語会話よみかき教室の時間帯にメンバーが参加し、まずはお互いを知ることが目的に、茶話会形式で交流を行った。

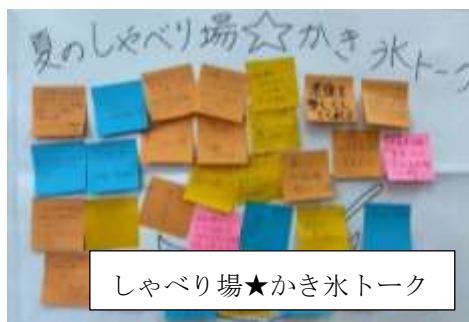
—三館連携事業—

メンバーが固定化していることや活動の周知が課題となる中、今年度は日本語会話よみかき教室との交流会を除くすべてのイベントについて、報告動画を作成しSNSに投稿した。また、参加のきっかけとしては口コミの影響が大きいことから、公民館利用者であるメンバーによる声掛けについても、引き続き意識して行っていくことを共有した。

<課題>

新規メンバーの獲得。

月日	内容	会場・参加人数
4/25	スタッフミーティング①	中央・10人
5/20	スタッフミーティング②	中央・10人
5/24	中央公民館まつり シャベリ場★ラジオ	中央・16団体
6/10	スタッフミーティング③	中央・9人
7/14	スタッフミーティング④	中央・8人
9/4	シャベリ場★かき氷トーク	浜手・40人
9/22	スタッフミーティング⑤	中央・9人
10/28	スタッフミーティング⑥	中央・8人
11/11	講座「ホントにすごい！貝塚公民館」①	中央・34人
11/25	講座「ホントにすごい！貝塚公民館」②	中央・26人
12/2	スタッフミーティング⑦	中央・9人
1/27	日本語会話よみかき教室交流会 スタッフミーティング⑧	中央・26人 中央・10人
2/27	スタッフミーティング⑨	中央・10人
3/17	スタッフミーティング⑩	中央・8人



## 保育ボランティア養成講座

<ねらい>

公民館の保育つき講座における保育者の養成を図る。  
現役ボランティアのスキルアップを支援する。

<状況・成果>

①1/29 ②2/5 木曜日 午前10時～11時半(全2回)

受講者①5人 ②3人

講師：②米原瞳、山口友美（貝塚子育てネットワークの会園児部会）

受講者は、新規1人、現役ボランティア4人であった。講座内容については、新規受講者が公民館保育を身近に感じられる内容を意識し、現役ボランティアとの交流や、講座の保育で活かすことができる手遊びや読み聞かせについて企画した。

初回は、貝塚市立公民館で行われてきた保育の歴史について、職員から説明を行った後、交流会を実施した。保育ボランティアをしたいと思ったきっかけなどから話が弾み、和やかな雰囲気での交流することができた。新規受講者には、現在活動しているボランティアの雰囲気を感じてもらう機会となった。また、現役ボランティアにとっても、他館で活動しているボランティアとの交流の場となり、各館で参加する子どもの年齢や保育環境の特徴などを共有することができた。さらに、今年度の保育の様子をまとめたビデオを鑑賞し、実際の様子を見て気になったことや疑問点などを受講者同士で話をしながら視聴しており、ボランティアの役割を具体的に知ることができた。

2回目は、子育てネットワークの会のメンバーを講師に招き、手遊びや絵本の紹介、実践を行った。より保育時の様子をイメージしやすくするために、実際の保育が行われる保育室で行った。手遊び紹介では、近年の保育年齢が1～3歳程度であることから、1歳から楽しめる簡単な手遊びや定番の曲が紹介された。また、各館で行っている手遊びも紹介しあい、相互で学ぶことができた。絵本紹介では、年齢別の絵本を15冊程紹介してもらい、「読み聞かせる本は事前に読んでおく」「絵本が揺れないように固定する」「ゆっくり読む」などのポイントや、絵本の導入として手遊びをすることも効果的であることも教わった。講師の実践を見た後、受講者も読み聞かせに挑戦した。大人の前でする読み聞かせに少し緊張感もあったが、講師が良かったポイントをすぐに褒めてくれ、笑いも交えながらの楽しい実践となった。「早速、次回の保育時に実践したい」などの声もあり、この実践が自信に繋がっていたようだった。

講座の中で、保育ボランティア登録制度について説明し、ボランティア登録を促したところ、初回に、新規でボランティアの登録があった。また、不定期で登録していた人が、交流の中で「私も定期的にしよう」と登録内容を変更している人もいた。

今後も、公民館保育を身近に感じてもらえるような取り組みを進めていきたい。

(感想) <1回目>久しぶりの交流会で皆さんに親近感をもてました/思っていた以上に手厚く準備やお子さんの情報をシェアされているのを聞いて、安心して参加できそうです

<2回目>たのしいおはなしをありがとうございます/絵本の読み聞かせ、緊張しましたが楽しかったです

<課題>

ボランティア登録につながる働きかけの工夫。

現役ボランティアの継続的な交流の場づくり。



## 貝塚市立公民館運営審議会

### <ねらい>

今後の公民館のあり方について諮問し、審議を行う。

### <状況・成果>

本年度は第37期（令和7・8年度）委員の改選期にあたり、委員10名のうち、半数を超える6名の委員が新たに委嘱され、6月に新しい体制がスタートした。今年度の運営では、新任委員を含めた委員同士が互いの活動背景を知り、より活発に意見を交わせる環境づくりに注力した。例年は事務局からの説明が中心だったが、今年度は各委員から所属する団体の活動や地域の近況を紹介してもらう時間を設けた。これにより、それぞれの専門性や背景を理解した上での、より深い議論が可能となった。

また、新任委員を含めた全員が公民館の役割を再確認できるよう、改めて「公民館の基本」についてのレクチャーを実施した。さらに、実際の活動風景を知るために、中央公民館で活動する女性コーラスグループの練習や、保育室での「貝塚子育てネットワークの会」の活動を直接見学した。利用者から要望を受けて整備された保育室の事例などを通じ、公民館が市民の声を形にする場であることを再確認するとともに、70年以上の歴史の中で築かれてきた「市民と職員が共に歩む文化」を肌で感じる機会となった。こうした取り組みは、単なる数字上の参加人数などの実績だけでなく、活動を通じて地域に生まれた「人のつながり」や「居場所としての価値」といった質的な変化を、委員と事務局が共通の認識として持ち、安定した運営を続けていくための大きな土台となった。

次年度に向けては、中央公民館だけでなく浜手・山手地区公民館や市内の社会教育関連施設の見学なども検討しており、より広い視野での審議体制の構築を目指している。

### <課題>

国や市内の情勢を踏まえた今後の公民館のあり方についての検討。

#### 貝塚市立公民館運営審議会

区分	委員氏名
学校教育の関係者	大西 里可
社会教育の関係者	文野 春美
	宮崎 和昭
	北本 光和
	阿部 堯
	麻生川 正光
家庭教育の向上に資する活動を行う者	高山 行雄
	鷺尾 伸子
学識経験のある者	久禮 智美
	萩原 雅也

#### 会議・研修の状況

開催年月日	案 件
R7.7.18	第37期貝塚市立公民館運営審議会委員委嘱について 委員長、副委員長の選任について 審議会の進め方 令和6年度第5回公民館運営審議会会議録（案）について 今年度の事業方針・予算等について
R7.11.7	貝塚市立公民館について 令和7年度予算について 令和7年度第1回公民館運営審議会会議録（案）について
R8.1.23	各委員報告について 第72回近畿公民館大会の報告について 第14回貝塚公民館大会の報告について 令和7年度第2回公民館運営審議会会議録（案）について
R8.3.27	各委員報告について 令和7年度 1年の取り組みについて 令和7年度第3回公民館運営審議会会議録（案）について

## 阪南公民館運営研究協議会（館長会・実務担当者会含む）

<ねらい>

「阪南公民館相互の緊密な連携のもとに、公民館運営の研究並びに職員の研修及び親睦をはかり、公民館活動の振興に寄与する」という会の目的が十分果たされるよう、積極的に参加・協力する。

<状況・成果>

阪南公民館運営研究協議会（以下、協議会）は、現在4市1町（高石、岸和田、貝塚、阪南、忠岡、の各市町）にある公民館10館で構成されている。

協議会には、館長会・実務担当者会（以下、実担会）の2つの部会があり、今年度の会長（館長会代表兼務）は岸和田市、実担会代表は高石市が担った。貝塚市は事務局を担当した。

5月8日の協議会の総会は、岸和田市立公民館・中央地区公民館で開催。加盟各館の館長・実務担当者が出席し、令和6年度の活動報告・決算報告を承認、令和7年度の活動方針案・予算案を可決した。

館長会は今年度3回開催し、公民館の事業や管理運営に関して情報交換を行うとともに、加盟市町が減少し、館長の異動が頻繁にある中で、会の運営をどのように継承していくのか、今後の協議会のあり方、運営について意見交換を行った。

実担会の定例会議は、例年より多く7回開催した。参加館は10館中7館がほぼ毎回出席している。代表の仕事を少なくするために会議の記録や案内は持ち回りとしている。会議では、研修会や交流会の企画・運営を行ったり、情報交換では、予約システムの導入や講師を探す手段・避難訓練などについて意見交流を行った。また、モルック体験を通して、会員相互親睦を深めるとともに、各館の講座に生かす機会となった。

8月21日は交流会として、合同会社「ツタエル」代表 栗瀬誠氏による「プレゼン力とPR力」をテーマに講演会を行った。「正しく伝える」ためのプレゼンテーションについて、公民館職員の日々の仕事に役立つような話だった。また、会員で協議会未加入館を訪問し、参加をよびかけた結果3館（泉大津・熊取・泉佐野）が参加。しかし、講師の話の聞くだけで交流の時間を持つことができなかった。

今年度の研修会について候補がなかったため、12月14日の貝塚公民館大会を研修会とした。青山鉄兵氏（文教大学准教授）による「地域の居場所としての公民館の役割」をテーマに基調講演と公民館を居場所としている若者の事例発表があった。フロア発表では、会場の若者から次々と手が挙がり、公民館に対する素直な思いを聞く事ができた。参加者からは、「青山先生の話が分かりやすかった。貝塚公民館のような直営と、指定管理の館との比較は難しい」などの感想があった。

<課題>

協議会加盟各館の館長会や実担会が有意義な会議となるよう積極的に参加を呼びかける。

協議会加盟市町館以外とのネットワークの創出。



## 三館利用者連絡会（三館利連）

<ねらい>

公民館を活動拠点とする三館の利用者団体（中央公民館クラブ協議会・浜手地区公民館利用者連絡会・山手地区公民館活動協議会）の交流と親睦、共通課題への取組みを支援する。

<状況・成果>

2003年以前に発足した三館利用者連絡会（以下、三館利連）は、2013年4月より「三館利用者連絡会申し合わせ」をもとに、三館の「利用者団体相互の交流と親睦を深め、広く地域社会へ公民館活動の啓発・発信を行うこと」を目的に、引き継ぎ会と年3回程度の会議で情報交換や事業の話し合いをしている。

4月の引継ぎ会から11月の第2回会議では主に、前年度から申し送りのあった舞台交流会の次回開催時期や開催方法について話し合った。クラブ員の負担も考え3年に1回の間隔で行なうこととし、次回は2027年度に開催することを再確認。また、舞台交流を広い意味で捉え、①各館公民館まつり（舞台）の様子を市の文化祭で映像として映してもらうことはできないか、②各館公民館まつりで他館のクラブが特別出演し舞台交流としてはどうか、という意見も出た。①については、社会教育課を通し文化祭実行委員会に図ってもらったが、目的が違うとのことで叶わず、②についてもまつり実行委員会（会議）に参加することが前提という館があり、意見が揃わなかった。

展示交流については、他館のクラブ活動を知るきっかけになっており、今後も続けていくことが大切だが、浜手では展示のできるクラブが減ったことが課題だと語られた。

第2回会議では公民館大会についても話し合い、公民館に若者が来やすくなる工夫について語られた。会議の最後には、公民館大会が12月に開催されることで、次の第3回会議の議題がないかと思われたが、「それでも会議はやりましょう」という浜手の委員長の提案と多数決で開催することになった。

心配していた第3回会議だが、事前に中央の委員より「クラブの宣伝の他に、各協議会の目的や公民館が大事にしている『つながり・学び』をもっと周知したい」という意見が職員の耳に届き、議題を追加、その議題についていろいろな意見が出て盛り上がった。この日の会議では解決できず、またそれで終わらせるには惜しい内容であったため、来年度の役員で考えてもらうよう、4月の引継ぎ会で伝えることにした。

<課題>

協議会の目的や「つながり・学び」の重要性を周知する方法

三館利用者連絡会		展示交流	
日	会議（場所）	クラブ（所属館）	展示場所（期間）
4/14	新旧引き継ぎ会（中央）	月曜絵画（中央）	山手（R7.8/25～9/8）
6/17	第1回会議（中央）	ろうの花（中央）	浜手（R7.11/11～25）
11/18	第2回会議（山手）	絵手紙（山手）	浜手（R7.12/8～26）
1/27	第3回会議（浜手）	花をたのしむ会（山手）	中央（R7.12/18～23）

## K（研修）部会

### <ねらい>

日頃の課題を共有し学び合い、公民館職員としての力量を高める。

職員間の交流と情報交換の場。

### <状況・成果>

月に一度の3館職員会議内で、職員相互の経験を共有し、社会課題の認識を深めるため、研修会（通称K部会）を行っている。内容については、各館から担当職員が案を持ち寄り、時々社会課題などを挙げながら、具体化を図っている。

今年度は、災害時に職員としてどう行動するのかを考える「クロスロードゲーム」や、モルック体験、ロープワークなどに取り組んだ。モルックははじめての職員もいたが、ルール説明がわかりやすく、すぐにゲーム対戦ができた。そして予想以上に難しい競技であることにも気づくことができた。ロープワークでは、普段の片づけなどにも役立つ結び方などを教わった。

また、地方公務員アワード受賞の野嶋さんが実践した「地域コミュニティの原点は楽しい」DVD視聴は、社会教育に携わる者としての視点や人と人を結ぶ基礎を学ぶ機会となった。

次年度も3館の職員が集まって、いっしょに経験を積む場となるよう、あわせて新たな発見ができるよう、公民館職員としてのスキルアップのため工夫を凝らしたい。

### <課題>

職員の学びたいことを具体化し、スキルアップを図る。

ワークショップや体験型研修などを取り入れ、積極的に関わられるよう工夫する。

### <プログラム>

4月	自己紹介（今年やりたいこと、推していること）
5月	予約システム導入に向けての説明会（パスコ）
6月	モルック体験（旧第五中学校校庭）
7月	アイスブレイク体験 担当：南百合美、市政希
8月	Zoom 会議のため、K部会はなし
9月	ロープワーク 講師：竹本欣司さん、川瀬澄夫さん（ボーイスカウト貝塚第1団）
10月	DVD視聴+グループワーク「地域コミュニティの原点は楽しい」 2023 地方公務員アワード受賞者・野嶋京登さんの実践に学ぶ
11月	クロスロードゲーム「災害時、自治体職員としてどう行動するか」
12月	Zoom 会議のため、K部会はなし、SNS活用の実績報告 担当：SNS担当職員
1～3月	総括のためK部会はなし

## 大阪府公民館・関連施設連絡会（府公連）

<ねらい>

大阪府内の公民館・関連施設等の連携により学び合い講座を実施し、職員の資質向上を図るとともに情報交換を行う。

<状況・成果>

大阪府公民館・関連施設連絡会（以下、府公連）は、2013年の大阪府公民館振興協議会（以下、府公振）解散を受け発足した。府公振の残余金と公民館総合補償制度の広告収入を活用し、主に府内公民館等の社会教育施設職員による交流、情報交換、および資質向上を図るための「学び合い講座」を大阪府教育庁と連携して継続開催する組織として運営されている。

運営会議には、大阪府教育庁、豊中市、河内長野市、忠岡町、大東市、貝塚市が参画し、本市は会長職を担った。会議は9回開催された。

学び合い講座は、7/24に「Canvaでチラシ作ってみませんか？」（参加30人）、12/11に「障がいがある人の生涯学習について」（参加30人）、2/19に「はじめての生成AI講座」（参加28人）をテーマとして3回開催した。チラシ作成や車いすダンス体験、生成AIの活用など、いずれも実践的なワークショップ形式としたことで、より実務に直結する内容となった。特に生成AI講座では、本市職員を講師として招き、業務負担の軽減や、企画の実現に向けた活用術を共有した。また、現地開催とオンライン配信を組み合わせたハイブリッド形式としたことで、遠方の施設職員にも広く参加機会を提供することができた。

現状、府公連の学び合い講座は、府内の公民館および関連施設職員にとって、唯一の交流、研鑽、情報交換の場となっている。運営メンバーの減少や人事異動に伴う引き継ぎといった課題はあるものの、社会教育のネットワークを維持するため、今後も継続的な活動が望まれる。

<課題>

運営メンバーの確保。

公民館等社会教育施設の情報交換の機会創出を考えたネットワーク構築への協力。



Canvaでチラシ作ってみませんか？  
基礎知識も教えます。チラシ作成はもう一歩、Pro版が便利。無料体験も、幅広く学びます。参加費無料

日程 令和7年 7.24 (日)  
時間 14:00～17:00  
会場 大阪府教育センター  
定員 30名 (先着順)  
対象 大阪府内の社会教育・生涯学習推進施設職員等

講師 北條 美生さん (株式会社 東京社会教育)



障がいがある人の生涯学習について  
生涯学習のインクルーシブ化  
定員からの課題って？  
定員も取り残さない仕組み

日程 令和7年 12/11 (土)  
時間 14:00～17:00  
会場 エッセイOSAKA 大ホール

講師 津田 美二さん (株式会社 東京社会教育)



はじめての生成AI講座  
社会教育の現場に、AIリテラシーという視点を

日程 令和8年 2/19 (木)  
時間 14:00～17:00  
会場 大阪府教育センター  
定員 30名 (先着順)

講師 大東市職員 (大東市)

## 講師交流研修会

<ねらい>

公民館の現状と課題、クラブ活動での講師の役割について共通理解をはかる。

三館のクラブ講師の交流を深める。

<状況・成果>

令和8年3月30日 中央公民館 参加人数：16人

前半のレクチャーでは、「公民館とは何か」をテーマに、本市が70年以上にわたり築いてきた「市民と職員が共に育てる文化」について詳しく解説した。単に場所を貸し出し、技能を習得するだけの場ではなく、学習を通じて地域課題に向き合い、人と人とを結びつける「社会教育の拠点」としての本来の意義を改めて確認した。特に答申でも示された通り、少子高齢化や社会変容が進む今、講師は単なる「指導者」にとどまらず、クラブ員の主体性を引き出し、活動を地域へと繋げていく「ファシリテーター」としての役割が期待されていることを強調した。講師からは、「日々のクラブ運営に追われがちだが、自分たちのクラブが地域のネットワークの一部であると再認識し、身が引き締まる思いがした」といった声が寄せられた。

後半のグループトークでは、館の垣根を越えた3つのグループに分かれ、自らの活動内容や日々の工夫について紹介し合った。実演を伴わない「対話」中心の構成であったが、講師同士が言葉を通じて互いの専門外の活動に興味津々で見入るように聞き入っている姿が随所に見られた。他館の事例や異なるジャンルの視点に触れることは、自らの活動を客観的に捉え直すとともに、新しい活動のヒントを得る貴重な機会となった。

こうした交流を通じ、講師を共に公民館を創り上げる「パートナー」として再定義できたことは大きな成果である。今後は、ここで得られた講師の意欲を地域貢献の形へとつなげていくため、三館の連携をさらに強めていく。

<課題>

答申の提言に基づき、講師がクラブ員のつながりを育む役割を果たせるよう、継続的な研修と情報共有。

講師同士の自主的なつながりが継続するよう、定期的な開催や情報発信のあり方を模索する。

(アンケートより)

- ・講師の在り方などを学びました。公民館の意義がよくわかった。
- ・会員同士の信頼やつながりを保つことの大切さを、改めて理解しました。
- ・『技術だけでなく居場所作りを担う』という言葉に、身が引き締まる思いがしました。
- ・皆さんが熱意をもって指導されていることが感じられ、違う分野でも共通する部分がある事を発見しました。
- ・クラブ活動外の『雑談』をすることの大切さに気づきました。それが継続の秘訣ですね。
- ・新しい方（見学者）への接し方について、他館の事例が大変参考になりました。
- ・今までの会議より濃密でよかった。すてきな機会をありがとうございました。
- ・講師同士の見学会や、三館合同の展示会・発表会があると嬉しいです。
- ・交流会があればまた必ず参加したい。

## 視察・研修受け入れ

月 日	団体・機関名	内 容	担当館
10/26	紀の川市打田地区公民館	ふれあいまつり見学	浜手

## 市内小中学校施設見学等受け入れ

月 日	学 校 名	来館学年	見 学 目 的	担当館
5/20	二色学園	前期2年	まちたんけん	浜手
6/19	東小学校	3年	社会科見学	山手

## まちのすぐれもの

R7年度 新規登録者 7人

利用回数 34回

※3年ごとに更新（次回更新令和9年度）

# 公民館タイムズ



※対象は、市内在住・在勤(学)の方です  
※原則として参加費無料(材料などの実費は徴収)

## 3館共通

いずれも各公民館へお問合せください。

### レッツTRY

公民館では青少年の活動(音楽やダンス、創作活動など)を応援します!まずは公民館に相談に来てね。

### 地域出前講座

みなさんのお住まいの地域で開催しませんか。日時などご相談ください。  
(例)出前寄席…“生”の日本の伝統話芸を通して、地域のみなさんの触れ合いがうまれるきっかけづくりをします。

### 公民館ロビー展示

あなたの作品を展示しませんか。個人・グループを問いません。気軽に相談ください。



## 中央公民館

☎072-433-7222

### 心身に障害のある方対象の挑戦講座「夢にチャレンジ」

1年を通じて、仲間と一緒に和気あいあいと活動します。みんなでやりたいことを見つけて取り組むプログラムです。ダンス・陶芸・料理など、やりたい事をチャレンジしよう!  
▷日時(全11回) 4月19日～3月21日、第3土曜午前10時～正午  
▷材料費(1回) 100～500円▷申込 電話・窓口で

午前10時～午後3時(雨天中止)  
▷場所 市立青少年野外広場(四中横)▷参加費 100円

### GWピアノリレー



▷日時 5月4日(日)午前10時～午後4時▷場所 視聴覚室▷定員 22人(要申込。定員になり次第締切。一人15分。空きがあれば連続可)▷申込 窓口・電話で

### 気軽にできる楽しい運動

高齢者も楽しめる運動です。一緒に体を動かしませんか。  
▷日時(全4回) 5月15日・22日、6月5日・12日、木曜午後1時30分～2時30分▷場所 視聴覚室▷講師 西村光代様(音楽健康指導士)▷対象 60歳以上の方▷定員 20人(多数の場合は抽選)▷持物 運動しやすい服装・靴・タオル・飲物▷締切 5月1日(木)正午▷申込 電話・窓口で

### クラシックコンサート 音楽にのって旅をしよう

▷日時 5月18日(日)午後2時～  
▷場所 コスモシアター中ホール▷出演 貝塚市クラシック音楽家協会▷参加協力券 1,000円

### 第41回市民民踊まつり

▷日時 6月1日(日)午前11時～  
▷場所 コスモシアター中ホール▷出演 貝塚市民踊連盟

### 第37回貝塚ファミリー劇場

#### こども市



子どもたちが考えて工夫した模擬店がたくさん出ます!  
▷日時 4月20日(日)午前11時～午後3時▷場所 市役所前緑の市民広場(雨天時は中央公民館内)

### 介護について語り合う場

ヤングケアラーやダブルケアラーも含め多様な介護の社会的課題や人権なども含めて考えます。  
▷日時 4月21日、6月23日、月曜午後1時30分～3時▷場所 講座室

### プレーパーク

「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーにした、子どもたちの冒険あそび場です。  
▷日時 5月10日(土)・11日(日)

## 浜手地区公民館

☎072-431-0926

◎申込 窓口・電話・メール(右記)で



**障害者の居場所づくり「らっと」**  
集まっておしゃべりしましょう♪  
▷日時 5月11日(日)午前10時～正午▷場所 講座室▷対象 心身に障害のある方▷定員 6人(定員になり次第締切)▷申込 4月15日(火)～

▷日時(全7回) 5月25日、6月22日、7月27日、9月28日、11月2日・23日、12月7日、日曜午前10時～正午▷対象 未就学児と父親(定員に満たない場合は小学生も可)▷定員 10組(定員になり次第締切)▷申込 4月15日(火)～

### +KOMINKAN(プラス公民館)

大阪体育大学の学生がホールで一緒に遊んでくれるよ!  
▷日時 5月25日(日)午後1時30分～3時30分▷申込 不要

### かしこく夜活(前期)～仕事帰りに公民館に行ってみよう～

▷日時(全4回) 5月15日・29日、6月5日・19日、木曜午後7時～8時30分▷内容 フラダンス、絵手紙、英語でゲーム、箏と尺八演奏、交流会▷定員 15人(多数の場合は抽選)▷材料費 200円▷締切 5月8日(木)

### パパサロン

パパ友を作って子育てを楽しみましょう!

## 山手地区公民館

☎072-446-0090

◎申込 窓口・電話・メール(右記)で



### 花を楽しむ(高齢介護課共催)

▷日時(全4回) 5月8日、22日、6月12日・26日、木曜午前10時～11時30分▷講師 南敬様▷対象 おおむね60歳以上の方▷定員 15人(定員になり次第締切)▷材料費 4,000円▷持物 花切ばさみ、紙袋▷申込 4月14日(月)～5月2日(金)に電話・窓口で

### 脂肪燃焼&筋トレエクササイズ

▷日時(全4回) 5月15日・29日、6月12日・26日、木曜午後7時30分～8時30分▷講師 梅本道代様(Physical Heart®代表)▷定員 30人(多数の場合は抽選)▷締切 5月8日(木)午後5時

### ヤマテクでスマ活

シニアに寄り添った初心者向けスマホ講座です。  
▷日時(全4回) 5月19日～8月18日、第3月曜午後1時30分～3時▷講師 中庭陽子様(BCCスマートフォン&タブレット教室)▷対象 おおむね60歳以上の方▷定員 8人(多数の場合は抽選)▷締切 5月8日(木)午後5時

### ロビーコンサート

さつき晴れの空に歌う  
▷日時 5月30日(金)午後0時15分～1時▷出演 こも池博子様(ソプラノ)、アンサンブルBUNSI▷申込 不要

### 子ども将棋クラブ

初心者大歓迎!市外の方もOK!  
▷日時 5～3月、第3土曜午後1時30分～3時▷対象 中学生以下▷定員 10人(定員になり次第締切)▷申込 二次元コードで  
※4月(体験月)は申込不要

### 食と会話を楽しむ(高齢介護課共催)

ぎょうざや魚ハンバーグをみんなで楽しく作ります。  
▷日時(全2回) 5月9日、6月13日、金曜午前10時～正午▷講師 花田幸子様(全国学校調理師会会員)▷対象 おおむね60歳以上の方▷定員 12人(定員になり次第締切)▷材料費 1,500円▷持物 エプロン、ふきん2枚、手拭きタオル、三角巾▷申込 4月14日(月)～5月2日(金)電話・窓口で

### 親子で料理

ぎょうざとスープを作ります。  
▷日時 5月11日(日)①午前10時②午後2時▷講師 大力恵美様(Flash kitchen MEG★LABO)▷対象 ①幼児親子(3歳～)②小学生親子▷定員 各8組(定員になり次第締切)▷材料費 1組1,000円▷持物 エプロン、布巾2枚、飲物▷申込 4月14日(月)～

## ピアノと声が紡ぐ四季の物語 MuKuライブ



ピアノとボーカルのアコースティックデュオのコンサートです。  
▷日時 5月31日(土)午後1時30分～3時▷場所 ホール▷出演 MuKu: 祐太(ピアノ)、喜一(ボーカル)▷定員 200人  
※整理券を4月14日(月)～各公民館で配布します



# 公民館タイムズ



※対象は、市内在住・在勤(学)の方です  
※原則として参加費無料(材料などの実費は徴収)

### 3館合同

#### 夏の子ども講座

夏休み期間中、幼児～中学生対象の夏の子ども講座を開催します。詳しくはホームページをご覧ください。



ホームページ

### 中央公民館

☎072-433-7222

#### 介護について語り合う場

みんなで支え合う介護について考えます。どなたでも気軽にどうぞください。

▷日時 6月23日(月)午後1時30分～3時▷場所 講座室3▷申込 窓口・電話で

#### 七夕・ピアノリレー



▷日時 7月6日(日)午前10時～午後4時▷場所 視聴覚室▷定員 22人(定員になり次第締切。1人15分。当日空きがあれば連続可)▷申込 窓口・電話・二次元コードで

#### 子育てネットワークの会 共催講座

##### ◎いずれも

▷保育定員 各10人(定員になり次第締切)▷参加費 1回150円(おやつ代他)▷申込 各講座の1週間前までに窓口・電話で(定員になり次第締切)

##### ◎園児部会(保育あり)

◆座談会「自分を整える～これからの心と身体の変化について～」▷日時 6月26日(木)午前10時～正午▷場所 講座室2▷定員 36人

##### ◎小学生部会

◆座談会「おしゃべりカフェ」モヤモヤする心配事は話してスッキリ！聴いて納得！共感してホッとしましょう。

#### 親子で楽しむ1 DAYイベント

人形劇・よみかかせ・かたつむりによる歌のコンサートほか。

みんな遊びに来てね！

▷日時 6月22日(日)午前10時～正午▷場所 中央公民館▷定員 90人(定員になり次第締切)▷申込 窓口・電話で

▷日時 6月19日(木)午前10時～正午▷場所 保育室▷定員 30人

##### ◎中高生部会

◆講座「変わりゆく、高校受験を知ろう！」

高校受験を控えた親としてネット出願など、毎年のように変わる受験の仕組みや、先生方の思いを聞いて心の準備をしませんか。

▷日時 6月17日(火)午後1時～3時▷場所 講座室2▷講師 学校教育課職員▷定員 36人

##### ◎子育て講座

#### 子どもの発達(胎児～2歳) 身体と心の土台ができる

子どもの発達の大きな流れと関わり方についての講座です。

▷日時 7月13日、8月10日、日曜午前10時～正午▷場所 視聴覚室▷講師 滝口みどり様(フリースペースモモ多可)▷定員 50人(定員になり次第締切)▷保育定員 6人(多数の場合は抽選)▷参加費 150円(おやつ代他)▷申込 各講座1週間前までに窓口・電話で

##### ◎クラブ体験講座

#### ◆絵手紙クラブ

はがきに絵を自由に描き、楽しく笑顔になりましょう。

▷日時 7月12日、8月9日、土曜午前10時～正午▷場所 講座室3▷材料費 1回200円▷申込 窓口・電話で

#### ◆貝塚ハーモニカクラブ

経験ある方、家にハーモニカがある方は是非お越しください。

▷日時 6月19日、7月17日、木曜午後1時30分～3時30分▷場所 講座室3▷持物 ハーモニカ▷申込 窓口・電話で



### 山手地区公民館

☎072-446-0090

◎申込 窓口・電話・メール(右記)で



#### 百人一首～上達への道～



まずは実践！覚え方のコツを楽しく学ぼう。

▷日時 7月5日(土)午後2時～3時30分▷講師 野路義幸様▷対象 小学生以上の方▷定員 16人程度(定員になり次第締切)▷申込 6月10日(火)～

#### 親子で料理



煮込みハンバーグとオニオンスープを作ります。

▷日時 7月6日(日)①午前10時②午後2時▷講師 大力恵美様(Flash kitchen MEG★LABO)▷対象 ①幼児(3歳～)と親②小学生と親▷定員 各8組(定員になり次第締切)▷材料費 1組1,000円▷持物 エプロン、布巾2枚、飲物▷申込 6月16日(月)～

#### 食と会話を楽しむ料理

7月は「鶏肉と夏野菜の甘酢あん」、8月は受講者の希望を聞きながら進めます。

▷日時(全2回) 7月11日、8月8日、金曜午前10時～正午▷講師

花田幸子様(全国学校調理師会会員)▷対象 おおむね60歳以上の方

▷定員 12人(定員になり次第締切)

▷材料費 1,500円

▷持物 エプロン、布巾2枚、手拭きタオル、三角巾▷申込

6月16日(月)～7月1日(火)



#### もしもにそなえよう！防災キャンプ

▷日時 7月31日(木)午前10時～午後1時30分▷講師 危機管理課職員▷対象 小中学生▷定員 15人(多数の場合は抽選)▷申込 3館合同の夏の子ども講座の二次元コードで

#### クラブ体験講座

##### ◆コーラス(ソフオン)

▷日時 6月23日(月)午前9時30分～11時30分

##### ◆月曜卓球

▷日時 6月23日(月)午後1時～2時30分▷定員 2人▷持物 動きやすい服装・靴

##### ◆オルゴールウクレレ

▷日時 6月24日(火)午後1時30分～3時▷定員 10人程度▷持物 ウクレレ(貸出可)

##### ◆コーラス山の手

▷日時 6月26日(木)午前9時30分～11時30分▷定員 5人

##### ◆邦楽クラブ～桜～

▷日時 6月28日(土)午前10時～11時▷内容 琴

##### ◆文化サロン

▷日時 7月7日(月)午後1時～3時▷定員 5人▷内容 茶道、生花

##### ◆ウクレレ

▷日時 7月8日(火)午前10時～11時30分▷定員 3人▷持物 ウクレレ(貸出可)

### 浜手地区公民館

☎072-431-0926

◎申込 窓口・電話・メール(右記)で



#### レクリエーションをして楽しもう♪「ぷらっと」

▷日時 7月6日(日)午前10時～正午▷対象 心身に障害のある方▷定員 6人(定員になり次第締切)▷申込 6月17日(火)～

#### 小学生から大学生の居場所 +KOMINKAN

▷日時 6月22日、7月27日、日曜午後1時30分～3時30分▷協力 大阪体育大学(体育実技研究所)▷申込 不要

#### SALON BeBe

第1～4の火曜午前10時～正午に乳幼児親子がプレイルームで自由に遊べます。2週目は「英語あそび」をします。6月24日は「た

なばた制作」をします。  
▷申込 不要

#### 子連れヨガ



子どもを見守りながら、ヨガでリフレッシュしましょう！

▷日時 7月29日(火)午前10時30分～11時30分▷対象 0歳～未就園児と母親▷定員 10組(定員になり次第締切)▷申込 7月8日(火)～

詳しくは、ホームページでご確認いただくかお問合せください。

# 公民館タイムズ



※対象は、市内在住・在勤(学)の方です  
※原則として参加費無料(材料などの実費は徴収)

## 中央公民館 ☎072-433-7222

### 赤ちゃんルーム



0歳児をもつ親子と妊婦さんの交流のひろばです。  
▷日時 7月14日・28日、8月25日、第2・4月曜午前10時～11時30分▷場所 保育室▷内容 水あそびなど

### 貝塚子育てネットワークの会 共催講座

◆座談会「社会人や現役大学生などを交えての交流会」  
少し先を行く社会人や大学生の先輩達から、学生時代に考えてい

た事などを聞いてみませんか？  
▷日時 8月3日(日)午後1時～3時▷場所 講座室2▷申込 窓口・電話で

### 夏のプレーパーク



「自分の責任で自由に遊び」をモットーに、子どもがやりたい!!と思うことを自分の手で実現できる場です。

▷日時 7月25日(金)～27日(日)午前10時～午後4時(雨天中止)  
▷場所 市立青少年野外広場(四中横)▷参加協力費 1人100円

## 山手地区公民館 ☎072-446-0090

◎申込 窓口・電話・二次元コード(右記)で



### ロビーコンサート ヤマチクでEXPO気分♪

万博パビリオン出展国の音楽でEXPO気分を味わいませんか！  
▷日時 7月25日(金)午後0時15分～1時▷出演 樋口藍様(フルート)、竹内裕美様(ピアノ)▷申込 不要

### 気軽にコンサートピアノを弾こう



▷日時 8月31日(日)午前10時～正午、午後1時～3時(1人15分)  
▷場所 ホール▷定員 16人(定員になり次第締切。空きがあれば当日参加可)▷申込 8月8日(金)～

### 子育て講座(保育つき)

忙しいママのための子育て術を学び、ストレスフリーな育児をめざしましょう。  
▷日時(全8回) 9月4日～10月23日、木曜午前10時～11時30分  
▷場所 講座室など▷内容 ヨガ、作り置きレシピの紹介と実習、虫歯と歯磨きの話、家計とお



金の話など▷対象 乳幼児の親▷定員 12人(定員になり次第締切)▷保育定員 12人(原則1歳以上)▷材料費 実費▷申込期間 8月9日(土)午前9時～21日(木)午後5時

### クラブ体験講座

◆チェリー体操クラブ  
▷日時 7月24日(木)午前10時～11時30分▷定員 5人▷持物 フェイスタオル・バスタオル・動きやすい服装・上靴・飲料  
◆陶芸(夜)  
▷日時 7月25日(金)午後7時～9時▷内容 マイカップ作り▷定員 6人▷材料費 500円▷持物 エプロン  
◆太極拳  
▷日時 7月26日(土)午前10時～正午▷定員 若干名▷持物 動きやすい服装・上靴  
◆コーラス「シフォン」  
▷日時 8月4日(月)午後7時～9時

## 浜手地区公民館 ☎072-431-0926

### SALON BeBe

第1～4の火曜午前10時～正午、乳幼児親子がプレイルームで自由に遊べます。7月22日は「金魚すくい・水遊び」、8月5日は「英語あそび」をします。  
▷申込 不要

### 公民館へゴー Nゲージ鉄道模型展示走行会



自慢のNゲージ車両を持ちこみ、運転しよう！(鉄道模型がなくても運転できるよ)  
▷日時 8月2日(土)正午～午後4時、8月3日(日)午前10時～午後3時▷場所 ロビー▷協力アマチュア鉄道模型クラブ▷申込 不要

### 浜手アフタヌーンコンサート バリトンはいかが？

▷日時 8月7日(木)午後2時～3時▷場所 ホール▷出演 細川勝様ほか▷定員 150人(定員になり次第締切)▷申込 7月14日(月)

～浜手地区公民館で配布する整理券(1人2枚まで)または電話で

### スマホらいふ

基本的な操作を学び日常生活に役立てましょう。

▷日時(全6回) 8月26日、9月9日・30日、10月14日・28日、11月11日、火曜午前10時30分～正午  
▷定員 8人(初めての方を優先し、多数の場合は抽選)▷講師 中庭陽子様(BCCスマートフォン&タブレット教室湧見教室オーナー)  
▷申込 8月10日(日)までに窓口・電話で

### シニア世代の筋力アップ講座

機能改善ストレッチで、フレイルを予防しましょう。

▷日時(全5回) 9月2日・16日・30日、10月7日・21日、火曜午後1時30分～2時30分▷講師 梅本道代様(Physical Heart®代表)  
▷定員 30人(多数の場合は抽選)  
▷申込 8月18日(月)までに窓口・電話で



### 浜手地区公民館利用者連絡会

現在22クラブが在籍。年6回ほどの定例会では、委員・役員が集まり、レクリエーションや勉強会について話し合っています。8月8日(金)には「防災講座」を開催し、クラブ間の交流を行います。今回は、6つのクラブを紹介し、あなたもクラブに入って人生を楽しみませんか。

太極拳 I  
二色囲碁  
卓球ロココ  
踊るママ御殿(ヒップホップ)  
リトミック1.2.3  
T2R(キッズダンス)

### 3館合同

#### クラブ・グループ案内

各公民館では、料理・音楽・語学・体操など様々なクラブ・グループが活動しています。見学も随時受け付けていますので、興味のある方は各クラブが所属する公民館にお問合せください。



ホームページ

詳しくは、ホームページでご確認いただくかお問合せください。

# 公民館タイムズ



※対象は、市内在住・在勤(学)の方です  
※原則として参加費無料(材料などの実費は徴収)

## 山手地区公民館

☎072-446-0090

◎申込 窓口・電話・二次元コード(右記)で



### ニューススポーツ体験 (高齢介護課共催)



モルックやラダーグッターなどで健康寿命を延ばしませんか。  
▷日時(全3回) 9月5日・12日・19日、金曜午前10時~11時30分▷講師 貝塚市スポーツ推進委員▷対象 60歳以上の方▷定員 15人程度(定員になり次第締切)  
▷持物 動きやすい服装と靴・飲料

### 食と会話を楽しむ料理



9月はポークピカタとブッキーのポタージュ、10月は受講者の希望を聞きながら進めます。  
▷日時(全2回) 9月5日、10月3日、金曜午前10時~正午▷講師 花田幸子様(全国学校調理師会会員)▷対象 60歳以上の方▷定員 12人(定員になり次第締切)▷材料費 1,500円▷持物 エプロン・布巾2枚・手拭きタオル・三角巾  
▷申込 8月12日(火)午前9時~28日(木)午後5時

### 第2期ヤマチクでスマ活



シニアに寄り添った初心者向けスマホ講座です。  
▷日時(全4回) 9月8日、10月20日、11月17日、12月15日、月曜午後1時30分~3時▷講師 中庭陽子様(BCCスマートフォン&タブ

レット教室)▷対象 60歳以上の方▷定員 8人(定員になり次第締切)▷申込 初めての方は8月8日(金)午前9時~、第1期を受講済の方は15日(金)午前9時~

### ロビーコンサート



▷日時 9月26日(金)午後0時15分~1時▷出演 三井梨愛様(ヴィオラ)、アンサンブルBUNS▷申込 不要

### ハーモニーで彩るア・カペラ ナイトカレッジ募集

歌うことで心も身体もリフレッシュしませんか。11月30日(日)に公民館ホールで舞台発表をします。  
▷日時(全7回) 9月4日・18日、10月2日・16日・30日、11月13日・27日、木曜午後7時~8時30分▷講師 見掛綾子様(Be in Voices)▷定員 15人(多数の場合は抽選)▷締切 8月24日(日)午後5時

### はじめての人形劇

▷日時 9月27日(土)午後2時~3時(午後1時45分開場)▷場所 ホール▷出演 人形劇団クラルテ▷演目 ぞうくんのさんぽ、三びきのこぶた▷定員 150人(定員になり次第締切)▷申込 市内の方は8月15日(金)~、市外の方は22日(金)~



## 中央公民館

☎072-433-7222

### 介護について語り合う場

介護の悩みや疑問はひとりで抱えこまず、皆で話し合ひましょう。気持ちを楽にして来てください。  
▷日時 8月25日(月)午後1時30分~3時▷場所 講座室3▷申込 窓口・電話で

午前9時~午後5時(21日は午後3時まで)▷場所 視聴覚室・ロビー壁面



### 第47回貝塚少年少女合唱団 定期演奏会



子どもたちが元氣いっぱいに日頃の活動の成果を発表します。  
▷日時 9月14日(日)午後1時30分▷場所 コスモシアター中ホール

### 貝塚美術協会展

油絵・水彩画・陶芸・絵手紙・写真などを展示します。  
▷日時 9月20日(土)・21日(日)

### 貝塚子育てネットワークの会 共催講座

◆子育て講座子どもの発達(8歳~思春期)自分らしさを開花させる  
▷日時 9月7日、10月5日、日曜午前10時~正午▷場所 視聴覚室▷講師 滝口みどり様(フリースペースモモ多可)▷定員 50人(定員になり次第締切)▷申込 講座の1週間前までに窓口・電話で

### クラブ体験講座

◆ニーハオ中国語  
日常の中国語会話を脳トレしながら一緒に楽しみませんか。  
▷日時 9月9日・30日、火曜午後1時30分~2時30分▷場所 講座室1▷持物 筆記用具▷申込 窓口・電話で

## 浜手地区公民館

☎072-431-0926

◎申込 窓口・電話・二次元コード(右記)で



### おばけやしき



子どもたちが作ったおばけやしきを楽しもう!  
▷日時 8月22日(金)午後1時30分~3時(受付は午後2時30分まで)▷申込 不要

### 小学生から大学生の居場所 +KOMINKAN

▷日時 8月24日、9月28日、日曜午後1時30分~3時30分▷協力 大阪体育大学体育実技研究所▷申込 不要

### SALON BeBe

第1~4の火曜午前10時~正午、乳幼児親子がプレイルームで自由に遊べます。8月26日は「水遊び」、9月9日は「英語あそび」をします。申込不要。

### ぶらっと

▷対象 心身に障害のある方▷定員 6人(定員になり次第締切)  
◆心と体を整える、姿勢と呼吸の時間  
▷日時 9月7日(日)午前10時~正午▷講師 元林観様(柔道整復師)▷申込 8月15日(金)~

◆ホットドックを作って食べよう  
▷日時 11月9日(日)午前10時~正午▷材料費 300円▷申込 10月14日(火)~

### Autumn Jazz Concert ~ジャズで奏でる映画音楽~

▷日時 9月21日(日)午後1時30分~▷場所 ホール▷出演 中野ひろし&スウィングガイズオーケストラ▷定員 120人(定員になり次第締切)  
※整理券を8月21日(木)~浜手地区公民館で配布または電話で受付(1人2枚まで)

### ピストロはまて

子どもが調理し、親子で試食します。  
▷日時(全3回) 9月27日、11月22日、令和8年1月31日、土曜午前10時~午後0時30分▷対象 小学5年~中学3年生の子どもと保護者▷定員 9組(多数の場合は抽選)▷材料費 1,800円▷締切 9月11日(木)



### 子連れヨガ

▷日時 9月30日(火)午前10時30分~11時30分▷対象 0歳~未就園児と母親▷定員 8組(定員になり次第締切)▷申込 9月9日(火)~

詳しくは、ホームページでご確認いただくかお問合せください。

# 公民館タイムズ



※対象は、市内在住・在勤(学)の方です  
※原則として参加費無料(材料などの実費は徴収)

**中央公民館** ☎072-433-7222

◎申込 窓口・電話で(「おや子教室」は二次元コードで)



## 保育つき講座「おや子教室」



親子で楽しく過ごせるように一緒に学びませんか。  
子どもにとっての“あそび”や“食”について学び、プレーパークでは子どもの発達に大切な“あそび”を体験します。  
▷日時(全8回) 10月28日～12月9日(11月8日のみ土曜)、火曜午前10時～11時30分▷講師 NPO法人えーる、小島理恵様(小島齒科医院)ほか  
▷対象 子育て中の親子▷保育定員 12人(定員になり次第締切)

### 赤ちゃんルーム

第2・4月曜に保育室で開催しています。親子で遊びに来ませんか?  
▷日程・内容 9月22日: 絵の具あそび、10月27日: 足型でかぼちゃのお面をつくろう、11月10日: 赤ちゃん運動会▷時間 午前10時～11時30分



### 障害者福祉施設合同作品展 につこり展



陶芸や絵画などさまざまな力作

が並びます。  
▷期間 10月2日(木)～30日(木) 午前9時～午後10時(日曜は午後5時まで。水曜・祝日休館)▷場所 中央公民館ロビー壁面、ガラスケース

### 初心者向けスマホ講座

あなたの「わからない」を気軽に聞いてみませんか?  
▷日時 10月2日・9日・16日、木曜午前10時～10時50分、11時～11時50分(時間は選べません)▷講師 NPO法人えーる▷対象 市内在住・在勤の方(60歳以上の方優先)  
▷定員 18人(多数の場合は抽選)  
▷締切 9月25日(木)午後5時

### クラブ体験講座

◆人形劇あひる 一緒に人形を動かしてみませんか?  
▷日時 9月18日・25日、木曜午前10時30分～正午

## 山手地区公民館

☎072-446-0090

◎申込 窓口・電話・二次元コード(右記)で



## 第34回 山手地区公民館まつり

日頃の公民館活動の成果を発表します。地域の団体による模擬店もお楽しみください!  
貝塚/パトトフリングクラブによるオープニングや、クラブ作品の即売会・陶芸絵付け体験もあります。  
▷日時 10月19日(日)午前9時45分～午後2時30分[展示は18日(土)・19日(日)]▷内容 舞台発表・作品展示・模擬店  
※駐車場には限りがあります。



### 親子で料理



ロールケーキとミックスジュースを作ります。  
▷日時 10月5日(日)①午前10時②午後2時▷講師 大力恵美様(Flash kitchen MEG☆LABO)▷対象

①幼児(3歳～)と親②小学生と親  
▷定員 各8組(多数の場合は抽選)▷材料費 1組1,000円[9月28日(日)までに持参]▷持物 エプロン・布巾2枚・手拭きタオル・飲物▷締切 9月20日(土)午後5時

### 気軽にコンサートピアノを弾こう

▷日時 10月5日(日)午前10時～正午、午後1時～3時(1人15分)  
▷定員 16人(定員になり次第締切。空きがあれば当日参加可)▷申込 9月12日(金)～

## 浜手地区公民館

☎072-431-0926

### SALON BeBe



第1～4の火曜午前10時～正午、乳幼児親子がプレイルームで自由に遊べます。9月23日は休館日、10月14日は「英語あそび」をします。申込不要。

### 浜手アフタヌーンコンサート ピアノであそぼう!!

▷日時 10月9日(木)午後2時～3時▷出演 宮崎剛様▷定員 150人(定員になり次第締切)▷申込 9月16日(火)～浜手地区公民館で配布する整理券または電話で(1人2枚まで)。



広告

# 公民館タイムズ



## 3館合同

**しゃべり場★公民館企画講座**  
**ホントにすごい! 貝塚公民館**  
 ▷日時 ①11月11日②25日、火曜午後1時～3時▷講師 ①萩原雅也様②播磨正弥様▷内容 ①私たちの公民館を知ろう②他の公民館ってどうなってる?▷申込 各公民館の窓口・電話で

## 中央公民館 ☎072-433-7222

**介護について語り合う場**  
 ▷日時 10月27日(月)午後1時30分～3時▷申込 窓口・電話で

**秋のプレーパーク**  
  
 子どもたちの「やってみよう」を最大限叶えてあげながら一緒に遊ばせませんか。  
 ▷日時 11月8日(土)・9日(日)午前10時～午後4時(雨天中止)  
 ▷場所 市立青少年野外広場(四中横)▷参加協力費 100円

**貝塚子育てネットワークの会 共催講座**  
 ◆子育て講座「思春期の子どもの発達～子どもが育つ暮らしと環境～」  
 ▷日時 11月2日・23日、日曜午前10時～正午▷場所 青少年センター3階講座室▷講師 滝口みどり様(フリースペースモモ多可)  
 ▷定員 50人(定員になり次第締切)▷申込 講座1週間前までに窓口・電話で

**乳幼児部会**  
 ◆座談会「みんなで話そう子育てのこと」自分の今の気持ちをすっきり吐き出し、ママからハッピーに!  
 ▷日時 10月24日(金)午前10時～正午▷定員 20人(定員になり次第締切)▷申込 窓口・電話で

**園児部会**  
 ◆講座「学ぼう! 考えよう! 子ども

もの今と未来」  
 ▷日時 11月7日(金)午前10時～正午▷場所 青少年センター3階講座室▷講師 佐道大倫様・匠子様(めぐみと森のようちえん)  
 ▷定員 36人(定員になり次第締切)▷申込 窓口・電話で

**◆講座「知っておきたい高校卒業後の進路」**  
 高等学校の進路担当の現役教諭を迎え、卒業後の進路に関する基礎知識を学びましょう。  
 ▷日時 11月6日(木)午後1時～3時▷講師 浅田孝祐様(府立貝塚南高校指導主事)▷定員 20人(定員になり次第締切)▷申込 窓口・電話で


**◆保育はいずれも**  
 ▷定員 10人(定員になり次第締切)▷費用 1回150円(おやつ代ほか)▷申込 各講座の1週間前までに窓口・電話で

**民謡フェスティバル**  
 ▷日時 11月9日(日)午前11時～10時▷場所 山手地区公民館▷出演 貝塚市日本民謡連合会

**深まる秋のクラシックコンサート～万博メモリアル～**  
 ▷日時 11月16日(日)午後1時30分～▷出演 貝塚市クラシック音楽家協会▷定員 70人▷申込 市内の方は10月16日(木)～、市外の方は10月23日(木)～整理券を窓口で配布します(1家族4枚まで)。

**クラブ体験講座**  
**彫金クラブ**  
 ▷日時 11月14日(金)午後1時30分～2時30分▷材料費 500円

**こどもクッキング「まめとみそ」**  
 みそづくりを通して、発酵のふしぎを知ろう! ペットボトルピザや豆腐作りも体験します。  
 ▷日時(全4回) 11月15日、12月13日、1月17日、2月14日、土曜午前10時～正午▷場所 料理室▷対象 小学3年生～中学生▷定員 8人(多数の場合は抽選。抽選結果は11月1日以降に電話で確認ください)▷材料費(4回分) 2,500円[11月13日(木)午後5時までに持参ください]▷持物 エプロン、三角巾、布巾2枚、手拭きタオル▷申込 10月30日(木)午後5時までに二次元コードで




申込

※対象は、市内在住・在勤(学)の方です  
 ※原則として参加費無料(材料などの実費は徴収)

## 山手地区公民館 ☎072-446-0090

◎申込 窓口・電話・二次元コード(右記)で



### Be in Voices ア・カベラ Live

▷日時 11月30日(日)午後2時～▷場所 ホール▷出演 第1部: ア・カベラナイトカレッジ講座生、ハビハモ(中央公民館自主グループ)、第2部: Be in Voices▷定員 200人(定員になり次第締切)▷申込 市内の方は10月16日(木)午前9時～、市外の方は11月6日(木)午前9時～整理券を窓口で配布します。整理券を取りに来られない場合は二次元コードで。


**食と会話を楽しむ料理**  
 味覚の秋です、きのこの炊き込みご飯やおひろき大根などを作ります。  
 高齢者の「孤食」を防ぎ、栄養バランスのとれた食事を作って、食後はおしゃべりを楽しみましょう。  
 ▷日時(全2回) 11月7日、12月5日、金曜午前10時～正午▷講師 花田幸子様(全国学校調理師会会員)▷対象 60歳以上の方▷定員 12人(定員になり次第締切)▷材料費(2回分) 1,500円▷持物 エプロン・布巾2枚・手拭きタオル・三角巾▷申込 10月10日(金)午前9時～26日(日)午後5時

**クラブ体験(定員になり次第締切)**  
**コース山の手**  
 ▷日時 10月23日(木)午前9時30分～11時30分▷定員 5人  
**金曜ストレッチ**  
 ▷日時 10月24日(金)午後1時30分～3時▷定員 5人▷持物 動きやすい服装・飲物  
**コースシフォン**  
 ▷日時 10月27日(月)午前9時30分～11時30分▷定員 5人

**フアアクラブ(親子講座)**  
 ▷日時(全4回) 11月23日、12月21日、1月18日、2月15日、日曜


## 浜手地区公民館 ☎072-431-0926

◎申込 窓口・電話・二次元コード(右記)で



### ふれあひまつり

公民館で活動するクラブが日頃の練習の成果を発表します。舞台発表・作品展示・模擬店や遊びコーナーがあります。オープニングは、二色学園プラスバンド部・第四中学校吹奏楽部の皆さんです。  
 ▷日時 10月26日(日)午前10時～午後2時[作品展示は25日(土)午後1時～4時]▷場所 浜手地区公民館と周辺▷申込 不要



### SALON BeBe

第1～4の火曜午前10時～正午、乳幼児親子がプレイルームで自由に遊べます。10月28日は「ハロウィン撮影会」11月11日は「英語あそび」をします。申込不要。

### かしこく夜活(後期)～仕事帰りに公民館に行ってみよう～

▷日時(全4回) 11月6日・20日、12月4日・18日、木曜午後7時～8時30分▷内容 星空観測・貝塚の歴史・モルック・和菓子づくり▷定員 16人(多数の場合は抽

選)▷材料費 500円▷締切 10月30日(木)

### 終活へ、いらっしゃ～い!

**「人生100年時代」を乗り切ろう**  
 終えん準備で不安の解消を!  
 ▷日時(全4回) 12月2日～23日、火曜午後6時30分～8時▷内容 エンディングノートを書こう、どうする葬儀・墓・永代供養、遺言書保管制度・相続登記の義務化ってなに?、人生でしたい100のこと▷定員 35人(多数の場合は抽選)▷締切 11月17日(月)

詳しくは、ホームページでご確認いただくかお問合せください。

# 公民館タイムズ



※対象は、市内在住・在勤(学)の方です  
 ※原則として参加費無料(材料などの実費は徴収)  
 ※定員のあるもので明記のない場合は、定員になり次第締切ります

## 3館合同

### 第14回 貝塚公民館大会

笑顔のチカラ～みんなが公民館で元気になるっ!!～

公民館は、講座を受けたり自分たちの活動をしたりするだけの場所と思いませんか。しんどさや悩みを抱えている人も含めて、いろいろな人の思いを受けとめ、共有できる居場所が公民館です。利用者の中には「公民館に来ると笑顔になる」と言う方もいます。



ぜひ公民館大会を一度見に来てください。公民館で活動する若者のいきいきしたエピソードを聞いて、元気をもらいましょう!



▷日時 12月14日(日)午後1時～3時30分▷場所 山手地区公民館ホール▷講師 青山鉄兵様(文政大学人間科学部准教授)▷定員 150人▷保育定員 15人[対象 1歳～小学生。12月7日(日)までに要申込]▷申込 二次元コードまたは各公民館の窓口・電話で



※中央・浜手地区公民館から送迎バスあり。  
 ※駐車場には限りがあります。公共交通機関をご利用ください。

## 浜手地区公民館

☎072-431-0926

### SALON BeBe

第1～4の火曜午前10時～正午、乳幼児親子がプレイルームで自由に遊べます。

11月25日は「落ち葉あそび」、12月9日は「英語あそび」をします。申込は不要です。

### 浜手アフタヌーンコンサート ようこそ!エレクトーンの世界へⅢ

▷日時 12月11日(木)午後2時～3時▷出演 松内愛様▷定員 150人▷申込 11月17日(月)～浜手地区公民館で配布する整理券または電話で(1人2枚まで)。

### 小学生から大学生の居場所 + KOMINKAN



ホールで遊ぼう!  
 ▷日時 11月23日(日)午後1時30分～3時30分▷協力 大阪体育大学(体育実技研究部)▷申込 不要

### ぶらっと クリスマス会



▷日時 12月21日(日)午前10時～正午▷対象 心身に障害のある方▷定員 6人▷材料費 300円▷申込 11月14日(金)～窓口・電話で

### スマホらいふ(第3弾)

スマホの基本的な操作を学び日常生活に役立てましょう。

▷日時(全6回) 12月23日、1月13日・27日、2月10日・24日、3月10日、火曜午前10時30分～正午▷講師 中庭陽子様(BCCスマートフォン&タブレット教室、清見教室オーナー)▷定員 8人(多数の場合は抽選。初めての方優先)▷申込 12月7日(日)までに窓口・電話で



## 中央公民館

☎072-433-7222

### 赤ちゃんルーム

気軽に参加できる親子の交流の広場です。

▷日時 11月10日、12月8日・22日、第2・4月曜午前10時～11時30分▷内容

赤ちゃん運動会、クリスマス会など▷対象 0歳児を持つ親子、妊婦の方▷申込 窓口・電話で

### 第48回合唱フェスティバル



美しいハーモニーを奏でます。

▷日時 12月7日(日)午後1時～▷場所 コスモシアター中ホール▷出演 貝塚市合唱連盟

### Xmas・ピアノリレー

貝塚青少年少女合唱団ミニコンサート

どなたでも参加できます。  
 ▷日時 12月21日(日)午前10時～午後4時▷場所 視聴覚室▷定員 22人(一人15分。空きがあれば連絡可)▷申込 二次元コードで



### シニアあそびたい会

(高齢介護課共催)  
 手作りおもちゃを作り、脳を活性化しましょう。地域の子どもたちと交流します。

▷日時(全2回) ①12月11日(木)午前10時30分～正午②1月8日(木)午後1時30分～3時▷場所 ①中央公民館②浜手地区公民館▷定員 15人(60歳以上の方優先)▷申込 窓口・電話で

### 子育てネットワークの会共催講座

講座の申込は各講座の前日までに窓口・電話で。

▷保育定員 各10人(各講座の1週間前までに要申込)▷費用(1回) 150円(保険・おやつ代など)

乳幼児部会(保育あり)  
 ◆講座「教えて、園長先生!乳幼児期がわかればもっと子育てが楽になる」

▷日時 11月28日(金)午前10時～11時30分▷講師 松田ひとみ様(北幼稚園園長)▷定員 20人  
 小学生部会(保育あり)  
 ◆講座「子どものええやん見つけたい」

親自身の心をそっと整え、怒りや不安を優しく手放し、心がふっと軽くなると子どもがいいところ「ええやん」がたたくさん見えてきます。

▷日時 11月20日(木)午前10時～正午▷講師 九十九綾子様(大阪府公立学校チーフスクールカウンセラー)▷定員 40人

◆座談会「The(座)談会～みんなで一緒に講座を振り返ろう～」  
 講座を受けてない方には講座の内容がわかる話を、講座を受けた方には、さらに学びが深まるような話をみんなでしたいと思います!

▷日時 12月4日(木)午前10時～正午▷定員 40人  
 中高生部会(保育なし)  
 ◆座談会「先輩お母さんにきいてみよう」～進路にかかると費用ってどうしてました?～

▷日時 12月5日(金)午後1時～3時▷定員 30人

### クラブ体験

大人のHIPHOPチェクラッシュ  
 ▷日時 12月8日(月)午前10時30分～11時30分▷持物 動きやすい靴・服、水分、タオル

## 山手地区公民館

☎072-446-0090

◎申込 窓口・電話・二次元コード(右記)で



### 親子で料理

クークサレ(お惣菜ケーキ)を作ります。  
 ▷日時 12月7日(日)①午前10時②午後2時



▷講師 大木恵美様(Flash kitchen MEG★LABO)▷対象 ①幼児(3歳～)と親②小学生と親▷定員 各8組(多数の場合は抽選)▷材料費 1組1,000円(11月30日(日)までに持参)▷持物 エプロン・布巾2枚・手拭きタオル・飲物▷締切 11月20日(木)午後5時

▷日時 11月28日(金)午後0時15分～1時▷出演 花駕孝子様(ソプラノ)、齋木慶子様(ソプラノ)、内山圭介様(バリトン)、白原理香様(ピアノ)▷申込 不要

### クラブ体験

コーラスシフォン  
 ▷日時 11月17日(月)午後7時～9時▷定員 5人

陶芸(夜)  
 ▷日時 11月21日(金)午後7時～9時▷内容 マイカップ作り▷定員 5人▷持物 エプロン

クルクウクレレ  
 ▷日時 11月25日(火)午前10時10分～11時30分▷定員 5人▷持物 ウクレレ(貸出可)

### ロビーコンサート

秋のメロディーとオペラに触れる昼下がり。

詳しくは、ホームページでご確認いただくかお問合せください。

# 公民館タイムズ



※対象は、市内在住・在勤(学)の方です  
 ※原則として参加費無料(材料などの実費は徴収)  
 ※定員のあるもので明記のない場合は、定員になり次第締切りです

## 中央公民館 ☎072-433-7222

### 子育てネットワークの会共催講座 小学生部会

◆親子レクリエーション「みんな  
で思いっきり遊ぼう!」  
 中学生になると家にいない時間  
も増える子どもたち。小学生の合  
にしかできない遊びを親子で一緒  
にしませんか?  
 ▷日時 1月10日(土)午前10時～  
正午▷場所 市民の森(雨天時は浜

手地区公民館)▷定員 40人▷申込  
窓口・電話で

### 介護について語り合う場

今回は、中央地域包括支援セン  
ターの方が来られます。介護や家  
族の事を気軽に話してみませ  
んか。  
 ▷日時 12月15日(月)午後1時30  
分～3時▷申込 窓口・電話で

## 山手地区公民館 ☎072-446-0090

### 百人一首大会



世代や経験問わず!日本の伝統  
文化に親しみながら、真剣勝負を  
楽しみましょう。  
 ▷日時 1月10日(土) 12月8日  
午後2時～4時▷講師  
野路義幸様▷定員 16  
人▷申込 12月8日

(月)～窓口・電話・二次元コードで

### ヤマチクオープンサロン

団体の利用がない場合は、保育  
室を開放しています。  
 ▷時間 午前9時～午後5時▷対  
象 乳幼児とその家族

### 学習の集いの場

講座室を無料で開放します。  
 ▷日時 自習室に使用できる部屋  
が空いている時(小学生のみの利  
用は午後5時15分、中学生のみの  
利用は午後6時まで)▷持物 中  
学生は生徒証明書▷申込 窓口で

## 浜手地区公民館 ☎072-431-0926

### 防災講演&落語

心と心をつなぐ防災～阪神大震災から学んだこと  
 防災に必要なのは「想像力」。起こってほしくない  
事態を細かく想像し、準備をすることが重要で  
す。それを邪魔する「思い込み」を外すには「笑  
う」のが効果的。落語で笑って楽しく防災力をつけ  
ましょう!  
 ▷日時 2月8日(日)午後1時30分～3時30分▷出  
演 桂福丸様▷定員 120人▷申込 1月13日(火)～  
浜手地区公民館で配布する整理券または電話で(1人  
2枚まで)。



### SALON BeBe

第1～4の火曜午前10時～正  
午、乳幼児親子がプレイルームで  
自由に遊べます。申込不要。

### げんきに子育て

ママたちが考えた保育つき講座  
です。  
 ▷日時(全4回) 1月15日、2月  
19日、3月5日・19日、木曜午前  
10時～11時30分▷内容 子どもの  
足育・食育と栄養・コーヒーのプ  
ロに教わるうなど▷対象 子育て  
中の方▷保育定員 10人  
(原則1歳以上)▷材料  
費 実費▷申込 12月  
15日(月)～窓口・電  
話・二次元コードで



### 新春あそびたい会



ボランティアの皆さんが、コマ  
回し・折り紙・百人一首・手作り  
おもちゃなど、楽しい遊びを教え  
てくれるよ。  
 ▷日時 1月8日(木)午後1時30  
分～3時▷申込 不要

## 公民館ってどんなところ?～公民館ってみんなの居場所～

### 「つどう」場

さまざまな部屋と自由な  
空間(ロビー)があり、勉  
強や会議、グループでの  
歌や楽器の練習など、ど  
なたでも利用できます。  
(ただし営利・宗教・政治  
的利用不可)  
各部屋の概要と空き状況  
などは、気軽にお問合せ  
ください。



浜手ロビーの様子



書道のグループ

### 「まなぶ」場

対象や課題に応じた講座  
や事業を実施しています。  
広報かいつか以外にも、  
ホームページやSNSにも  
掲載します。  
また、さまざまなクラブや  
団体が活動しています。  
(詳しくはホームページ  
「クラブ・団体」で)  
気になるクラブ・団体が  
あれば各公民館までお問  
合せてください。



つるかめ大学



子育て講座

### 「むすぶ」場

学校・地域住民・社会教育  
施設・NPO団体・関係行政  
機関などと連携し、社会  
教育活動を行っています。  
人と地域、活動と活  
動を結び手伝いをしてい  
ますので気軽にご相談  
ください。あなたの気持ち  
に寄り添います。



二色学園コラボ事業



筋力アップ講座

### 第34回山手地区公民館まつり



10月19日  
 天気にも恵まれ、地域の皆さん  
による出店など、各種団体や地域  
住民が連携して開催しました。  
 子ども連れから年配の方々まで  
多く来場され、舞台発表や作品展  
示・模擬店など大いに盛り上がり  
ました。

### 浜手地区公民館「ふれあいまつり」



10月26日  
 オープニングでは、二色学園ブ  
ラスバンド部と第四中学校吹奏楽  
部の皆さんによる迫力ある演奏が  
行われ、子どもたちの元気な演奏  
と地域の団体による協力が、会場  
の温かい雰囲気を作り上げまし  
た。

詳しくは、ホームページでご確認いただくかお問合せください。

# 公民館タイムズ



※対象は、市内在住・在勤(学)の方です  
※原則として参加費無料(材料などの実費は徴収)  
※定員のあるもので明記のない場合は、定員になり次第締切ります

## 中央公民館

☎072-433-7222

### 貝塚ファミリー劇場共催事業 「クモばんぼとぎんのくつした」



やさしさが広がるお話です。  
心温まる劇を見に来ませんか？  
▷日時 1月25日(日)午後2時  
▷場所 山手地区公民館  
▷定員 130人  
▷申込 窓口・電話で

### 貝塚市美術協会小作品展

油絵・水彩画・陶芸・絵手紙・  
写真を展示します。  
▷日時 1月18日(日)～2月1日  
(日)午前9時～午後10時(水曜・  
祝日休館。日曜は午後5時まで。  
最終日は午後3時まで)▷場所 中  
央公民館ロビー壁面・ガラスケー  
ス

### ジャズライブ



新春恒例のジャズライブをお楽  
しみください。  
▷日時 2月1日(日)午後1時30  
分▷出演 中野ひろしクインテッ  
ト▷定員 70人▷申込 市内の方  
は1月5日(月)午前10時～、市外  
の方は1月13日(火)午前10時～整

## おやじのたまり場

何かを始めたいと思っている方！大集合！  
公民館で趣味をみつけませんか？

▷日時(全3回) 1月24日・31日、  
2月7日、土曜午前10時～午後1時  
▷内容 手打ちうどんといなり寿  
司、手打ちそばとかきあげ、おつま  
みなど▷講師・協力 おやじの会ほ  
か▷材料費 2,500円▷定員 10人  
▷申込 窓口・電話で



## 3館合同

### 日本語会話よみかき教室「日本語ボランティア募集」

外国から日本に来て日常生活の言葉で不自由をしている方、いろ  
んな事情で読み・書き・会話に困っている方を支援するボラン  
ティアを募集しています。英語が話せなくても大丈夫です。特別な資格  
は必要ありませんので、ぜひ一度気軽にご見学ください。



- ◆中央公民館  
火曜午前10時～正午
- ◆山手地区公民館  
月曜午後7時30分～9時
- ◆浜手地区公民館  
火曜午前10時～正午



### 保育ボランティア養成講座

子どもたちの笑顔のお手伝いをしませんか。

▷日時(全2回) 1月29日、2月5日、  
木曜午前10時～11時30分▷内容 ボラン  
ティア交流・手遊び紹介・  
絵本の読み聞かせ方▷申込  
1月5日(月)～二次元コー  
ドで  
※保育は要相談



## 山手地区公民館

☎072-446-0090

### 山手寄席

市内の町会で開催される「いきいきサロン」でボランティアとして活  
躍しているお二人による寄席です。当館では初公演！大いに笑って元気  
ハツラツ！

▷日時 3月8日(日)午前11時～正午(午前10時30分開  
場)▷場所 ホール▷出演 満腹亭楊枝様(落語・三味線  
漫談)、天神亭美笑様(落語)▷定員 200人▷申込 整理  
券を2月1日(日)～各公民館で配布します



### ロビーコンサート 新春を迎えて♪

▷日時 1月30日(金)午後0時15分～1時▷出演 常盤木和子様(箏)、山  
根利佳様(箏)、今川知恵子様(フルート)▷申込 不要

## 浜手地区公民館

☎072-431-0926

### にんぎょうげき

▷日時 2月21日(土)午前10時30分～11時  
10分▷出演 人形劇きしゃぼっぼ(浜手地  
区公民館クラブ)、おぼぞら劇団(おぼ  
ぞらこども園保育教諭)▷定員 120人▷申込  
1月22日(木)～浜手地区公民館で配布す  
る整理券または電話で



### 小学生から大学生の居場所

+KOMINKAN  
ホールで遊ぼう！  
▷日時 1月25日、2月22日、日  
曜午後1時30分～3時30分▷協力  
大阪体育大学(体育実技研究部)  
▷申込 不要

### 浜手アフタヌーンコンサート ヴァイオリンとヴィオラ 友情物語

▷日時 2月5日(木)午後2時～  
3時▷出演 中島慎子様(ヴァイ  
オリン)、古味亜紀様(ヴィオラ)  
▷定員 150人  
▷申込 1月19  
日(月)～浜手地  
区公民館で配布  
する整理券また  
は電話で(1人  
2枚まで)



### ぷらっと 恵方巻きづくり

▷日時 2月1日(日)午前10時～  
正午▷対象 心身に障害のある方  
▷定員 6人▷材料費 300円▷申  
込 1月11日(日)～窓口・電話で

詳しくは、ホームページでご確認いただくかお問合せください。

# 公民館タイムズ



※対象は、市内在住・在勤(学)の方です  
 ※原則として参加費無料(材料などの実費は徴収)  
 ※定員のあるもので明記のない場合は、定員になり次第締切ります

## 中央公民館 ☎072-433-7222

### つるかめ大学受講者募集

65歳以上の方を対象に、生活にはりが生まれる講座です。  
 学習と交流、脳トレや健康体操、レクリエーション、班活動など充実した内容です。  
 ▷日程(全23回) 4月13日～12月7日、月曜午前10時～正午▷対象 おおむね65歳以上の方▷定員 10人  
 ▷申込 2月10日(火)～3月3日(火)までに窓口・電話で



### 貝塚少年少女合唱団員募集

仲間とハーモニーをつくりませんか。ぜひ見学にお越しください。  
 市の式典や地域のイベント、定期演奏会の開催、泉南地区や大阪府などの合唱祭に参加します。  
 ※2・3月は無料で何度でも参加体験可



▷活動日 日曜午前10時～正午▷対象 新年長児～高校生▷申込 窓口・電話で

### 介護について語り合う場

介護者の支援や居場所づくりについてみんなで考えます。  
 ▷日時 2月16日(月)午後1時30分～3時▷申込 窓口・電話で



### ひなまつりピアノリレー

どなたでも参加できます。  
 ▷日時 3月1日(日)午前10時～午後4時▷定員 22人(1人15分、空きがあれば連続可)▷申込 窓口・電話で



### 春一番コンサート

木管楽器とピアノによる演奏会です。  
 ▷日時 3月8日(日)午後1時30分▷出演 サザンウィンドアンサンブル▷定員 70人▷申込 市内の方は2月9日(月)午前10時～、市外の方は2月16日(月)午前10時～整理券を窓口で配布します(1家族4枚まで)



### クラブ体験講座

◆なごみクッキングクラブ  
 ▷日時 2月17日(火)午前10時～正午▷定員 6人▷参加費 500円  
 ▷持物 エプロン、三角巾、布巾  
 ▷申込 窓口・電話で



## 浜手地区公民館 ☎072-431-0926

◎申込 窓口・電話・メール(右記)で



### 星降る公民館 皆既月食を見よう

ひなまつりの夜、皆既月食と冬の星を見ませんか。  
 ▷日時 3月3日(火)午後7時～9時▷対象 どなたでも(中学生以下は保護者同伴)▷定員 35人(多数の場合は抽選)▷持物 懐中電灯、双眼鏡(あれば)▷締切 2月24日(火)



### トールペイント展示&体験会

ひなまつりをテーマにした作品を見て、体験もできます。

◆展示  
 ▷期間 2月14日(土)正午～22日(日)午後3時  
 ◆体験会  
 ▷日時 2月19日(木)午前10時～午後2時▷定員 10人▷材料費 800円▷協力 川端英子様▷申込 不要

### レクリエーションをしよう 「ぶらっと」

▷日時 3月1日(日)午前10時～正午▷対象 心身に障害のある方▷定員 6人▷申込 窓口・電話で

### 子連れヨガ

子どもをみんなで見守りながらヨガでリフレッシュしましょう。  
 ▷日時 3月31日(火)午前10時30分～11時30分▷対象 0歳～未就園の親子▷定員 8組▷申込 3月10日(火)～

### SALON BeBe

親子で気軽に遊びに来てね。  
 ▷日時 第1～4火曜午前10時～正午▷対象 0歳～未就園の親子  
 ▷内容 2月24日は「ひなまつり制作」、3月10日は「英語あそび」、その他は「フリーサロン」  
 ▷申込 不要



## 山手地区公民館 ☎072-446-0090

### 子ども将棋クラブボランティア募集

▷日時 第3土曜午後1時30分～3時  
 ▷場所 講堂▷定員 若干名▷内容 受講者との対局、初心者へのルール説明、準備・片付け、子どもの見守りなど



### ロビーコンサート

#### 春爛漫 うたとピアノで奏でるハーモニー

▷日時 3月27日(金)午後0時15分～1時▷出演 西上裕恵様(ソプラノ)、奥村由起様(ソプラノ)、松本千賀子様(ピアノ)▷申込 不要

## 紹介 山手地区公民館活動協議会

現在32クラブが所属し各クラブの枠を超えて、公民館まつりやレクリエーション、研修会を通してつながりを広げています。  
 「出会いの場・挑戦の場・新しい楽しみを見つける場」として、公民館に違い始めませんか。  
 まずは、クラブの見学・体験に気軽にお越しください。



詳しくは、ホームページでご確認いただくかお問合せください。

# 公民館タイムズ



※対象は、市内在住・在勤(学)の方です  
 ※原則として参加費無料(材料などの実費は徴収)  
 ※定員のあるもので明記のない場合は、定員になり次第締切ります

## 3館合同

### 8月のコミュニティ機材貸出

機材の貸出しは、使用日の3カ月前から各公民館で受付けていますが、8月中は申込が多いため中央公民館で一括受付・抽選を行います。  
 ▷日時 4月12日(日)午前10時(時間厳守)▷場所 中央公民館



### ふれあい料理

ボランティアにサポートしてもらいながら、料理を楽しみます。  
 ▷期間 4～翌3月午前10時30分～午後0時30分▷実施日 中央公民館：第4金曜、浜手地区公民館：第2月曜(4・8月は休み)、山手地区公民館：第3金曜(4・8月は休み)▷対象 心身に障害のある方

### ふれあい料理ボランティア大募集

心身に障害のある方をサポートしながら料理をします。和気あいあいと楽しく活動しています。見学もできますので興味のある方は、気軽にお電話ください。

## 中央公民館

☎072-433-7222

### プレーパーク



子どもたちの「やってみよう」を最大限かなえてあげながら一緒に遊びませんか。  
 ▷日時 3月25日(水)～29日(日)午前10時～午後4時(雨天中止)  
 ▷場所 市立青少年野外広場(四中横)▷参加協力費 100円

### 赤ちゃんルーム

▷日時 第2・4月曜午前10時～11時30分▷場所 保育室▷対象 令和7年4月以降生まれの子と親、妊婦の方▷申込 不要



## 紹介

### 中央公民館活動協議会

現在40クラブが在籍。年6回ほどの定例会では、委員・役員が集まり、レクリエーションや地域共生などの勉強会について話合っています。今回は6つのクラブについて紹介します。中央公民館で趣味を楽しみませんか？



▲やさしい仏像彫刻



▲月曜絵画



▲ロックバンド連絡会



▲人形劇あひる



▲どろんこ(陶芸)



▲コールシエル

## 山手地区公民館

☎072-446-0090

◎申込 窓口・電話・メール(右記)で



### 百人一首・上達への道

初心者・経験者・世代問わず！競技カルタや坊主めくりで、楽しく和歌に触れてみませんか？  
 ▷日時 第1土曜午後2時～3時30分



### こたぶきクラブ(高齢者対象講座)

イキイキと健康で過ごすため、自分たちのやりたいことを話し合い、仲間づくりをすすめています。  
 ▷日時(全24回) 4月21日～12月8日、火曜午前10時～正午(夏休みあり)▷対象 おおむね65歳以上▷材料費 実費▷締切 3月31日(火)



### フアファクラブ(親子講座)

▷日時(全4回) 4月19日、5月17日、6月21日、7月19日、日曜午前10時15分～正午▷内容 紙染め・クッキング・工作・夏祭りなど▷講師 松本啓子様(学校心理士)▷対象 小学生と親▷定員 8組▷材料費(4回分) 1組1,100円(子ども追加500円)  
 ▷申込 3月10日(火)午前9時～4月10日(金)午後5時



### 気軽にコンサートピアノを弾こう

▷日時 4月26日(日)午前10時～正午、午後1時～3時(1人15分)▷定員 16人(空きがあれば当日参加可)▷申込 3月26日(木)午前9時～



## 浜手地区公民館

☎072-431-0926

◎申込 窓口・電話・メール(右記)で



### 浜手アフタヌーンコンサート

ピアノで贈る名曲の花束II  
 ▷日時 4月9日(木)午後2時～3時▷場所 ホール▷出演 宮原雄大様▷定員 150人▷申込 3月23日(月)～浜手地区公民館で配布する整理券(1人2枚まで)または電話で

9月27日、11月1日・22日、12月6日、日曜午前10時～正午▷対象 未就学児と父親(定員に満たない場合は小学生も可)▷定員 10組▷申込 3月16日(月)～

### シニア世代の筋力アップ講座

機能改善ストレッチで、フレイルを予防しましょう。  
 ▷日時(全5回) 4月10日・24日、5月8日・22日・29日、金曜午後1時30分～2時30分▷講師 梅本道代様(Physical Heart®代表)▷定員 30人(多数の場合は抽選)▷締切 3月26日(木)

### シルバークラフ



高齢期をイキイキと過ごすため、仲間と一緒に学習や交流をしましょう。  
 ▷日時(全23回) 5月14日～12月10日(8月を除く木曜)午前10時～正午▷対象 65歳以上の市民▷定員 10人▷参加費 1,000円▷締切 4月10日(金)

### ニュースポーツをしよう

「ぶらっと」  
 ▷日時 4月12日(日)午前10時～正午▷講師 西本仁志様▷対象 心身に障害のある方▷定員 6人

### パパサロン

パパ友を作って子育てを楽しみましょう！  
 ▷日時(全8回) 4月26日、5月24日、6月28日、7月26日、



### クラブ体験講座

#### ◆リトミック1・2・3

0歳の赤ちゃんから未就園児まで、親子でリトミックを楽しもう！  
 ▷日時 4月9日・23日のいずれか1日、木曜午前10時～11時▷申込 前日まで



詳しくは、ホームページでご確認いただくかお問合せください。

# 2025 夏 公民館タイムズ

2025年(令和7年)6月発行



■貝塚市立中央公民館 ☎072-433-7222  
〒597-0072 貝塚市島中1丁目18番1号  
■貝塚市立浜手地区公民館 ☎072-431-0926  
〒597-0091 貝塚市二色2丁目7番2号  
■貝塚市立山手地区公民館 ☎072-446-0090  
〒597-0046 貝塚市東山7丁目10番1号

公民館の講座ではいろいろな体験や出会いがまってるよ。学びのポイントラリー対象講座もあります。

**山手** **もしちにそなえよう!**  
**防災キャンプ【要申込】**  
ご飯を炊いて、缶詰と一緒に非常食体験! 防災のお話  
や交流ゲームで楽しく「もしも」にそなえよう  
**7/31(木) 10時~13時半**  
定員: 15人 材料代: 500円(缶詰代)  
対象: 小・中学生  
持ち物: 米1合、飲み物、タオル

**山手** **ヤマチクキッチン**  
**夏のそうめんパーティー【要申込】**  
買って、作って、食べよう!  
**8/19(火) 10時~13時半**  
定員: 12人 対象: 小学生 材料代: 500円  
メニュー: そうめん、デザート  
持ち物: エプロン、三角巾、ふきん2枚、エコバッグ、飲み物

**浜手** **おばけやしき作戦会議【要申込】**  
みんなでおばけやしきを考えて作ろう!  
日時: 7/28・8/4・8/18(月) 13時半~15時  
8/21(木) 15時~16時半  
対象: 小・中学生 定員: 15人  
協力: おばけやしきボランティア

**おばけやしき【申込なし】**  
日時: 8/22(金) 13時半~15時(受付は14時半迄)

**中央** **プレーパーク~夏の巻~**  
「自分の責任で自由に遊ぶ」  
**7/25(金)~7/27(日)**  
10時~16時 雨天中止  
場所: 貝塚市立青少年野外広場(第四中学校横)  
参加協力金: 100円/1人【申込なし】  
貝塚子育てネットワークの会・プレーパーク実行委員会

**浜手** **公民館ヘゴー**  
**Nゲージ鉄道模型 展示走行会**  
【申込なし】 協力: アマチュア 鉄道模型クラブ  
Nゲージ車両が運転できる!(自備のNゲージ車両持ち込みOK)  
日時: 8/2(土) 12時~16時  
8/3(日) 10時~15時  
対象: 幼児から大人まで

**中央** **人形劇「となりのためぎ」**  
人形劇あひるクラブが楽しい人形劇をしてくれるよ。  
日時: 8月9日(土) 10時半~11時15分  
場所: 中央公民館 視聴覚室  
対象・定員: 年少~小学生・70人(要整理券)  
7月3日10時から中央公民館にて配布。1家族4枚

**《夏の子ども講座の申込み》**

◎申込締切 6月29日(日) 17時  
◎抽選日 7月1日(火) 10時 / 定員を超えた場合のみ抽選  
◎申込方法 各館申込二次元コードやURL、または各公民館に置いてある申込書に、必要事項を記入し、それぞれの公民館で申込みください。  
**申込みはひとりずつでお願いします(兄弟姉妹もそれぞれで申込み)**

**\*受講の可否は7月3日(木) 10時以降に電話もしくは各館の窓口でご確認ください。**

◎材料費納入期間 7月3日(木) 10時~7月13日(日) 17時 おつりのないようにしてください。  
平日9時~21時・土日9時~17時(水曜・祝日休館) 納入後の返金はできません。  
※申込み終了後、受付完了メールが届きます。届かない場合は、各館へ電話で申込みの確認をお願いします。  
また、メールで受講の可否についてのお問い合わせはできません。  
※料理・茶道の講座申込みにはアレルギーの有無をご記入ください。  
※親子参加の講座申込みには、参加される大人のお名前もご記入ください。

**公民館も SDGs の学習および実践に取り組んでいます~だれひとり取り残さない社会をめざして~**

★講座開始2時間前に雨・風いづれかの警報発令の場合は中止になります。  
★料理系の講座では、やけどの危険があるのでサンダルなどは不可。マニキュアなども不可です。  
★熱中症予防のため、必ず水筒を持参してください。また、食べ物を扱う講座では食品の持ち帰りはできません  
★講座時に写真を撮らせて頂き、壁新聞(公民館内の掲示)や広報紙等で使用する場合があります。



# 浜手地区公民館

## 夏の子ども講座

お問合せ：072-431-0926  
申込みについては、1面をみてね。



浜手地区公民館申込

◎定員に満たなかった講座は抽選後（7月3日10時）浜手地区公民館窓口にて  
先着順でいくつでも申込みすることができます。

	講座 内容 【協カクラブ・グループ】	日・時間 対象（定員）	★材料費／持ち物
1	<b>あそんで学ぼう！わくわくけん玉講座</b> 【貝塚けん玉クラブいぶき】 けん玉を使ったあそびや、「けん玉力」をはかります	7/20（日）9時半～11時半 小・中学生（25人）	動きやすい服装、飲み物 ※親子参加可
2	<b>楽しくカンフー体操</b> 【太極拳Ⅱ】 太極拳の練習	7/24（木）13時半～14時半 小・中学生（10人）	動きやすい服装・靴、飲み物 ※親子参加可
3	<b>子ども茶会と茶道体験</b> 【茶道クラブ】 茶道を通して日本文化を体験！お抹茶、茶菓子のいただき方など礼儀作法の基本を学びます。	7/24（木）13時半～15時 小・中学生（20人）	★200円／白い靴下、動きやすい服装、浴衣を着て参加も可（アレルギーのある方はお菓子を控えてね）
4	<b>子ども木工講座</b> 【二色木工ボランティア】 木のおもちゃを作ろう（作りたいものを教えてね）	7/25（金）9時半～12時 小学5年～中学生（10人） ※場所：旧第五中学校 木工室	★200円／汚れてもよい服、上靴 飲み物
5	<b>夏休み子ども囲碁教室</b> 【二色囲碁クラブ】 囲碁の説明をして、実際に対局をします	7/26（土）13時～15時 小・中学生（10人）	飲み物
6	<b>夏の子ども卓球教室</b> 【卓球ココロ】 卓球を楽しもう！	7/28（月）10時～11時半 小学生（20人）	動きやすい服装・靴、タオル、飲み物、あればラケット（貸出あり）
7	<b>卓球をしよう</b> 【サターナイト】 楽しく卓球にふれあいましょう	7/29（火）9時半～11時半 小学生～中学1年生（15人）	動きやすい服装・靴、飲み物、あればラケット（貸出あり）
8	<b>災害時に備えて、バッククッキング</b> 調理 【貝塚地域活動栄賛士会】 カレーライス、だし巻き卵、干切大根の塩昆布煮	7/29（火）10時～13時 小学生（12人）	★500円／エプロン、三角巾、台ふきん、食器用ふきん、手拭き用タオル、飲み物 ※アレルギーの有無をお書きください
9	<b>みんなで「つげさん」体操♪</b> 【ストレッチ体操浜風】 「つげさん」体操を作った先生と一緒に楽しもう！	8/1（金）10時半～11時半 小・中学生（10人）	動きやすい服装・靴、タオル、飲み物
10	<b>子ども将棋教室</b> 【将棋ボランティア】 強くなるコツを知り、だいきょくを楽しむ	8/1（金）13時半～15時 小学2年～中学生（12人）	飲み物 注意：将棋のコマの動かし方やルールを知っている小・中学生対象
11	<b>はじめてのヒップホップダンス</b> 【踊るママ御殿】 初心者対象のヒップホップダンス	8/3（日）10時半～11時半 小・中学生（15人）	動きやすい服装、上靴、タオル、飲み物
12	<b>夏のお絵かき会</b> 【光絵画クラブ】 自分が描きたいものを持参 （参考：おもちゃ、花など）	8/5（火）13時半～15時半 小学生（25人）	★100円（画用紙代）／鉛筆（B、2B）、クレヨン、絵の具、墨、筆など絵を描く道具、水入れ、ぞうきん

# 中央公民館

## 夏の子ども講座

お問合せ：072-433-7222

申込みについては、1面を見てください。

\*下記の講座で定員に満たない講座は抽選後(7月3日10時)  
公民館窓口にて先着順にいくつでも申込みことができます。



中央公民館申込

	講座 内容 【協カクラブ・グループ】	日・時間 対象(定員)	★材料費/持ち物
1	合唱団といっしょに歌いましょう 合唱曲を楽しく歌いましょう。 【貝塚少年少女合唱団】	7/20(日) 10時~11時/小学生(10人) 11時~12時/中学生(10人)	筆記用具
2	じゃがいもでピザをつくろう ポテトピザ、野菜スープ、フルーツ牛乳かん 【おやじのシンプルキッチン】	7/24(木) 10時~12時 小・中学生(15人)	★350円 エプロン、三角巾、お茶、ふきん (アレルギーの有無記入)
3	夏休みの宿題を早く仕上げよう! 書道の宿題をしてもいいよ。 【木曜書道】	7/24(木) 10時~11時半 小学3年~中学生(10人)	★100円 大筆、小筆、文ちゃん、墨汁 汚れてもよい服装
4	簡単にできる担々麺とデザート デザートのアイスクリュームも作るよ 【あこーる】	7/26(土) 10時~12時 小・中学生(20人)	★500円 エプロン、三角巾、お茶、ふきん (アレルギーの有無記入)
5	親子でなりきりゲーム屋さん 親子で遊び道具を作って遊ぼう 【貝塚ファミリー劇場】	7/27(日) 13時半~15時半 年少~小学生(10組)	★1人50円
6	子どものおやつポップオーバーフル ーツ添えとフルーツ寒天 1日だけえらんでください【貝塚の知恵袋】	A:7/27(日)13時~15時 B:8/9(土)10時~12時 小・中学生(20人)	★200円(アレルギーの有無記入) エプロン、三角巾、お茶、ふきん 親子参加も可能
7	染め紙で灯ろうを作ろう 作成後は紙染め体験をします。 【月曜絵画】	7/28(月) 10時~12時 小・中学生(20人)	★200円 手ふきタオル、汚れてもよい服、 ペットボトル(どのサイズでも可)
8	パンを作ろう ねじねじパンとプレッツェルをつくるよ 【パンづくりクラブ】	7/28(月) 10時~12時 小学3年生~中学生(15人)	★500円 持ち帰りなし エプロン、三角巾、お茶、ふきん (アレルギーの有無記入)
9	つげさん手話教室 手話であいさつやゲームをしてみよう 【共催:障害福祉課】	7/29(火) 10時~11時 小・中学生(12人)	筆記用具 親子参加も可能
10	一人でやってみようお昼ごはん おにぎらず、スープ、フルーツゼリー 【なごみクッキング】	7/29(火) 10時~12時 小・中学生(9人)	★350円 エプロン、三角巾、お茶、ふきん (アレルギーの有無記入)
11	夏休みの宿題しよう! 宿題のあとは遊ぶよ 【貝塚子育てネットワークの会】	7/31(木) 10時~12時 小学生(10人)	宿題に必要なもの 教科の宿題、絵画、書道など 親子参加も可能
12	おばちゃんと料理しましょ サンドイッチ、スープ、つるつと白玉 【ふれあい料理ボランティア】	8/1(金) 10時~12時 小・中学生(16人)	★350円(アレルギーの有無記入) エプロン、三角巾、ふきん2枚 お茶
13	絵手紙で暑中見舞い 絵はがきと「つり飾り」を作るよ。 【絵手紙クラブ】	8/2(土) 10時~12時 小・中学生(10人)	★300円 手ふきタオル、汚れてもよい服
14	帆掛け車を作ろう 風で動く車を作ってみなで遊ぼう 【あそび隊】	8/3(日) 10時~11時半 年少~小学2年(20組)	★100円(親子で1つ作ります) 親子参加です
15	楽しく中国語で遊びましょう 【二一ハオ中国語】	8/5(火) 13時半~14時半 小・中学生(20人)	筆記用具 親子参加も可能
16	和楽器を奏でよう 日本の文化に触れよう 【箏曲クラブ】	8/7(木) 10時~11時・11時~12時 小・中学生(10人)	筆記用具 時間帯は選べません。受講決定時 にお伝えします。

令和7年度 施設利用統計（令和7年4月～令和8年3月）

＜利用人員数・中央＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人)
講座	463	316	872	956	365	492	572	662	533	533	231	183	5,969
事業	339	3,972	734	260	516	621	82	470	966	966	319	587	9,105
クラブ等	1,944	1,663	1,946	1,838	1,574	1,900	1,920	1,922	1,601	1,950	1,670	2,164	22,092
一般利用	87	62	226	61	1,000	90	122	124	65	323	49	164	2,373
その他	71	285	232	623	488	331	182	1,220	269	92	102	169	4,064
計(人)	2,904	6,298	4,010	3,738	3,943	3,434	2,878	4,398	3,434	3,864	2,371	3,267	43,603

＜浜手地区＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人)
講座	39	400	387	401	139	327	226	243	308	168	174	182	2,994
事業	323	216	427	217	892	747	1,536	178	393	251	596	201	5,977
クラブ等	1,397	1,595	1,614	1,564	1,492	1,448	1,380	1,467	1,650	1,281	1,659	1,913	18,460
一般利用	0	0	21	8	40	35	42	0	0	0	0	26	172
その他	582	659	740	711	1,142	734	580	576	559	505	482	702	7,972
計(人)	2,341	2,870	3,189	2,901	3,705	3,291	3,764	2,464	2,910	2,205	2,911	3,024	35,575

＜山手地区＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(人)
講座	152	347	368	527	260	529	454	331	365	233	179	503	4,248
事業	442	370	409	248	251	286	1,468	694	622	817	272	222	6,101
クラブ等	2,004	1,827	1,521	1,749	3363	2,081	1,517	2,646	2,651	2,734	2445	3,526	28,064
一般利用	110	277	89	73	115	107	240	401	363	134	59	371	2,339
その他	7	136	543	318	932	497	90	351	540	2	81	483	3,980
計(人)	2,715	2,957	2,930	2,915	4,921	3,500	3,769	4,423	4,541	3,920	3,036	5,105	44,732

＜使用状況・中央＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(回数)
視聴覚室	40	51	45	52	44	48	37	52	39	46	42	54	550
講座室3	44	50	49	46	40	43	45	55	36	47	39	52	546
講座室2	33	47	44	45	38	40	43	49	40	43	29	38	489
講座室1	41	44	46	46	38	44	37	44	39	36	29	36	480
和室	12	28	20	14	18	21	16	19	10	15	11	8	192
創作室	27	34	32	25	14	26	28	27	23	23	20	29	308
料理室	7	20	15	20	20	13	9	25	19	14	12	15	189
保育室	27	36	40	37	35	36	34	36	37	28	33	34	413
青少年センター	17	13	18	13	17	20	25	25	21	18	17	21	225
文化会館	1	7	2	0	3	4	0	0	5	0	2	0	24
その他	1	1	4	2	0	1	4	0	0	4	0	1	18
計(回数)	250	331	315	300	267	296	278	332	269	274	234	288	3,434

＜浜手地区＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(回数)
ホール	48	52	59	52	47	52	49	46	55	39	60	54	613
プレイルーム	17	21	33	18	18	22	24	24	25	16	15	28	261
第1講座室	28	31	30	32	37	36	39	27	29	25	33	28	375
第2講座室	30	35	57	33	34	31	34	33	38	33	30	25	413
和室	12	10	12	14	9	6	17	5	15	11	22	4	137
料理室	9	10	15	18	6	18	19	19	20	17	16	16	183
ロビー等	6	10	9	4	10	7	20	6	8	6	6	8	100
計(回数)	150	169	215	171	161	172	202	160	190	147	182	163	2,082

＜山手地区＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(回数)
ホール	53	46	48	46	53	58	48	57	48	38	31	53	579
楽屋1	0	6	2	0	7	10	3	18	9	7	0	10	72
楽屋2	1	6	0	5	9	6	6	14	9	7	1	9	73
保育室	11	21	19	21	21	21	18	26	23	11	11	20	223
講座室1	46	25	42	31	39	49	43	47	38	59	66	50	535
講座室2	44	35	45	38	39	45	55	34	37	38	32	38	480
講座室3	31	27	34	40	37	31	41	45	40	43	37	40	446
料理室	3	12	9	16	10	13	19	10	17	10	9	8	136
視聴覚室	23	21	23	18	22	29	35	29	12	24	19	26	281
音楽室	33	31	27	26	30	29	33	23	23	22	27	32	336
創作室	15	13	11	15	15	14	14	11	11	14	14	12	159
和室	30	25	20	24	24	26	24	24	18	30	25	25	295
その他	0	1	0	1	0	0	8	1	2	3	0	1	17
計(回数)	290	269	280	281	306	331	347	339	287	306	272	324	3632

**【貝塚市立中央公民館職員】**

甲斐 裕二	山田 智子	池田 浩子	森 遥香
中川 知子	奥埜 由起子	藪 雅美	大野 幸子

**【貝塚市立浜手地区公民館職員】**

小西 克治	古家 和彦	木藤 順子
半澤 睦子	小山 智子	

**【貝塚市立山手地区公民館職員】**

上野 裕子	要 光志朗	市政 希
南 百合美	川上 恵里	

2025 年度 貝塚公民館のあゆみ

発行日	令和 8 年 5 月
発行者	貝塚市立中央公民館 〒597-0072 貝塚市畠中 1 丁目 18 番 1 号 TEL 072(433)7222
	貝塚市立浜手地区公民館 〒597-0091 貝塚市二色 2 丁目 7 番 2 号 TEL 072(431)0926
	貝塚市立山手地区公民館 〒597-0046 貝塚市東山 7 丁目 10 番 1 号 TEL 072(446)0090
編集	あゆみ 2025 編集委員
部数	100 部
単価	343.4 円